３　遺構外出土遺物

当該遺跡から出土した縄文時代のものと考えられる土器は1,719点、石器は382点を数える。土器については長泉事務所における接合作業を経た結果、点数は著しく変化している。土器及び石器の出土分布図でも理解できるように、土器及び石器とも１区及び２区に集中する。

（１）　土器・土製品

第Ⅰ群：早期（第136・140図　第34表　写真図版55）

縄文時代早期の土器を第Ⅰ群とした。この早期代と思しき土器は量的に隣接する富沢内野山Ⅰ西遺跡と比較して甚少である。胎土中に繊維を含む。

１類（撚糸文土器）

83は口縁部のみの破片資料である。口唇部を丸く仕上げ、口唇部直下から撚糸を網目状に施したものか。１類に該当する遺物は83の１点のみである。

２類（条痕文土器）

84・86を２類とした。84は口唇部のみの破片資料である。外面には条痕が施されている。86は胴部のみの破片資料である。内外面共に横位の条痕が施されている。

３類（神ノ木式）

神ノ木式土器と推定された土器群を３類とした。85は底部のみの破片資料である。内面に条痕が施されている。

第Ⅱ群：中期初頭（第137・140図　第34表　写真図版55）

縄文時代中期初頭の土器を第Ⅱ群とした。出土位置は１区ＡＴ38グリッド付近に集中する。87は直線的に立ち上がり、口縁部は「く」の字状に屈折させ、口唇部は平坦に仕上げている。外面は縄文を施した後に、逆「Ｖ」字状に棒状工具で沈線文を複数施す。その間隙に波状文も見られる。また口唇部直下にも横位に波状文を施している。88は87と同一個体か。

第Ⅲ群：中期前半～中葉（第138～144図　第35表　写真図版55～57）

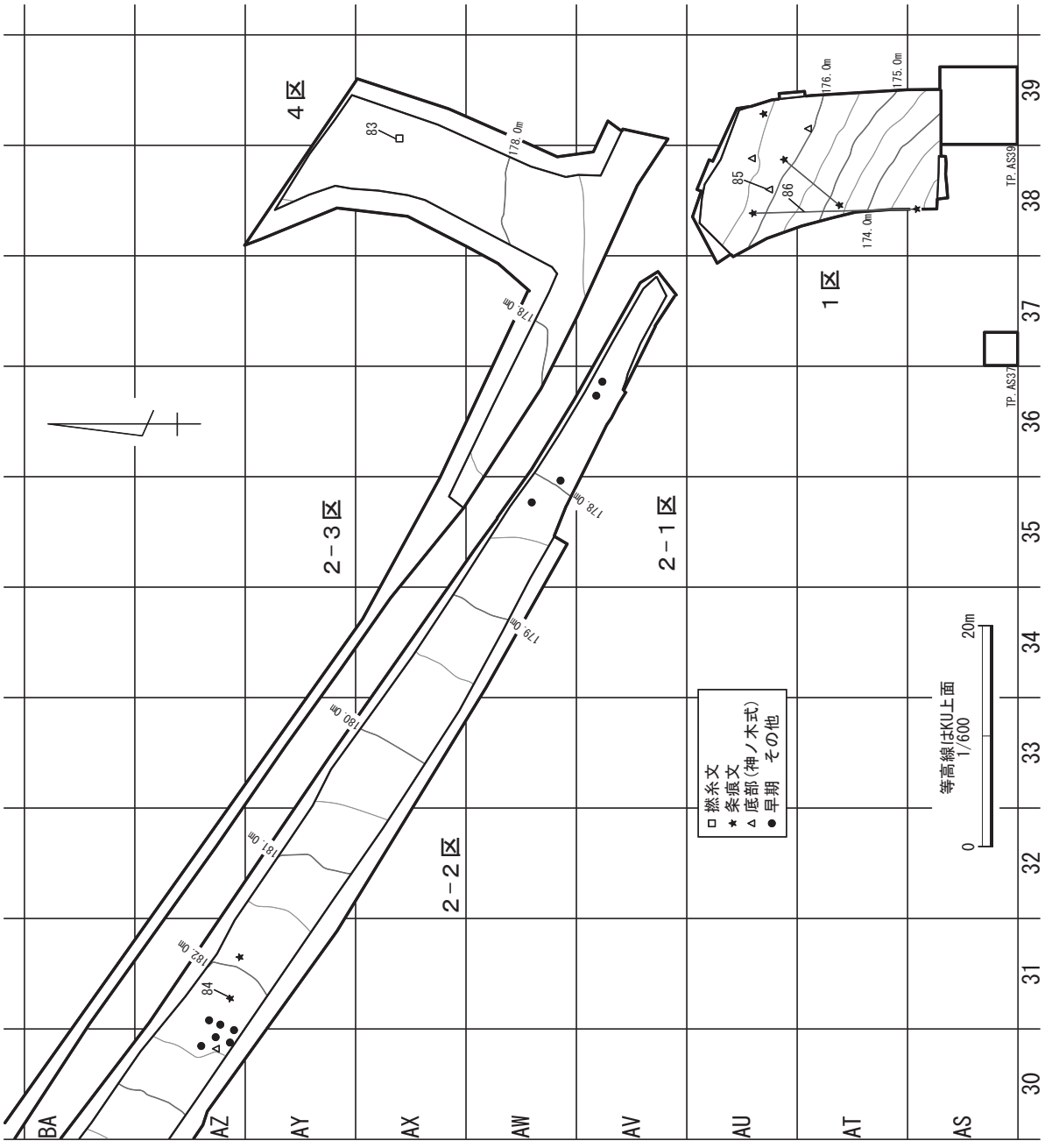
縄文時代中期前半代から中期中葉の土器を集成した。この遺跡の最盛期にあたる時期の遺物で、土器群の主体を占める。１～５類に分類される。

１類（狢沢式）

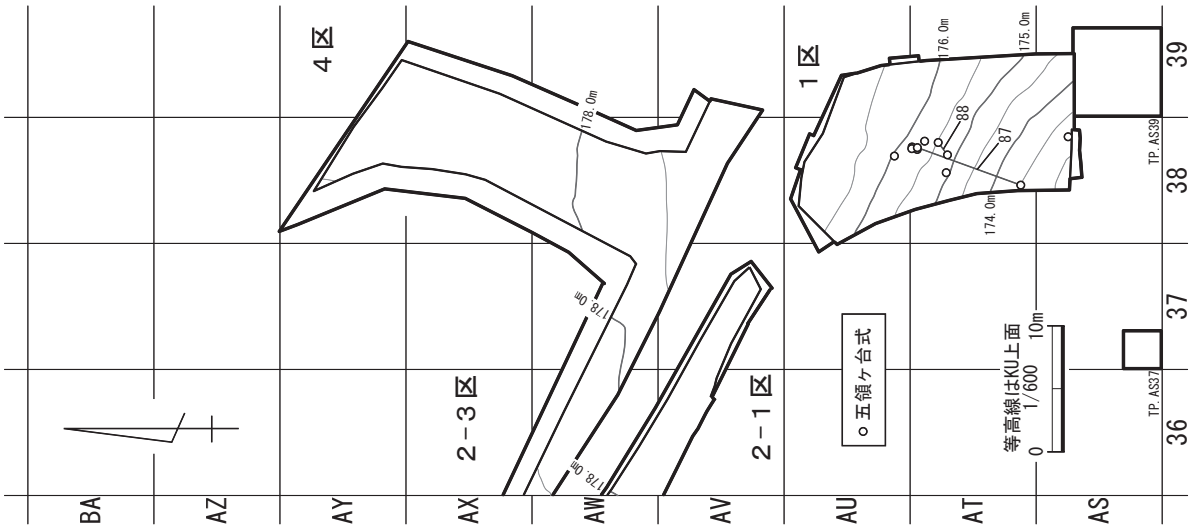
89を１類とした。やや斜位の低い隆帯の脇に、先端が角状をなす棒状工具で連続刺突した角押文が施されている。その脇には三角押文か。

２類（新道式）

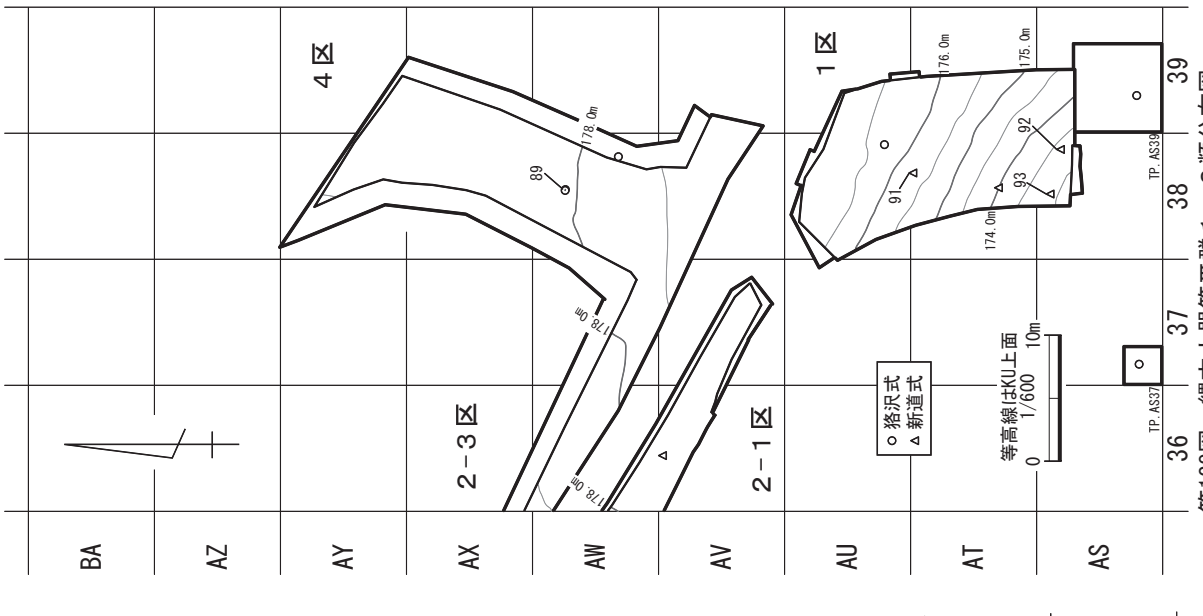
91～93を２類とした。91は口縁部のみの破片資料である。口縁部に渦巻き状のモチーフが貼り付けられている。そのモチーフとその脇の口唇部には刻目が施されているが、ナデにより消えかかっている。口唇部直下には細い粘土紐を貼り付け、三角形の区画をなす。さらに三角押文を施した上で、内部に円形モチーフを抱くような三叉文を配置している。92・93は91のように、脇に三角押文を施した隆帯等が



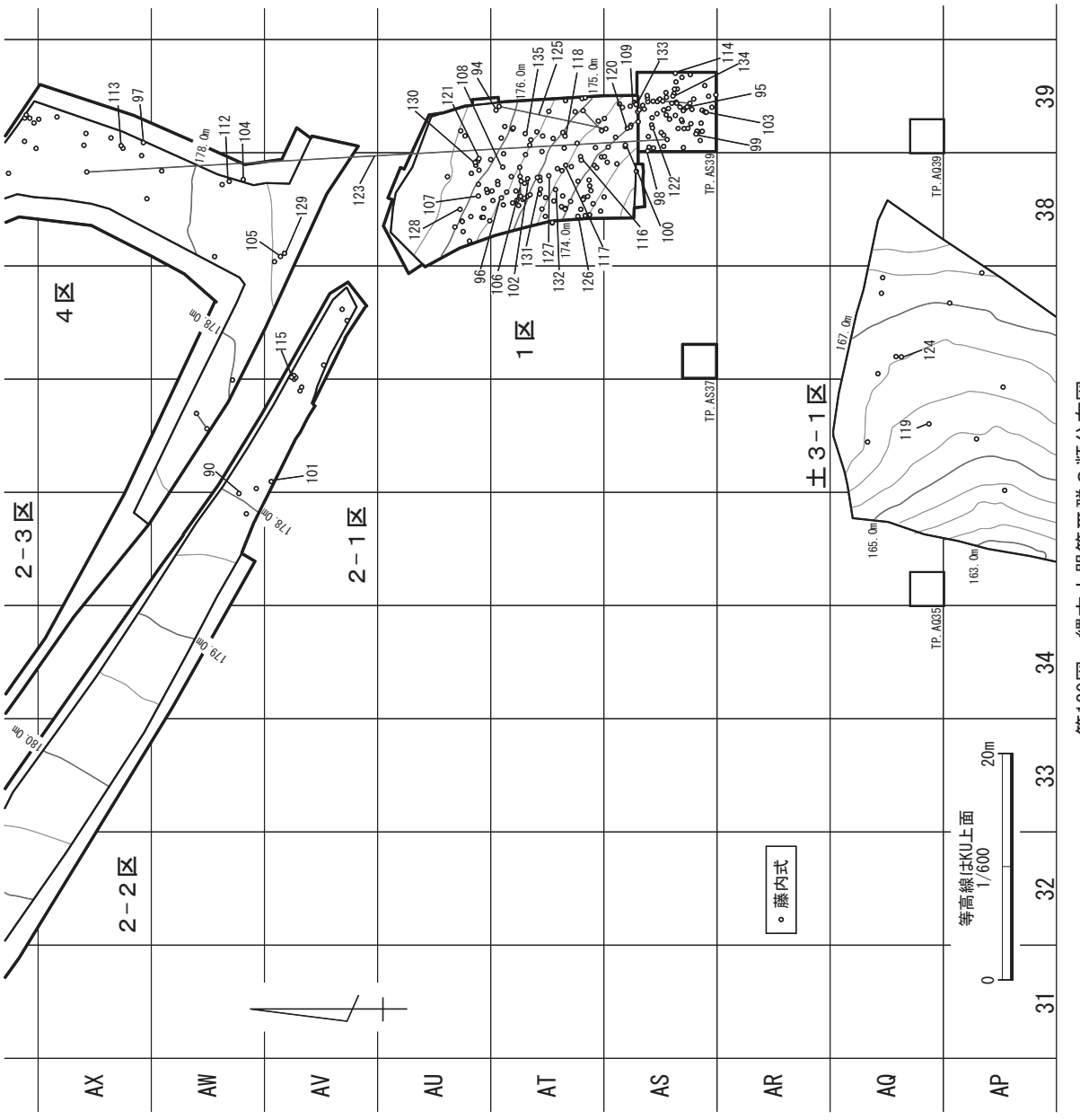
第136図　縄文土器第Ⅰ群分布図



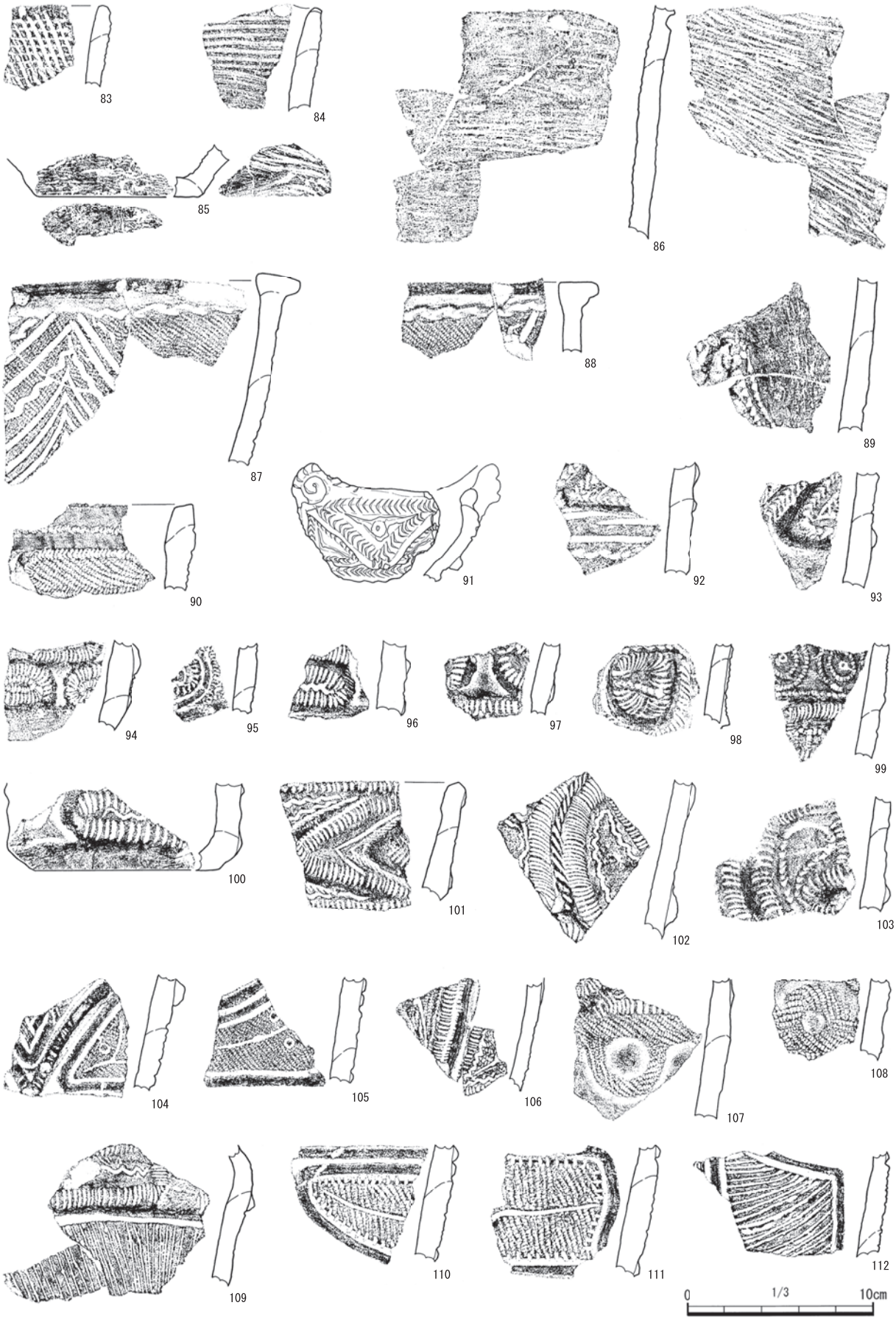
第137図　縄文土器第Ⅱ群分布図



第138図　縄文土器第Ⅲ群１・２類分布図



第139図　縄文土器第Ⅲ群３類分布図



第140図　縄文土器第Ⅰ群～第Ⅲ群１～３類

見える。

３類（藤内式）

90・94～135は３類とした。出土位置はＡＳ・ＡＴ38・39グリッドに濃い分布を示す。また４区、富沢内野山Ｉ西遺跡１区にも散布が認められる。90は口縁部のみの破片資料で、平坦な口唇部を持ち、器面調整の最後にミガキで丁寧に仕上げられている。口唇部直下に三角押文を施している。その下位には楕円形状の区画か。三角押文で縁取られた区画内には縄文が充填されている。

94～99は幅の狭いキャタピラ文が施された資料で、そのうち94～97は胴部のみの破片資料である。粘土紐を貼り付けて低平な隆線に仕上げ､脇にキャタピラ文を施している。楕円形の区画を設けたものか。98は隆線で円形の区画を設けている。区画内隆線脇にキャタピラ文を施し、最後に横位の角押文か。99は脇を細かな三角押文とキャタピラ文が施された低平な隆線が見える。隆線より上位には三角押文で円形の文様が施される。円形中心部は細かな竹管状の工具で円形刺突文が施されている。

100～103は幅の広いキャタピラ文が施された資料である。100は底部のみの破片資料である。平坦な底部から胴部を直立させている。胴部下端部に隆帯で楕円形に区画し、内部にキャタピラ文と波状文を施している。101は口縁部のみの破片資料である。この口縁部は直線的で、口唇部端部外面側にキャタピラ文を施している。口唇部直下には粘土紐を「く」の字状に貼り付け、ナデ調整して低い隆帯に仕上げている。隆帯の脇はキャタピラ文と三角押文が施されている。「く」の字状の区画の隙間に波状の沈線文が充填されている。102・103は胴部のみの破片資料である。隆線や低い隆帯が大きく蛇行する。それらの脇にはキャタピラ文が施されている。区画内には前者は波状文、後者には三角押文が施されている。102の隆線には刻目文が施されている。

104～108は縄文が施された資料である。そのうち104・105は文様から同一個体と考えられる。隆帯及び低平な隆帯で三角形の区画を成したものか。区画内には縄文を施したうえに、三叉文を施している。その脇には竹管状の工具で円形刺突文を施す。106はやや斜位に隆帯を設けている。隆帯で区切られた区画内に縄文が施されている。107・108は環状を呈する低平な隆帯に縄文が施されている。両者の隆帯とも指頭による磨り消しで仕上げられたものか。109は胴部中位付近の破片資料か。横位に粘土紐を貼り付け、低い隆帯となし、その上部にキャタピラ文を楕円に施す。その内部に波状文を施している。隆帯より下位には縦位に条線文を施した後に、隆帯脇に沈線文を施している。

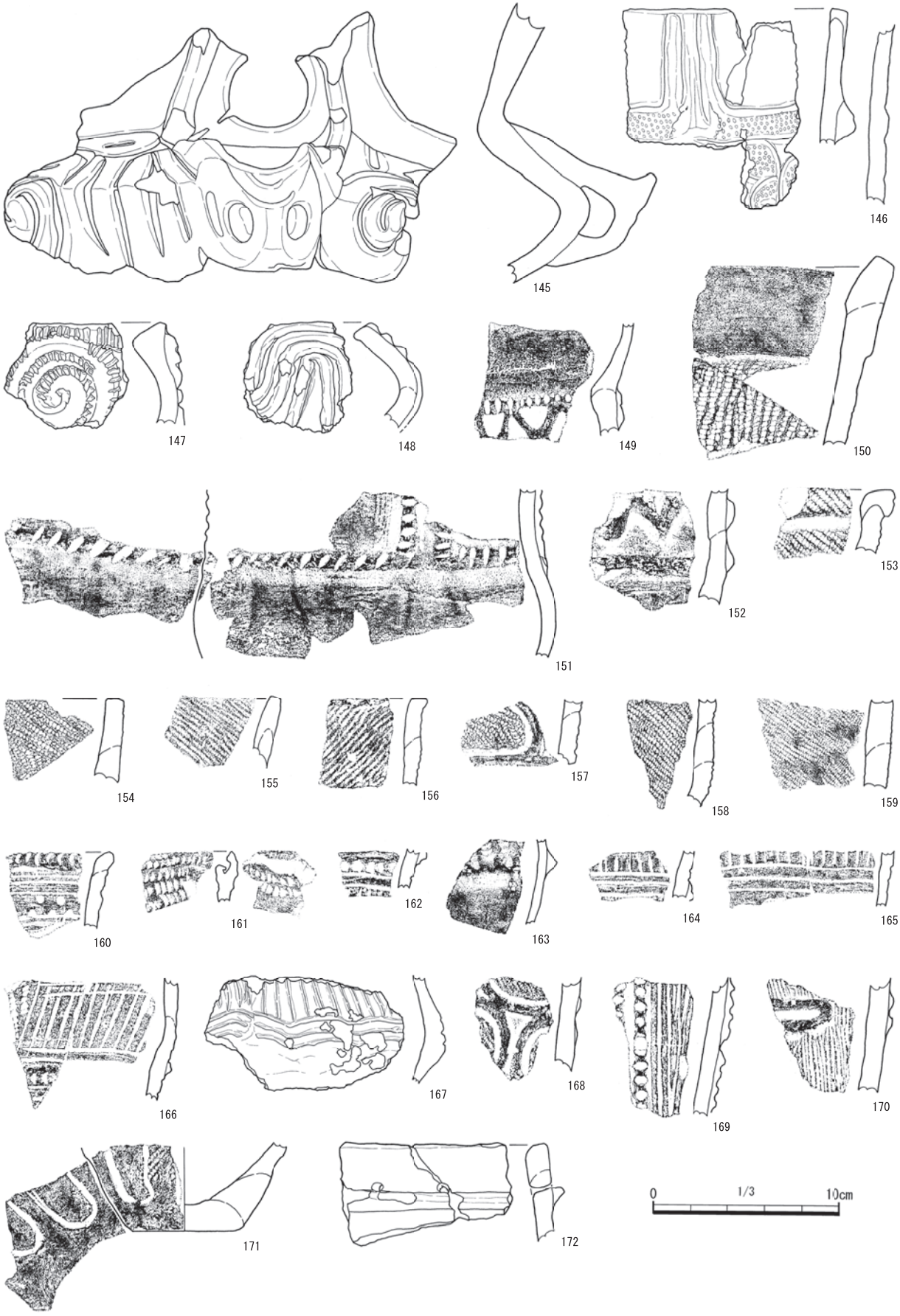
110～112は半截竹管状の工具を用いた隆帯により区画が設けられた資料である。110は楕円形、111・112は四角形に区画され、110・111は区画内に縄文を充填し、区画中央に横位の沈線文を施す。112は区画内に斜位の条線文を充填する。

113～115は半截竹管状の工具を多用し、縦位方向の文様が卓越した資料である。113・114は胴部の破片資料である。縦位に半截竹管状の工具により平行沈線を施している。前者はキャタピラ文、交互刺突文が施されている。114は角押文か。115は底部から胴部下位が残存した資料である。平坦な底部から胴部をやや内湾気味に立ち上げている。縦位に半截竹管状の工具で平行沈線文を施し、長三角形状の区画内、沈線文毎の間隙に沈線文で充填する。低平な隆帯には刻目か。

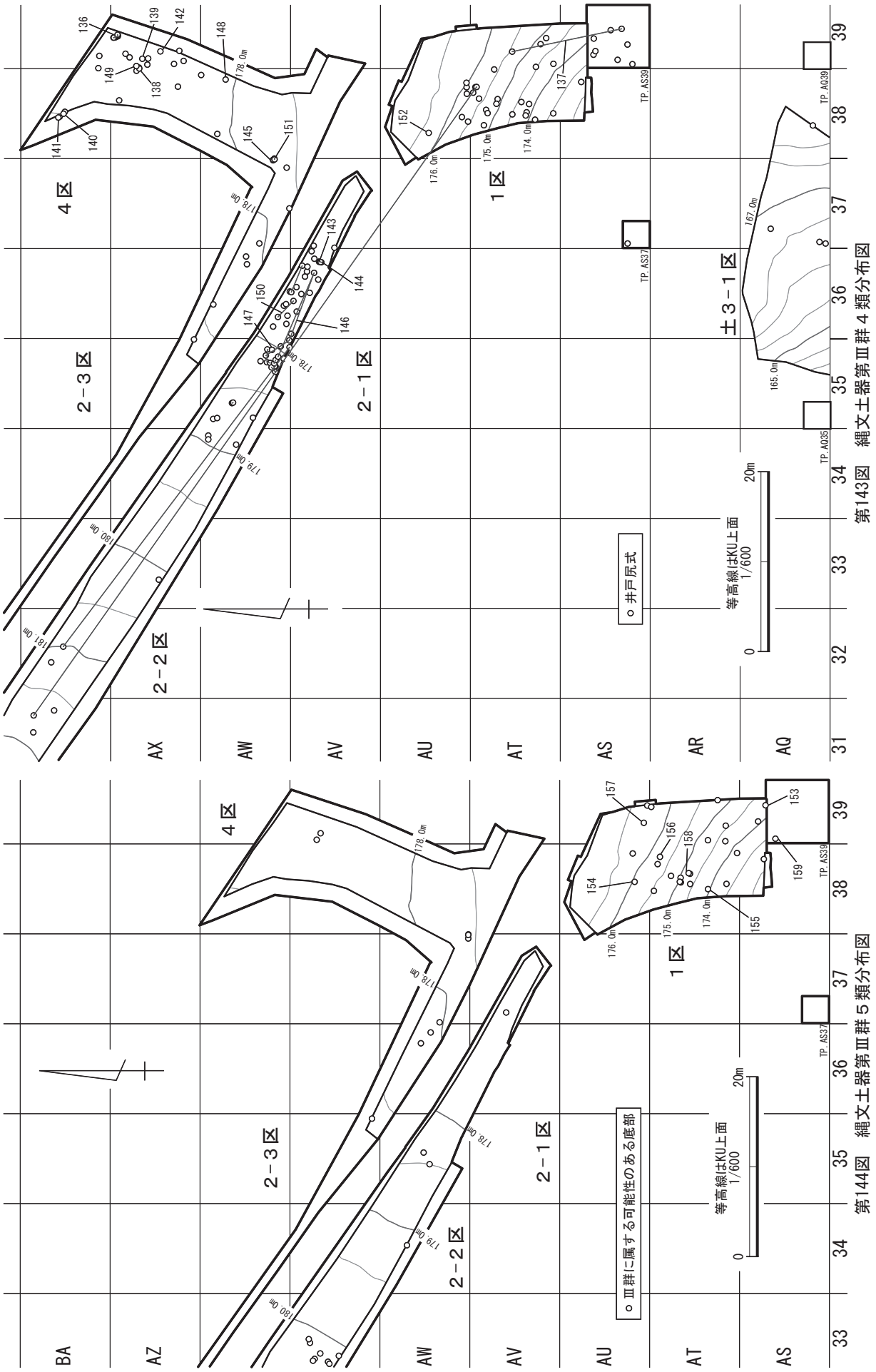
116～118は隆帯等により狭長な長方形に区画された資料である。パネル文か。116は内湾した口縁部のみの破片資料である。波状に巡らせた隆帯には連続して小刻みに爪形文が施されている。半截竹管状の工具による平行沈線で、狭長な長方形の区画を設けている。区画内にはキャタピラ文と波状の沈線文が充填されている。117・118は胴部のみの破片資料である。半截竹管状の工具による沈線文で長方形の区画をなし、区画内にキャタピラ文と三角押文を施している。

119・120は隆帯等による区画がなされていない資料である。119は口唇部を強く外方に引き出した口

第141図　縄文土器第Ⅲ群３・４類



第142図　縄文土器第Ⅲ群～第Ⅵ群



第143図　縄文土器第Ⅲ群４類分布図

第144図　縄文土器第Ⅲ群５類分布図

縁部である。口唇部直下に幅の広いキャタピラ文、その下位に三角押文が施されている。キャタピラ文と三角押文の接点が微隆起線状の効果を生んでいる。

121～125は主に縄文を施した口縁部のみの破片資料である。125以外は口唇部は平坦に仕上げている。121は波状口縁の波底部付近か。口唇部直下に沈線文を施し、その下位に縄文を施す。縄文を施した後、波状文を施している。122・123は口唇部直下より縄文を施し、後者は三角押文を波状に施す。124は微かに内湾する口縁部で、口唇部を強く押して平坦に仕上げている。口唇部直下はナデのみ。口唇部より約1.5㎝の位置に横位の波状文を施し、下位の縄文を区画する。125は波状口縁の波頂部から波底部にかけての資料か。折り曲げ、肥厚させた口唇部外面を隆帯となし、刻目文を施している。

126～135は胴部のみの破片資料である。三角押文、キャタピラ文、円形刺突文等の文様が施されている。

４類（井戸尻式）

136～152を４類とした。出土位置は１区・２－１区・４区に比較的多く分布する。特にＡＶ・ＡＷ35・36グリッド付近は濃い分布を示す。

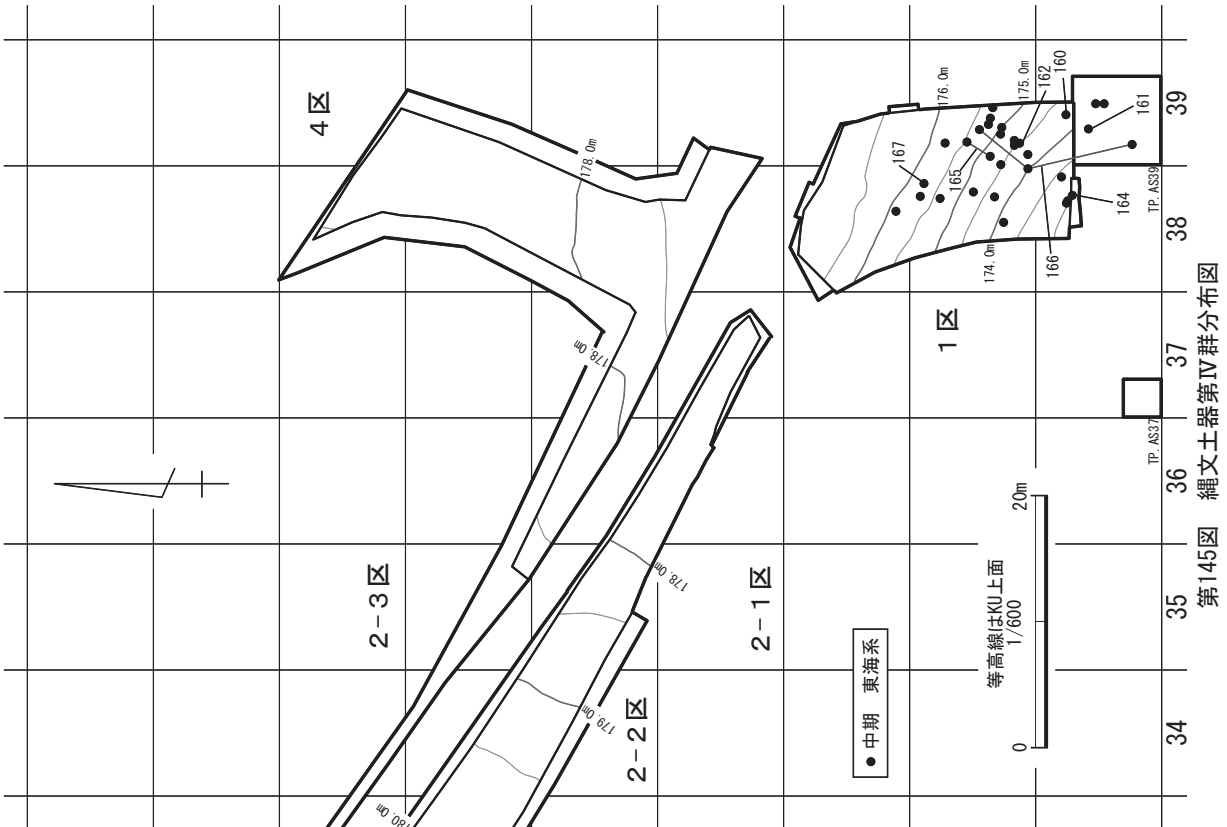
136は口縁部から胴部下位付近まで残存した資料である。残存状況から胴部下位は算盤玉状に膨れていたものと推定される。膨れた胴部下位が胴部中位付近で括れ、また胴部は直線的に立ち上がり、直立気味に屈折、口縁部はやや外反する。口唇部は平坦に仕上げている。口縁部で文様は特に見られず、胴部上位は粘土紐を貼り付けて隆帯としている。中には粘土紐を編上げて隆帯としたものもある。隆帯で区画された部位には棒状工具で渦巻き文や楕円文等が施されている。下半部は条線文を施す。

137～140は条線文を施した資料である。137は波状口縁の波頂部から波底部にかけての破片資料か。波頂部は本来、突起を２個付けたものか。口唇部は断面を「Ｔ」字状に仕上げ、外面側は刻目文を施す。口唇部に沿って半截竹管状の工具を用いた隆帯を２条施し、その下位に横位条線文を施す。138～140は縦位の条線文が施されている。141は外反する口縁部か。口唇部は内面側縁部を強く鋭く、外面側縁部を弱くかつ太めに引き出す。口唇部直下には斜位に隆帯を貼り付け、刻目文を施している。その間隙に渦巻き状のモチーフが描かれている。

142～144は三角形の区画内に三叉文が施された資料である。胴部から口縁部へ直線的に立ち上げている。口唇部は平坦に仕上げている。口唇部直下より半截竹管状の工具による平行沈線文で三角形の区画をなし、区画内にキャタピラ文を施す。区画内中央に三叉文が施されている。

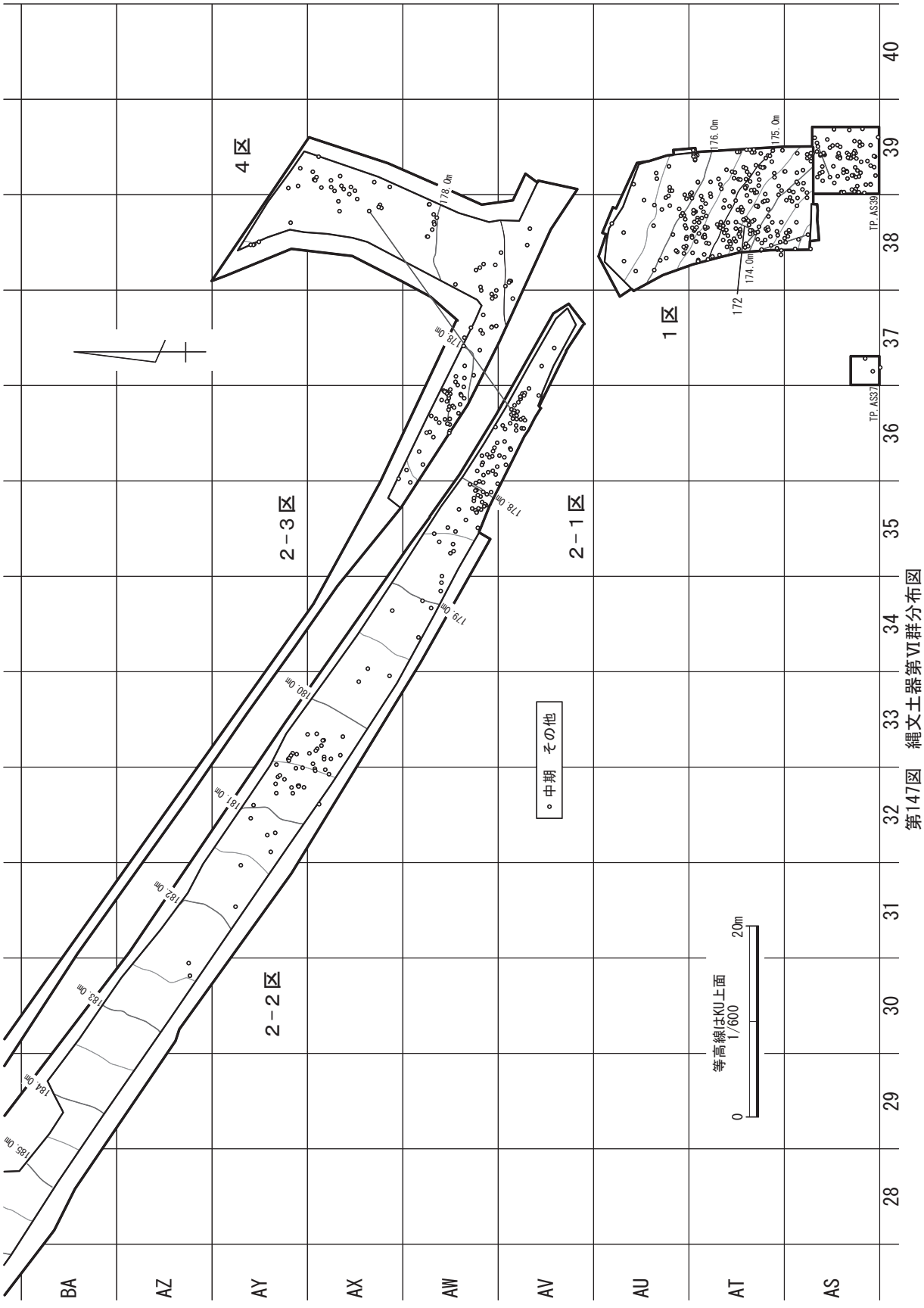
145は口縁部から胴部上位が残存した資料である。口縁部には装飾突起が付けられていたが失われ、内面側の透かし穴のみ残存する。装飾突起の下位には眼鏡状の突起が設けられている。その突起の左右に間隔をおいて渦巻き状のモチーフが配置されている。同一個体の破片が多く出土しているが、残存状態が悪く、復原できなかった。

146は口縁部から胴部上位まで残存した資料である。胴部から口縁部まで直線的に立ち上がり、口唇部は平坦に仕上げている。口唇部から約５㎝の位置に低平で幅広な隆帯を横位に巡らせている。また口唇部から横位の隆帯へ３本の低平な隆帯を垂下、接続させている。接続部には鼻状の突起を設けている。横位の隆帯には細く鋭い棒状の工具で刺突文を施している。また隆帯の脇は指頭によるものか沈線を施す。横位の隆帯より下位にも何らかのモチーフが描かれ、刺突文が施されている。147・148は内湾する口縁部のみの破片資料である。147は渦巻き状に隆帯が貼り付けられている。隆帯は細い竹管状の工具による刺突文が施されている。148は粘土紐を貼り付けているが、大きく褶曲させている。149・152は胴部のみの破片資料である。両者とも横位の隆帯と鋸歯状の隆帯を貼り、前者の横位隆帯には刻目が施されている。150は口縁部から胴部上位にかけて残存した資料である。口縁部まで直線的に立ち上げ、

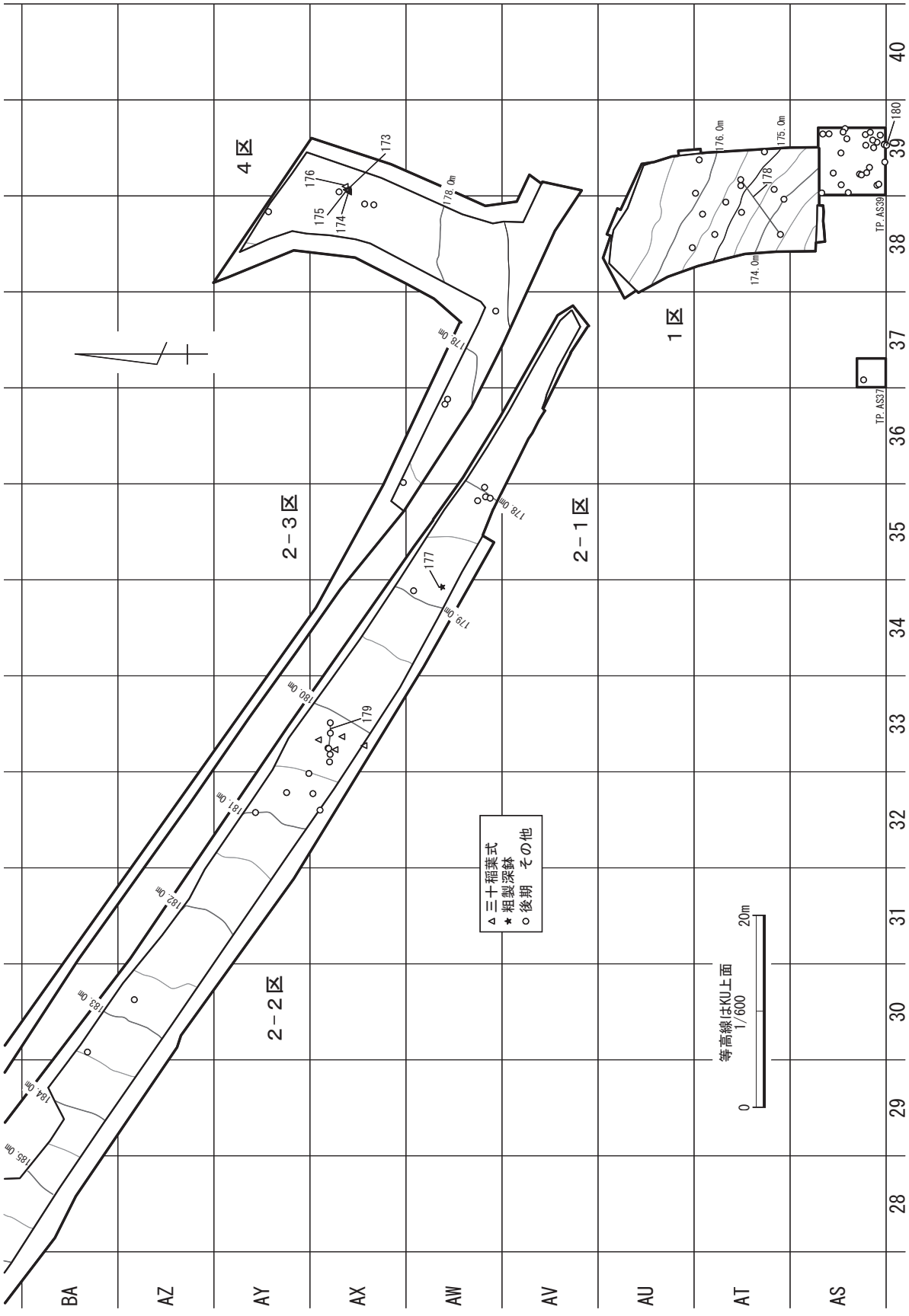


第146図　縄文土器第Ⅴ群分布図

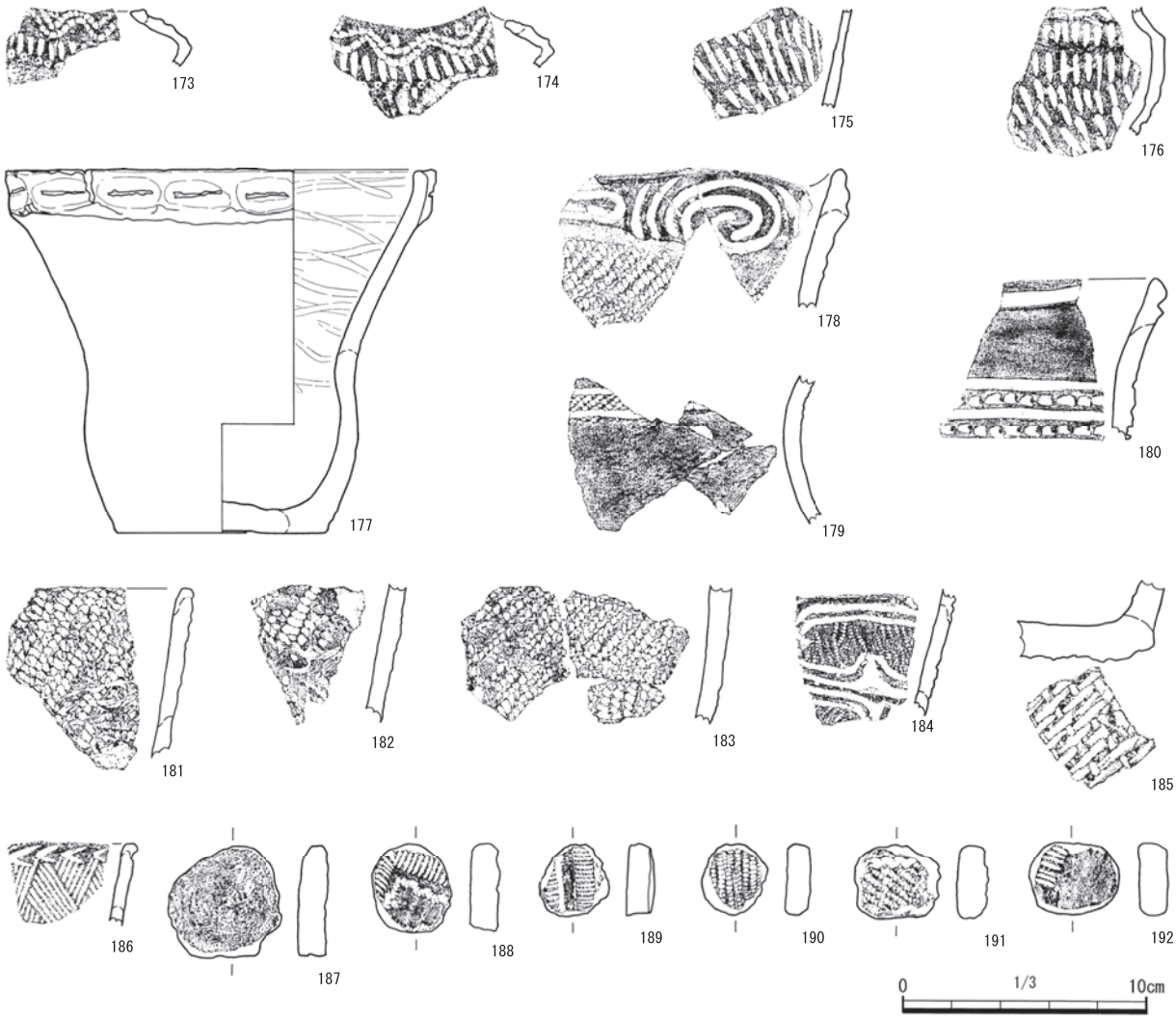
第145図　縄文土器第Ⅳ群分布図



第147図　縄文土器第Ⅵ群分布図



第148図　縄文土器第Ⅶ群分布図



第149図　縄文土器第Ⅶ群～第Ⅷ群・土製品

口唇部は平坦に仕上げている。口唇部から約4.5㎝の位置に段が設けられ、それより下位に縄文を施している。151は胴部下位が残存した資料で、136と同様算盤玉状に膨らんだ胴部下位である。横位に隆帯を貼り付けた後に、２本の隆帯を縦位に接続する。隆帯には刻目文が施されている。

５類（その他）

153～159は５類に分類した。主に縄文のみ施文された資料で型式名が判然としない。153～156は口縁部、157～159は胴部のみの破片資料である。157は縄文を施した後に、半截竹管状の工具で施文か。

第Ⅳ群：縄文時代中期前半（第142・145図　第34表　写真図版58）

第Ⅲ群と時期としては重複するが、縄文時代中期前半代の東海系と思しき土器群を抽出・集成して第Ⅳ群に分類した。出土位置は１区でもＡＵ38グリッドより南東に限定される。

160～167は第Ⅳ群に分類した土器である。そのうち160・161は口縁部のみの破片資料である。160は口唇部付近を軽く外反させる。丸く仕上げられた口唇部には刻目文が観察されるが、調整最終時のナデにより消えかかっている。口唇部直下には半截竹管状の工具による横位の沈線文が施され、沈線文同士の間隙に刺突文が施されている。161は口唇部の突起付近か。特異な形状を呈する。内外面共に刺突文

が施されている。162～167は胴部のみの破片資料である。そのうち162～164・166は粘土紐を貼り付けて、隆帯を設けている。162は隆帯直下に刺突文と平行沈線文、163は鍔状に迫り出した隆帯の上位に、浅い刺突文が施されている。164は半截竹管状の工具で縦位に沈線文を施した後に、横位に沈線文を施す。隆帯は破片下端部に辛うじて残存する。166は横位の隆帯の上位に刺突文が施される。また隆帯より上位はやや斜位の平行沈線文を施した後に、横位の沈線文を施している。165は半截竹管状の工具による沈線文が施されている。167は半截竹管状の工具で連弧状の沈線文を横位に施した後に、縦位の沈線文を施す。連弧状の沈線文の下位に微かに瘤状の隆起が２箇所認められる。

第Ⅴ群：縄文時代中期後半（第142・146図　第34表　写真図版58）

縄文時代中期後半の土器を集成して第Ⅴ群とした。判明した型式等から１～２類に分類した。

１類（曽利式）

168～170は１類とした。いずれも胴部のみの破片資料で、隆帯を貼り付けている。169は縦位に２本の粘土紐を貼り付けて隆帯となし、刻目を施している。隆帯に並行して半截竹管状の工具により、沈線文を施している。

２類（加曽利式）

171は２類とした。沈線文を施した後に縄文を施している。底部には編物等の圧痕は見られない。

第Ⅵ群：縄文時代中期（第142・147図　第34表　写真図版58）

縄文時代中期代と考えられるが、型式名等判然としない資料を集成した。出土位置はＡＹ33グリッド杭付近、ＡＷ35・36グリッド付近、ＡＸ38・39グリッド付近、ＡＵ38・39グリッド以南に濃い分布が見られる。172は口縁部のみの破片資料である。直線的に立ち上げ、口唇部は平坦に仕上げたものか。口唇部から約2.5㎝の位置に粘土紐を貼り付け、鍔状に仕上げている。またその上位に３ヶ所ほど穿孔がなされている。小破片のため判然としないが、所謂有孔鍔付土器とも考えられる。

第Ⅶ群：縄文時代後期（第148・149図　第34表　写真図版58・59）

縄文時代後期代と考えられる土器を集成した。文様等から１～３類に分類した。後期代と思しき資料はＡＴ38グリッド以南に比較的多く散布する。

１類（三十稲葉式か）

173～176は１類とした。三十稲葉式と並行期の土器か。173・174は口縁部のみの破片資料である。大きく内側へ屈折した口縁部で、口唇部直下には押引波状文を、その直下に縦位の沈線文を連続して施す。屈折部には竹管状の工具による円形刺突文が施されている。内面は粘土紐の輪積み痕が磨り消されずに残っている。175・176は胴部のみの破片資料である。いずれも細く断面の丸い棒状工具で、短い沈線文を一面に施している。また176は内湾する胴部への施文のため、やや刺突気味に工具が器面にあてがわれている。上位、内側へ屈折する箇所には同じ工具で刺突文を施している。器厚の薄さや胎土、施文から173～176は同一個体の可能性がある。

２類（堀之内式）

178～180は２類とした。178は緩やかな波状を呈する口縁部か。胴部と口縁部の境界は段をなす。緩

やかな波頂部直下に棒状工具で渦巻き文を施す。段より下位には縄文を施している。179は胴部のみの破片資料である。平行沈線文を施した後に、縄文を充填したものか。180は口縁部のみの破片資料である。緩やかに外反させ、口唇部は丸く仕上げている。口唇部直下に沈線文を施す。口唇部から下位約４㎝の位置に、複数の横位沈線文を施す。沈線文の間隙に半截竹管状の工具で刺突文を施す。

３類（その他）

177は３類とした。胴部は底部下位付近でやや膨らみ、中位付近で括れる。括れから胴部は直線的に立ち上げる。口縁部には更に粘土紐を貼り、指頭でナデつけて浅い窪みを連続して付ける。窪み毎の境界には指頭のナデにより隆起し、装飾効果を生んでいる。窪みには横位の沈線文が施されているが、最後にナデ調整を施したためか、消えかけた沈線文もある。胴部外面は横位のナデ調整の痕跡が観察され、さらに胴部下半部はミガキの痕跡も微かに残る。内面にもミガキの痕跡が残る。

第Ⅷ群：型式不明（第149図　第34表　写真図版59）

型式・時期不明の資料について第Ⅷ群として集成した。

１類（縄文を基調として施文）

主に縄文以外の特徴が見出せない181～185は１類とした。184は半截竹管状の工具で平行沈線を描き、間隙に縄文を充填している。器厚が薄く、胎土中の金雲母が特徴か。

２類（刺突文他）

186は器厚が薄く、口唇部直下にヘラ状の工具で刺突文を施している。その下位には櫛状工具により複合鋸歯状の文様を施している。施文順序として刺突文が後である。

土製品（第149図　第34表　写真図版59）

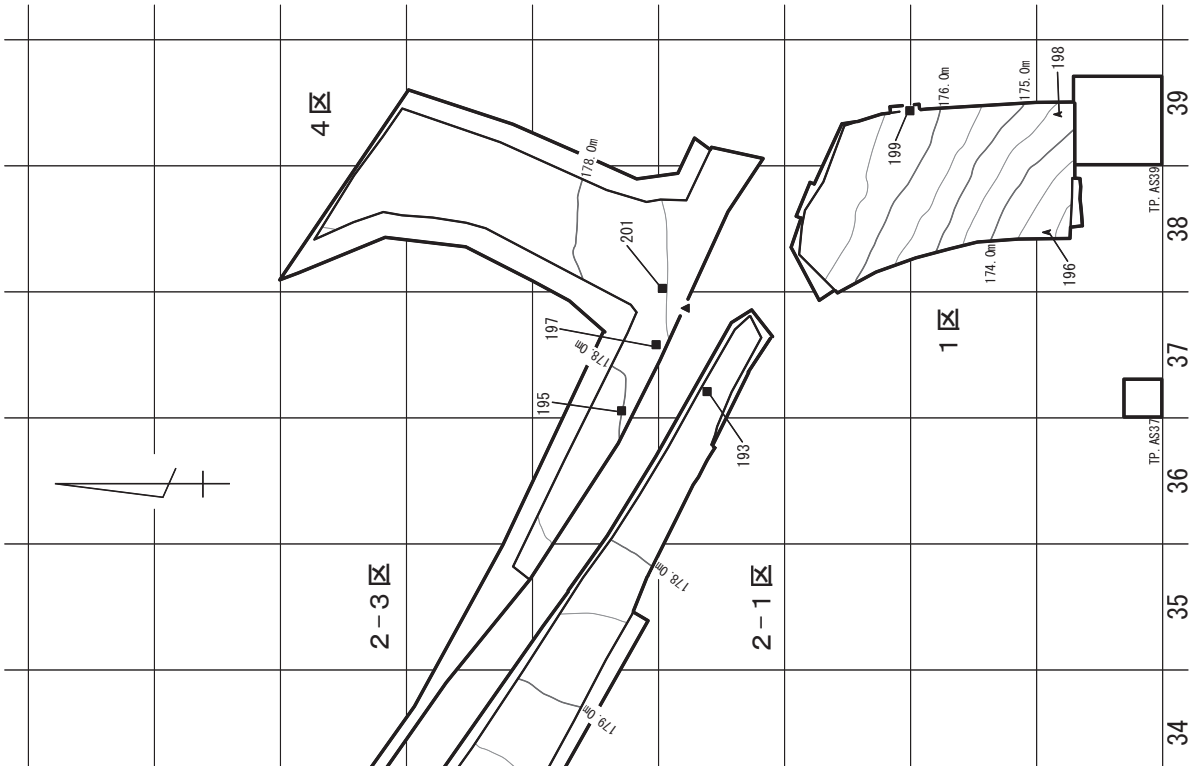
187～192は土製円盤である。土器の細片の周囲を磨り削り、小さな円盤状に仕上げたものである。遺構外から６点出土し、当該遺跡全体では12点出土している。

第34表　縄文時代遺構外出土土器観察表①

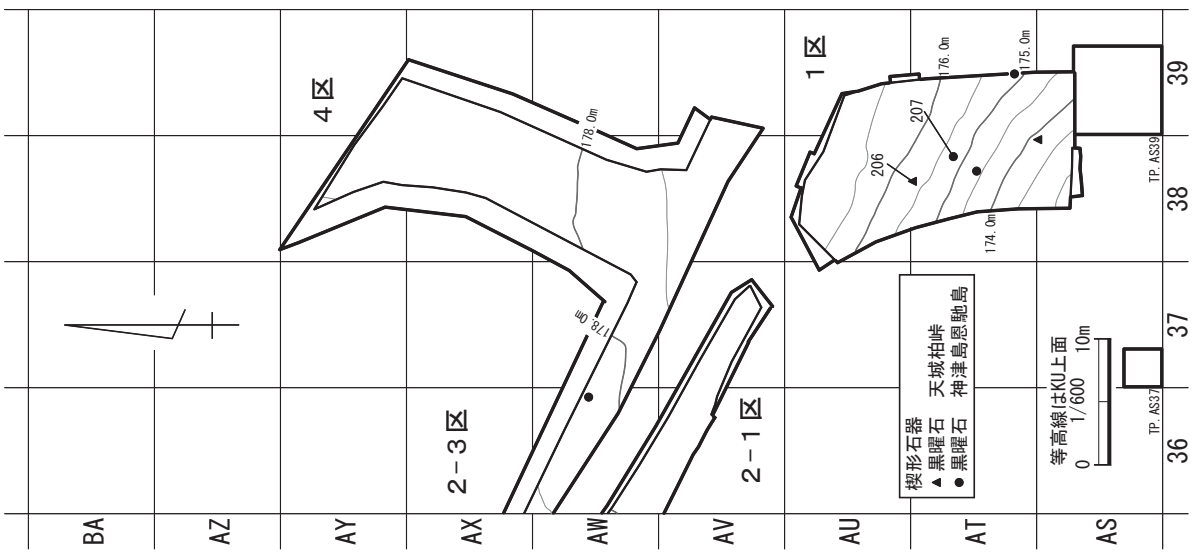
挿図番号	写真図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	色調(Hue)	文様調整等	繊維	胎土
83	55	Ⅰ	1	AX-39	7.5YR5/4	網目状の撚糸文。内面に擦痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
84	55	Ⅰ	2	AZ-31	7.5YR4/6	波状口縁。口唇部に刻目。条痕。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
85	55	Ⅰ	3	AU-38	7.5YR5/2	内外面に指頭痕。内面に条痕。	有	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
86	55	Ⅰ	2	AU-38	7.5YR4/6	内外面に条痕。刺突。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
87	55	Ⅱ		AT-38	7.5YR4/3	棒状工具による沈線。波状文。縄文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、石英、雲母多、輝石、白色岩片
88	55	Ⅱ		AT-38	7.5YR4/3	棒状工具による沈線。波状文。縄文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、石英、雲母多、輝石、白色岩片
89	56	Ⅲ	1	AW-38	7.5YR6/6	隆帯貼り付け。角押文。三角押文。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
90	56	Ⅲ	3	AW-35	7.5YR4/6	三角押文。縄文。ミガキ。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
91	56	Ⅲ	2	AT-38	7.5YR5/4	波状口縁。渦巻き状突帯。口唇部に刻目。隆帯貼り付け。三角押文。玉抱き三叉文。内外面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母
92	56	Ⅲ	2	AS-38	5YR5/4	隆帯貼り付け。三角押文。半截竹管状工具による沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
93	56	Ⅲ	2	AS-38	5YR5/4	隆帯貼り付け。三角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
94	56	Ⅲ	3	AT-39	5YR6/6	隆線貼り付け。キャタピラ文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
95	56	Ⅲ	3	AS-39	5YR4/4	隆線貼り付け。キャタピラ文。沈線。	無	石英、輝石、白色岩片
96	56	Ⅲ	3	AT-38	5YR4/4	隆線貼り付け。キャタピラ文。三角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
97	56	Ⅲ	3	AX-39	5YR4/4	隆線貼り付け。キャタピラ文。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
98	56	Ⅲ	3	AS-39	5YR4/4	隆線貼り付け。キャタピラ文。角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
99	56	Ⅲ	3	AS-39	7.5YR6/6	隆線貼り付け。キャタピラ文。三角押文。竹管状工具による円形刺突。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
100	55	Ⅲ	3	AS-39	5YR5/6	底部。隆帯貼り付け。キャタピラ文。波状文。内面にナデ。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
101	56	Ⅲ	3	AV-36	7.5YR5/4	口縁部。隆帯貼り付け。キャタピラ文。三角押文。沈線。内外面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
102	56	Ⅲ	3	AT-38	5YR4/4	隆線貼り付け。キャタピラ文。波状文。刻目。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
103	56	Ⅲ	3	AS-39	5YR5/6	隆帯貼り付け。キャタピラ文。三角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
104	56	Ⅲ	3	AW-38	5YR4/6	隆帯貼り付け。三叉文。沈線。円形刺突。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
105	56	Ⅲ	3	AV-38	5YR4/6	沈線。円形刺突。縄文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、石英、雲母多、輝石、白色岩片
106	56	Ⅲ	3	AT-38	5YR4/6	隆帯貼り付け。キャタピラ文。沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
107	56	Ⅲ	3	AU-38	5YR4/4	隆帯貼り付け。キャタピラ文。縄文。磨消し。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片多
108	56	Ⅲ	3	AT-38	7.5YR4/4	隆帯貼り付け。縄文。磨消し。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
109	56	Ⅲ	3	AS-39	5YR6/6	隆帯貼り付け。キャタピラ文。波状文。条線。沈線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
110	56	Ⅲ	3	－	7.5YR4/2	隆帯貼り付け。縄文。沈線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
111	56	Ⅲ	3	－	7.5YR4/3	隆帯貼り付け。縄文。沈線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
112	56	Ⅲ	3	AW-38	7.5YR4/4	隆帯貼り付け。条線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
113	56	Ⅲ	3	AX-39	5YR4/6	半截竹管状工具による平行沈線。キャタピラ文。交互刺突文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
114	56	Ⅲ	3	AS-39	5YR5/6	半截竹管状工具による平行沈線。角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
115	55	Ⅲ	3	AV-37	7.5YR4/6	隆帯貼り付け。刻目。半截竹管状工具による平行沈線。内面にナデ。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
116	56	Ⅲ	3	AT-38	5YR6/6	隆帯貼り付け。連続爪形文。半截竹管状工具による平行沈線。キャタピラ文と沈線。（パネル文）	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
117	56	Ⅲ	3	AT-38	7.5YR6/6	半截竹管状工具による沈線。キャタピラ文と三角押文。（パネル文）	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
118	56	Ⅲ	3	AT-39	7.5YR6/6	半截竹管状工具による沈線。キャタピラ文と三角押文。（パネル文）	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
119	56	Ⅲ	3	AQ-36	10YR5/3	キャタピラ文。三角押文。棒状工具による沈線。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
120		Ⅲ	3	AS-39	5YR6/6	口唇部直下に刻目。キャタピラ文。沈線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
121	56	Ⅲ	3	AU-38	7.5YR4/4	波状口縁。沈線。波状文。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
122	56	Ⅲ	3	AS-39	5YR4/4	口縁部。沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
123	56	Ⅲ	3	AX-38	7.5YR4/3	口縁部。三角押文。縄文。	無	白色粒子多、黒色粒子多、石英、雲母、輝石、白色岩片
124	56	Ⅲ	3	AQ-37	5YR4/4	口縁部。波状文。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
125	57	Ⅲ	3	AT-39	5YR4/4	折り返し口縁。口唇部直下に刻目。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
126	57	Ⅲ	3	AT-38	5YR4/6	隆帯貼り付け。キャタピラ文。三角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
127	57	Ⅲ	3	AT-38	5YR4/6	隆帯貼り付け。キャタピラ文。沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
128	57	Ⅲ	3	AU-38	7.5YR4/4	隆帯貼り付け。キャタピラ文。竹管状工具による円形刺突。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
129	57	Ⅲ	3	AV-38	7.5YR3/3	隆帯貼り付け。キャタピラ文と三角押文。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
130	57	Ⅲ	3	AU-38	5YR3/2	隆帯貼り付け。キャタピラ文。沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
131	57	Ⅲ	3	AT-38	7.5YR5/4	隆帯貼り付け。キャタピラ文。沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
132	57	Ⅲ	3	AT-38	10YR5/4	隆帯貼り付け。キャタピラ文。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
133	57	Ⅲ	3	AS-39	5YR4/6	沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
134	57	Ⅲ	3	AS-39	7.5YR6/4	沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
135	57	Ⅲ	3	AT-39	7.5YR6/4	隆帯貼り付け。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
136	55	Ⅲ	4	AX-39	5YR6/6	隆帯貼り付け。棒状工具による渦巻き文・楕円文。沈線。条線。	無	白色粒子多、石英、白色岩片
137	57	Ⅲ	4	AT-39	5YR3/6	波状口縁。口唇部外面に刻目。隆帯貼り付け。条線。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
138	57	Ⅲ	4	AX-39	5YR4/6	隆帯貼り付け。半截竹管状工具による条線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
139	57	Ⅲ	4	AX-39	7.5YR5/4	隆帯貼り付け。半截竹管状工具による条線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
140	57	Ⅲ	4	AY-38	7.5YR4/2	隆帯貼り付け。刻目。半截竹管状工具による条線。沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
141	57	Ⅲ	4	AY-38	7.5YR4/4	隆帯貼り付け。刻目。渦巻き文。沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
142	57	Ⅲ	4	AX-39	5YR4/3	半截竹管状工具による平行沈線。キャタピラ文。三叉文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
143	57	Ⅲ	4	AV-36	5YR4/6	隆帯貼り付け。平行沈線。キャタピラ文。三叉文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
144	57	Ⅲ	4	AV-36	5YR4/6	沈線。キャタピラ文。三叉文。三角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
145	55	Ⅲ	4	AW-37	7.5YR5/6	眼鏡状突起。隆帯貼り付け。沈線。	無	白色粒子、雲母
146	57	Ⅲ	4	AW-35	5YR5/6	隆帯貼り付け。沈線。刺突。内面にナデ。	無	白色粒子、石英、雲母
147	57	Ⅲ	4	AW-35	10YR5/4	口唇部にミガキ。隆帯貼り付け。竹管状工具による刺突。	無	白色粒子、石英、白色岩片、岩片
148	57	Ⅲ	4	AW-38	7.5YR5/4	隆帯貼り付け。内外面にナデ。	無	白色粒子、石英、雲母、白色岩片

第34表　縄文時代遺構外出土土器観察表②

挿図番号	写真図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	色調(Hue)	文様調整等	繊維	胎土
149	57	Ⅲ	4	AX-39	7.5YR5/6	隆帯貼り付け。刻目。内面に擦痕。	無	白色粒子多、石英、雲母多、白色岩片
150	57	Ⅲ	4	AW-36	5YR4/4	口縁部。縄文。内外面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
151	55	Ⅲ	4	AW-38	7.5YR5/4	隆帯貼り付け。刻目。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石
152	57	Ⅲ	4	AU-38	5YR4/6	隆帯貼り付け。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
153	57	Ⅲ	5	AS-39	5YR4/2	口縁部。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
154	57	Ⅲ	5	AU-38	7.5YR4/3	口縁部。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
155	57	Ⅲ	5	AT-38	5YR6/6	口縁部。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石
156	57	Ⅲ	5	AT-38	5YR4/4	口縁部。縄文。指頭痕。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
157	57	Ⅲ	5	AU-39	5YR4/6	半截竹管状工具による沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
158	57	Ⅲ	5	AT-38	7.5YR5/4	内外面に指頭痕。内面にナデ。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
159	57	Ⅲ	5	AS-39	5YR6/6	縄文。内面に擦痕。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
160	58	Ⅳ		AS-39	5YR4/1	口唇部に刻目文。ナデ。沈線。刺突。	無	白色粒子、赤色粒子少、石英、輝石
161	58	Ⅳ		AS-39	2.5YR7/3	口唇部に刻目文。内外面に刺突。	無	白色粒子、石英、雲母、白色岩片
162	58	Ⅳ		AT-39	10YR7/4	隆帯貼り付け。平行沈線。刺突。内面に指頭痕。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
163	58	Ⅳ		AU-38	10YR6/3	隆帯貼り付け。刺突。	有	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子少、石英
164	58	Ⅳ		AS-38	5YR5/3	隆帯貼り付け。沈線。内面に指頭痕。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
165	58	Ⅳ		AT-39	7.5YR6/3	半截竹管状工具による沈線。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
166	58	Ⅳ		AT-38	10YR6/1	隆帯貼り付け。沈線。刺突。内面に指頭痕。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
167	58	Ⅳ		AT-38	7.5YR5/4	半截竹管状工具による沈線。内外面にナデ。	無	白色粒子、石英、雲母、白色岩片
168	58	Ⅴ	1	AT-38	5YR5/6	隆帯貼り付け。沈線。縄文。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、白色岩片
169	58	Ⅴ	1	AW-37	7.5YR5/4	隆帯貼り付け。刻目文。半截竹管状工具による沈線。内面にナデ。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英
170	58	Ⅴ	1	AW-37	5YR4/6	隆帯貼り付け。沈線。条線。	有	白色粒子多、黒色粒子、石英、白色岩片
171	58	Ⅴ	2	AV-36	5YR5/6	底部。沈線。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
172	58	Ⅵ		AT-38	5YR4/4	口縁部。隆帯貼り付け。穿孔。有孔鍔付土器。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母多、白色岩片
173	59	Ⅶ	1	AX-39	5YR5/6	押引波状文。沈線。円形刺突。	無	白色粒子、石英多、雲母
174	59	Ⅶ	1	AX-39	5YR5/6	押引波状文。沈線。円形刺突。	無	白色粒子、石英多、雲母
175	59	Ⅶ	1	AX-39	5YR5/6	棒状工具による沈線。	無	白色粒子、石英多、雲母
176	59	Ⅶ	1	AX-39	7.5YR5/6	棒状工具による沈線。刺突。	無	白色粒子多、石英、雲母
177	58	Ⅶ	3	AW-34	5YR5/6	隆帯貼り付け。沈線。内外面にナデとミガキ。	無	白色粒子、石英、雲母、白色岩片
178	59	Ⅶ	2	AT-39	7.5YR6/6	波状口縁。棒状工具による渦巻き文。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
179	59	Ⅶ	2	AX-33	7.5YR5/4	平行沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
180	59	Ⅶ	2	AR-39	10YR4/1	沈線。半截竹管状工具による刺突。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石
181	59	Ⅷ	1	AY-32	5YR5/4	口縁部。縄文。内面にナデ。	有	白色粒子、石英、雲母
182	59	Ⅷ	1	AY-32	7.5YR4/3	縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英
183	59	Ⅷ	1	AV-37	5YR6/6	縄文。内面に擦痕。	無	白色粒子多、輝石多、白色岩片
184	59	Ⅷ	1	AT-38	7.5YR5/4	半截竹管状工具による平行沈線。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母多
185	59	Ⅷ	1	AW-36	7.5YR4/6	底部。底に編物圧痕。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
186	59	Ⅷ	2	AW-38	5YR6/8	口唇部直下にヘラ状工具による刺突。複合鋸歯文。内面にナデ。	有	白色粒子、石英、雲母
187	59	Ⅷ		－	5YR4/6	土製円盤。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片多
188	59	Ⅷ		AU-39	5YR4/4	土製円盤。キャタピラ文。三角押文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
189	59	Ⅷ		AU-38	5YR4/4	土製円盤。隆帯貼り付け。キャタピラ文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
190	59	Ⅷ		AV-36	5YR3/1	土製円盤。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英多、輝石多、白色岩片
191	59	Ⅷ		AT-38	5YR4/4	土製円盤。沈線。縄文。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母多、輝石、白色岩片
192	59	Ⅷ		AT-38	5YR4/6	土製円盤。キャタピラ文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母多、輝石、白色岩片



第150図　石鏃・石鏃未製品分布図



第151図　楔形石器分布図

（２） 石器

尖頭器類（第119・120図　第29表　写真図版50）

尖頭器及び尖頭器の未製品と考えられる資料は２点出土している。これらは縄文時代草創期に位置付けられる。３は４区ＡＹ38グリッド､調査区北壁際にて出土している。石材は箱根畑宿産黒曜石である。未製品と考えられ、側縁の一部に調整が施されている。４はＡＷ35グリッドから出土した。石材はホルンフェルスである。先端部が折損している。風化のため剥離痕が不明瞭である。有舌尖頭器である。

石鏃（第150・155図　第35・36表　写真図版60）

193～201は石鏃である。出土しているのは全て打製石鏃の無茎鏃である。１～４区まで散発的に出土し、いずれかの位置で集中する傾向は特に窺うことは出来ない。石材は全て黒曜石である。

193・194は抉りが深く入るため、長脚鏃とも呼称されるタイプである。両者とも諏訪星ヶ台産黒曜石を石材とし、片方の脚部が折損している。

195～201は抉りが浅いタイプである。195は全体として正三角形を呈する。諏訪星ヶ台産黒曜石を石材とする。196・197は二等辺三角形を呈するタイプで、前者の片方の側縁には微細な剥離調整は見られない。198は鏃身部が正三角形に近いが、片方側縁の整形がやや歪である。199～201はいずれも折損が見受けられる。

スクレイパー類（第152・155図　第35・36表　写真図版60）

202～204はスクレイパー類に分類した。これらは１区及び４区でのみ出土している。

202・203は削器である。202は緑色凝灰岩を石材とし、片面は自然面が残置する。側縁部は刃部として加工されている。上半部は折損したものか。203は珪質頁岩を石材とする。縦長剝片を利用したものか。側縁部に剥離調整を施し、刃部に仕上げている。204はホルンフェルスを石材とする。抉入削器か。片側の側縁部に抉り状に刃部が加工されている。

石匙（第153・155図　第35・36表　写真図版60）

205は石匙である。石材はホルンフェルスである。片面には自然面が残置する。横長剝片を利用したもので、両面両側縁から剥離調整を施し、つまみを作り出している。

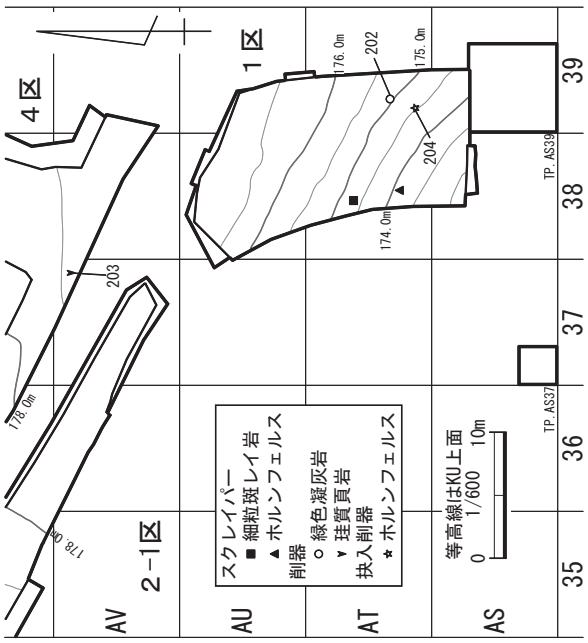
楔形石器（第151・158図　第35・36表　写真図版60）

206・207は楔形石器である。両者とも黒曜石を石材とし、前者は天城柏峠産、後者は神津島恩馳島産である。206は自然面が残置している。遺跡全体では16点出土し、５点が１区からの出土である。

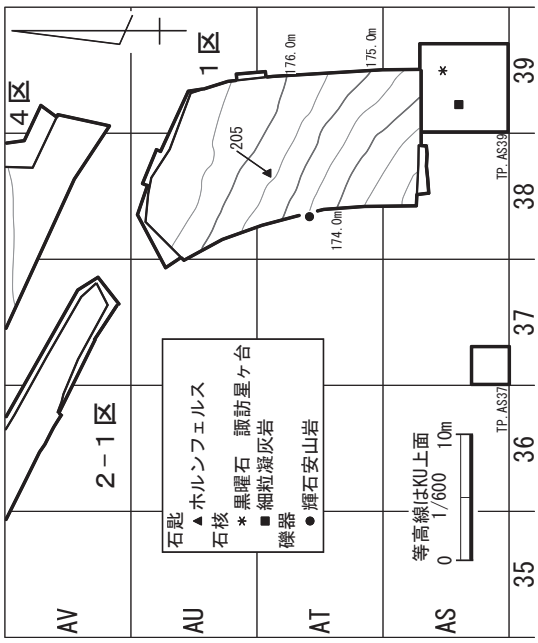
打製石斧（第156・158・159図　第35・36表　写真図版61）

208～216は打製石斧である。遺跡全体では22点出土、そのうち６点が１区で、土３地点確認調査テストピットＡＳ39から出土した２点も勘案すれば、石斧の大半は遺跡南半域で多く出土したことになる。

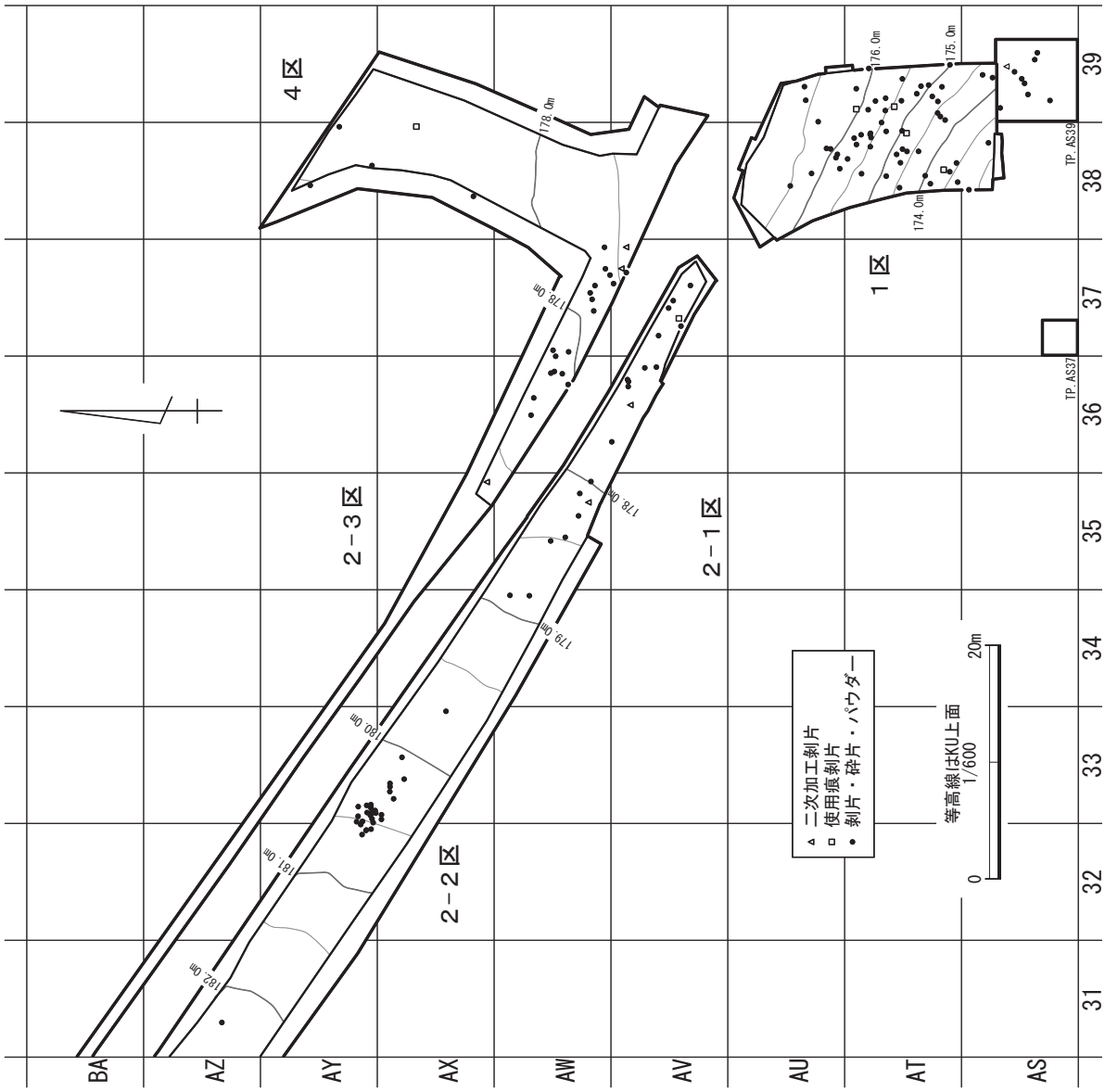
208～212はいずれも側縁部が並行するタイプで短冊形を呈する打製石斧である。208は角閃石片岩を石材とする。基端部付近が窄まり、主面の一部に自然面が残置する。刃部は折損している。209は細粒安山岩を石材とする。基端部は平坦に仕上げている。刃部は折損している。210は緑色凝灰岩を石材とする。完形で、側縁部３箇所に敲打痕の集中部が観察される。柄との緊縛痕は認められない。211・212は共に頁岩を石材とする。211は自然面が残置し､基端部が折損している。212は小型の打製石斧である。刃部の平面形はやや鋭角で、僅かに使用痕、側縁部には敲打痕が観察される。



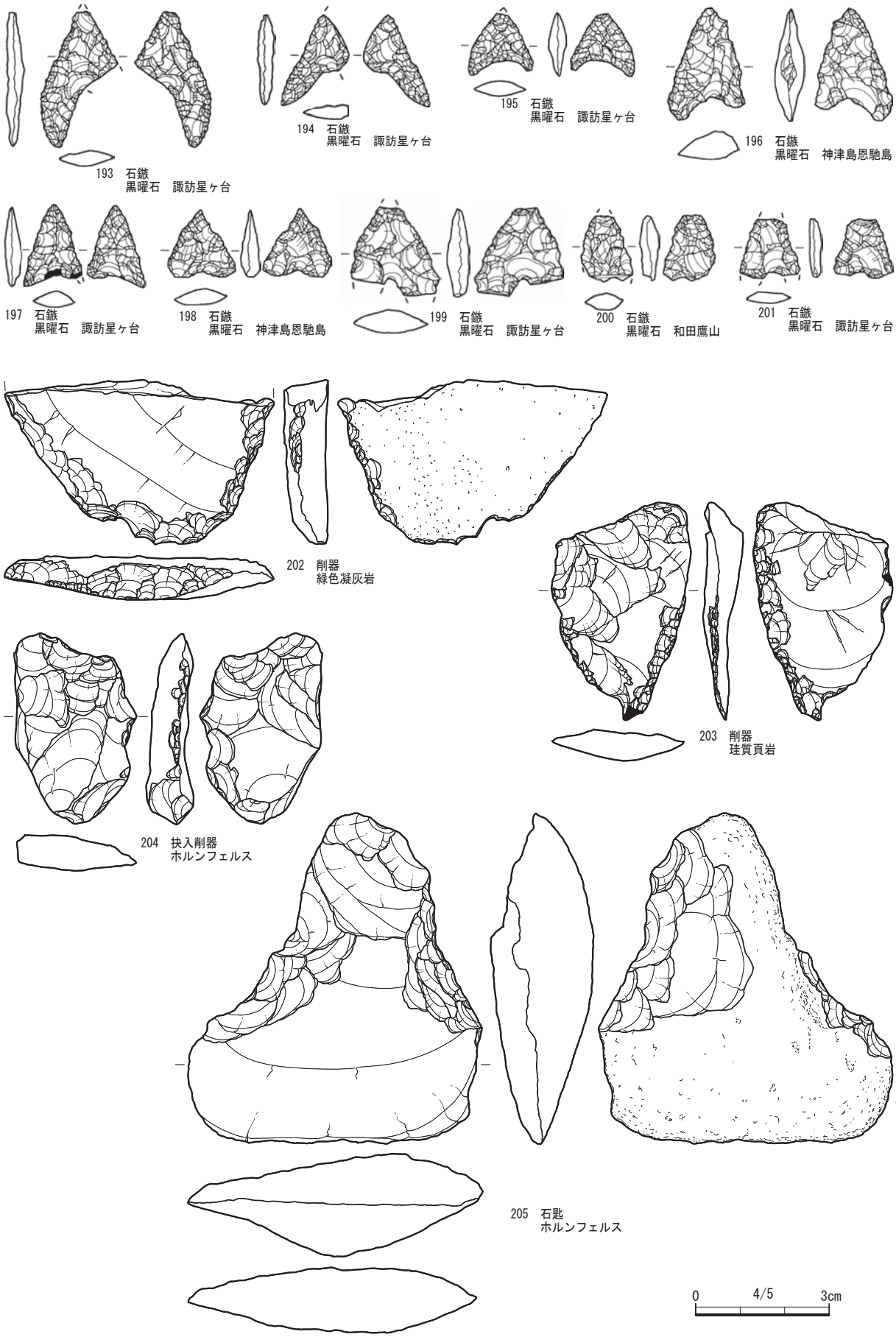
第152図　スクレイパー類分布図



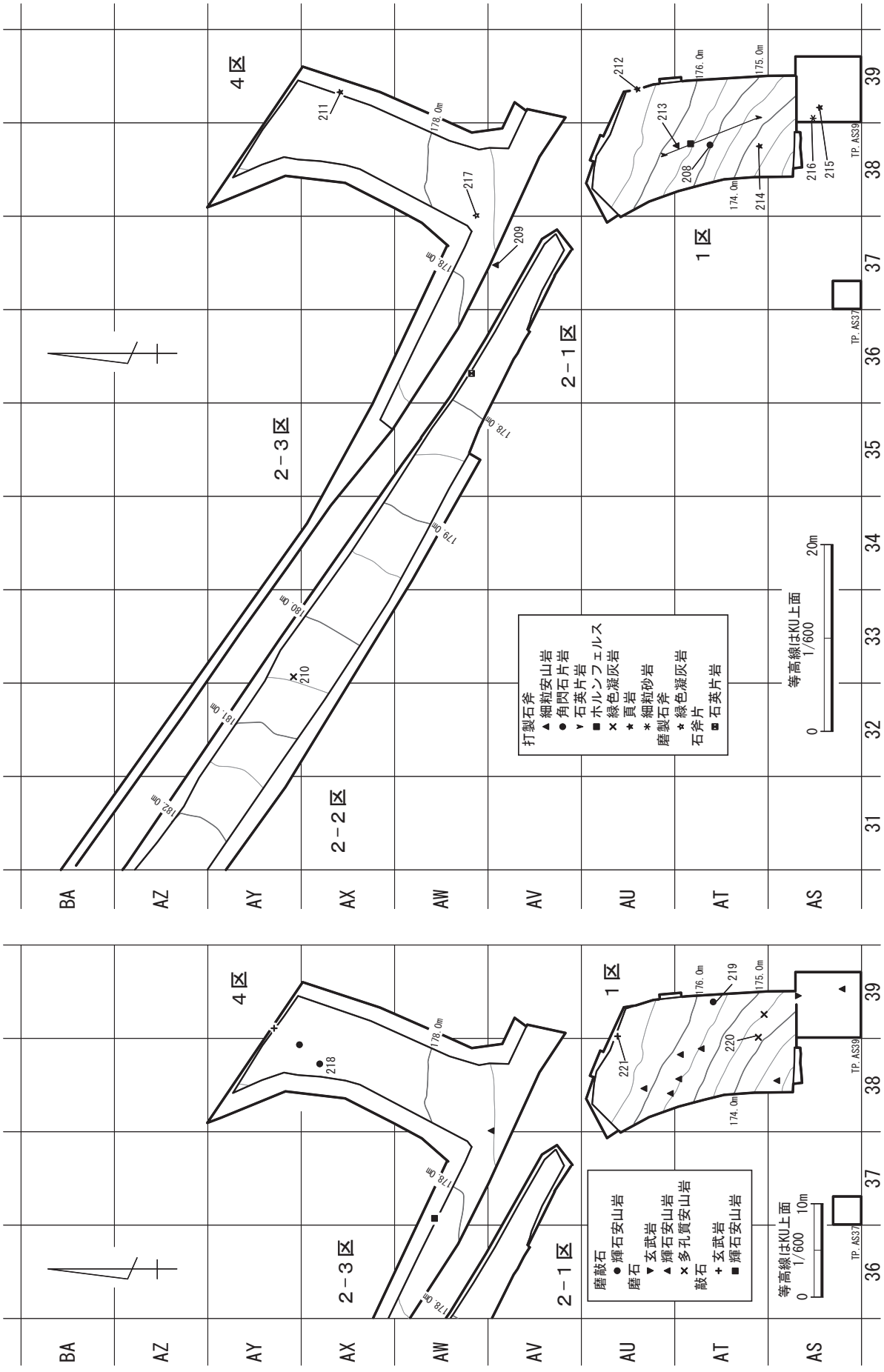
第153図　石匙・石核他分布図



第154図　剥片類分布図

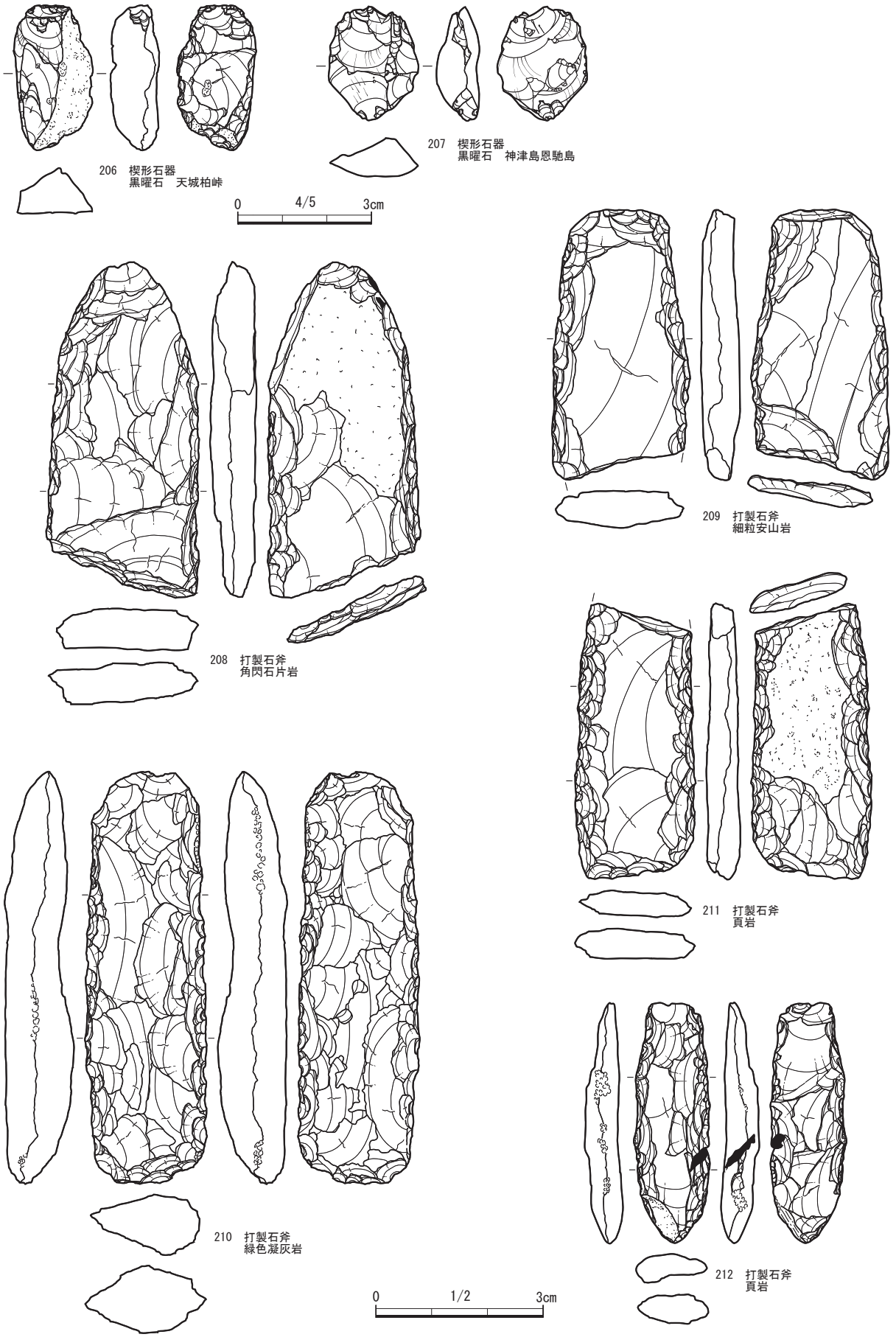


第155図　石鏃・石鏃未製品・スクレイパー類・石匙

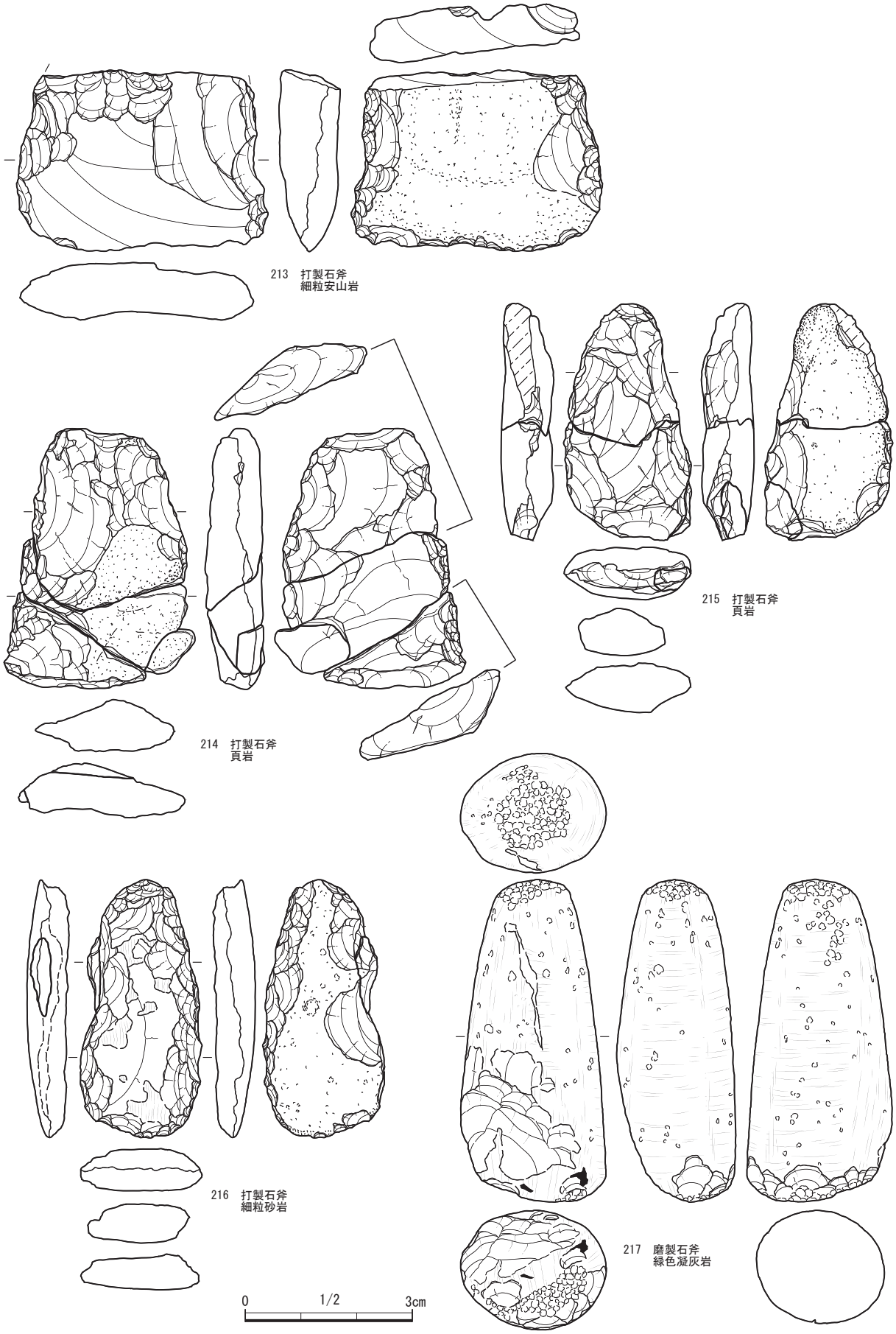


第156図　打製石斧・磨製石斧分布図

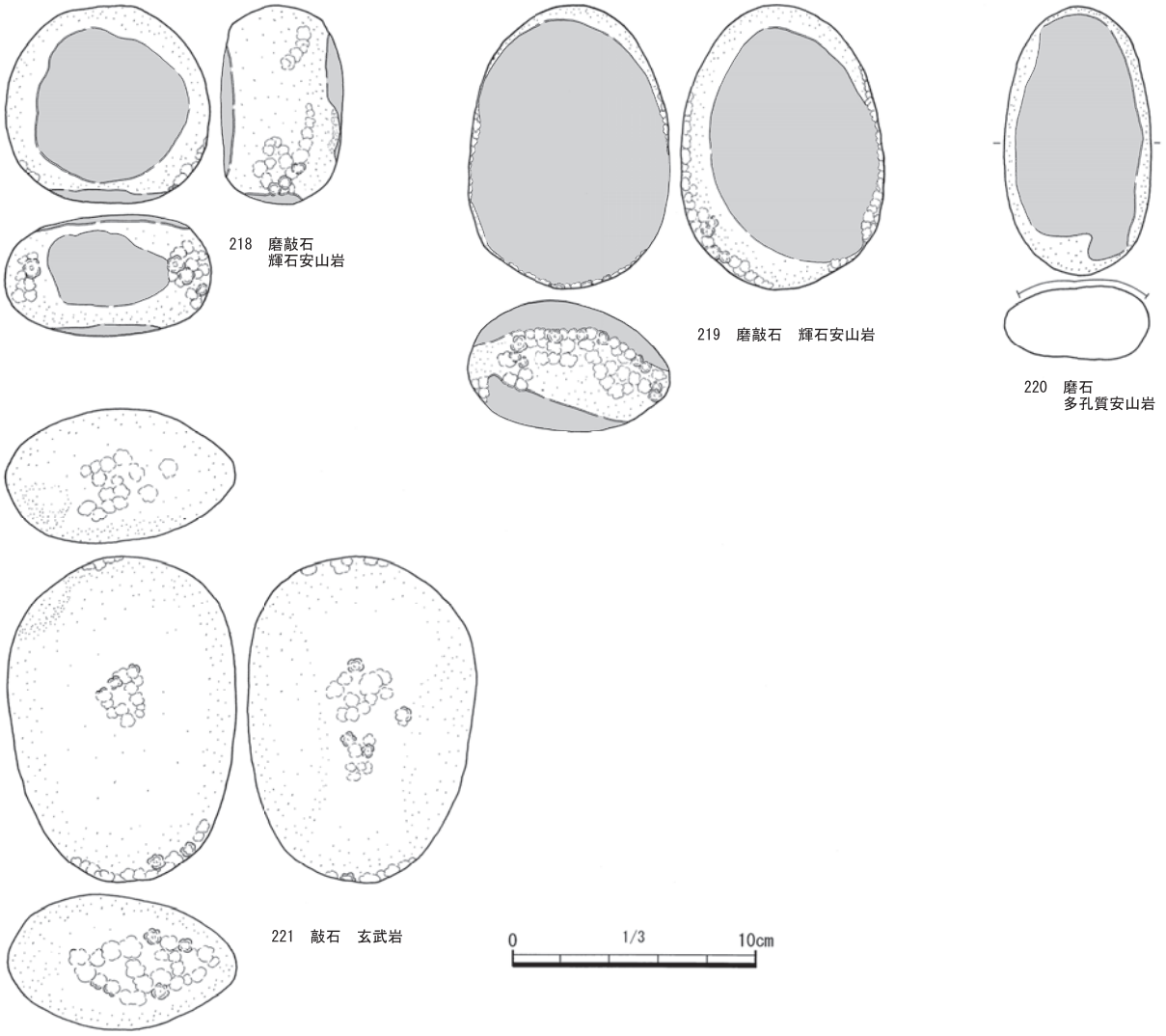
第157図　磨敲石類分布図



第158図　楔形石器・打製石斧



第159図　打製石斧・磨製石斧



第160図　磨敲石類

213～216は撥形を呈する打製石斧である。213は刃部のみの破片資料だが、残存状況から撥形石斧と分類した。片側には自然面が残置し、刃部・側縁部には剥離調整がなされている。また折損後の再加工に由来する剥離が観察される。石材は細粒安山岩である。214・215は頁岩を石材としている。両者とも基部中位で割れている。216は細粒砂岩を石材とする。器面の一部に使用による摩耗痕が観察される。

磨製石斧（第156・159図　第35・36表）

217は磨製石斧である。緑色凝灰岩を石材とする。この磨製石斧の断面形は円～楕円形を呈している点から乳棒状磨製石斧に分類される。刃部は折損している。折損後に再加工、及び敲石に転用されたことに由来するものか、折損面に研磨痕及び敲打痕が観察される。基端面にも敲打痕が観察されるが、製作時のものか転用後のものか判然としない。

磨敲石類（第157・160図　第35・36表　写真図版60）

218～221は磨敲石類である。出土位置は１区を中心に分布する。

218・219は磨敲石である。両者とも両主面は磨り面で、側縁部を中心に敲打痕が観察される。前者は平面が円形、後者は楕円形を呈する扁平な礫を利用している。220は磨石である。多孔質安山岩を石材

とする。扁平で平面が長楕円形を呈する礫を利用している。221は敲石である。玄武岩を石材とする。扁平で平面が楕円形の礫を利用し、主面及び上下基端部に敲打痕が見られる。

第35表　縄文時代石器組成表

			石鏃	石鏃未製品	尖頭器	スクレイパー	削器	抉入削器	石匙	石核	楔形石器	打製石斧	磨製石斧	打製石斧片	二次加工剥片	使用痕剥片	剥片	砕片・パウダー	礫器	磨敲石	磨石	敲石	計
黒曜石	天城柏峠	AGKT	3								2												5
	箱根畑宿	HNHJ																1					1
	神津島恩馳島	KZOB	2	1							13				3	4	13	3					39
	諏訪星ヶ台	SWHD	9							1	1				1	1	1	1					15
	和田鷹山	WDTY	1																				1
	産地不明														5	6	112	53					176
	黒曜石計		15	1						1	16				9	11	126	58					237
玄武岩		Ba																		3	3	3	9
多孔質玄武岩		VBa																		1			1
ガラス質黒色安山岩		GAn	1														4	1					6
細粒安山岩		FAn								1		3					13						17
輝石安山岩		An(Py)																	1	4	10	2	17
角閃石安山岩		An(Ho)										1					1						2
多孔質安山岩		VAn																			2		2
流紋岩		Rhy								1													1
細粒斑レイ岩		FG				1																	1
結晶片岩		CSC															1	1					2
角閃石片岩		AS										1											1
白雲母片岩		MS										1											1
緑色片岩		GS												2			2						4
石英片岩		QS										3		1									4
ホルンフェルス		Hor	1		1	1		1	1			5					12	2					24
菫青石ホルンフェルス		Hor(Co)															2						2
細粒凝灰岩		FT								1							3						4
緑色凝灰岩		GT					1					1	1				14						17
頁岩		Sh										4					16	2					22
珪質頁岩		SSh					1																1
細粒砂岩		FSS												1			2						3
中粒砂岩		MSS										1					2					1	4
計			17	1	1	2	2	1	1	4	16	20	1	4	9	11	198	64	1	8	15	6	382

第36表　縄文時代遺構外出土石器計測表

挿図番号	写真図版番号	遺物番号	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
193	60	252	FB	AV-37	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	(3.0)	(1.7)	0.4	0.9
194	60	2706	FB	AX-33	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	(2.0)	1.5	0.3	0.5
195	60	3200	FB	AW-37	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	(1.4)	1.4	0.4	0.5
196	60	1507	AN	AS-38	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	2.5	1.7	0.6	1.7
197	60	2853	FB	AW-37	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	1.8	1.3	0.4	0.5
198	60	735	AN	AS-39	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	1.5	1.5	0.4	0.6
199	60	1779	AN	AU-39	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	(2.0)	1.9	0.5	1.4
200	60	3116	FB	AY-31	石鏃	黒曜石	和田鷹山	(1.5)	(1.1)	0.3	0.5
201	60	3112	FB	AV-38	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	(1.3)	(1.3)	0.3	0.4
202	60	2284	FB	AT-39	削器	緑色凝灰岩		(3.5)	6.0	1.0	26.7
203	60	3138	FB	AV-37	削器	珪質頁岩		4.3	2.0	0.7	9.5
204	60	578	AN	AT-39	抉入削器	ホルンフェルス		4.2	2.7	1.0	13.3
205	60	452	AN	AT-38	石匙	ホルンフェルス		7.4	6.5	2.2	87.3
206	60	366	NSC	AT-38	楔形石器	黒曜石	天城柏峠	3.2	1.7	1.0	5.7
207	60	518	AN	AT-38	楔形石器	黒曜石	神津島恩馳島	2.5	2.0	0.9	3.7
208	61	436	AN	AT-38	打製石斧	角閃石片岩		11.6	5.5	1.6	163.3
209	61	2836	YLM	AV-37	打製石斧	細粒安山岩		(9.2)	4.9	1.3	91.8
210	61	2643	FB	AY-33	打製石斧	緑色凝灰岩		14.6	4.3	2.5	222.0
211	61	3005	AN	AX-39	打製石斧	頁岩		(9.9)	4.2	1.2	74.9
212	61	2226	FB	AU-39	打製石斧	頁岩		8.6	2.7	1.2	35.1
213	61	989	AN	AT-38	打製石斧	細粒安山岩		(6.5)	8.8	2.0	178.2
214	61	1374	AN	AT-38	打製石斧	頁岩		9.3	6.6	2.0	151.8
215	61	1207	FB	AS-39	打製石斧	頁岩		8.4	4.5	1.8	89.2
216	61	1206	FB	AS-39	打製石斧	細粒砂岩		9.2	4.3	1.5	78.7
217		3093	FB	AW-38	磨製石斧	緑色凝灰岩		11.6	5.0	4.3	375.9
218	60	3025	AN	AX-38	磨敲石	輝石安山岩		8.1	8.4	4.9	525.7
219	60	672	AN	AT-39	磨敲石	輝石安山岩		11.6	8.3	5.4	684.7
220	60	584	AN	AT-39	磨石	多孔質安山岩		10.9	6.0	3.1	279.7
221	60	2147	FB	AU-39	敲石	玄武岩		13.3	9.3	5.6	909.8

第４節　中近世以降の遺構

１　概要

富沢内野山Ⅲ北遺跡の調査では、中近世以降に位置付けられる遺構が1区において確認された。遺構は溝・土坑である。土坑は円形土坑であり、中近世以降に位置付けられるのが一般的である。また円形土坑に切られるように溝状遺構が確認されているので、円形土坑が設置される以前に溝状遺構が機能していたものと考えられる。

２　遺構

（１）　溝状遺構（第161・162図　第37表）

当該遺跡において溝状遺構は６条、殆どが１区内の新期スコリア層上面にて確認されている。そのうち１・４・５号溝状遺構の３条がほぼ並行し、同じ方向へ延びる。

1号溝状遺構は１区ＡＴ・ＡＵ38グリッドに位置する。１区の南東から北西に縦断し、直線的に延びる溝状遺構である。検出された遺構の計測値では長さ13.6m、最大幅0.8mである。深さは0.1m程度である。この溝状遺構には硬化域が認められる点から道として機能したものと考えられる。１号溝状遺構は２・３号溝状遺構と接し、３号溝状遺構とは交差する。新旧関係では２号・１号・３号溝状遺構の順か。この１号溝状遺構と並走するのが４・５号溝状遺構である。前者は長さ5.42m、最大幅0.64mを測る。深さは0.1m程度である。後者の長さは5.62m、最大幅0.5mを測る。深さは0.1m程度である。４・５号溝状遺構とも硬化域が認められ、道として機能した可能性がある。

６号溝状遺構は１区南端付近に位置する。溝状遺構は北西方向に延びるため、１・４・５号溝状遺構との関連性が窺えるが、硬化域が検出されたとの現地所見が見当たらないため、断定は出来ない。14号土坑と重複しており、時期的に土坑より先行する。

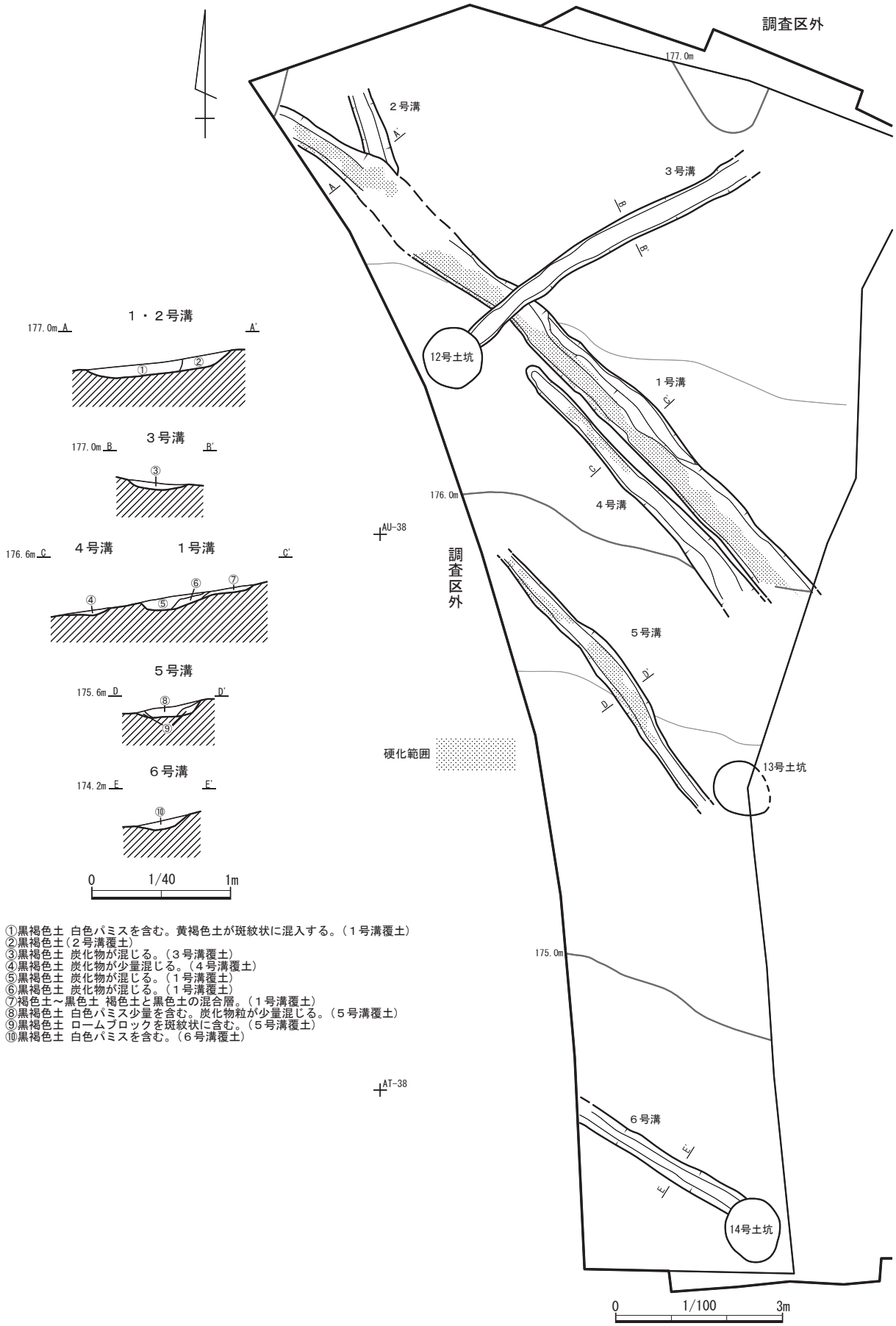
２号溝状遺構は１区調査区北西隅部に位置する。長さは1.6m、最大幅は0.49m、深さは0.1m程度を測る。この溝状遺構は１号溝状遺構から分岐するように北北西の方向へ延びる。また１号溝状遺構と交差する３号溝状遺構は長さ5.8m、最大幅は0.48mを測る。深さは0.08m程度である。この溝状遺構は北東方向へ延びる。溝の西端は円形土坑である12号土坑と重複し、時期的に土坑より先行する。

（２）　土坑（第162・163図　第37表）

当該遺跡から弥生時代以降のものと考えられる土坑が３基確認されている。いずれの土坑も平面は円形を呈しており、所謂「円形土坑」と考えられる。いずれの土坑も新期スコリア層上面で検出され、径は0.94～1.17mを測る。深さは検出面から0.20～0.33mであり、平坦な底面を持つ。

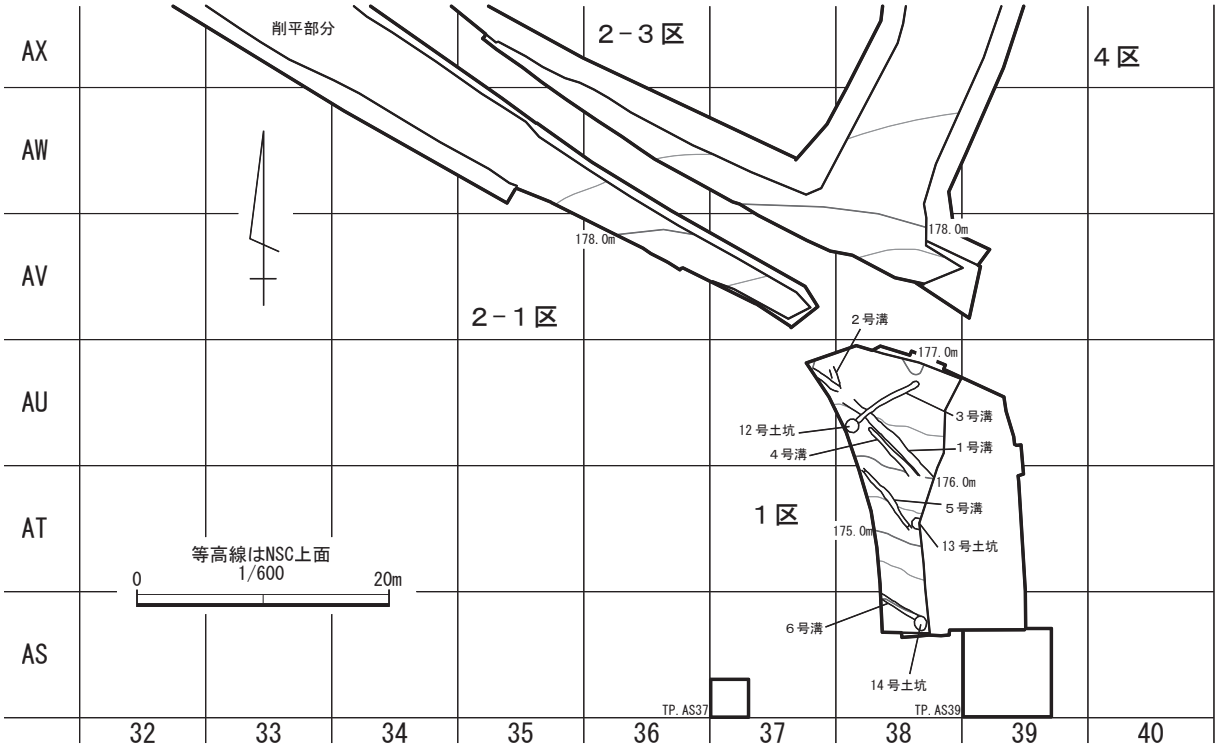
第37表　中近世遺構計測表

報告書遺構名	調査遺構名	グリッド	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計	備考
12号土坑	SF04	AU-38	NSC	1.06	1.04	0.20						
13号土坑	SF20	AT-38	NSC	1.00	0.94	0.29						
14号土坑	SF05	AS-38	NSC	1.17	1.00	0.33						
１号溝	SD02	AT-38	NSC	13.59	0.80	0.10						
２号溝	SD07	AU-37	NSC	1.60	0.49	0.10						
３号溝	SD03	AT-38	NSC	5.79	0.48	0.08						
４号溝	SD06	AT-38	NSC	5.42	0.64	0.13						
５号溝	SD04	AT-38	NSC	5.62	0.50	0.09						
６号溝	SD05	AS-38	NSC	3.55	0.44	0.10						

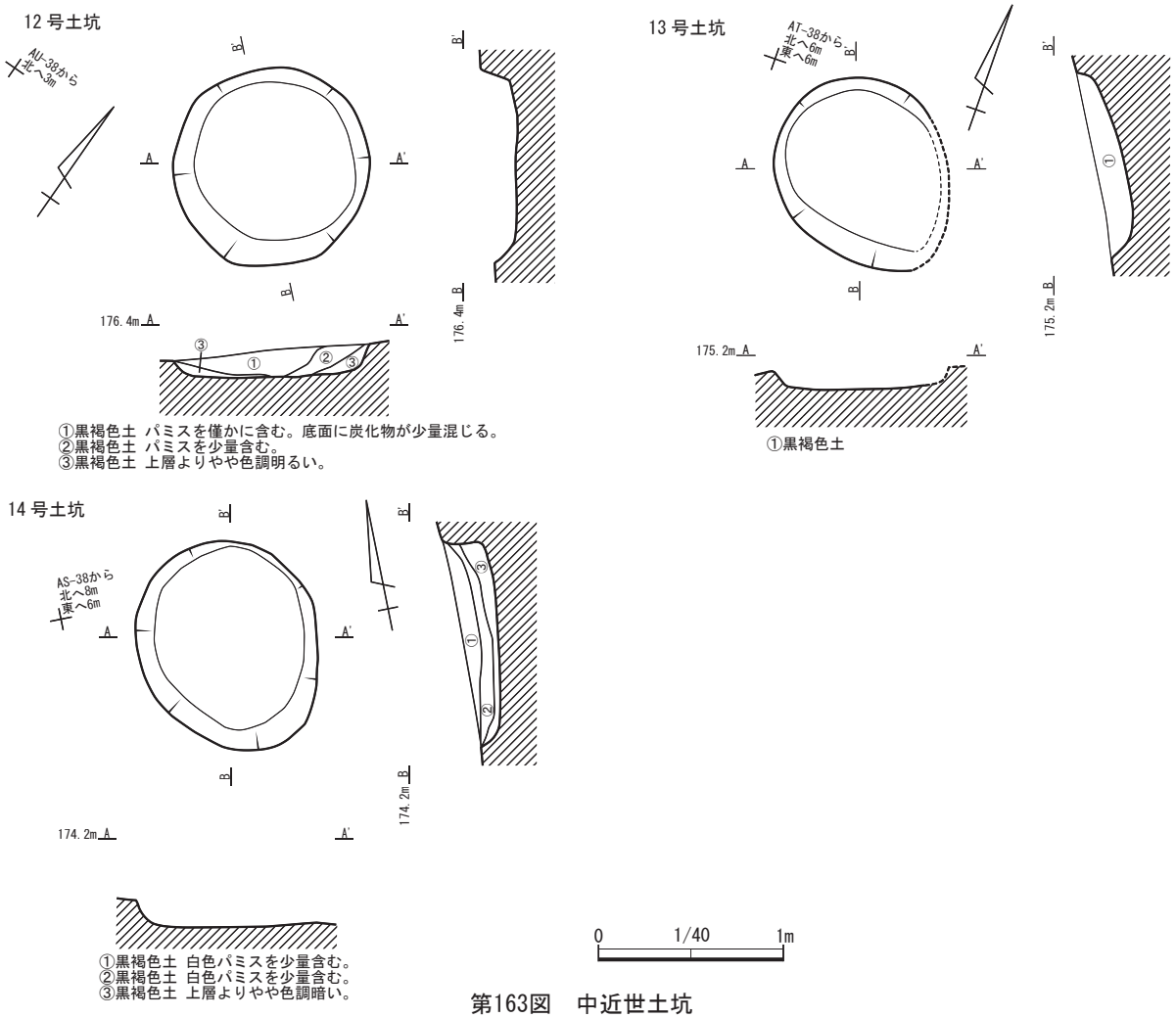


①黒褐色土 白色パミスを含む。黄褐色土が斑紋状に混入する。（１号溝覆土）
②黒褐色土（２号溝覆土）
③黒褐色土 炭化物が混じる。（３号溝覆土）
④黒褐色土 炭化物が少量混じる。（４号溝覆土）
⑤黒褐色土 炭化物が混じる。（１号溝覆土）
⑥黒褐色土 炭化物が混じる。（１号溝覆土）
⑦褐色土～黒色土 褐色土と黒色土の混合層。（１号溝覆土）
⑧黒褐色土 白色パミス少量を含む。炭化物粒が少量混じる。（５号溝覆土）
⑨黒褐色土 ロームブロックを斑紋状に含む。（５号溝覆土）
⑩黒褐色土 白色パミスを含む。（６号溝覆土）

第161図　中近世溝状遺構



第162図　中近世遺構位置図



①黒褐色土 パミスを僅かに含む。底面に炭化物が少量混じる。
②黒褐色土 パミスを少量含む。
③黒褐色土 上層よりやや色調明るい。

第163図　中近世土坑

第４章　富沢内野山IV西遺跡（ＣＲ36地点）

第１節　基本層序と土層の堆積状況

富沢内野山IV西遺跡は裾野市富沢内野山地先・桃園地先に位置する。前章で触れた富沢内野山Ⅲ北遺跡の北側に隣接する遺跡である。当該遺跡が該当する調査区はＣＲ36地点の内、３－１区・３－２区・５区・７－２区・７－１区(一部)である。

この富沢内野山IV西遺跡は愛鷹山東麓の樹枝状に発達した尾根上に位置するが、第２章に述べた富沢内野山Ｉ西遺跡(土３地点)が位置する谷尻から東縁部にかけての尾根が、現時点で確認されている遺跡の範囲である。この遺跡一帯は平坦地であり富沢内野山Ⅲ北遺跡を隔てる地理的要因は無いものの、富沢内野山Ⅲ北遺跡にて検出された遺構群は、富沢内野山Ｉ西遺跡１・２区が位置する支谷の谷尻付近を指向するものと捉えられ、富沢内野山Ⅲ北遺跡及び当該遺跡の境界部となるＣＲ36地点７区付近は遺構・遺物が散発的となり、両遺跡における生活領域の辺縁部にあたるものと考えられる。遺跡西側に内野山Ⅱ遺跡が位置するが詳細は不明であるため、富沢内野山IV西遺跡との関連も不明である。

第164図は当該遺跡で最も基本的な層序を示しているものと考えられた、テストピット18北壁の土層図である。他の遺跡と同様、愛鷹箱根基本層序を基調とし、現地で分層及び土層説明がなされている。

１層は表土で腐食土である。遺跡付近の地目は多くが畑であり、耕作土に該当する。

２～４層は新期スコリアを含む層で、第２章第１節で触れた富沢内野山Ｉ西遺跡の基本層序３層に該当する。新期スコリアを含む層である２層の色調はにぶい黄褐色である。いつの降灰か定かではない。３層も新期スコリアを含む層である。層中に砂沢スコリアらしき堆積が認められたと現地所見にある。このテストピット18ではフラットな堆積は認められない。４層は暗灰黄色土層で、新期スコリアを含む層である。２層同様由来は判然としない。一方、隣接する富沢内野山Ⅲ北遺跡２区付近では、カワゴ平パミス(ＫＧＰ)を含む層が認められ、同じ尾根上の遺跡であるがスコリア堆積層の状況は一様でない。

５層は現地調査において愛鷹箱根基本層序でいう暗褐色土層に該当する層と位置付けている。暗褐色土層は愛鷹箱根基本層序でいう栗色土層と上位の黒色土層の漸移的土層の性格を有するものとされている。このテストピットでは上位の黒色土の堆積が判然とせず、５層自体色調的には黒褐色に近い。

６層は愛鷹箱根基本層序でいう栗色土層に該当する。色調では灰黄～にぶい黄色を呈する。

７・８層は富士黒土層である。現地調査段階ではＫＦ１・ＫＦ２と呼称されていたが、基礎整理作業段階で見直しされ、富士黒土層に位置付けている。なお愛鷹箱根基本層序でいう漸移層が本来ならば富士黒土層と休場層の間隙に観察されるところであるが、当該遺跡では５区等部分的に見られる。

９～12層は休場層である。９層は休場層上層、10層は休場層中層、11・12層は休場層下層である。12層は11層と比較して締りがあるため、ハードローム層として認識され、対照的に11層はソフトローム層と呼称している。休場層中内には富沢内野山Ｉ西遺跡のように赤褐色を呈する休場層上部スコリア(ＹＬｓ１)や休場層下部スコリア(ＹＬｓ２)の堆積が認められるが、テストピット18付近では判然としない。当該遺跡で出土した旧石器時代遺物は９層中に多い。富沢内野山Ｉ西遺跡における第Ⅲ文化層に該当か。

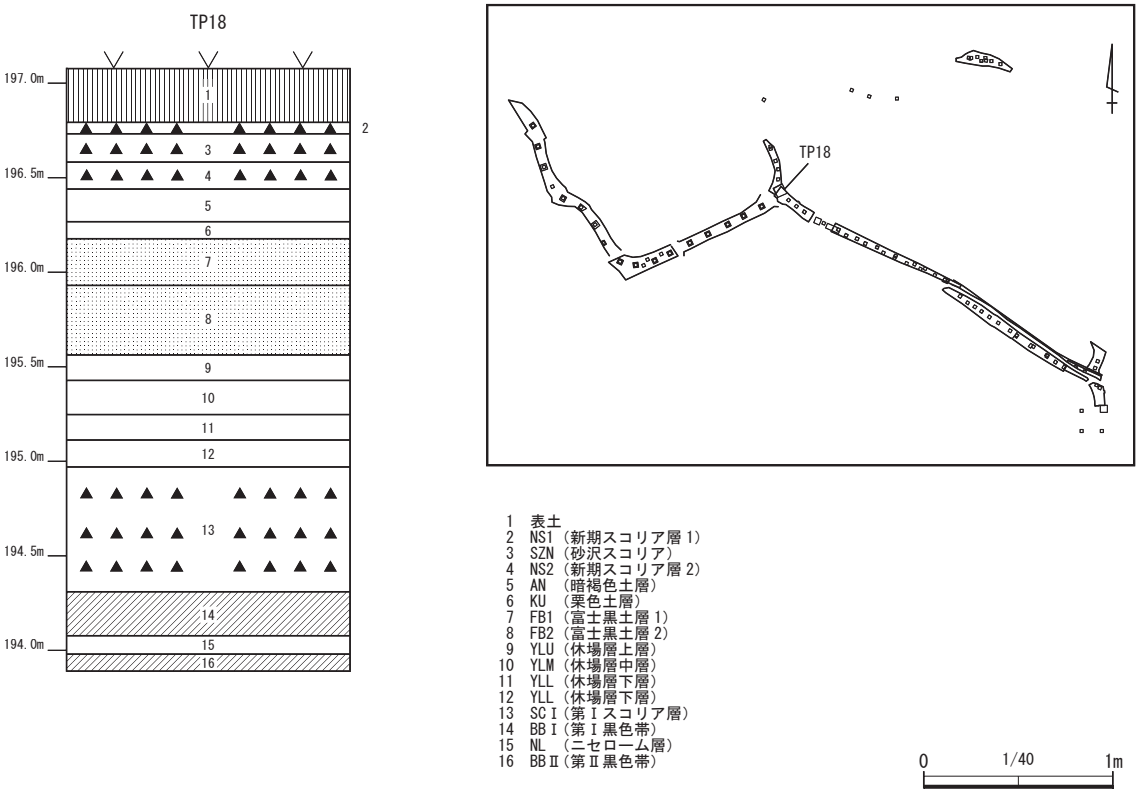
13層は第Ｉスコリア層である。略号はＳＣＩである。休場層直下に認められる休場層直下黒色帯(ＢＢ０)は判然としない。

14層は第Ｉ黒色帯である。略号はＢＢＩである。富沢内野山Ｉ西遺跡では第Ⅱ文化層に位置付けられ

ている。当該遺跡における第Ⅰ黒色帯から出土した旧石器時代遺物は１点のみで、この層位より下層では旧石器時代の遺物を見出せていない。

15層はニセローム層である。略号はＮＬである。当該箇所ではスコリア質が特徴的なニセローム層上部と、姶良丹沢広域火山灰(ＡＴ)を多く含むニセローム層下部に分離し得ていない。

16層は第Ⅱ黒色帯に該当する。略号はＢＢⅡである。



第164図　富沢内野山Ⅳ西遺跡基準土層図

第２節　旧石器時代の遺構と遺物

１　概要

富沢内野山IV西遺跡の範囲に含まれるＣＲ36地点３－２区・５区・７－２区において、各調査区より旧石器時代の遺物が確認された。いずれの調査区でも石器と礫の散布が確認されたのみで、礫群等の遺構は判然としなかった。しかし確認調査の際、該期のものと思しき土坑が１基のみ確認されている。地形的に当該遺跡５区付近で標高が最も高く、３区から７区にかけて緩やかに傾斜する。該期の遺物は５区の休場層に多く見出される。

２　遺構

（１）　土坑（第165図　第38表）

１号土坑は平成14年度確認調査その２の際に、テストピット36内第Ⅰスコリア層上面にて確認された。平面形は歪な長方形を呈し、底面は平坦である。計測値は長さ0.62m、幅0.45m、深さ0.19mを測る。覆土中に休場層由来土がブロック状に含まれている。覆土の状況から休場層より上位から掘削されたものと考えられ、所属する時期も縄文時代まで下る可能性がある。

３　遺物

遺物は９点を図化した。旧石器時代の石器は５区で散見されるが、石器集中として見なしていない。剥片が第Ⅰ黒色層で出土しているが、それより下位層で旧石器時代遺物は未確認である。

（１）　尖頭器（第166・167図　第39・42表　写真図版64・67）

１～３は尖頭器である。いずれも黒曜石を石材とする。１・３は諏訪星ヶ台、２は和田芙蓉ライトを産地とする。１は５区ＢＨ94グリッドから出土している。両面共に加工を施し、素材面は見られない。３は片面加工尖頭器で、基部は折損している。２は先端部が折損した両面加工尖頭器である。７－２区ＢＫ12グリッドの休場層下層からの出土である。

（２）　ナイフ形石器（第166・167図　第39・42表　写真図版66・67）

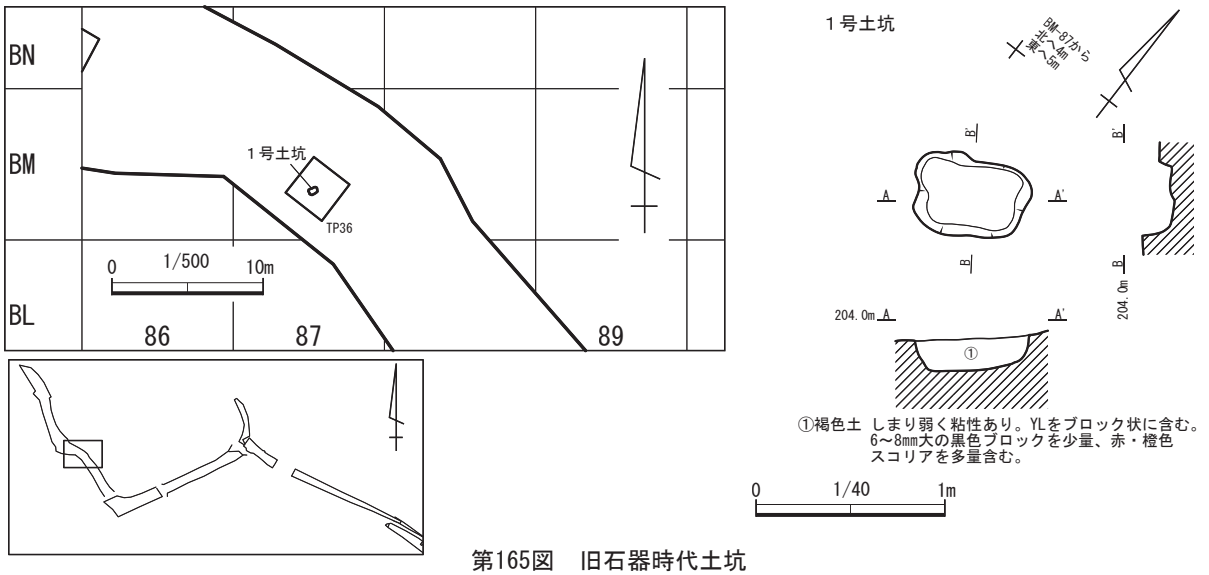
４・５はナイフ形石器である。４はホルンフェルスを石材としている。５区ＢＧ95グリッドの休場層上層から出土している。二側縁調整が施されており、素材は石刃状剥片か。５は和田鷹山産黒曜石を石材とする。先端部は折損している。基部加工がなされている。裏面には打瘤末端が残置する。

（３）　石刃・細石刃（第166・167図　第39・42表　写真図版67）

６・９は石刃、７は細石刃である。６・７は黒曜石を石材とし、６は諏訪星ヶ台、７は神津島恩馳島を産地とする。９はホルンフェルスを石材としている。６は７－２区ＢＬ11グリッド杭付近から出土している。打面が失われている。細石刃である７は上端部及び下端部が折られたものか。５区ＢＧ93グリッドから出土している。９は確認調査テストピット25から出土している。

（４）　掻器（第166・167図　第39・42表　写真図版67）

８は掻器である。ホルンフェルスを石材とする。縦長剥片を素材とし、裏面には打瘤が残置する。片面加工の掻器である。確認調査テストピット25から出土している。



第165図　旧石器時代土坑

第38表　旧石器時代土坑計測表

報告書遺構名	調査遺構名	グリッド	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計	備考
１号土坑	SF21	BM-87	SCⅢs1	0.62	0.45	0.19						

第39表　旧石器時代石器一覧表

挿図番号	遺物番号	枝番	層位	器種	石材	ob分析番号	原産地名	接合番号	グリッド	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
1	1150		YLU	尖頭器	黒曜石	2	諏訪星ヶ台		BH-94	4.52	1.90	0.72	5.14	-91728.307	35899.061	200.925
2	13306		YLL	尖頭器	黒曜石	168	和田芙蓉ライト		BK-12	(7.05)	2.31	1.28	18.13	-91695.856	36072.113	196.846
3	53		排土中	尖頭器	黒曜石	1	諏訪星ヶ台		-	(4.64)	2.22	0.91	8.45	-	-	-
4	13107		YLU	ナイフ形石器	ホルンフェルス				BG-95	6.61	1.82	0.64	8.09	-91730.539	35902.003	200.491
5	13325		表採	ナイフ形石器	黒曜石	299	和田鷹山		TP-33	(3.41)	2.14	0.66	5.08	-	-	-
6	13309		YLM	石刃	黒曜石	169	諏訪星ヶ台		BK-10	3.98	1.19	0.54	2.11	-91690.186	36059.949	197.037
7	13076		ZN	細石刃	黒曜石	166	神津島恩馳島		BG-93	(1.50)	0.61	0.28	0.29	-91735.546	35884.157	200.796
8	1112		YLU	掻器	ホルンフェルス				BM-05	5.14	3.30	1.30	26.08	-91677.094	36004.217	197.220
9	1170		YLM	石刃	ホルンフェルス				BM-05	5.62	2.13	0.95	10.6	-91677.848	36005.559	197.028
	2074		YLU	剝片	ホルンフェルス				BN-08	(1.86)	1.45	0.39	1.47	-91669.980	36030.684	194.708
	13108		YLU	剝片	輝石安山岩				BH-94	4.31	2.82	0.83	7.82	-91726.713	35897.205	200.998
	13113		YLM	剝片	ホルンフェルス				BH-94	1.52	0.97	0.26	0.43	-91727.537	35893.683	201.033
	13128		BB Ⅰ	剝片	ホルンフェルス				BH-94	1.66	2.86	0.72	3.64	-91727.724	35891.144	200.005

「-」は計測不能或いは不明

第40表　旧石器時代礫属性表

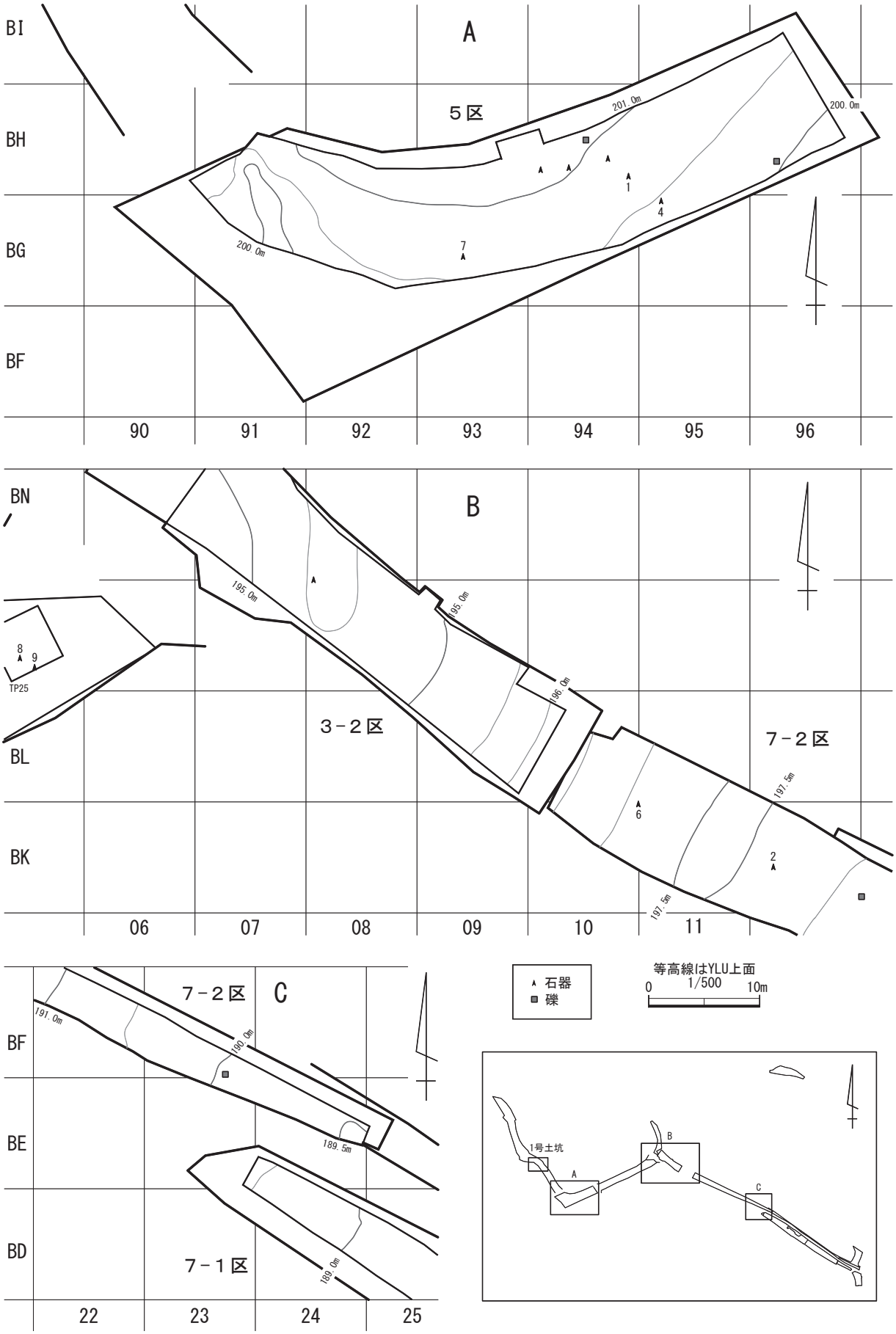
礫群番号	構成礫数	赤化			形態	石材		
		非赤化		不明	亜角	玄武岩	安山岩・輝石	レイ岩・細粒斑
		完形	非完形					
遺構外	5	1	3	1	5	1	3	1

第41表　旧石器時代礫一覧表

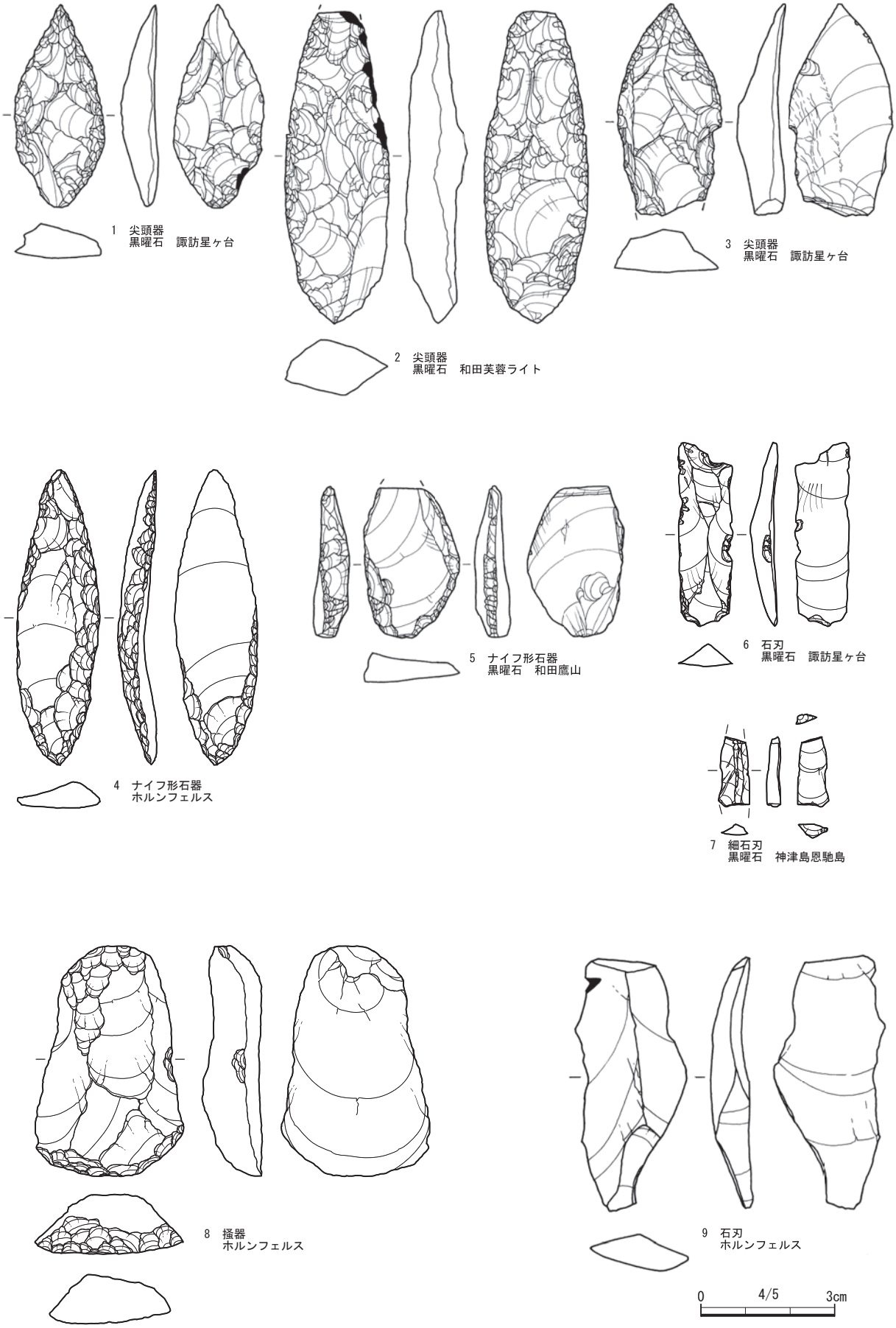
遺物番号	枝番	層位	石材	礫形態	接合番号	グリッド	被熱	完形	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	X座標	Y座標	Z座標
2014		SCⅢs4	細粒斑レイ岩	亜角		BS-16			7.9	6.3	2.4	110	-91615.334	35783.610	207.527
13106		YLM	輝石安山岩	亜角		BH-96	○		9.5	6.5	2.2	140	-91726.969	35912.405	200.104
13147		YLM	輝石安山岩	亜角		BH-94	○		2.8	2.5	1.0	10g未満	-91725.051	35895.222	200.892
13298		YLU	輝石安山岩	亜角		BK-13	○	○	5.2	2.7	1.5	20	-91698.537	36080.060	196.586
13308		YLM	玄武岩	亜角		BF-23	○		14.5	11.3	3.9	660	-91749.692	36187.300	189.468

第42表　旧石器時代石器組成表

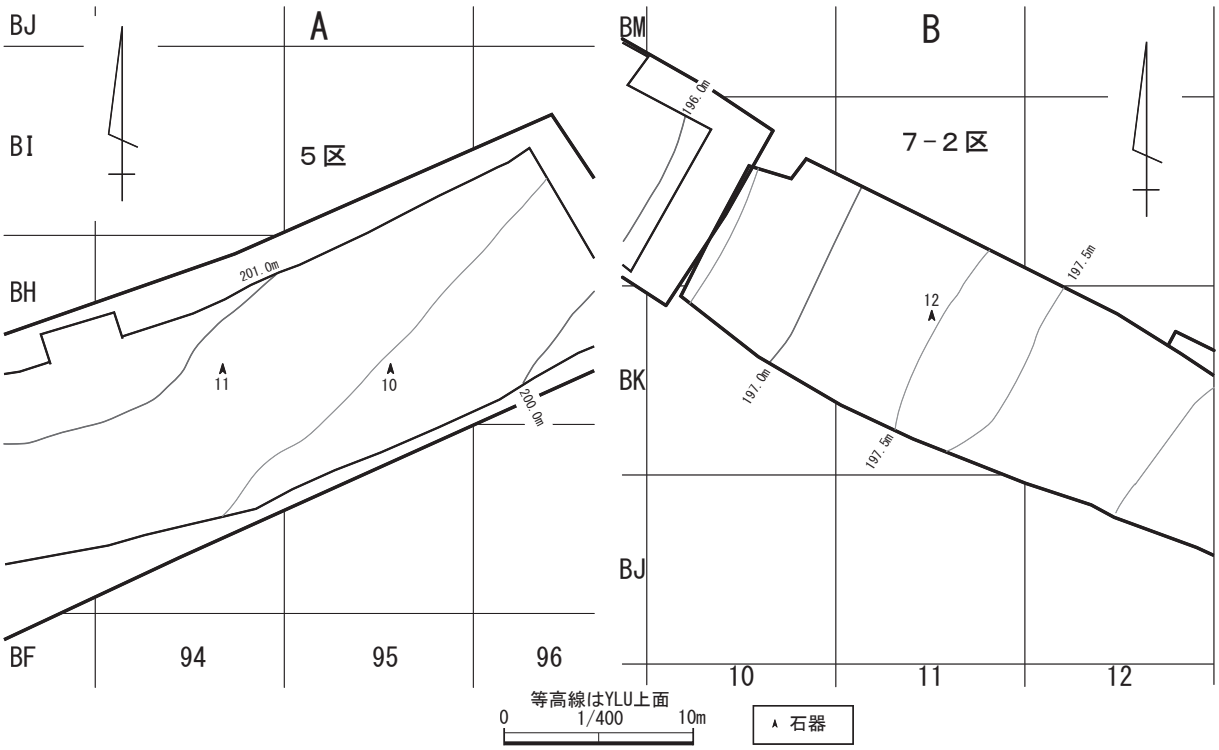
			尖頭器	ナイフ形石器	掻器	細石刃	石刃	剝片	計
黒曜石	神津島恩馳島	KZOB				1			1
	諏訪星ヶ台	SWHD	2				1		3
	和田芙蓉ライト	WDHY	1						1
	和田鷹山	WDTY		1					1
	黒曜石計		3	1		1	1		6
細粒安山岩		FAn						1	1
ホルンフェルス		Hor		1	1		1	3	6
計			3	2	1	1	2	4	13



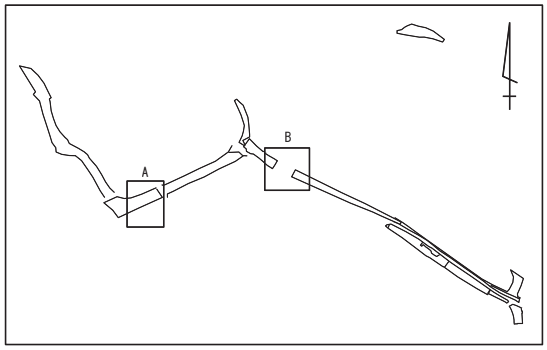
第166図　旧石器時代石器出土状況

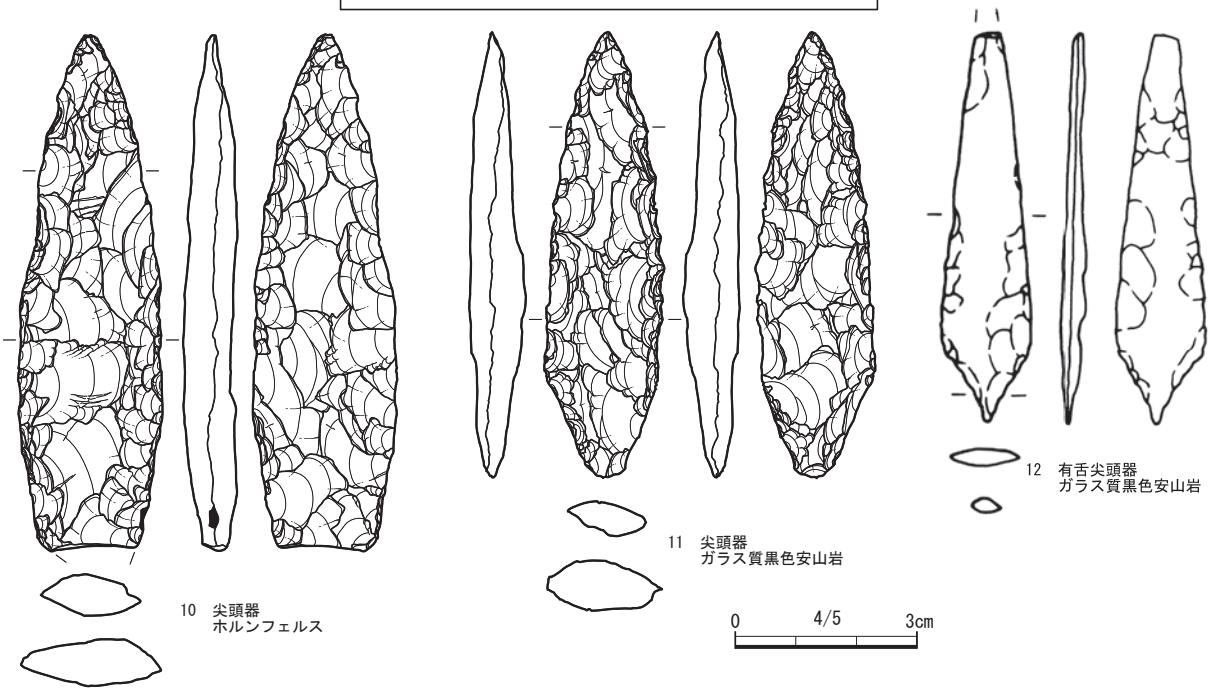


第167図　旧石器時代石器



第168図　縄文時代草創期石器出土状況





第169図　縄文時代草創期石器

第３節　縄文時代の遺構と遺物

１　概要

（１）　遺構

富沢内野山Ⅳ西遺跡で遺構が確認されたのは、３－１区・３－２区・５区・７－１区・７－２区である。再三述べたように遺跡一帯は南東方向へ緩く傾斜する平坦地であるが、富沢内野山Ⅰ西遺跡３・４区が位置する谷地形は富沢内野山Ⅳ西遺跡３区と５区の間隙付近にまで延び、埋没した谷地形となす。この谷尻の西側付近に該当する５区付近の平坦地は、内野山Ⅰ遺跡が位置する尾根に継続する。３－１区付近は件の埋没した谷地形への地形転換に由来するものか、南西方向に緩やかに傾斜していく。このような地形の中で、縄文時代のものと思しき遺構は、集石３基、土坑10基、溝状遺構３基、炉跡13基が確認されている。また３～５区間の確認調査箇所でも２基の土坑が確認されている。

（２）　遺物

当該遺跡で確認された縄文時代の遺物は草創期・早期・前期・後期に位置付けられる。第２章で触れた富沢内野山Ⅰ西遺跡では草創期の土器群が確認されているが、当該遺跡では石器のみである。また中期に位置付けられる遺物は僅少で、むしろ早期の遺物が卓越しており生活領域の変遷を窺うに至っている。土器については池谷信之氏・小崎　晋氏に指導を受けている。

２　遺構と遺構内出土遺物

（１）　集石（第170・171図　第43表　写真図版64・65）

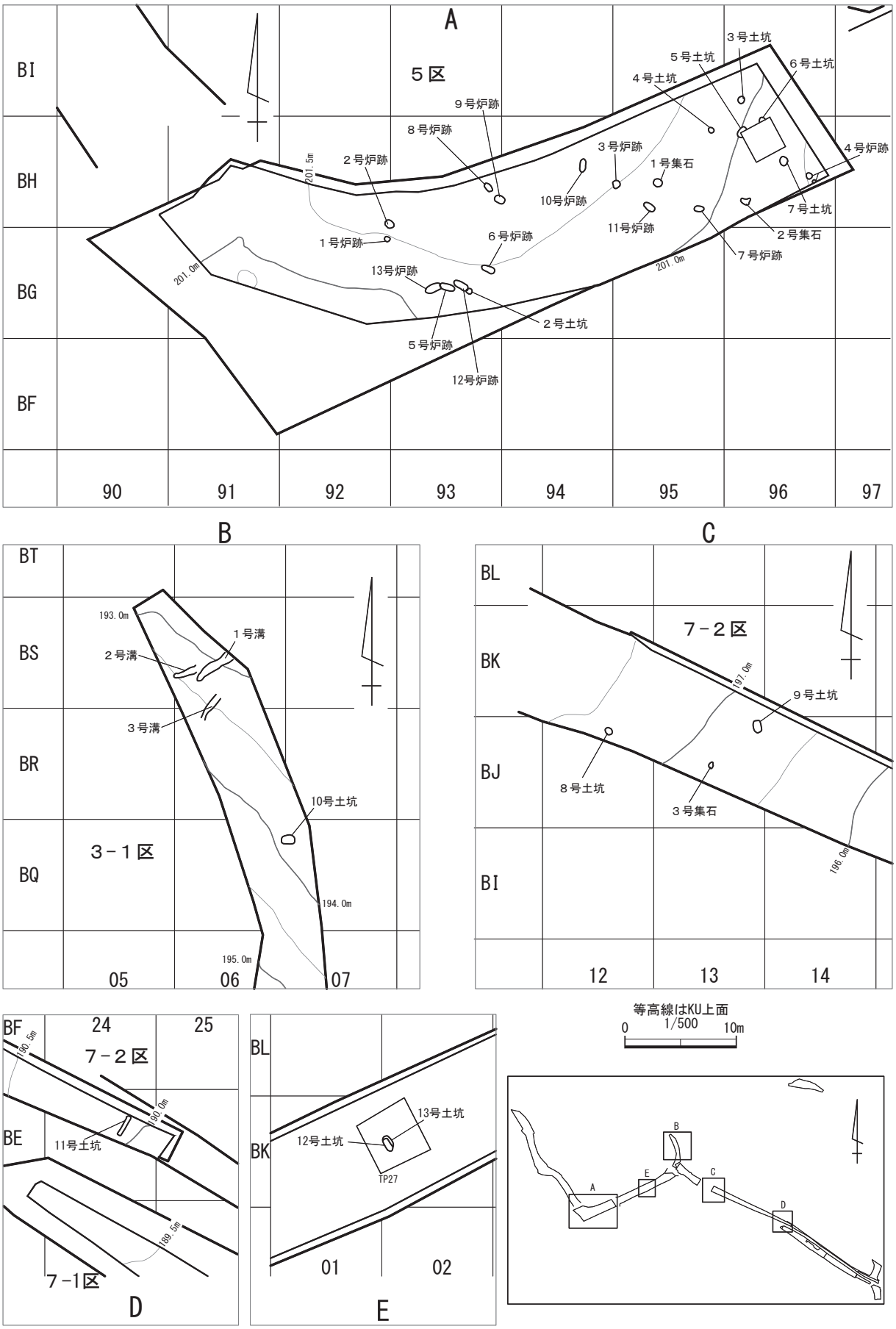
１号集石は５区ＢＨ95グリッドの富士黒土層上面にて確認された。この集石は礫10点で構成され、土坑を伴う。土坑の平面は円形を呈し、計測値は長径0.81m、短径0.73m、深さ0.14mを測る。土坑底面は平坦で、緩やかに立ち上がる。覆土は富士黒土を基調とし、炭化物が認められる。土坑内から縄文土器片が２点出土している。２号集石は５区ＢＨ96グリッドの富士黒土層上面にて確認された。この集石は礫12点で構成され、土坑は伴わない。礫が散布する範囲は1.14m×0.59mである。３号集石は７－２区ＢＪ13グリッドの栗色土層上面にて確認された。この集石は礫22点で構成され、土坑は伴わない。礫が散布する範囲は0.55m×0.31mである。

（２）　炉跡（第170・172図　第43表　写真図版65）

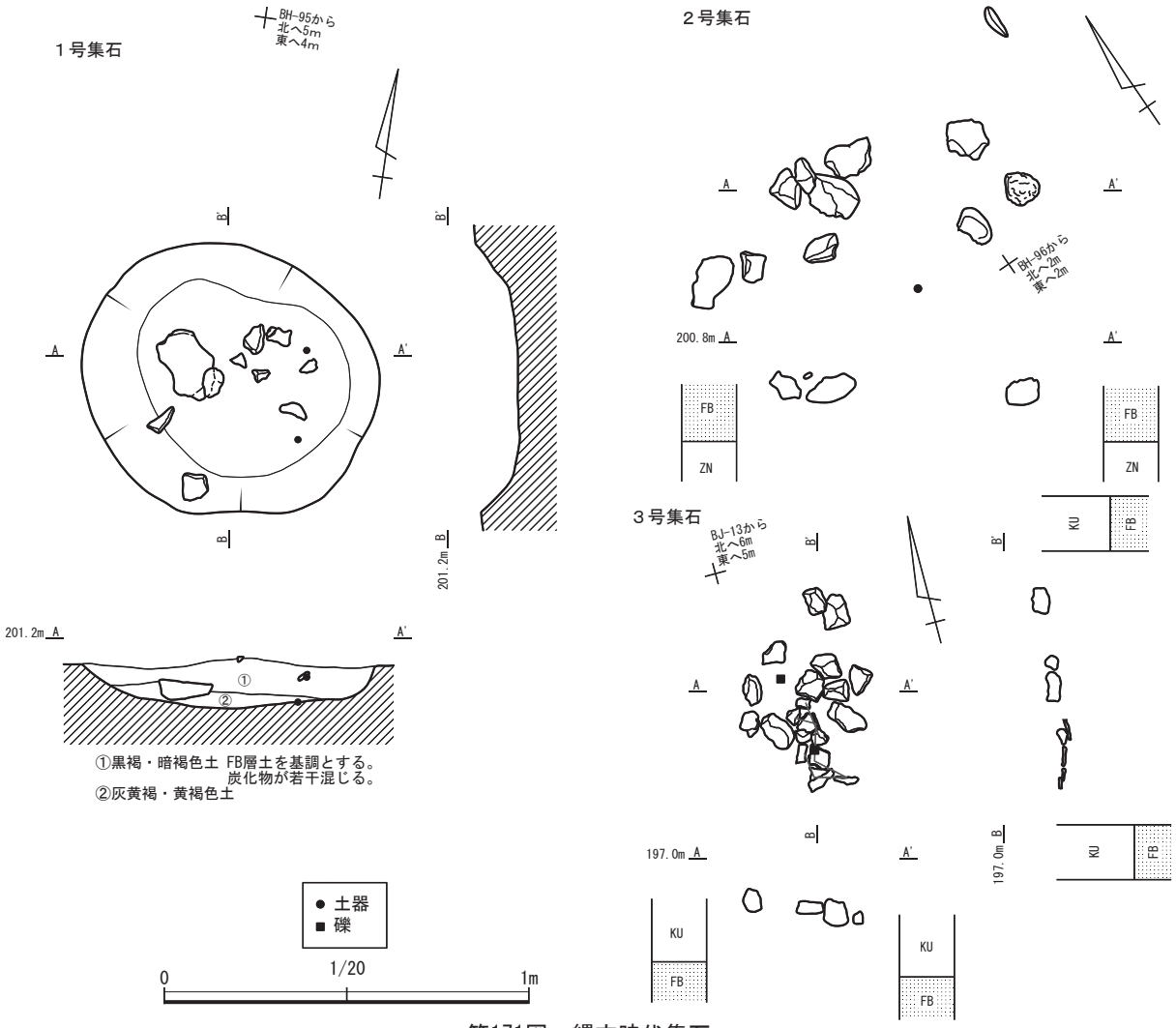
当該遺跡で確認された炉跡は13基を数える。全て５区で確認されたもので、富沢内野山Ⅰ西遺跡で炉跡が２基、富沢内野山Ⅲ北遺跡では住居跡内の炉跡を除き、皆無であった点を勘案すれば、濃密な分布を示している。５区内の炉跡はＢＩ96グリッド杭付近に集中する土坑群と分布域を分ち、主に５区ＢＧ・ＢＨ92～95付近に多く見られる。５区西辺部には見られない。殆どが漸移層上面で確認され、覆土が富士黒土を基調とする点から、土坑群と同様、富士黒土層付近で掘削・機能したものと考えたい。この炉跡はその形態から４タイプに分類が可能である。

１～３号炉跡は平面が円～楕円形を呈するタイプである。炉跡中央部に焼土が見られる。1号及び２号炉跡は近接している。

５・６号炉跡は平面が長楕円形を呈し、焼土は主に２箇所認められるタイプである。焼土は各々掘り込みを伴う。この掘り込みは円～楕円形を呈し、炉跡両端に設けられている。４号炉跡は近接する２基の炉跡で上部が削平されて焼土に伴う掘り込みが残置した例と判断されるため、本来的には長楕円形を



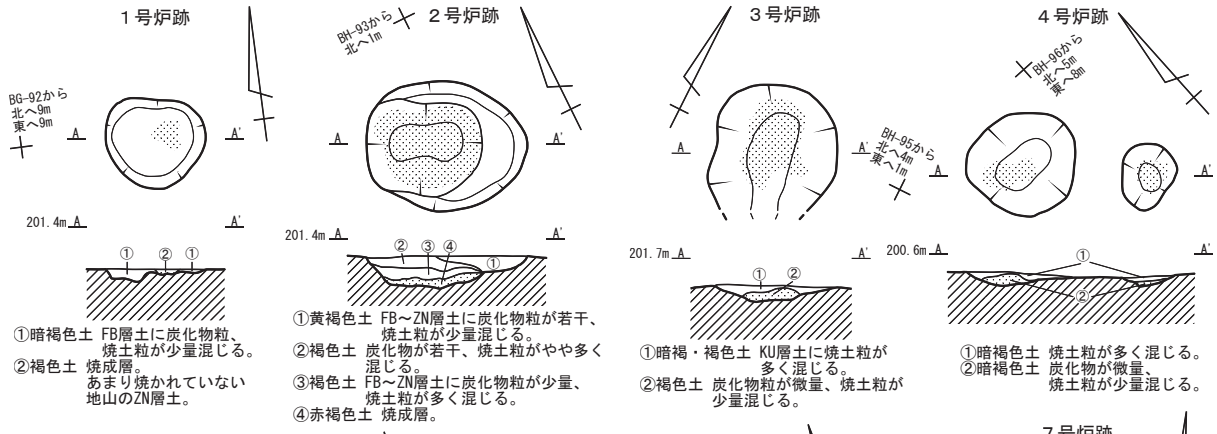
第170図　縄文時代遺構分布図

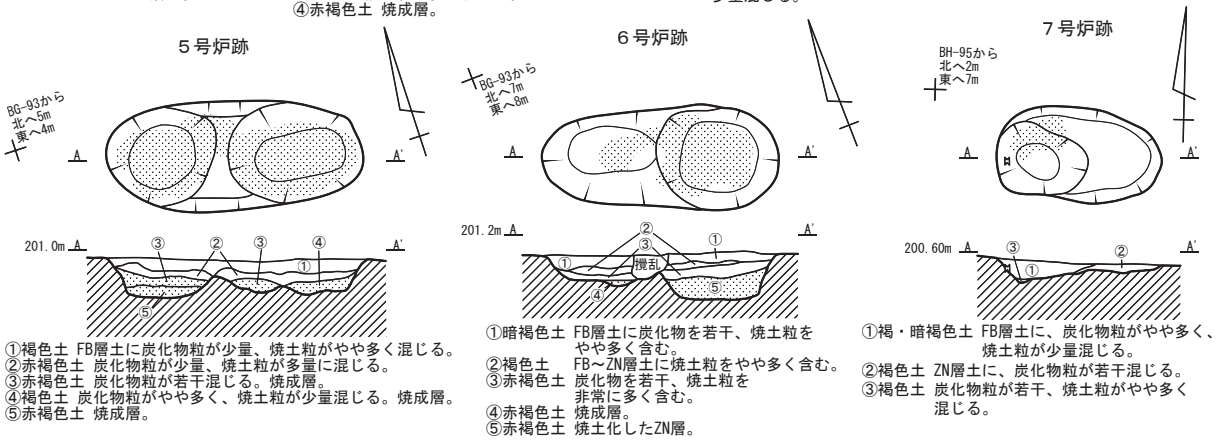


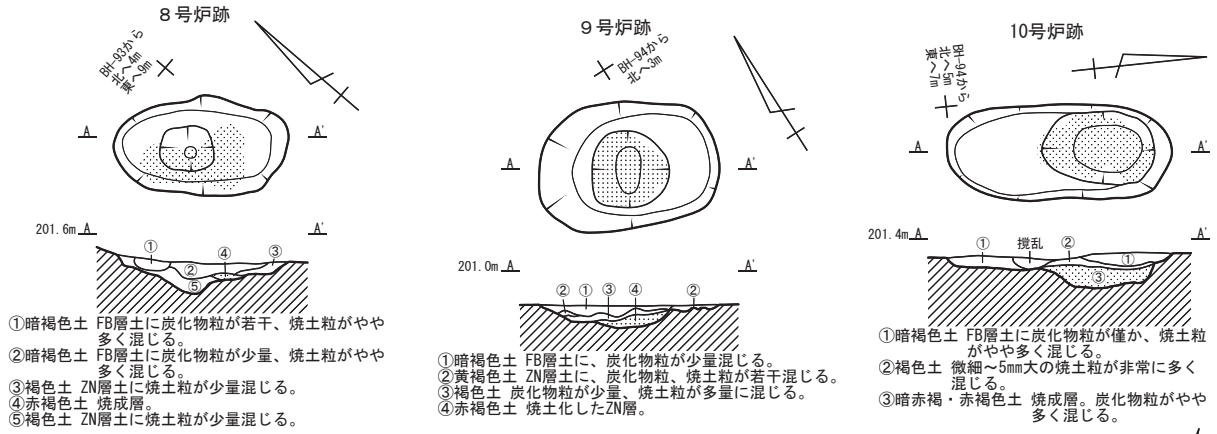
第171図　縄文時代集石

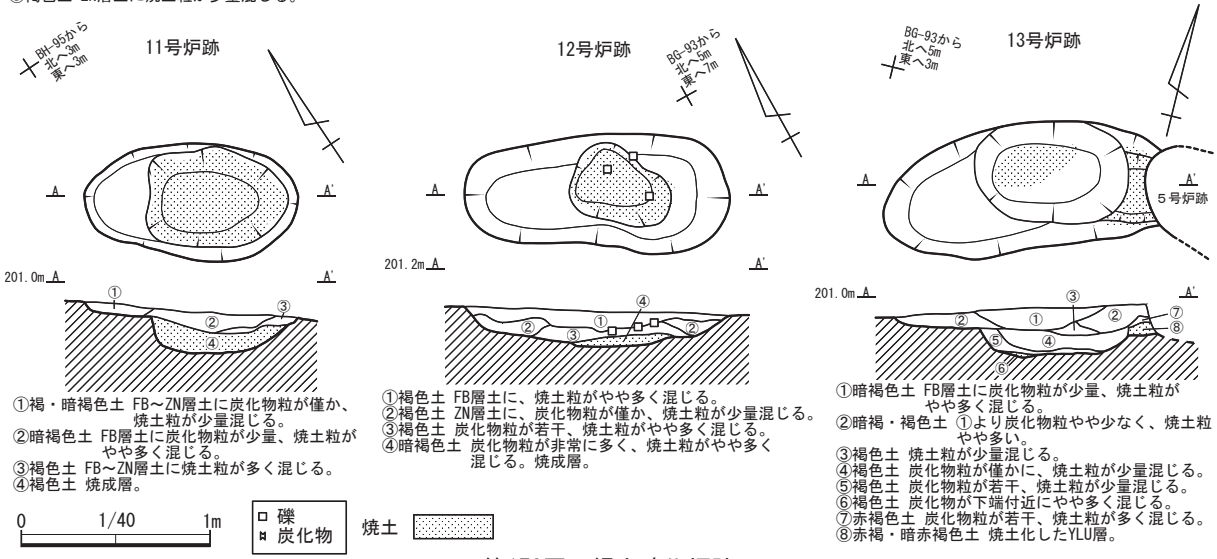
第43表　縄文時代遺構計測表

報告書遺構名	調査遺構名	グリッド	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計	備考
１号集石	SY07	BH-95	FB	0.54	0.45	−	2		10		12	
２号集石	SY06	BH-96	FB	1.14	0.59	−	1		12		13	
３号集石	SY08	BJ-13	KU	0.55	0.31	−			22		22	
２号土坑	SF47	BG-93	ZN	0.58	0.51	0.11			7		7	
３号土坑	SF43	BI-96	ZN	0.66	0.59	0.12						
４号土坑	SF44	BH-95	ZN	0.53	0.49	0.14						
５号土坑	SF45	BH-96	ZN	1.02	0.70	0.23						
６号土坑	SF46	BH-96	ZN	0.60	0.36	0.27						
７号土坑	SF42	BH-96	FB	0.85	0.72	0.26						
８号土坑	SF49	BJ-12	ZN	0.68	0.59	0.11						
９号土坑	SP28	BJ-13	ZN	1.12	0.76	0.60						
10号土坑	SP09	BQ-06	FB	1.20	0.84	0.62						
11号土坑	SP27	BE-24	KU	1.97	0.37	0.82						
12号土坑	SP10	BK-02	KU	1.47	0.81	0.89						
13号土坑	SP12	BK-02	KU	1.18	0.30	0.59						
１号炉跡	FP22	BG-92	ZN	0.52	0.50	0.07						
２号炉跡	FP21	BH-92	ZN	0.86	0.69	0.17						
３号炉跡	FP17	BH-95	KU	0.68	0.66	0.11						
４号炉跡北側	FP18	BH-96	FB	0.60	0.55	0.07						
４号炉跡南側	FP18	BH-96	FB	0.35	0.30	0.05						
５号炉跡	FP19	BG-93	ZN	1.40	0.58	0.19						
６号炉跡	FP20	BG-93	ZN	1.25	0.55	0.24						
７号炉跡	FP27	BH-95	ZN	0.87	0.49	0.13				1	1	
８号炉跡	FP23	BH-93	ZN	0.93	0.54	0.20						
９号炉跡	FP28	BH-93	ZN	0.96	0.66	0.10						
10号炉跡	FP24	BH-94	ZN	1.20	0.51	0.18						
11号炉跡	FP25	BH-95	ZN	1.12	0.62	0.26						
12号炉跡	FP26	BG-93	ZN	1.40	0.63	0.21			3		3	
13号炉跡	FP29	BG-93	ZN	1.52	0.71	0.27				1	1	
１号溝	SD01	BS-06	AN	4.30	0.69	0.40						
２号溝	SD08	BS-06	AN	2.15	0.64	0.12						
３号溝	SD09	BS-06	AN	2.02	0.59	0.12						









第172図　縄文時代炉跡

呈していたものと考えられる。この５・６号炉跡の長軸はほぼ等高線に並行している。５号炉跡は13号炉跡と重複し、時期的に13号炉跡より新しい。

７～12号炉跡は平面が楕円～長楕円形を呈するタイプである。底面はほぼ平坦で、焼土を伴う楕円形の掘り込みが１箇所認められる。このタイプの長軸方向は南東－北西～南－北を指向し、７号炉跡のみ東－西である。12号炉跡は焼成層付近に礫の散布が認められる。なお13号炉跡は本来、当該タイプに分類されるが、複数の炉跡が重複したものである。また炉跡自体の掘り込みが浅い場合、長楕円形の掘り込みが失われ、焼土を伴う掘り込みのみ残置されることが想定され、１～３号炉跡についても当該タイプであった蓋然性を認める。

なお７・13号炉跡内出土の炭化物について放射性炭素年代測定を実施した結果、9,340±30yrBP、9,380±30yrBPという数値が出された。詳細は附編を参照されたい。

（３）　土坑（第170・173・174図　第43表　写真図版62～64）

当該遺跡にて確認された縄文時代の土坑は10基を数える。また遺跡範囲外であるが確認調査により２基確認された。確認された土坑は全て底面に小穴が認められないタイプである。

２～８号土坑は平面が円～楕円形を呈するタイプで、径は0.36～1.02m、深さは0.11～0.27mと小型で浅めの土坑群である。全て漸移層上面にて確認されている。このうち８号土坑が７－２区にて確認された以外は、全て５区内で確認されている。２号土坑は５区ＢＧ93グリッドで確認された。12号炉跡と重複し、時期的に先行するものと考えられる。土坑内には小礫が散見され、覆土中に認められる焼土は現地調査では炉跡に係るものと推定された。３～７号土坑は５区東辺、ＢＩ96グリッド杭周囲に位置する。炉跡群と分布域が異なる。３～６号土坑の覆土は富士黒土層由来のものとされている点から、富士黒土層面より掘り込まれたのであろう。

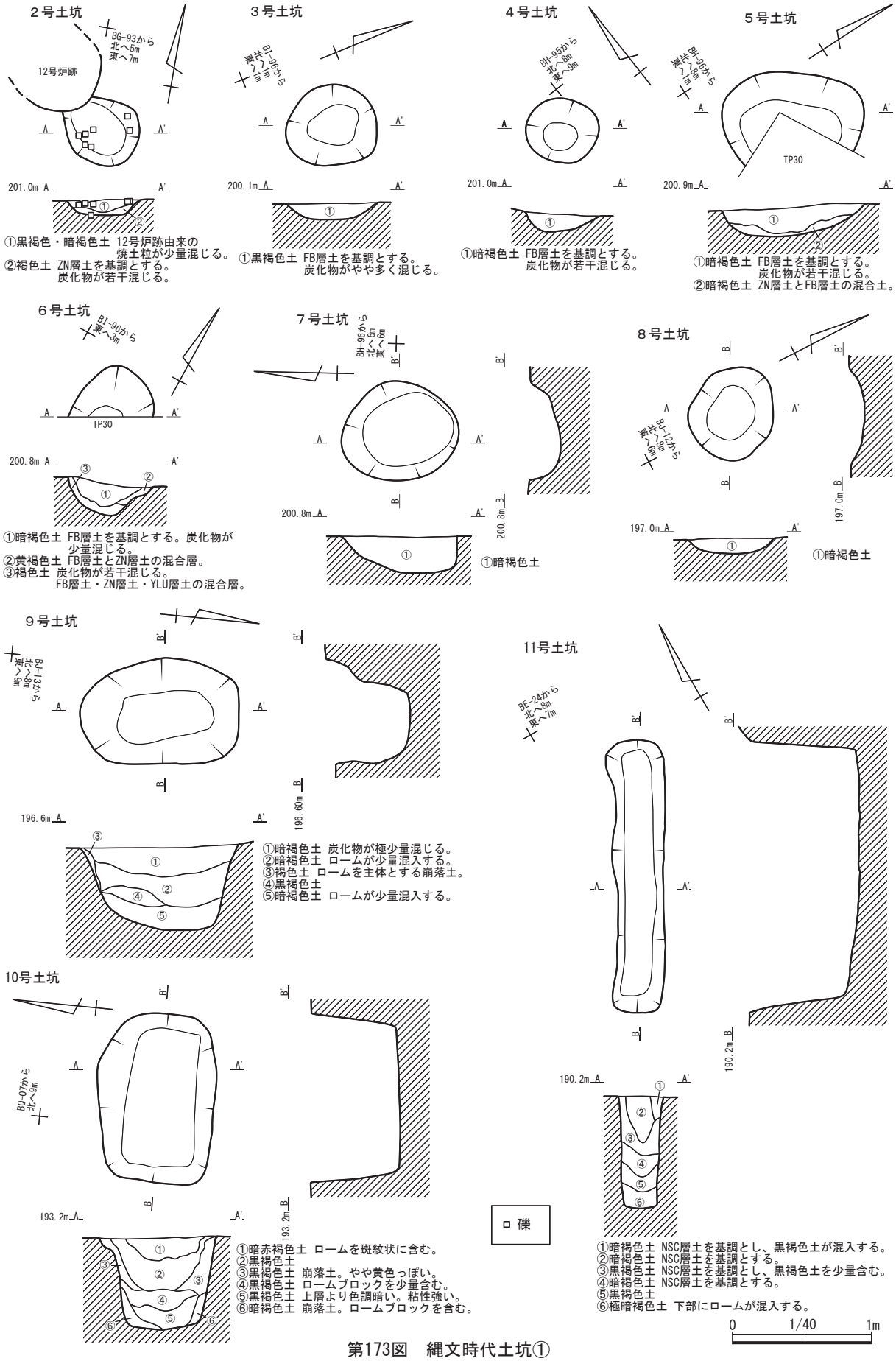
９・10号土坑は平面が長楕円～隅丸長方形を呈するタイプである。９号土坑は７－２区ＢＪ13グリッドで確認された。長さ1.12m、幅0.76m、深さ0.60mを測る。10号土坑は３－１区ＢＱ07グリッドで確認された。長さ1.20m、幅0.84m、深さ0.62mを測る。また９・10号土坑以外に確認調査テストピット27、ＢＫ02グリッドにて確認された土坑がこのタイプに該当する。

11号土坑は平面が狭長な長方形を呈する。この土坑の計測値は長さ1.97m、幅0.37m、深さ0.82mを測る。この土坑が確認されたのは７－２区ＢＥ24グリッドの栗色土層上面である。この土坑の長軸は付近の等高線と並行している。陥穴として機能したのであろう。

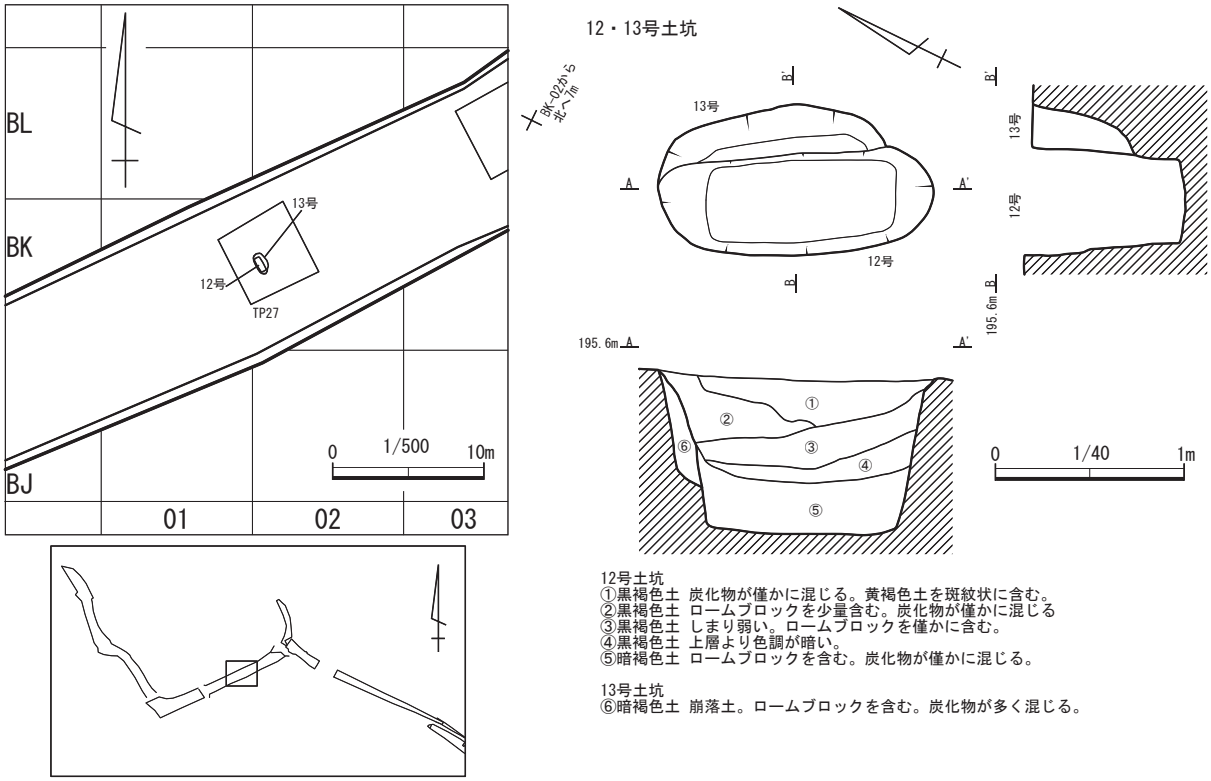
12・13号土坑は３～５区間の確認調査箇所、テストピット27で確認された土坑である。ＢＫ02グリッドに位置する。この土坑は重複した状態で確認されている。13号土坑が埋没した後に、掘削されたのが12号土坑と考えられる。12号土坑の平面は長楕円形を呈し、底面は平坦である。壁は直立気味に立ち上がる。

（４）　溝状遺構（第170・175図　第43表）

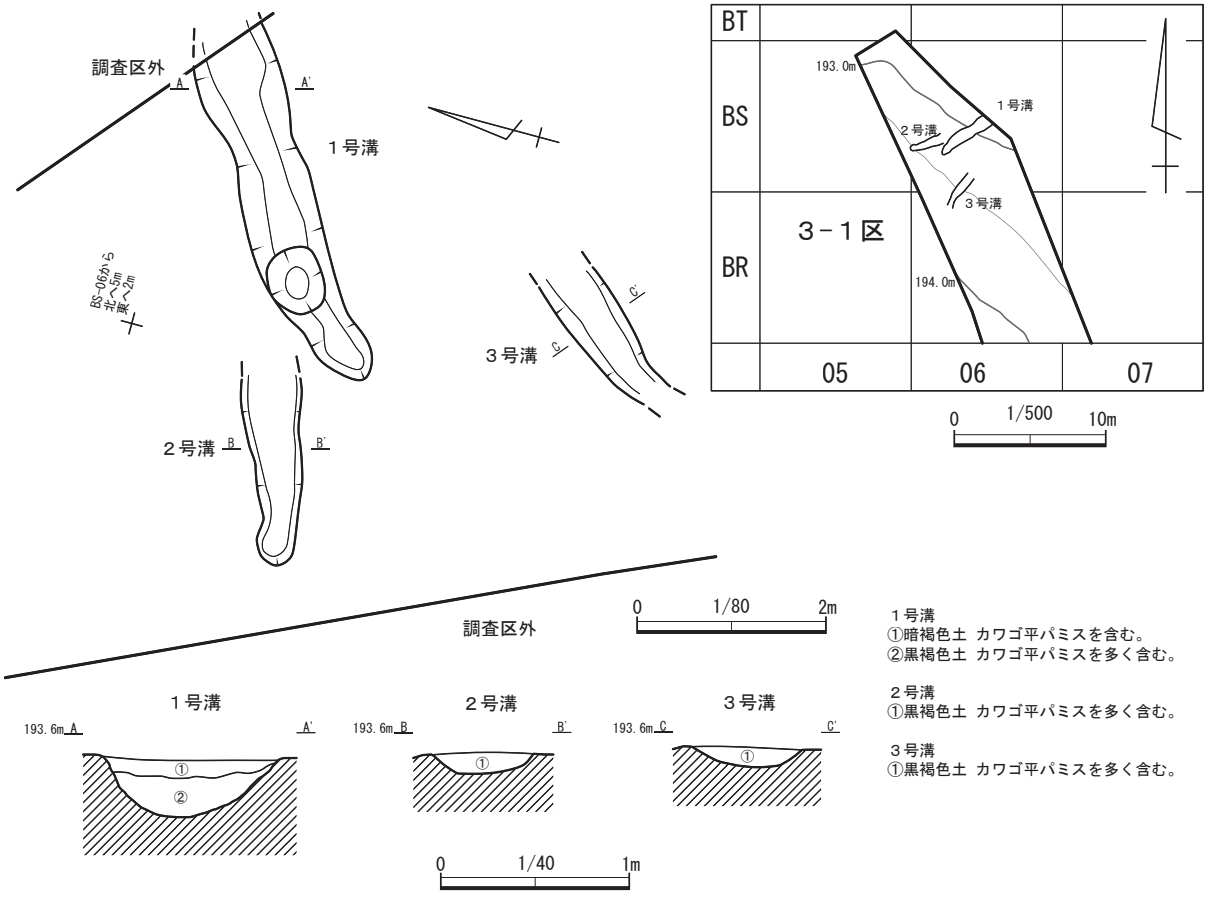
現地調査段階で縄文時代のものと考えられた溝状遺構が３条確認されている。３－１区ＢＳ06グリッドに位置し、暗褐色土層上面で確認されている。このうち１号溝状遺構は確認調査テストピット20によりその存在を確認され、砂沢スコリア層より下位の暗褐色土層上面より掘り込まれていた。覆土中にはカワゴ平パミスが含まれていた点より、溝状遺構は後晩期以降に位置付けられる可能性がある。２・３号溝状遺構共に位置、溝の延びる方向、覆土等により１号溝状遺構と同時期かと考えられる。遺構内から該期の土器は出土しておらず、遺構の時期・性格等も併せて今後精査を要する。



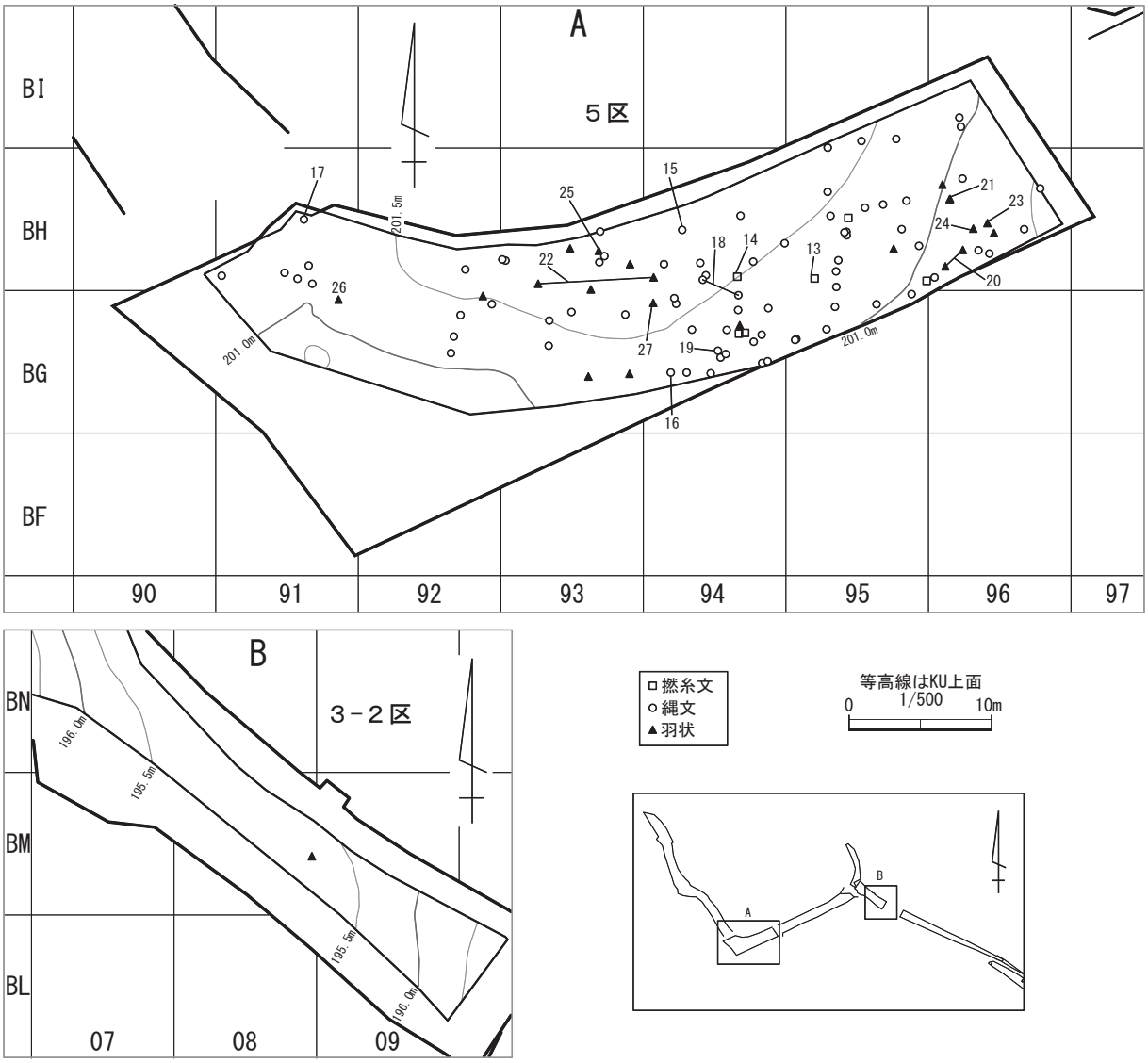
第173図　縄文時代土坑①



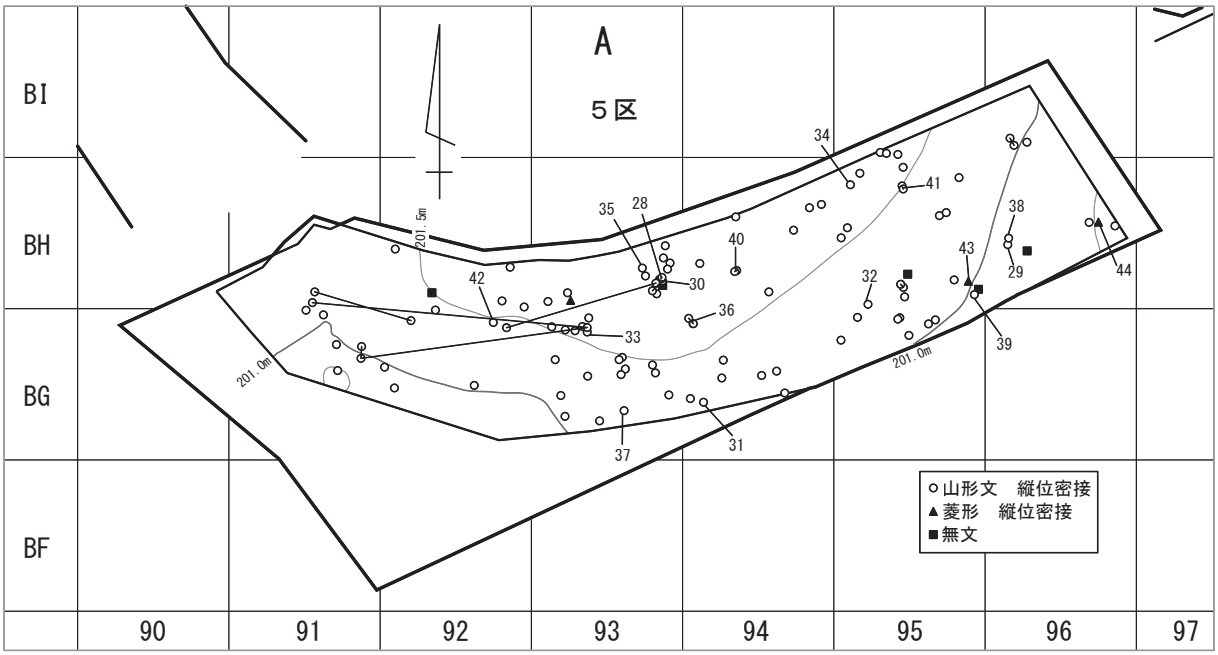
第174図　縄文時代土坑②



第175図　縄文時代溝状遺構



第176図　縄文土器第Ｉ群１類分布図



第177図　縄文土器第Ｉ群２類分布図

３　遺構外出土遺物

当該遺跡から出土した縄文時代のものと考えられる土器は589点を数え、石器は120点を数える。この点数は現地での取り上げた遺物の点数であり、土器については長泉事務所における接合作業を経た結果、点数は著しく変化している。

（１）　土器・土製品

第Ⅰ群：縄文時代早期代（第176・177・180図　第44表　写真図版68）

縄文時代早期代の押型文土器の資料を中心に第Ⅰ群とした。沼津市尾上イラウネ遺跡出土資料と同時期か。施文は押型文以外に撚糸文、縄文等が散見され、静岡県東部地域に特徴的な比重の軽い胎土を有する土器片も認められる。時期的に押型文前半か。第Ⅰ群の出土位置はほぼ５区内に限定される。

１類（縄文）

13～27を１類とした。縄文を施した資料を集成した。そのうち20～27は羽状縄文が施文される。同じ原体の縄文を異方向に施文するか、ＲＬ・ＬＲの縄文を交互に施文したものである。この１類のうち15・16・20・21は口縁部資料で胎土も軽い印象を受け、器面は独特の触感がある。色調に淡い紫色を含む。16は口唇部を平坦に仕上げ、内外面に縄文を施す。20は調整最終時に口唇部を指頭でつまみナデし、21は口唇部を尖らせている。なお20に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、9,430±30yrBPという数値が出ている。13・14・17～19・22～27は胴部のみの破片資料で軽い印象を受けるが、22のみ小粒の岩片を多く含み、器面がざらつく。また14・18・19は器厚がやや厚めで、18は1.5㎝を測る。

２類（押型文）

28～44を２類とした。縦位に山形文が施された資料を中心に集成した。いずれも胎土は軽い印象を与える。そのうち28～42は山形文が施され、28～30は口縁部のみの破片資料である。28は口唇部を平坦に仕上げ、外面に縦位、内面に横位の山形文を施す。29は口唇部を丸く仕上げ、外面に斜位の山形文を施す。器厚が1.15㎝を測り、やや厚い。30は口唇部を平坦に仕上げ、口唇部直下より縦位の山形文を密接して施す。31～42は胴部のみの破片資料である。山形文が縦位密接に施文される。33に付着した炭化物の放射性炭素年代測定の結果、9,360±30yrBPという数値が出ている。43・44は菱形文を施した資料で、43は口縁部のみの破片資料である。外面に菱形文を施し、さらに口唇部にも押型文を施す。

第Ⅱ群：縄文時代早期後半（第178・180図　第44表　写真図版69）

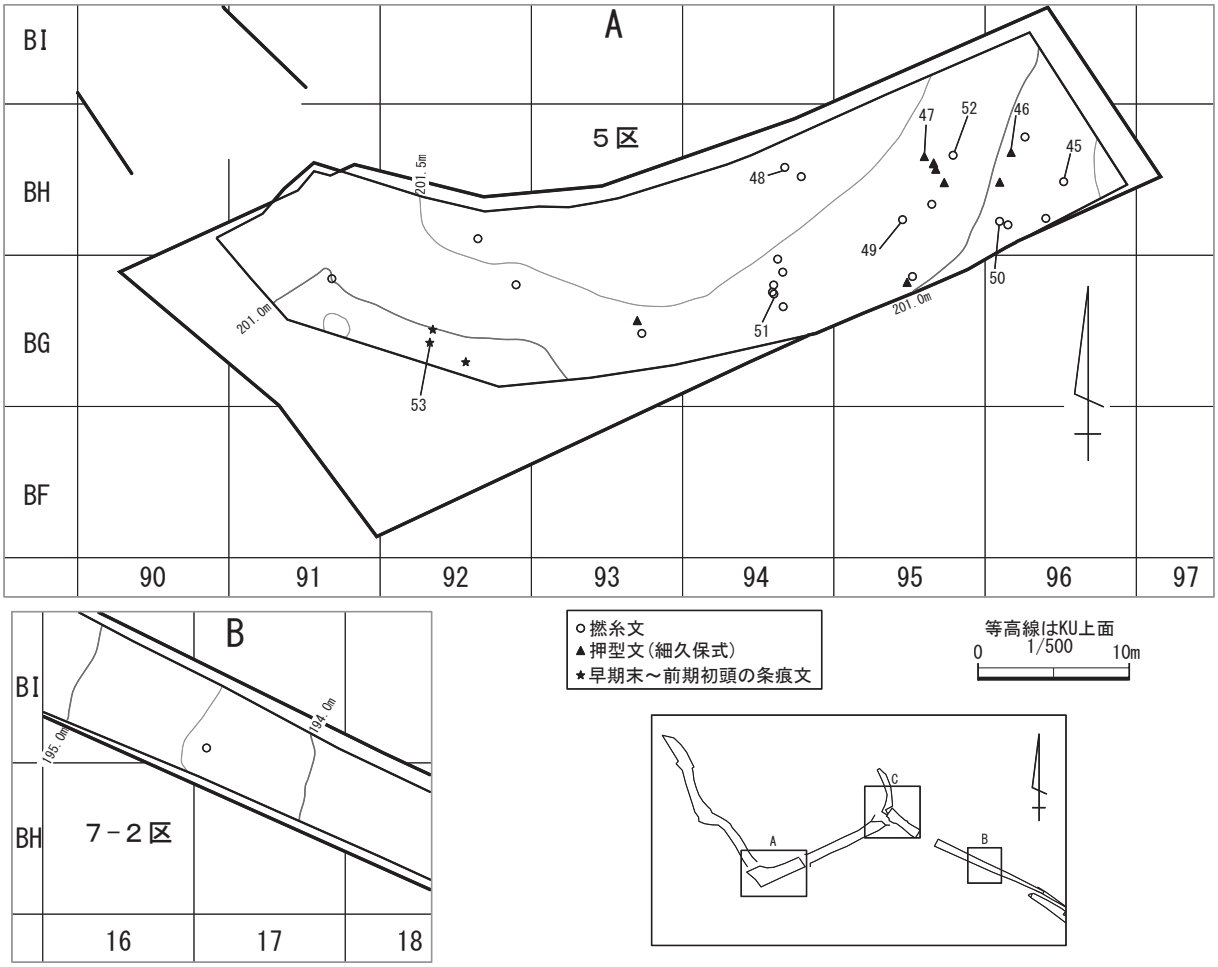
縄文時代早期後半代の押型文土器の資料を中心に第Ⅱ群とした。施文は押型文以外に撚糸文、縄文等が散見される。第Ⅱ群の出土位置はほぼ５区内に限定される。

１類（撚糸文）

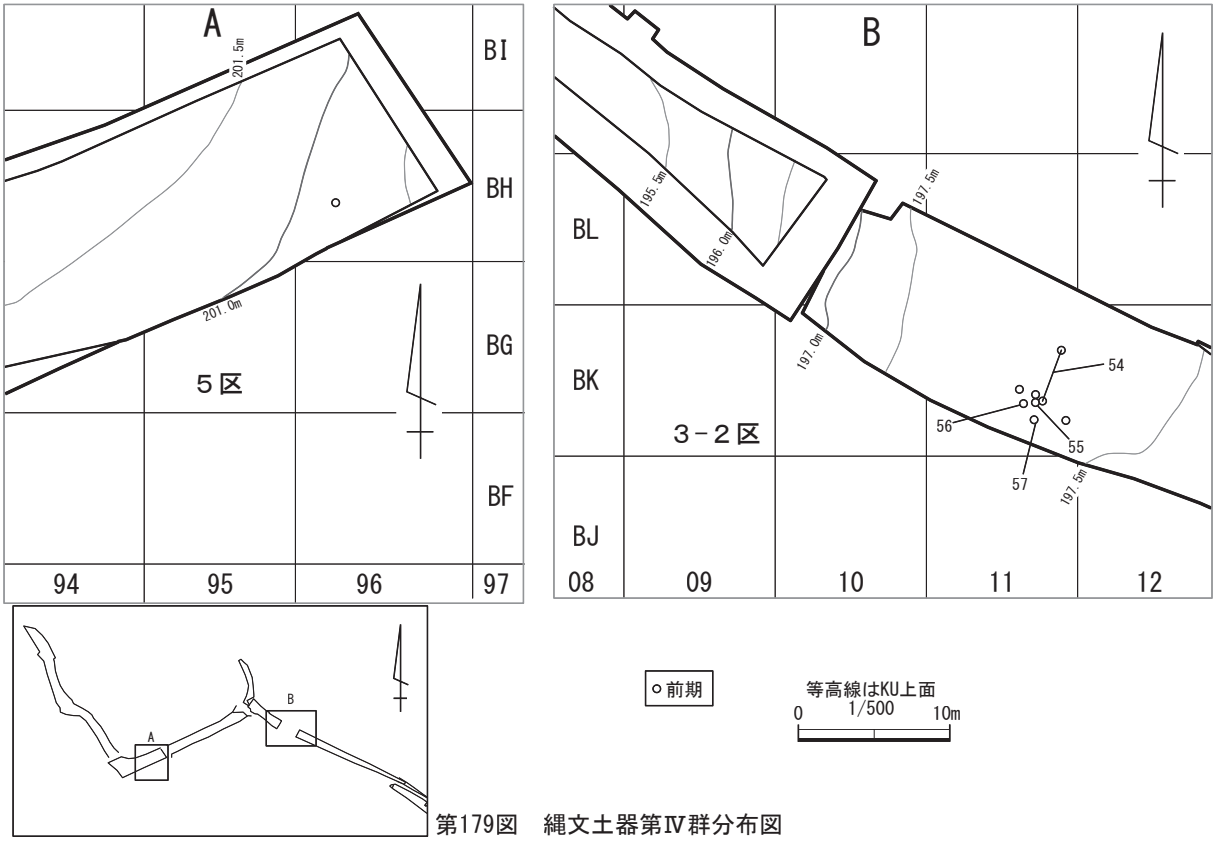
45・48～52を１類とした。48・49は口縁部のみの破片資料である。48は軽く外反させ、尖らせた口唇部に刺突か。外面に太めの撚糸文を縦位に施す。49は平坦に仕上げた口唇部で、外面に細かな撚糸文が施される。小型の深鉢か。50～52は胴部のみの破片資料である。51は胴部下位付近と考えられる。45は最終のナデ調整により判然としないが、撚糸文の可能性がある。

２類（押型文）

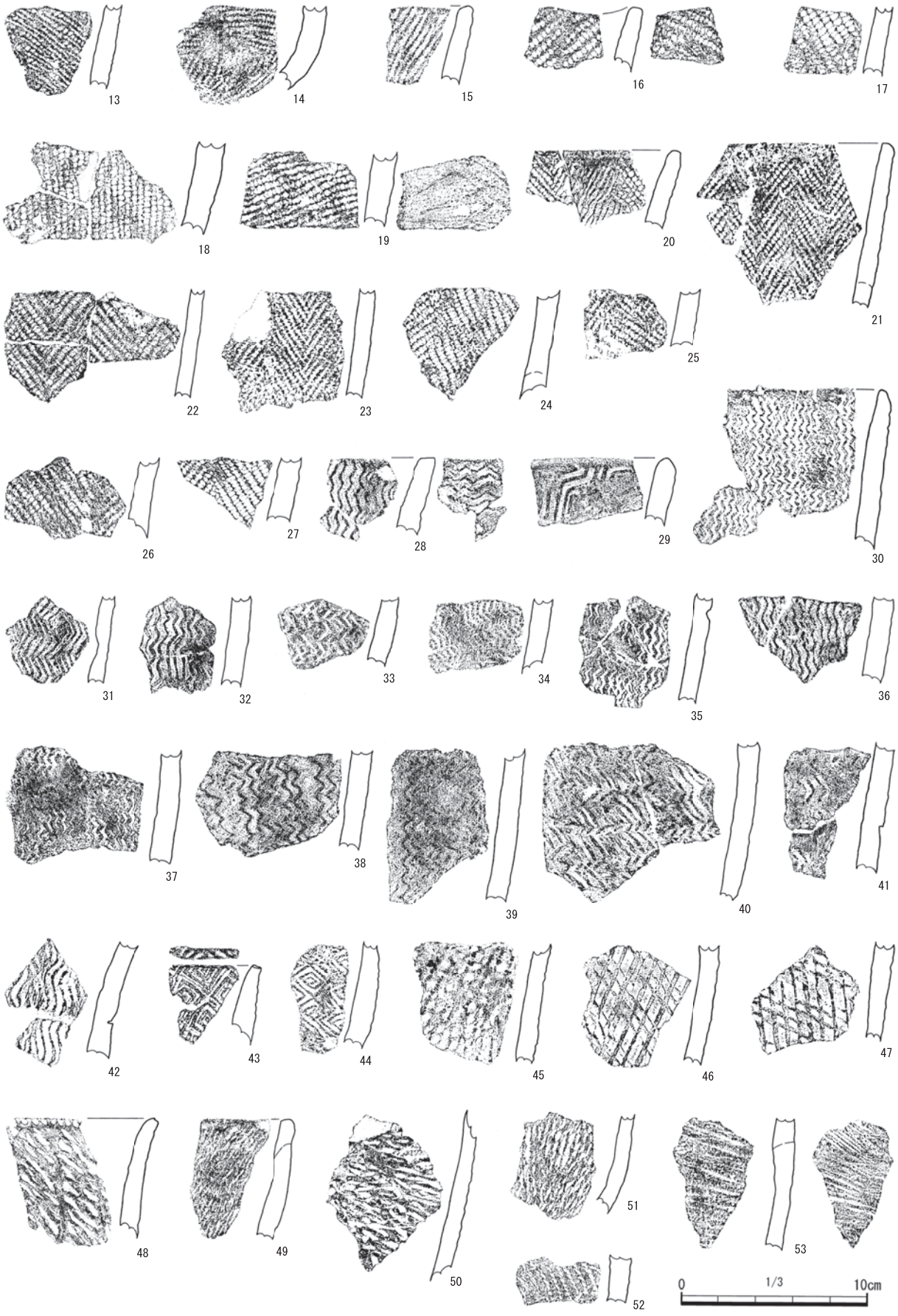
46・47を２類とした。外面に格子目文が施されているが、不揃いである。同一個体か。



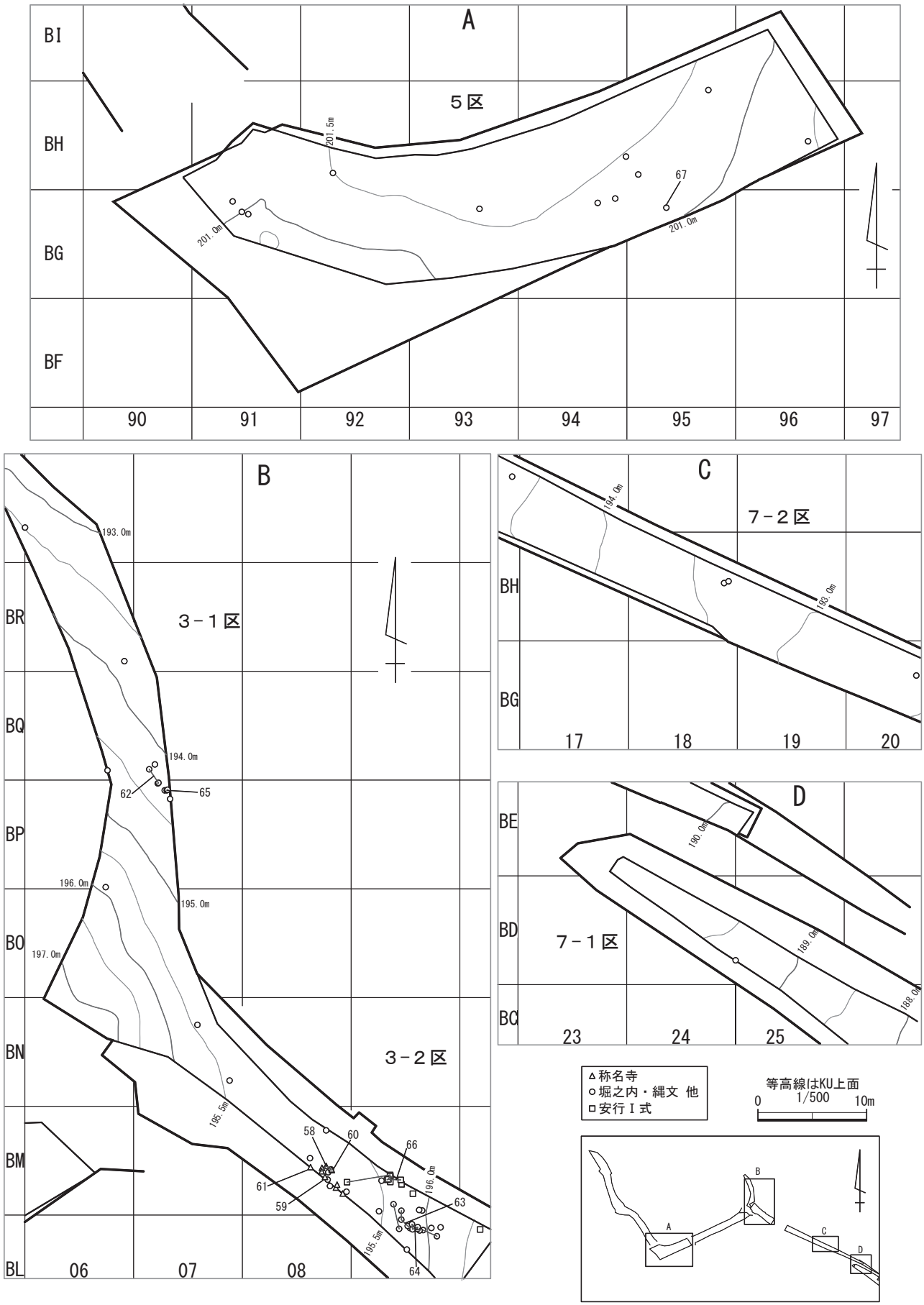
第178図　縄文土器第Ⅱ群・第Ⅲ群分布図



第179図　縄文土器第Ⅳ群分布図



第180図　縄文土器第Ⅰ群～第Ⅲ群



第181図　縄文土器第Ｖ群分布図

第Ⅲ群：縄文時代早期末～前期初頭（第178・180図　第44表　写真図版69）

縄文時代早期末～前期初頭と思しき条痕文土器を第Ⅲ群とした。出土位置は５区ＢＧ92グリッド付近のみで、出土量も少ない。53は胴部のみの破片資料である。内外面に条痕が施されている。

第Ⅳ群：縄文時代前期（第179・182図　第44表　写真図版69）

縄文時代前期代の土器を集成した。いずれも縄文のみ施文したものである。出土位置はＢＫ11グリッドに集中する。54～57はいずれも口縁部の破片資料で、同一個体か。口唇部を丸く仕上げた後に、縄文を施している。外面に羽状縄文を施す。同じ原体を異方向施文か。

第Ⅴ群：縄文時代後期（第181・182図　第44表　写真図版70）

縄文時代後期代の土器群を集成した。３～７区まで散発的に出土しているが、３－２区ＢＬ・ＢＭ08・09グリッドに多く見られる。

１類（称名寺式）

58～61は１類とした。称名寺式土器と推定された土器群である。58は屈曲の強い頸部付近と考えられる。外面は縄文を施した後に、縦位の沈線文を施す。沈線文間の縄文は磨り消している。この58に付着した炭化物について放射性炭素年代測定を行った結果、3,890±20yrBPという数値が出ている。59・60も縄文の施文後に沈線文を施す。61の沈線文は59・60よりも幅の広い棒状工具によるものである。

２類（堀之内式並行期か）

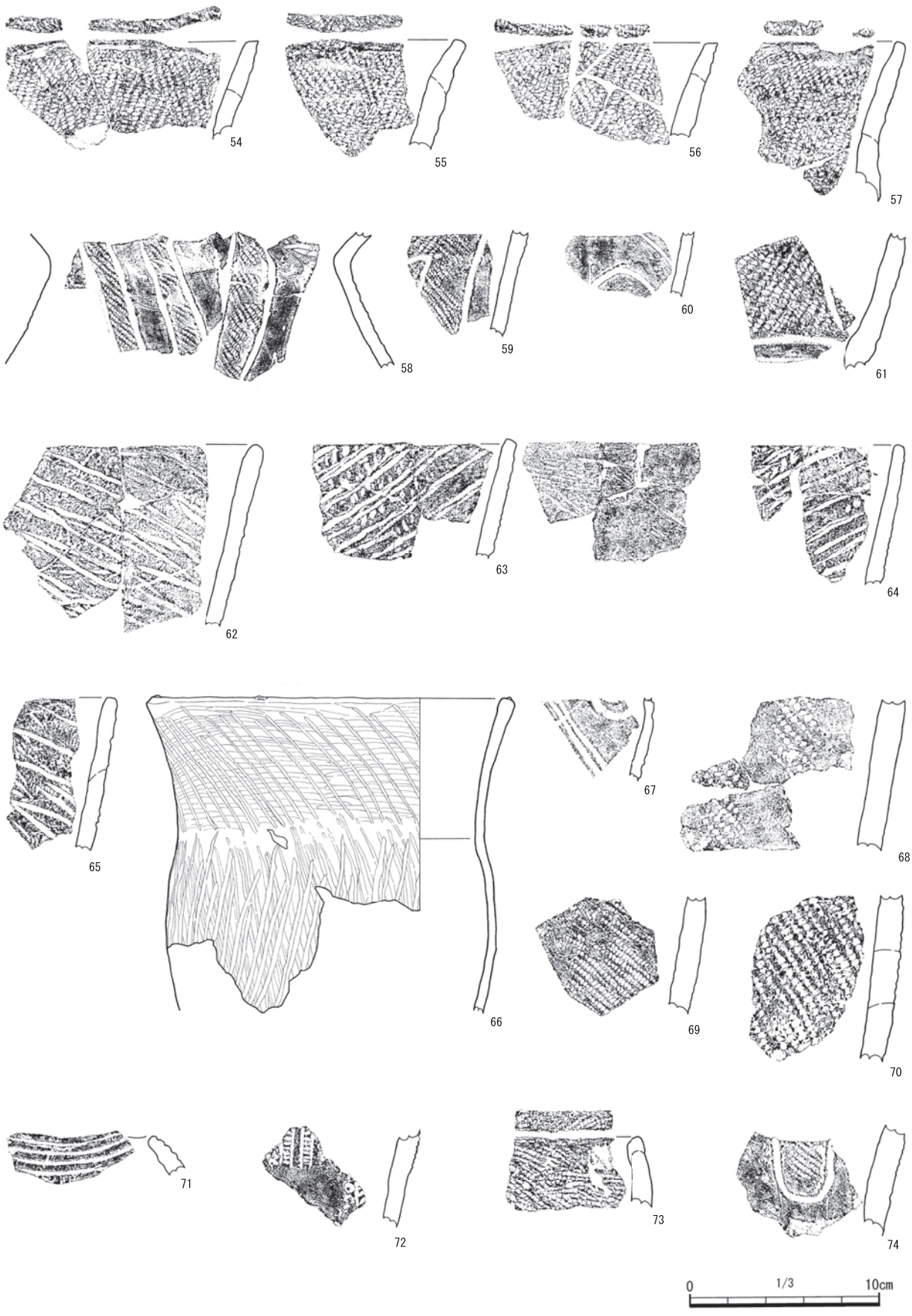
62～65・67は２類とした。粗製土器に分類されるもので、堀之内２式土器と時期的に並行するものか。62～65はいずれも口縁部のみの破片資料で、直線的に立ち上げている。62・65は斜位に沈線状の文様が見えるが、無節の撚糸文か。器面の観察では繊維痕が観察出来ない。63・64は付加条縄文を施したものか。粗製土器であろう。63以外の胎土は石英等の粒子が多く見受けられ、粘土があまり乾いていない時点で器面を削る等の調整を行ったためか、内外面共に粒子の移動が見られる。67は沈線文を施しており、器厚も薄く仕上げている。

３類（安行式）

66を３類とした。口縁部から胴部中位付近まで残存した資料である。胴部中位付近で内湾し、膨らんだ胴部は胴部上位で窄まり、また外方へ直線的に立ち上げている。口唇部はやや肥厚させ、強めに押さえて平坦に仕上げている。残存する口唇部に小粒の粘土塊を貼り付け、円形浮文状となす。外面口唇部直下より括れまでは、横位に浅い沈線文を施した後に、斜位の沈線文を施す。括れより下位は斜位の沈線文を施している。内面は口唇部から胴部中位付近までミガキが施されている。なお未掲載であるが66に酷似する破片資料の付着炭化物を放射性炭素年代測定した結果（分析番号 14）、3,150±20yrBPという数値が出された。詳細は附編を参照されたい。

第Ⅵ群：型式不明（第182図　第44表　写真図版70）

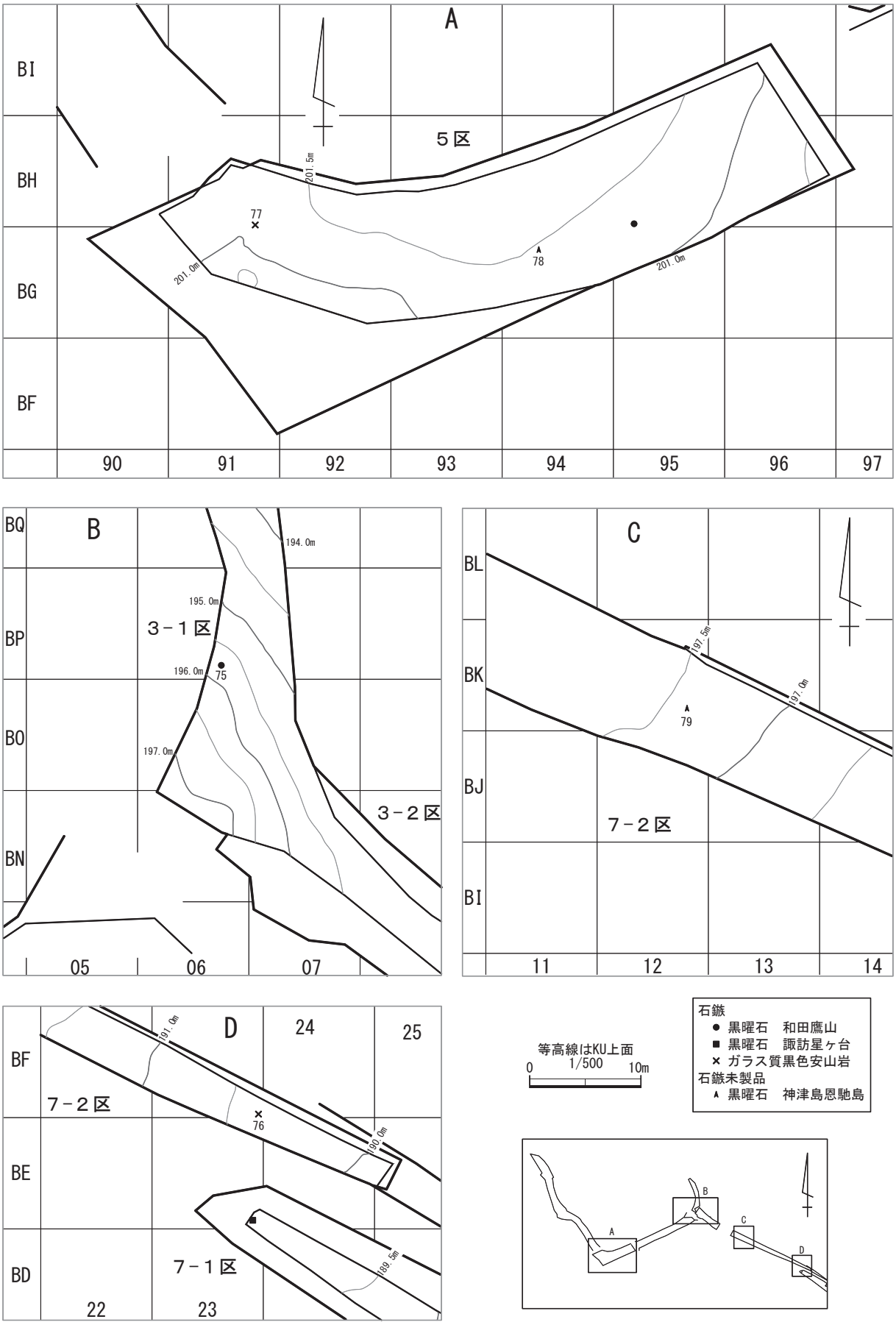
型式名や時期が判然としない資料を集成した。68～70は縄文が施された胴部のみの破片資料である。繊維を胎土中に含む。71は内湾する口縁部である。口唇部に沿って半截竹管状の工具により平行沈線文を施している。72は刺突文や平行沈線文が施されている。73は内湾する口縁部で、平坦に仕上げられた口唇部にも縄文が施されている。74は沈線文による区画内に縄文が充填されている。



第182図　縄文土器第Ⅳ群～第Ⅵ群

第44表　縄文時代遺構外出土土器観察表

挿図番号	写真図版番号	分類		グリッド	色調(Hue)	文様調整等	繊維	胎土
		群	類					
13	68	Ⅰ	1	BH-95	2.5YR3/1	撚糸文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
14	68	Ⅰ	1	BH-94	10YR3/1	撚糸文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
15	68	Ⅰ	1	BH-94	7.5YR5/2	口縁部。縄文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
16	68	Ⅰ	1	BG-94	10YR5/3	口縁部。内外面に縄文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
17	68	Ⅰ	1	BH-91	7.5YR5/3	縄文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子多
18	68	Ⅰ	1	BG-94	7.5YR4/1	縄文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
19	68	Ⅰ	1	BG-94	7.5YR5/3	縄文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子多、黒色粒子多
20	68	Ⅰ	1	BH-96	7.5YR3/1	口縁部。羽状縄文。ナデ。軽しょうな胎土。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石
21	68	Ⅰ	1	BH-96	7.5YR5/3	口縁部。羽状縄文。ナデ。軽しょうな胎土。	有	白色粒子多、黒色粒子
22	68	Ⅰ	1	BH-93	7.5YR5/4	羽状縄文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、岩片多
23	68	Ⅰ	1	BH-96	7.5YR5/4	羽状縄文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子多、石英、白色岩片
24	68	Ⅰ	1	BH-96	7.5YR6/3	羽状縄文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子、岩片
25	68	Ⅰ	1	BH-93	7.5YR5/3	羽状縄文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子多、黒色粒子多
26	68	Ⅰ	1	BG-91	7.5YR5/3	羽状縄文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子多、黒色粒子多、白色岩片
27	68	Ⅰ	1	BG-94	7.5YR6/3	羽状縄文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、白色岩片、岩片
28	68	Ⅰ	2	BH-93	10YR5/3	口縁部。縦位の山形文。内面に横位の山型文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
29	68	Ⅰ	2	BH-96	10YR3/1	口縁部。山形文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
30	68	Ⅰ	2	BH-93	7.5YR3/1	口縁部。山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
31	68	Ⅰ	2	BG-94	10YR5/2	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
32	68	Ⅰ	2	BH-95	10YR6/2	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
33	68	Ⅰ	2	BG-93	10YR5/2	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子、石英
34	68	Ⅰ	2	BH-95	10YR6/4	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
35	68	Ⅰ	2	BH-93	10YR6/3	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
36	68	Ⅰ	2	BG-94	7.5YR4/3	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
37	68	Ⅰ	2	BG-93	10YR5/2	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
38	68	Ⅰ	2	BH-96	7.5YR2/1	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
39	68	Ⅰ	2	BH-95	5YR4/2	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子
40	68	Ⅰ	2	BH-94	10YR3/1	山型文。縦位密接。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子
41	68	Ⅰ	2	BH-95	7.5YR3/1	山型文。縦位密接。内面に擦痕。軽しょうな胎土。	無	白色粒子
42	68	Ⅰ	2	BG-92	7.5YR5/3	山型文。縦位密接。内面にナデ。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
43	68	Ⅰ	2	BH-95	10YR3/1	口唇部に押型文。外面に菱形文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
44	68	Ⅰ	2	BH-96	10YR6/3	菱形文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子
45	69	Ⅱ	1	BH-96	7.5YR6/6	撚糸文。ナデ。	無	白色粒子、黒色粒子
46	69	Ⅱ	2	BH-96	7.5YR5/4	格子目文。	無	白色粒子、黒色粒子
47	69	Ⅱ	2	BH-95	5YR4/6	格子目文。	無	白色粒子、黒色粒子
48	69	Ⅱ	1	BH-94	7.5YR4/1	口唇部に刺突。撚糸文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英
49	69	Ⅱ	1	BH-95	7.5YR6/4	口縁部。撚糸文。内外面に指頭痕。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
50	69	Ⅱ	1	BH-96	5YR5/6	撚糸文。	無	白色粒子、黒色粒子
51	69	Ⅱ	1	BG-94	5YR5/6	撚糸文。	無	白色粒子、黒色粒子
52	69	Ⅱ	1	BH-95	5YR5/6	撚糸文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
53	69	Ⅲ		BG-92	10YR6/6	内外面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石、白色岩片
54	69	Ⅳ		BK-11	5YR2/2	口唇部と外面に縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
55	69	Ⅳ		BK-11	5YR2/2	口唇部に縄文。羽状縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
56	69	Ⅳ		BK-11	5YR2/2	口唇部に縄文。羽状縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
57	69	Ⅳ		BK-11	5YR2/2	口唇部に縄文。羽状縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
58	70	Ⅴ	1	BM-08	5YR6/6	沈線。縄文。磨消し。	無	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
59	70	Ⅴ	1	BM-08	7.5YR6/4	沈線。縄文。磨消し。内面に磨き。	無	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子少、岩片
60	70	Ⅴ	1	BM-08	7.5YR6/4	沈線。縄文。磨消し。内面にナデ。	無	白色粒子、赤色粒子、石英、輝石
61	70	Ⅴ	1	BM-08	7.5YR5/4	棒状工具による沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
62	70	Ⅴ	2	BP-07	7.5YR7/6	口縁部。無節の撚糸文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英多、輝石、白色岩片
63	70	Ⅴ	2	BL-09	10YR6/4	口縁部。付加条縄文。	無	白色粒子、石英、輝石、白色岩片
64	70	Ⅴ	2	BL-09	7.5YR5/4	口縁部。付加条縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
65	70	Ⅴ	2	BP-07	7.5YR7/6	口縁部。無節の撚糸文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
66	70	Ⅴ	3	BM-09	10YR5/3	口唇部に円形浮文。沈線。内面に磨き。	無	白色粒子、石英、雲母
67		Ⅴ	2	BG-95	10YR6/3	沈線。指頭痕。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石
68	70	Ⅵ		BH-05	7.5YR6/4	縄文。	有	白色粒子、黒色粒子
69	70	Ⅵ		BG-08	10YR6/4	縄文。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
70	70	Ⅵ		BH-03	5YR5/6	縄文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
71	70	Ⅵ		BG-08	7.5YR5/4	口縁部。半截竹管状工具による平行沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
72	70	Ⅵ		BH-19	5YR5/6	沈線。刺突。内面にナデ。	無	黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
73	70	Ⅵ		BD-24	5YR6/6	口唇部と外面に縄文。内面にナデ。	有	白色粒子、石英、輝石、白色岩片、岩片
74	70	Ⅵ		BG-21	10YR6/4	沈線。縄文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片



第183図　石鏃・石鏃未製品分布図

（２） 石器

尖頭器類（第168・169図　第45表　写真図版67）

当該遺跡において、縄文時代草創期に位置付けられる尖頭器は３点出土している。10はホルンフェルスを石材とする。５区ＢＨ95グリッドで出土している。基部が折損した資料で、両面に加工が施されている。基部の折れ面に二次加工を施した痕跡は窺えない。11はガラス質黒色安山岩を石材とする完形品である。５区ＢＨ94グリッドで出土している。12はガラス質黒色安山岩を石材とする有舌尖頭器で、７－２区ＢＫ11グリッドから出土している。全体的に風化が進み調整痕が判然としない。身部と茎部の境界が屈曲している。

石鏃・石鏃未製品（第183・184図　第46・47表　写真図版71）

75～79は石鏃及び石鏃の未製品か。出土しているのは全て無茎鏃と考えられる。３－１区・５区・７－１区・７－２区まで散発的に出土し、集中する傾向は窺うことは出来ない。

75は長脚鏃である。抉りが深く入り脚部が発達し、片方の脚部端が欠けている。和田鷹山産黒曜石を石材とする。76・77は抉りが浅いタイプで、ガラス質黒色安山岩を石材とする。両者とも先端部が欠けている。77は平面が二等辺三角形を呈する。78は鏃身両側縁が屈曲し、抉りが整えられていない。79は側縁部が未調整である。78・79は未製品か。両者とも神津島恩馳島産黒曜石を石材とする。

スクレイパー類（第184・187図　第46・47表　写真図版71）

80～83はスクレイパー類に分類した。80は掻器か。諏訪星ヶ台産黒曜石を石材とする。右側縁から下端にかけて刃部が仕上げられている。81～83は削器である。81は細粒凝灰岩を石材とする。打面及び打瘤を残し、側縁部に刃部が仕上げられている。82は産地不明の黒曜石である。縁辺に剥離調整を行い、刃部を仕上げている。83は諏訪星ヶ台産黒曜石を石材としている。

打製石斧（第184・185・189図　第46・47表　写真図版71）

84～86は打製石斧である。84は分銅形打製石斧である。輝石安山岩を石材とし、３－１区ＢＯ07グリッドで出土している。両側縁中位付近に抉りを入れ、両面共に素材面を残す。刃部は折損している。柄との緊縛痕は観察されない。85は珪質頁岩を石材とする。片面に自然面が残置する。86は細粒安山岩を石材とする。両側縁部が並行するので短冊形か。両面とも素材面を大きく残す。基端部が折損している。

礫器（第185・189図　第46・47表　写真図版71）

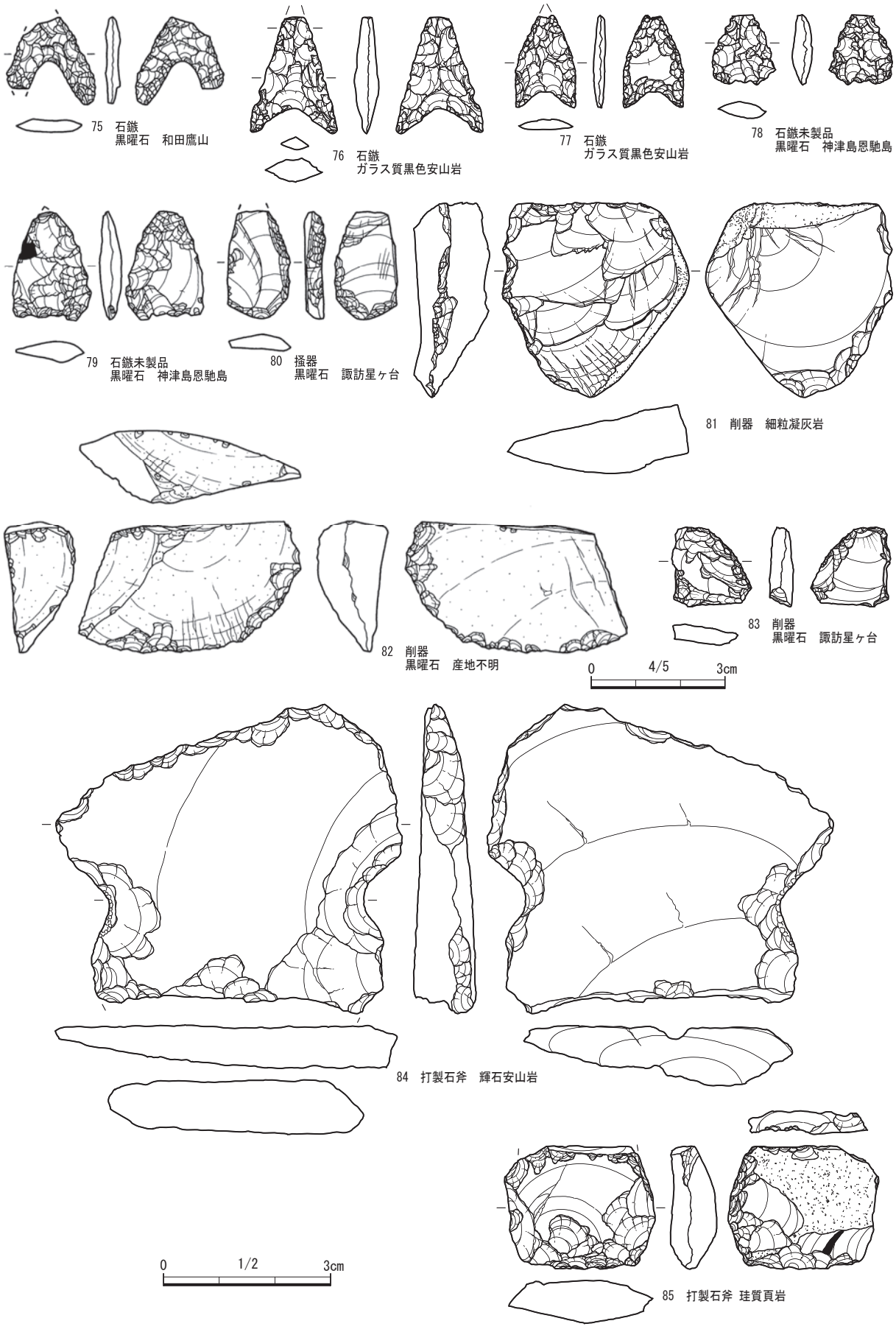
87は礫器である。細粒安山岩を石材とし、一部、自然面が残置する。刃部が認められるが、粗い加工である。

磨敲石類・砥石類（第185・186・189・190図　第46・47表）

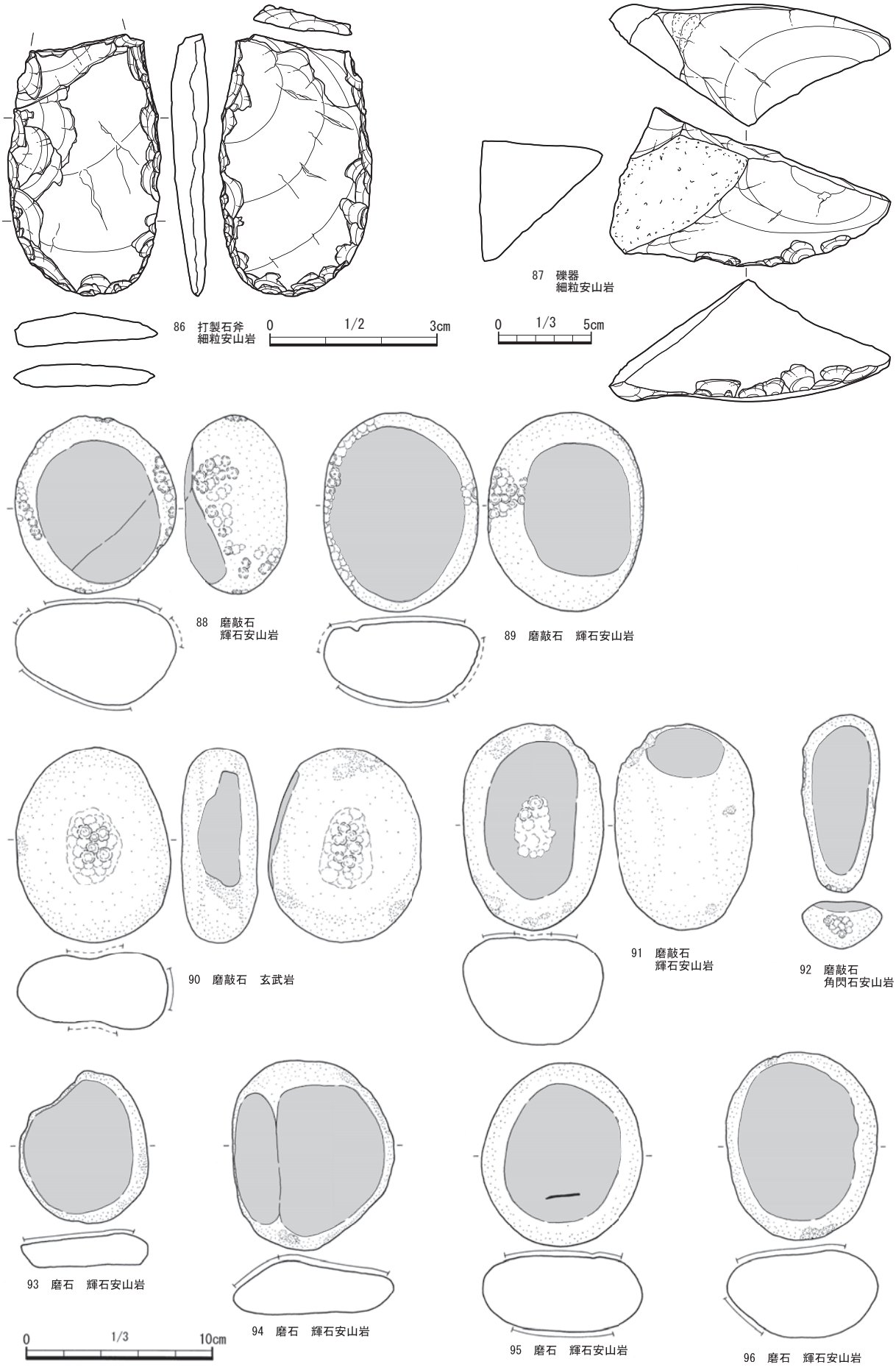
88～103は磨敲石類である。88～92は磨敲石で、そのうち88～91は平面が楕円形、92は棒状を呈する。88・89は両主面に磨面、周縁に敲打痕、90は両主面に敲打痕集中、側面に磨面、91は主面に磨面・敲打痕集中が観察される。92は片面に磨面、側面部及び下端面に敲打痕が観察される。

93～102は磨石である。そのうち93～98は扁平で、平面が楕円形を呈するタイプである。98は両面に窪みが認められる。99～102は棒状を呈するタイプである。いずれも複数の磨面を持つ。

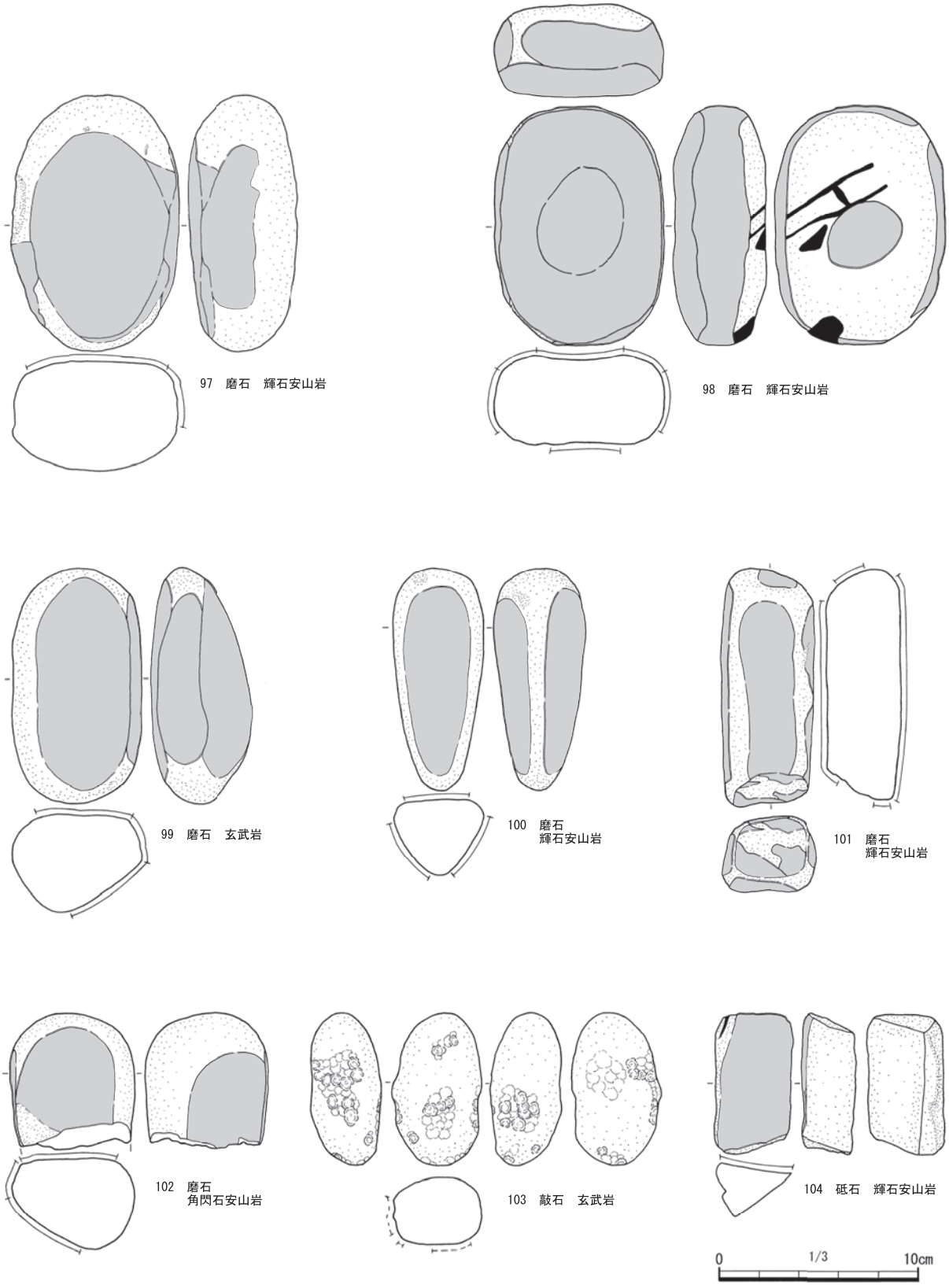
103は敲石である。やや棒状の礫を利用している。104は輝石安山岩を石材とする砥石か。



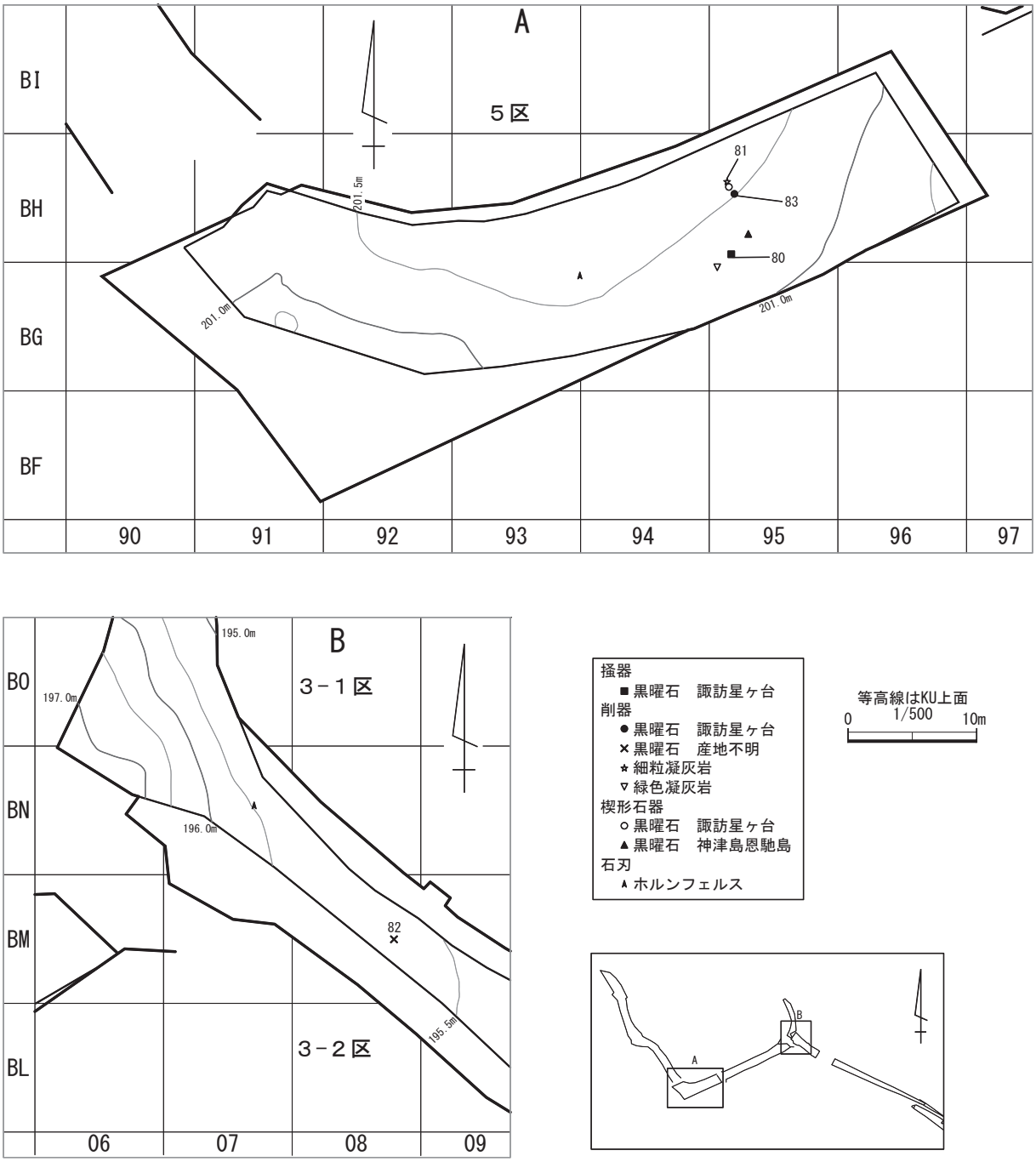
第184図　石鏃・石鏃未製品・スクレイパー類・打製石斧



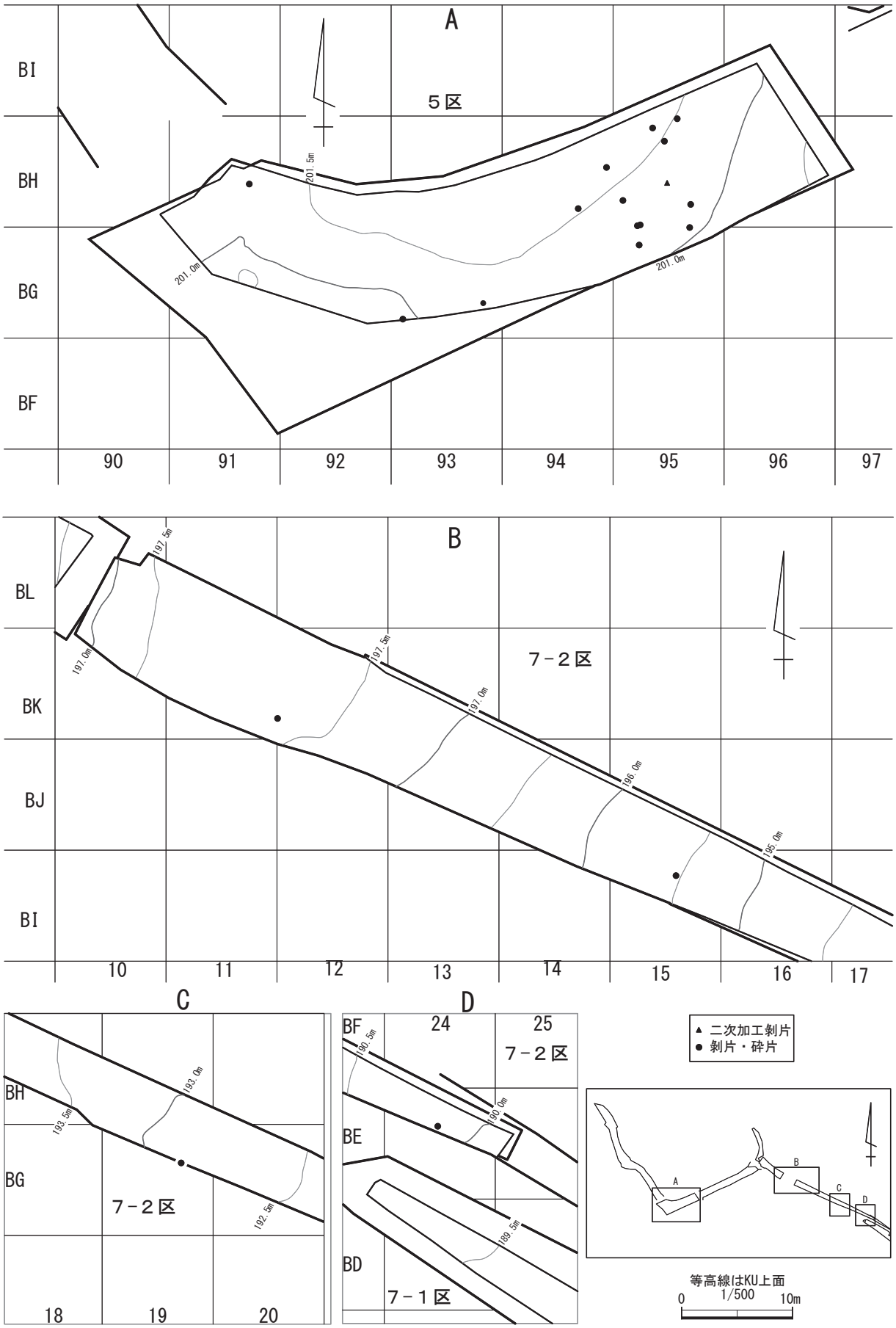
第185図　打製石斧・礫器・磨敲石類


97　磨石　輝石安山岩
98　磨石　輝石安山岩
99　磨石　玄武岩
100　磨石
輝石安山岩
101　磨石
輝石安山岩
102　磨石
角閃石安山岩
103　敲石　玄武岩
104　砥石　輝石安山岩
0
1/3
10cm

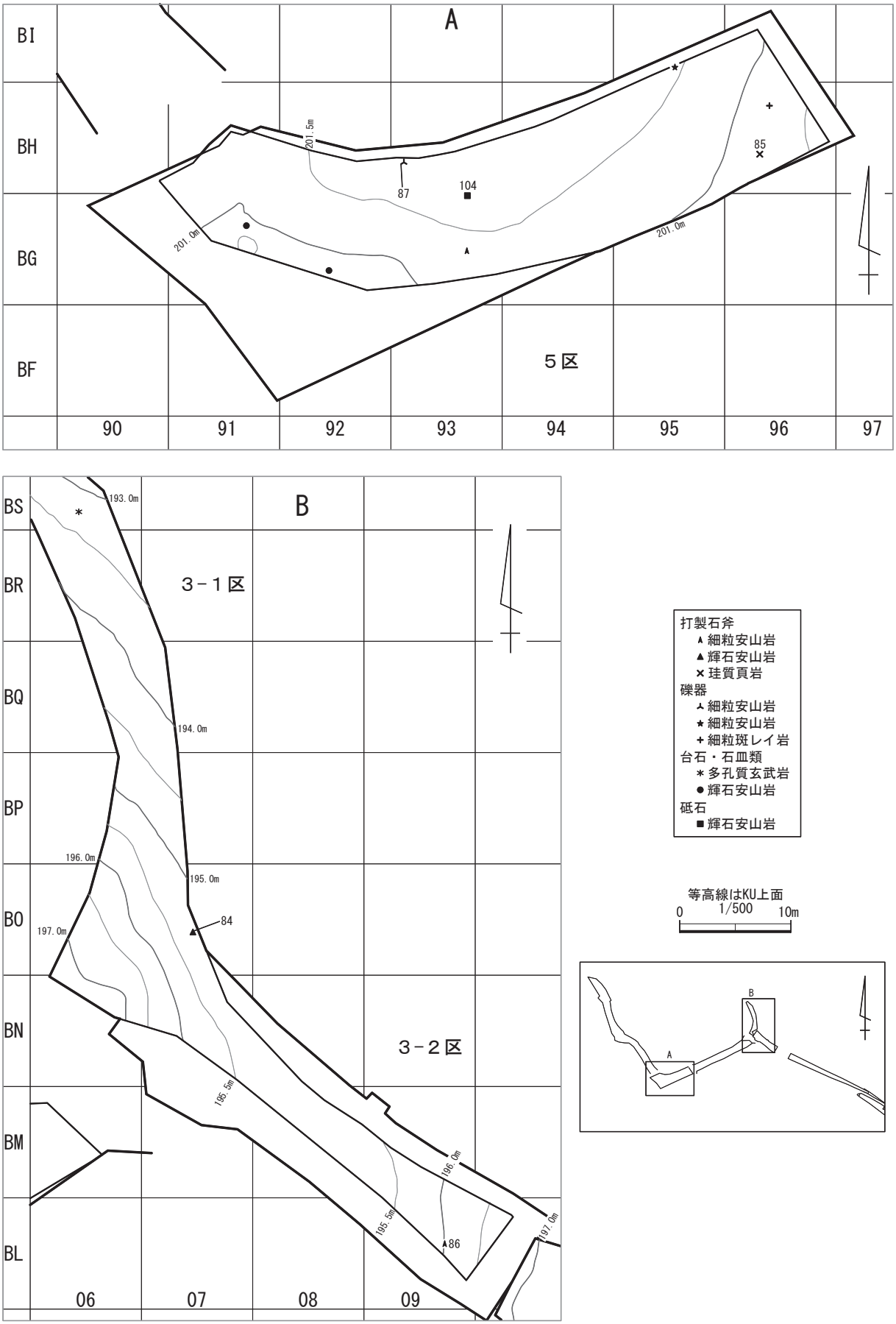
第186図　磨敲石類



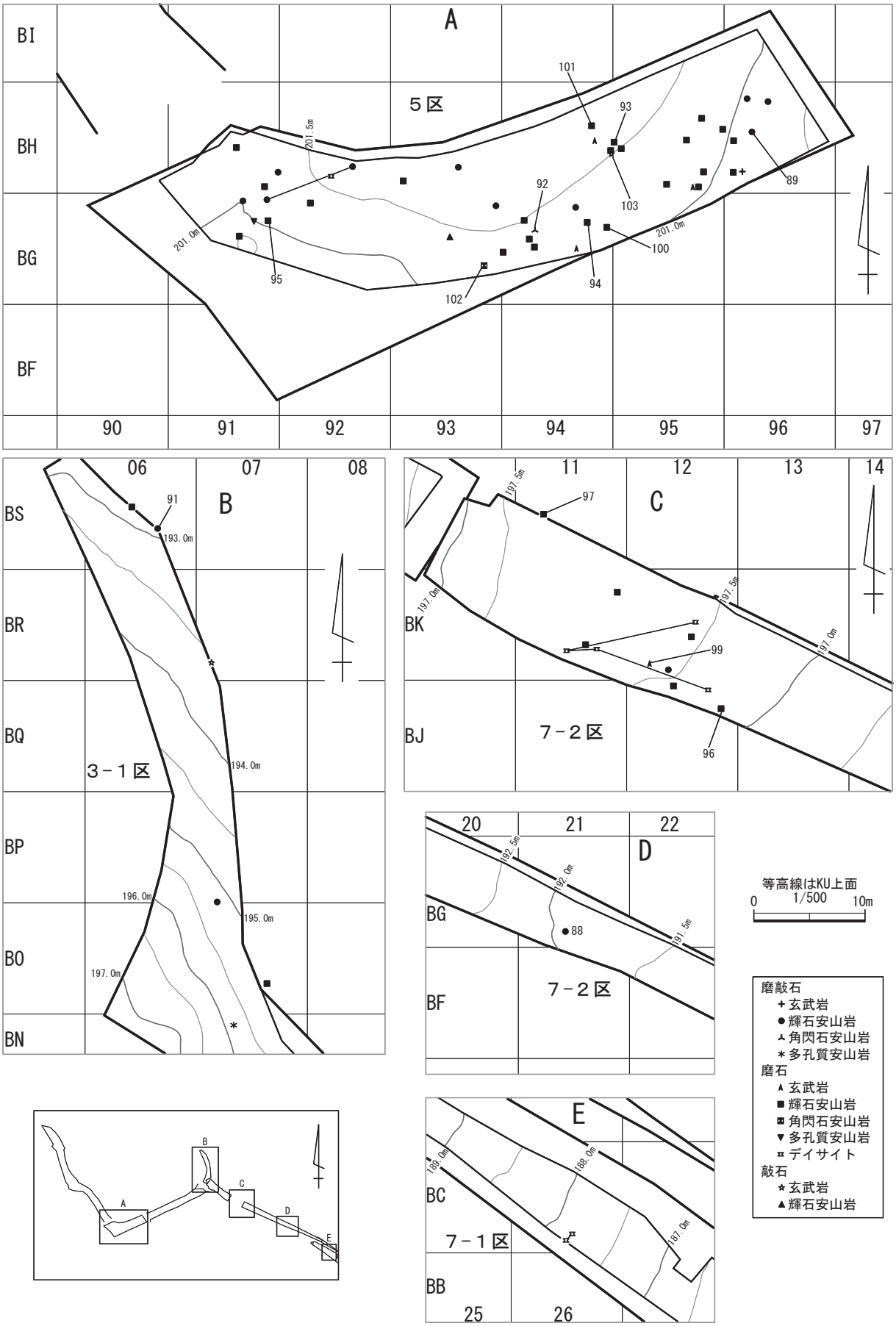
第187図　スクレイパー類・楔形石器・石刃分布図



第188図　剥片類分布図



第189図　打製石斧・礫器・台石・石皿類・砥石分布図



第190図　磨敲石類分布図

第45表　縄文時代草創期石器組成表

		尖頭器	有舌尖頭器	計
ガラス質黒色安山岩	GAn	1	1	2
ホルンフェルス	Hor	1		1
計		2	1	3

第46表　縄文時代石器組成表

			石鏃	石鏃未製品	掻器	削器	楔形石器	石刃	打製石斧	二次加工剥片	剥片	砕片	礫器	磨敲石	磨石	敲石	台石・石皿類	砥石	計
黒曜石	神津島恩馳島	KZOB		2			1												3
	諏訪星ヶ台	SWHD	1		1	1	1												4
	和田鷹山	WDTY	2																2
	産地不明					1				1	9	1							12
	黒曜石計		3	2	1	2	2			1	9	1							21
玄武岩		Ba												2	4	2			8
多孔質玄武岩		VBa															1		1
ガラス質黒色安山岩		GAn	2								2								4
細粒安山岩		FAn							2		5		1						8
輝石安山岩		An(Py)							1				1	13	34	1	2	1	53
角閃石安山岩		An(Ho)												1	1				2
多孔質安山岩		VAn												1	1				2
デイサイト		Da													7				7
細粒班レイ岩		FG											1						1
ホルンフェルス		Hor						2			1								3
細粒凝灰岩		FT				1													1
緑色凝灰岩		GT				1													1
珪質頁岩		SSh							1										1
中粒砂岩		MSS									1								1
計			5	2	1	4	2	2	4	1	18	1	3	17	47	3	3	1	114

第47表　縄文時代遺構外出土石器計測表

挿図番号	写真図版番号	遺物番号	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)
75	71	1143	AN	BP-06	石鏃	黒曜石	和田鷹山	(1.9)	2.0	0.3	0.7
76	71	38	FB	BF-23	石鏃	ガラス質黒色安山岩		(2.6)	1.9	0.5	1.8
77	71	12180	KU	BH-91	石鏃	ガラス質黒色安山岩		(2.1)	1.3	0.3	0.8
78	71	12275	FB	BG-94	石鏃未製品	黒曜石	神津島恩馳島	1.5	1.4	0.4	0.8
79	71	13214	ZN	BK-12	石鏃未製品	黒曜石	神津島恩馳島	2.3	1.7	0.5	1.6
80	71	12510	FB	BH-95	掻器	黒曜石	諏訪星ヶ台	(2.4)	1.4	0.4	1.9
81	71	12148	KU	BH-95	削器	細粒凝灰岩		4.2	4.3	1.3	30.6
82	71	2076	FB	BM-08	削器	黒曜石	産地不明	2.9	4.9	1.6	17.6
83	71	12146	KU	BH-95	削器	黒曜石	諏訪星ヶ台	1.8	1.7	0.5	1.6
84	71	95	AN	BO-07	打製石斧	輝石安山岩		(10.1)	12.0	2.0	353.9
85	71	12748	FB	BH-96	打製石斧	珪質頁岩		(5.2)	4.4	1.6	51.8
86	71	2032	AN	BL-09	打製石斧	細粒安山岩		(9.2)	5.4	1.2	76.9
87	71	12098	FB	BH-93	礫器	細粒安山岩		15.1	9.6	5.2	610.0
88		13152	KU	BG-21	磨敲石	輝石安山岩		9.5	8.6	5.4	626.1
89		2003	FB	BH-96	磨敲石	輝石安山岩		10.6	8.3	4.4	539.1
90		13314	表採	－	磨敲石	玄武岩		10.4	8.2	4.1	566.5
91		1156	AN	BS-06	磨敲石	輝石安山岩		11.1	7.5	5.7	698.9
92		12919	FB	BG-94	磨敲石	角閃石安山岩		9.5	4.1	2.4	141.6
93		13027	FB	BH-95	磨石	輝石安山岩		8.1	6.9	1.8	151.5
94		12851	FB	BG-94	磨石	輝石安山岩		11.2	8.6	2.9	366.3
95		12420	KU	BG-91	磨石	輝石安山岩		9.9	8.6	4.0	546.3
96		13171	KU	BJ-12	磨石	輝石安山岩		10.1	8.2	4.7	570.1
97		13232	AN	BL-11	磨石	輝石安山岩		12.8	8.3	5.5	914.7
98		13313	表採	－	磨石	輝石安山岩		12.0	8.4	4.6	715.4
99		13302	KR	BK-12	磨石	玄武岩		11.8	6.4	5.1	527.9
100		12539	FB	BG-94	磨石	輝石安山岩		11.2	4.5	3.9	254.2
101		12302	FB	BH-94	磨石	輝石安山岩		11.8	4.6	3.8	406.7
102		13100	ZN	BG-93	磨石	角閃石安山岩		(6.7)	6.0	4.6	268.9
103		12531	FB	BH-94	敲石	玄武岩		7.7	4.5	3.6	153.7
104		12602	FB	BG-93	砥石	輝石安山岩		7.9	3.8	2.7	86.0

第４節　中近世以降の遺構と遺物

１　概要

当該遺跡及び周辺の確認調査では、古代以降と思しき遺構が確認されている。遺構の種類は道路状遺構、溝状遺構及び土坑である。土坑は円形土坑であり、中近世以降に位置付けられるのが一般的である。遺物も古代のものは出土していない。

２　遺構

（１）　溝状遺構（第194・195図　第48表）

確認調査テストピット27内において、溝状遺構を１条確認した。暗褐色土層上面にて確認されたが、カワゴ平パミスを含む層よりも上位から掘り込まれていたとする調査時の所見から、所属時期は古代以降とされている。円形土坑と同時期か。

（２）　土坑（第191～196図　第48表　写真図版62・63）

当該遺跡及び周辺の確認調査では26基の土坑が確認されている。全て円形土坑である。土坑の径は0.61～1.31ｍで、約1.0～1.3m程度に計測値が集中する。これらの土坑は３－１区ＢＱ・ＢＲ06グリッド付近で、等高線と交差するように列状に分布する。また３－２区ＢＭ09グリッド付近でも分布が集中する。

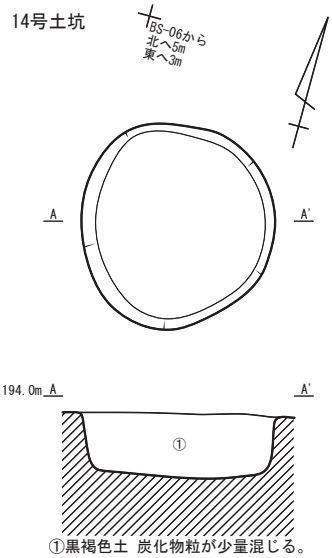
（３）　道路状遺構（第193・195図　第48表　写真図版63）

３－２区調査区南壁に沿って硬化域が広がる状況が、黒色土上面で確認されている。中近世以降の道路状遺構と考える。

第48表　中近世以降の遺構計測表

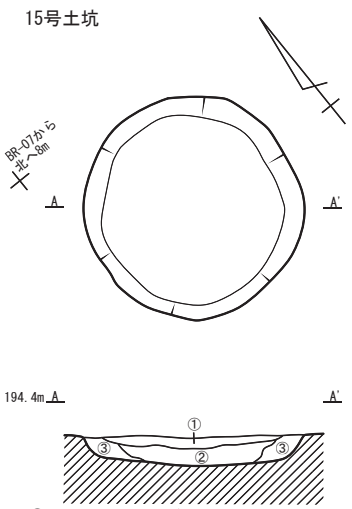
報告書遺構名	調査遺構名	グリッド	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計	備考
14号土坑	SF01	BS-06	NSC	1.10	1.02	0.34						
15号土坑	SF06	BR-07	NSC	1.19	1.17	0.19						
16号土坑	SF08	BR-06	NSC	1.14	1.08	0.38						
17号土坑	SF07	BR-07	NSC	1.15	1.13	0.38						
18号土坑	SF09	BR-06	NSC	1.14	1.05	0.13						
19号土坑	SF10	BR-06	NSC	1.24	1.21	0.58						
20号土坑	SF11	BQ-06	NSC	1.06	1.00	0.34						
21号土坑	SF12	BQ-06	NSC	1.18	1.18	0.59						
22号土坑	SF14	BQ-07	NSC	0.88	0.79	0.10						
23号土坑	SF13	BQ-06	NSC	1.25	1.13	0.50						
24号土坑	SF15	BP-07	NSC	1.15	1.10	0.67						
25号土坑	SF16	BO-07	NSC	1.17	1.08	0.48						
26号土坑	SF30	BN-07	NSC	1.31	1.22	0.29						
27号土坑	SF29	BN-07	NSC	0.90	0.81	0.12						
28号土坑	SF28	BM-08	NSC	1.23	1.14	0.24						
29号土坑	SF27	BM-09	NSC	1.03	0.99	0.26						
30号土坑	SF26	BM-09	NSC	0.76	0.69	0.18						
31号土坑	SF25	BM-09	NSC	0.62	0.61	0.16						
32号土坑	SF24	BM-09	NSC	1.26	1.18	0.34						
33号土坑	SF23	BM-09	NSC	0.98	0.97	0.33						
34号土坑	SF22	BM-09	NSC	0.85	0.82	0.26						
35号土坑	SF17	BK-02	NSC	1.11	1.11	0.14						
36号土坑	SF18	BK-01	NSC	1.09	1.08	0.14						
37号土坑	SF19	BK-02	NSC	1.14	1.07	0.24						
38号土坑	SF02	BY-14	NSC	0.82	0.63	0.08						
39号土坑	SF03	BY-14	NSC	1.18	1.14	0.37						
４号溝	SD10	BK-01	AN	2.93	0.63	0.19						
道路状遺構	SR01	BM-08	黒色土	17.82	1.05	1.41						

14号土坑



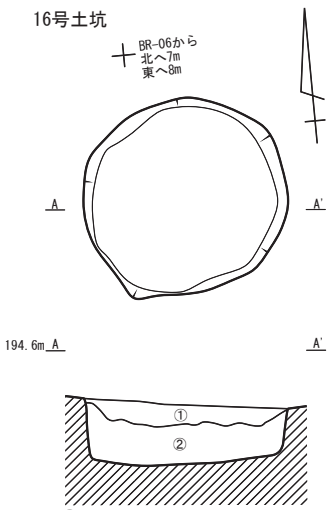
①黒褐色土 炭化物粒が少量混じる。

15号土坑



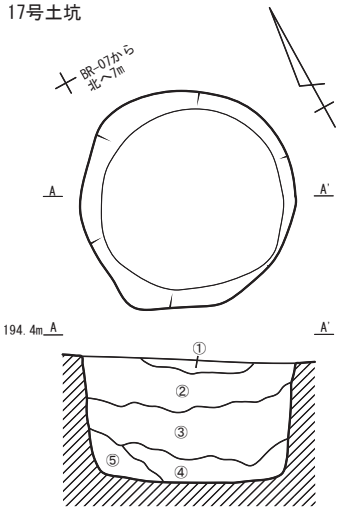
①黒褐色土 炭化物が少量混じる。
②黒褐色土 炭化物が少量混じる。上層より色調やや暗い。
③黒褐色土 ロームブロックを含む。

16号土坑



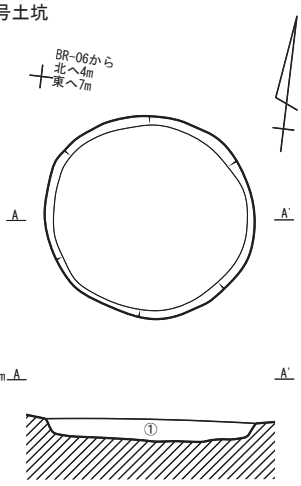
①黒褐色土 下層より明色。
②黒褐色土 炭化物が少量混じる。

17号土坑



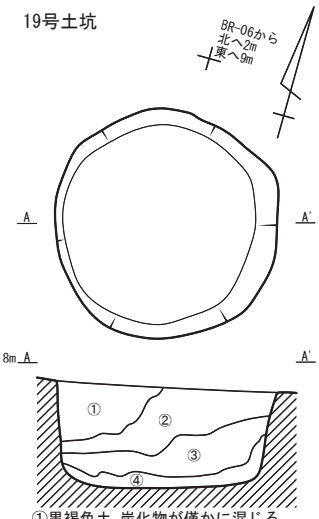
①黒褐色土 炭化物が少量混じる。
②黒褐色土 ロームブロックを含む。
③黒褐色土
④黒褐色土 上層より明色。
⑤暗褐色土 NSC層土の崩落土。

18号土坑



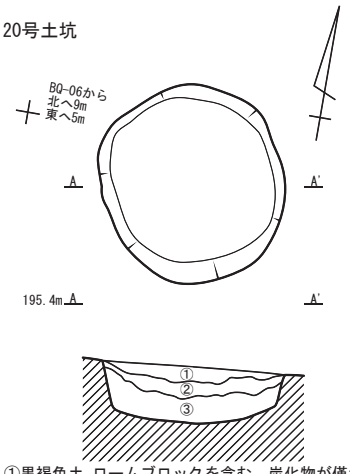
①黒褐色土 ロームブロックを含む。炭化物が僅かに混じる。

19号土坑



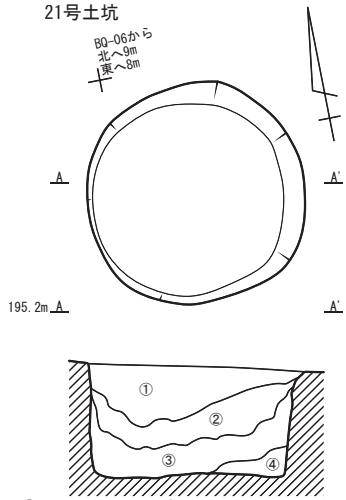
①黒褐色土 炭化物が僅かに混じる。
②黒褐色土 ロームブロックを含む。
炭化物が少量混じる。
③黒褐色土 炭化物が僅かに混じる。
④黒褐色土 上層より暗色。

20号土坑



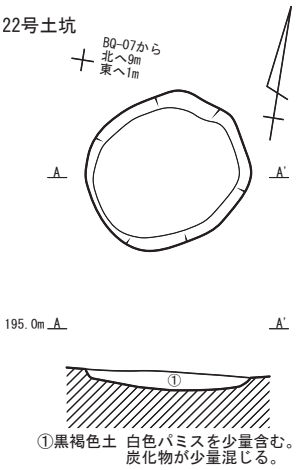
①黒褐色土 ロームブロックを含む。炭化物が僅かに混じる。
②黒褐色土 ロームブロックを含む。上層より色調が明るい。
③黒色土 炭化物が混じる。

21号土坑



①黒褐色土 ロームブロックを少量含む。炭化物が僅かに混じる。
②黒褐色土
③黒褐色土 上層よりやや暗色。
④黒褐色土 上層より暗色。

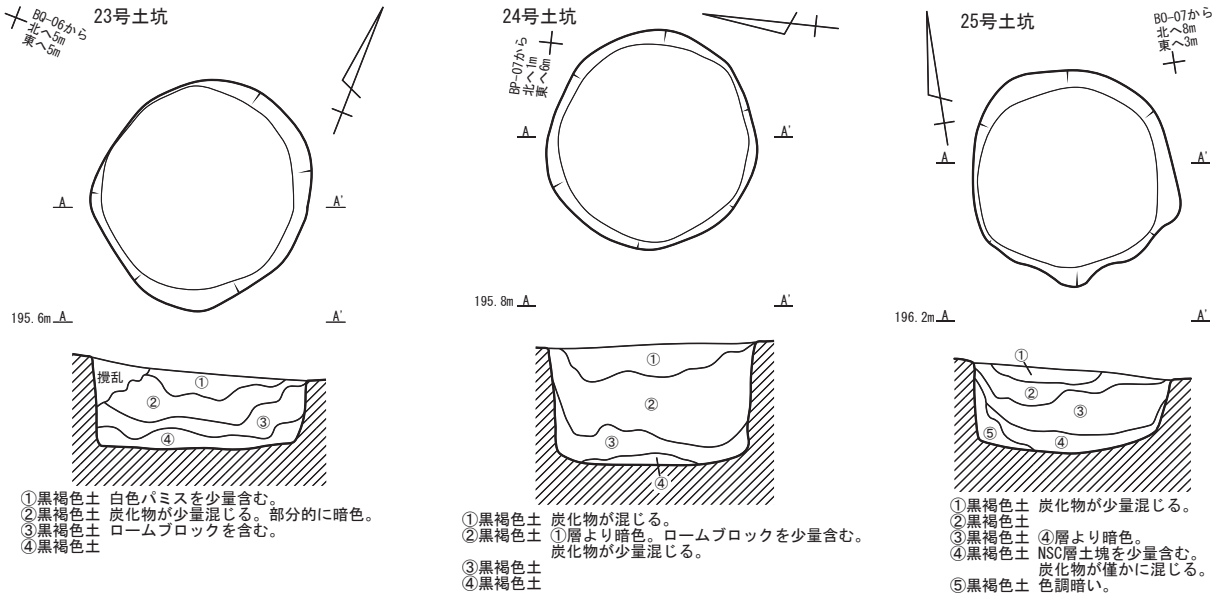
22号土坑



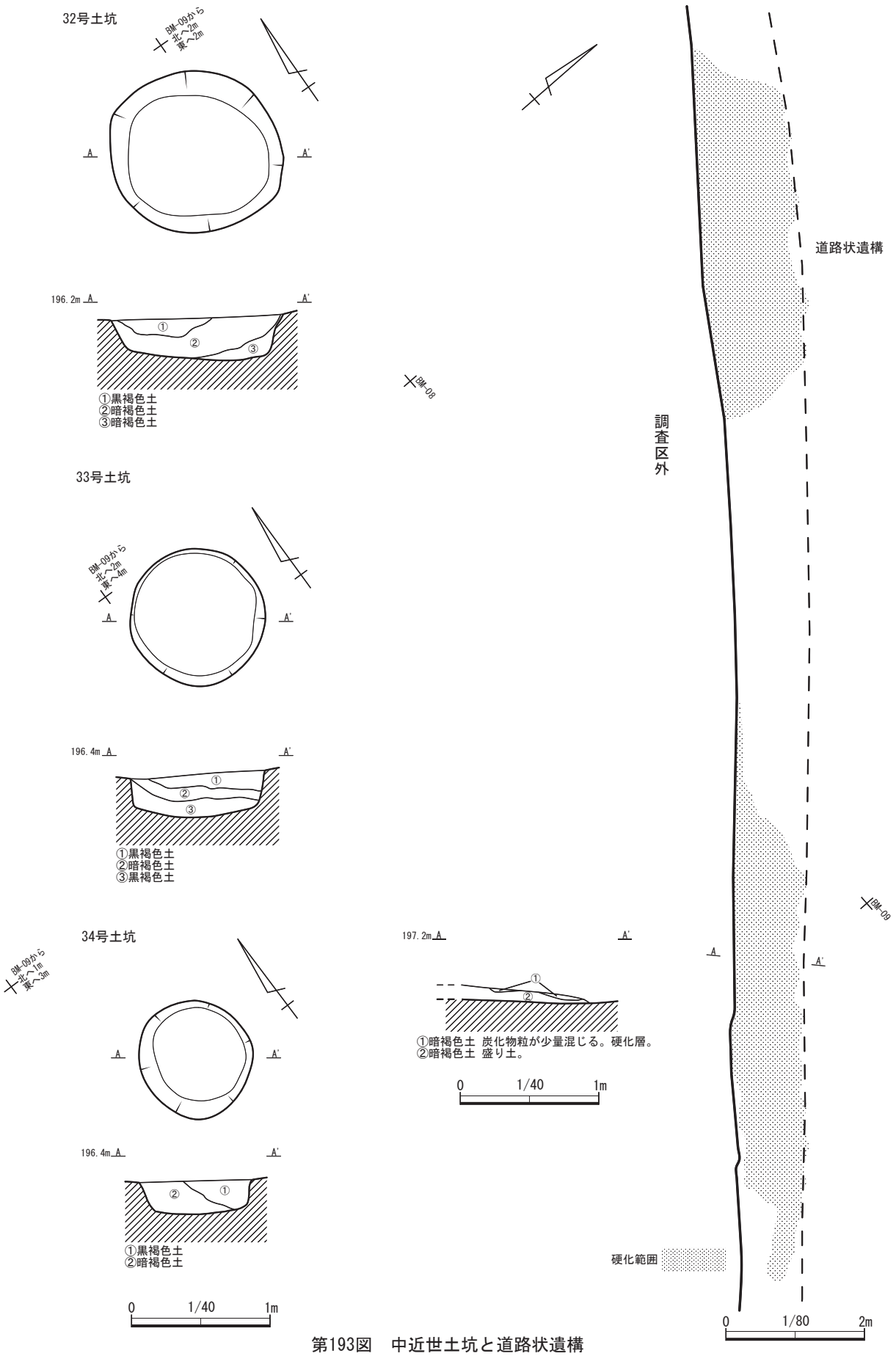
①黒褐色土 白色パミスを少量含む。
炭化物が少量混じる。

0　1/40　1m

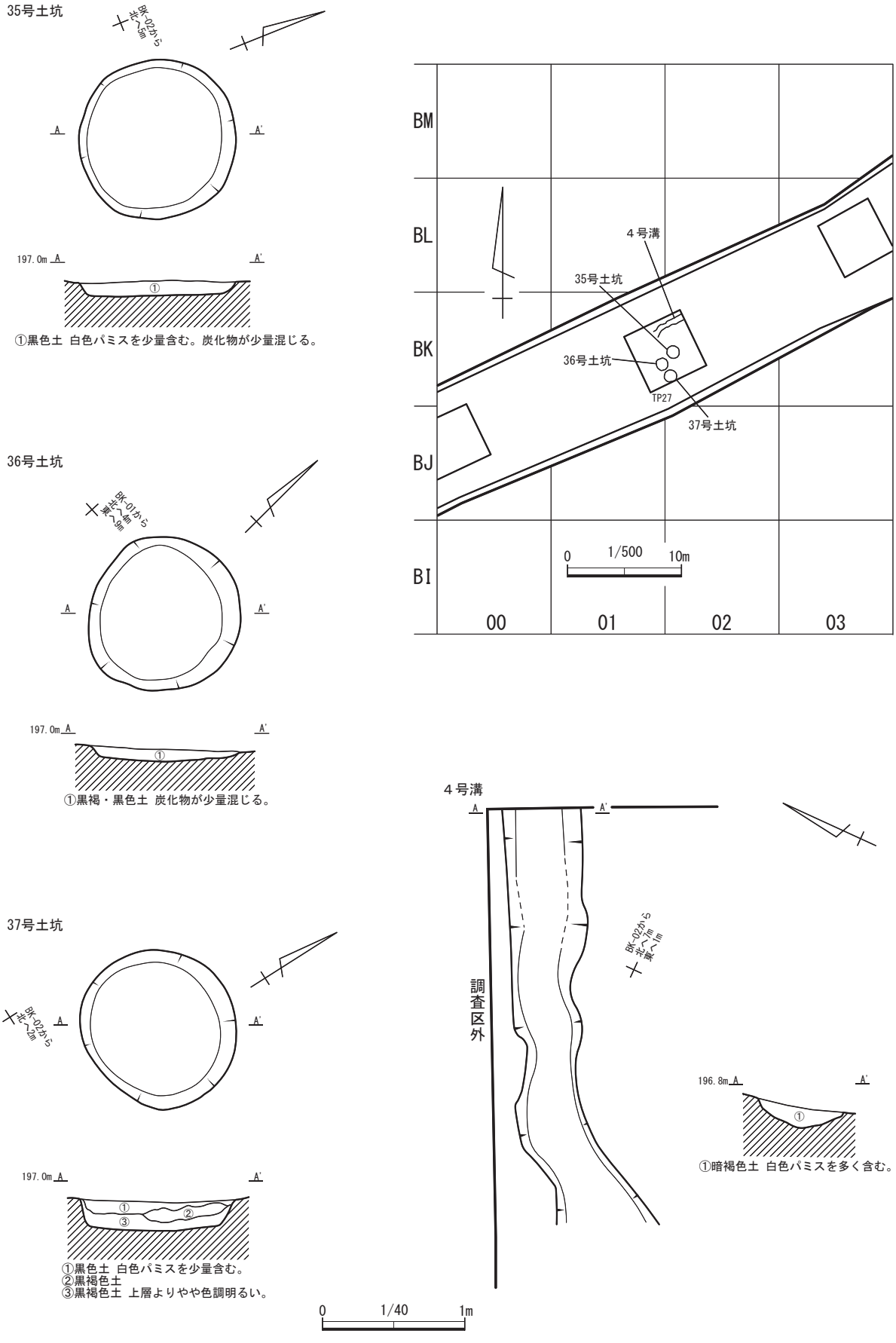
第191図　中近世土坑①



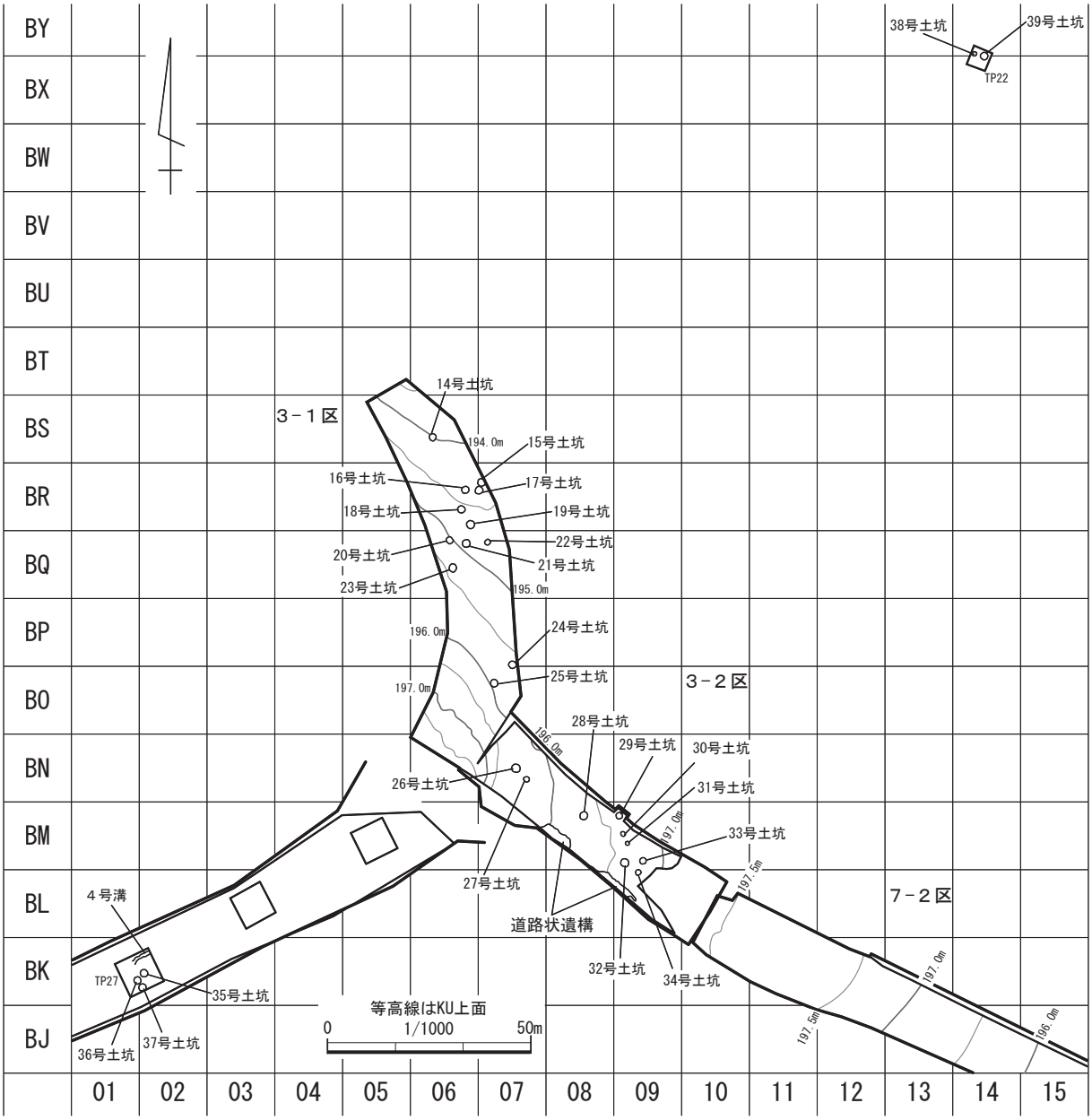
第192図　中近世土坑②



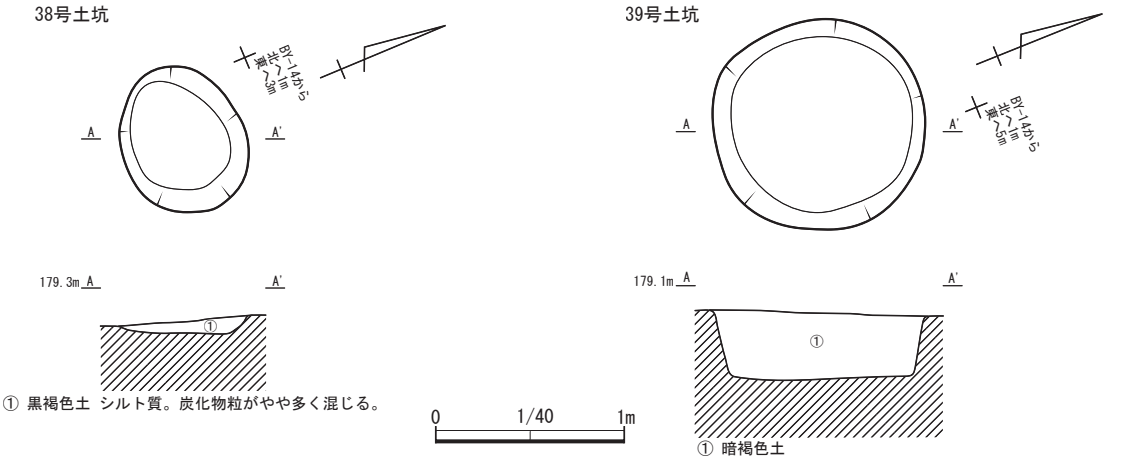
第193図　中近世土坑と道路状遺構



第194図　中近世土坑と溝状遺構



第195図　中近世以降の遺構位置図



第196図　中近世土坑③

第５章　富沢内野山Ⅴ遺跡（ＣＲ36地点）

第１節　基本層序と土層の堆積状況

富沢内野山Ⅴ遺跡は愛鷹山東麓に位置するが、第２～４章で触れられた遺跡とは位置的に異なる。富沢内野山Ⅲ北遺跡及び富沢内野山Ⅳ西遺跡が位置する尾根は、南側を富沢内野山Ｉ西遺跡が位置する谷により区切られている。一方、北側の谷は地形的にやや急峻で南東方向に延びている。本章にて触れる富沢内野山Ⅴ遺跡はこの谷を隔てた北側の尾根上に位置する。この尾根は別の谷地形により切断され、独立した景観を保っている。尾根上の平坦面は少なく、所謂馬の背状の地形を呈する。

第197図はテストピット75で観察された土層で、当該地区で最も基本的な層序と考えられる。

１層は表土である。地目は山林であったため、腐食した樹皮・木葉等が地表面近くで観察される。

２層は新期スコリア層とし、仙石スコリアや砂沢スコリアも混在する。他の遺跡同様、明瞭に分層し得ていない。

３層はカワゴ平パミスを含む層と報告されている。

４～６層は愛鷹山基本層序の暗褐色土層・栗色土層・富士黒土層に該当するものと考えられるが、この３層の分離が成し得ていない。それぞれの略号はＡＮ・ＫＵ・ＦＢである。愛鷹山南麓における富士黒土層には縄文時代早期後半の遺物が包含されている。

７層は漸移層である。略号はＺＮである。１～７層は現世火山灰腐食土層としてまとめられる。

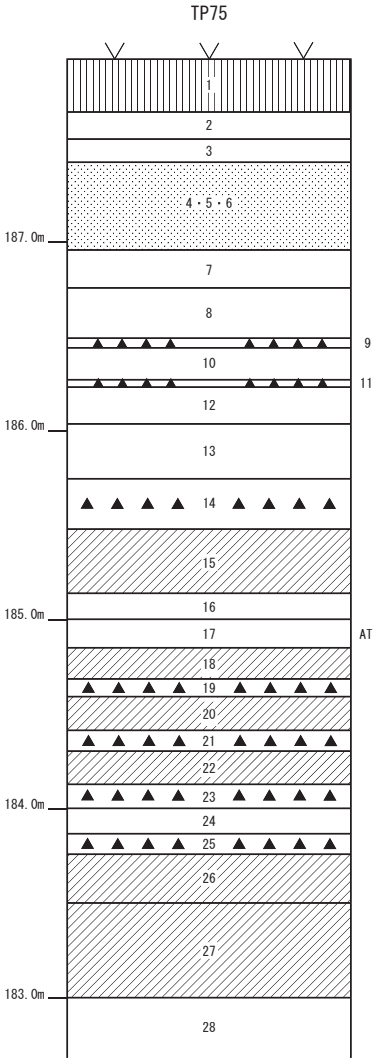
８～13層は休場層である。略号はＹＬである。この休場層は部分的に挟まる赤褐色を呈するスコリア層により分離される。８層：休場層上層（ＹＬＵ）、９層：休場層上部スコリア（ＹＬｓ１）、10層：休場層中層（ＹＬＭ）、11層：休場層下部スコリア（ＹＬｓ２）に分層され、休場層下層（ＹＬＬ）は締りの有無により12層（ソフトローム）、13層（ハードローム、ややスコリア質）に分層される。なおこの富沢内野山Ⅴ遺跡では休場層中層付近に文化層の設定が可能である。

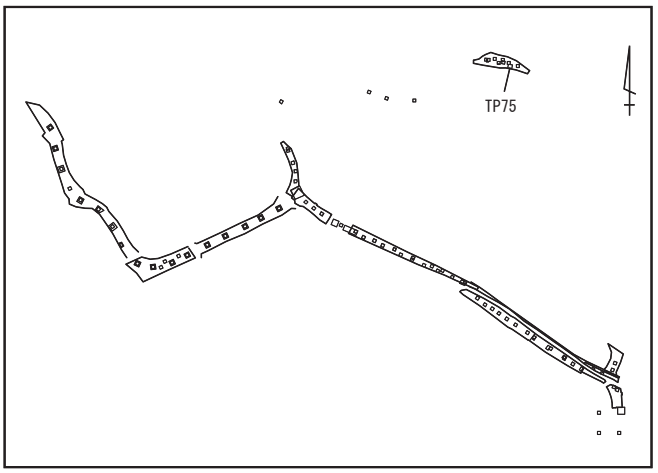
14層は第Ｉスコリア層である。略号はＳＣＩである。本来ならこの層位の上位に休場層直下黒色帯（ＢＢ０）が堆積しているが、当該遺跡ではＣＢ25グリット付近のみ認められる。

15層は第Ｉ黒色帯である。略号はＢＢＩである。

16・17層はニセローム層である。略号はＮＬである。スコリア質が特徴的なニセローム層上部と、姶良丹沢広域火山灰（ＡＴ）を多く含むニセローム層下部に分離が可能で、前者を16層、後者を17層としている。

18層は第Ⅱ黒色帯に該当し、略号はＢＢⅡである。19層は第Ⅱスコリア層に該当し、略号はＳＣⅡである。20層は第Ⅲ黒色帯に該当し、略号はＢＢⅢである。21層は第Ⅲスコリア帯第１スコリア帯に該当し、略号はＳＣⅢｓ１である。22層は第Ⅲスコリア帯第１黒色帯で、略号はＳＣⅢｂ１である。23層は第Ⅲスコリア帯第２スコリア帯に該当し、略号はＳＣⅢｂ２である。24層は第Ⅲスコリア帯第２黒色帯と第３スコリア帯の混合層と現地で判断された。略号は前者がＳＣⅢｂ２、後者はＳＣⅢｓ３である。25層は第Ⅲスコリア帯第４スコリア帯に該当し､略号はＳＣⅢｓ４である。26層は第Ⅳ黒色帯に該当し、略号はＢＢⅣである。27層は第Ⅴ黒色帯から第Ⅶ黒色帯までの混合層と現地で判断された。略号はＢＢⅤ～ＢＢⅦである。28層は中部ローム層に該当する。

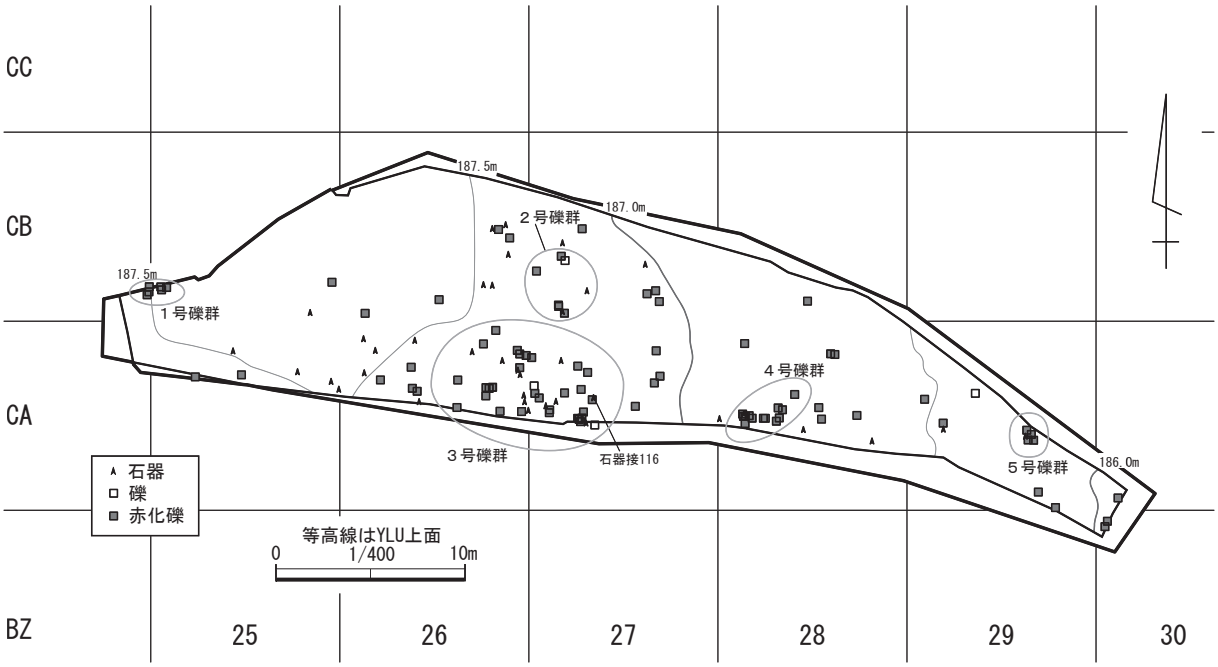




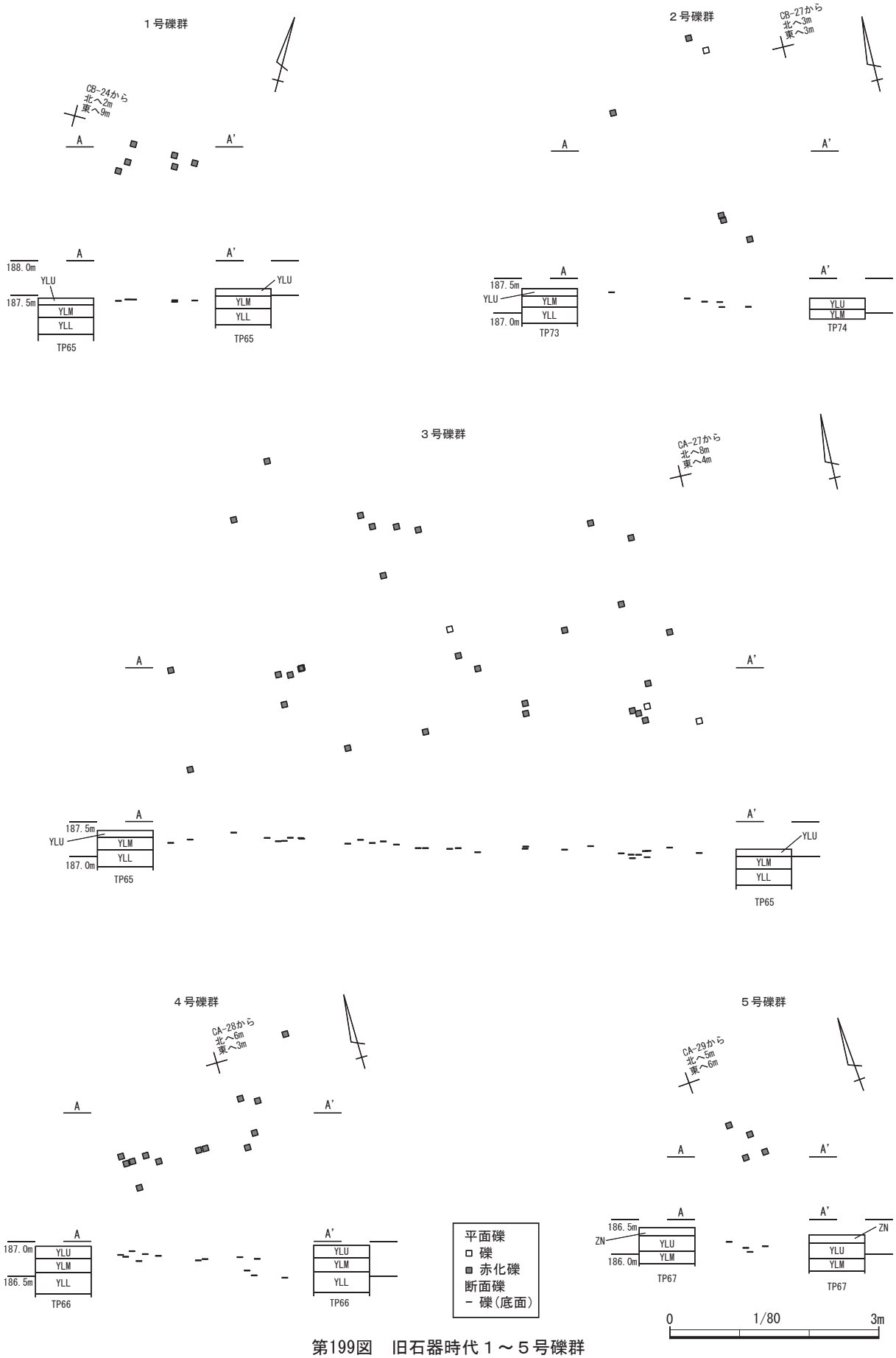
1　表土
2　NSC（新期スコリア層、仙石スコリア・砂沢スコリアが混在する）
3　KGP（カワゴ平パミスを含む土層）
4　AN（暗褐色土層）
5　KU（栗色土層）
6　FB（富士黒土層）
7　ZN（ローム漸移層）
8　YLU（休場層上部）
9　YLs1（休場層上部スコリア）
10　YLM（休場層中層）
11　YLs2（休場層下部スコリア）
12　YLLa（休場層下層、軟質のローム）
13　YLLb（休場層下層、硬くスコリア質）
14　SCⅠ（第Ⅰスコリア層）
15　BBⅠ（第Ⅰ黒色帯）
16　NLa（ニセローム層上部、スコリア質）
17　NLb（ニセローム層下部、ATを顕著に含む）
18　BBⅡ（第Ⅱ黒色帯）
19　SCⅡ（第Ⅱスコリア層）
20　BBⅢ（第Ⅲ黒色帯）
21　SCⅢs1（第Ⅲスコリア帯第1スコリア帯）
22　SCⅢb1（第Ⅲスコリア帯第1黒色帯）
23　SCⅢs2（第Ⅲスコリア帯第2スコリア帯）
24　SCⅢb2～s3（第Ⅲスコリア帯第2黒色帯と第3スコリア帯の混合層）
25　SCⅢs4（第Ⅲスコリア帯第4スコリア帯）
26　BBⅣ（第Ⅳ黒色帯）
27　BBⅤ～BBⅦ（第Ⅴ黒色帯から第Ⅶ黒色帯の混合層）
28　中部ローム層

0　1/40　1m

第197図　富沢内野山Ⅴ遺跡基準土層図



第198図　旧石器時代石器出土状況



第199図　旧石器時代１～５号礫群

第２節　旧石器時代の遺構と遺物

１　概要

富沢内野山Ｖ遺跡は前節でも述べているように、独立した尾根上に位置している。この遺跡の範囲内に該当するＣＲ36地点６区として設定された調査区は、この尾根頂部から東側にかけての区域に該当する。この尾根自体は緩やかに東へ標高値を減じつつも平坦な土地が展開する。調査の結果、休場層を中心に旧石器時代の遺構と遺物が確認されている。遺構は礫群が主体である。礫群は被熱に由来するものと考えられる赤化礫を主体とする。

この富沢内野山Ｖ遺跡の調査の結果では、旧石器時代の遺構・遺物は第Ｉ黒色帯より下位では未確認のまま終了している。石器もまた多く出土し、石器は礫群とほぼ同一地点で出土したため、遺物集中地点という理解も可能であるが、富沢内野山Ｉ西遺跡と同様、礫群を基調とした報告を行う。なお礫群・石器の検討・分類については、平成23年度に柴田亮平の教示のもと西田真由子が行い、勝又が文章化している。

２　遺構

（１）　礫群

１号礫群（第198・199図　第49・52表）

当該礫群はＣＢ24・25グリッドに位置し、礫６点で構成される。礫は主として休場層直下黒色帯にて出土している。礫はいずれも赤化礫である。この礫群は調査区北壁際で確認され、本来的には調査区外へ拡がる可能性がある。

２号礫群（第198・199図　第49・52表　写真図版74）

当該礫群はＣＢ27グリッド南西隅に位置し、礫６点で構成され、このうち５点は赤化礫である。これら礫は主として休場層中層から上層にかけて出土している。この礫群及び南側に位置する３号礫群は尾根頂部から緩やかに傾斜し始める箇所に展開する。周囲で石器の出土が認められるため、併せて石器ブロックと設定することも可能である。

３号礫群（第198・199図　第49・52表）

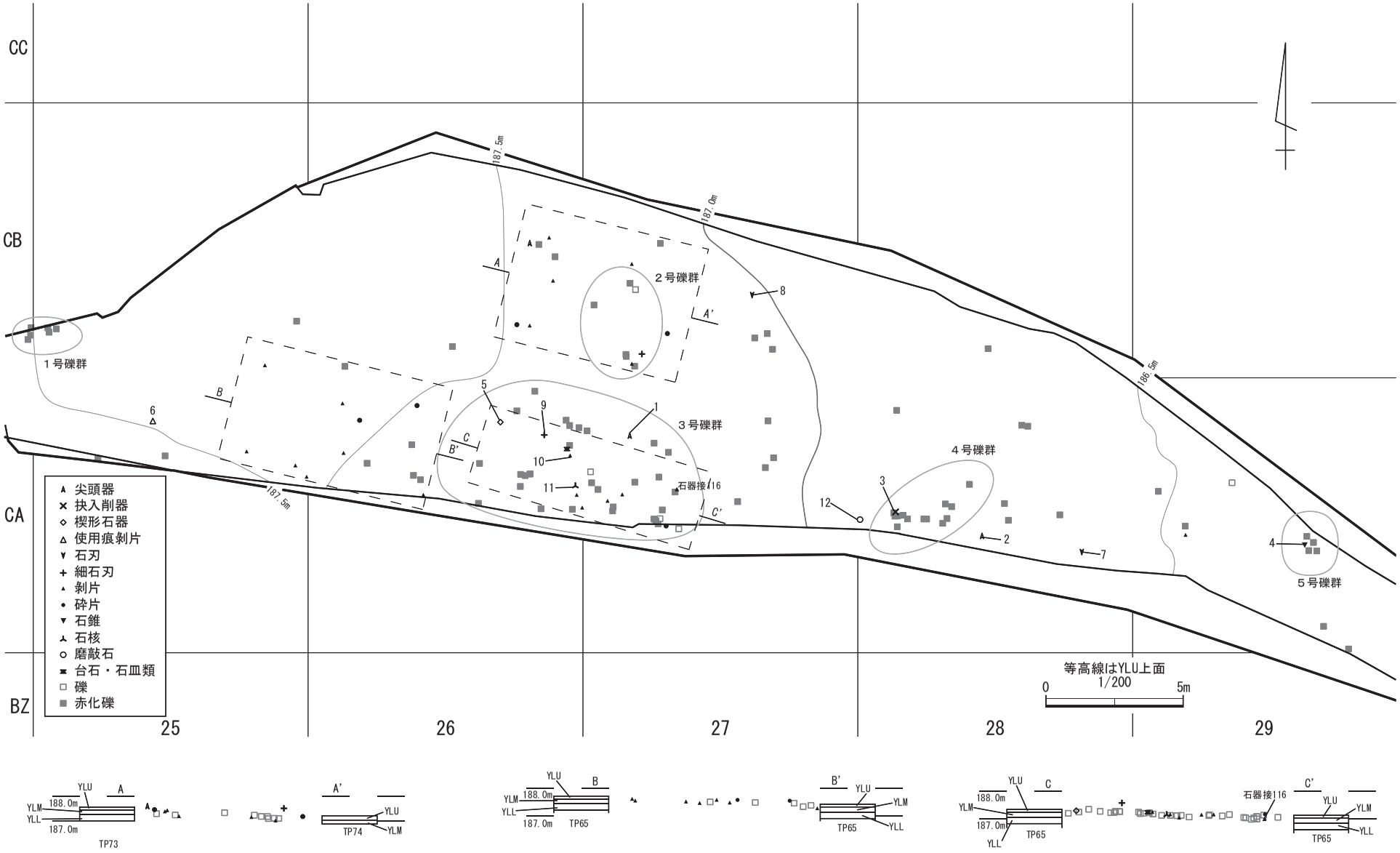
当該礫群はＣＡ26・27グリッドに位置し、礫32点で構成され、このうち29点は赤化礫である。礫は主に休場層中層から上層にかけて出土している。この礫群は調査区南壁際に位置し、その範囲が更に拡がる可能性がある。また石器の出土範囲と合致するため、石器ブロックと設定することも可能である。

４号礫群（第198・199図　第49・52表）

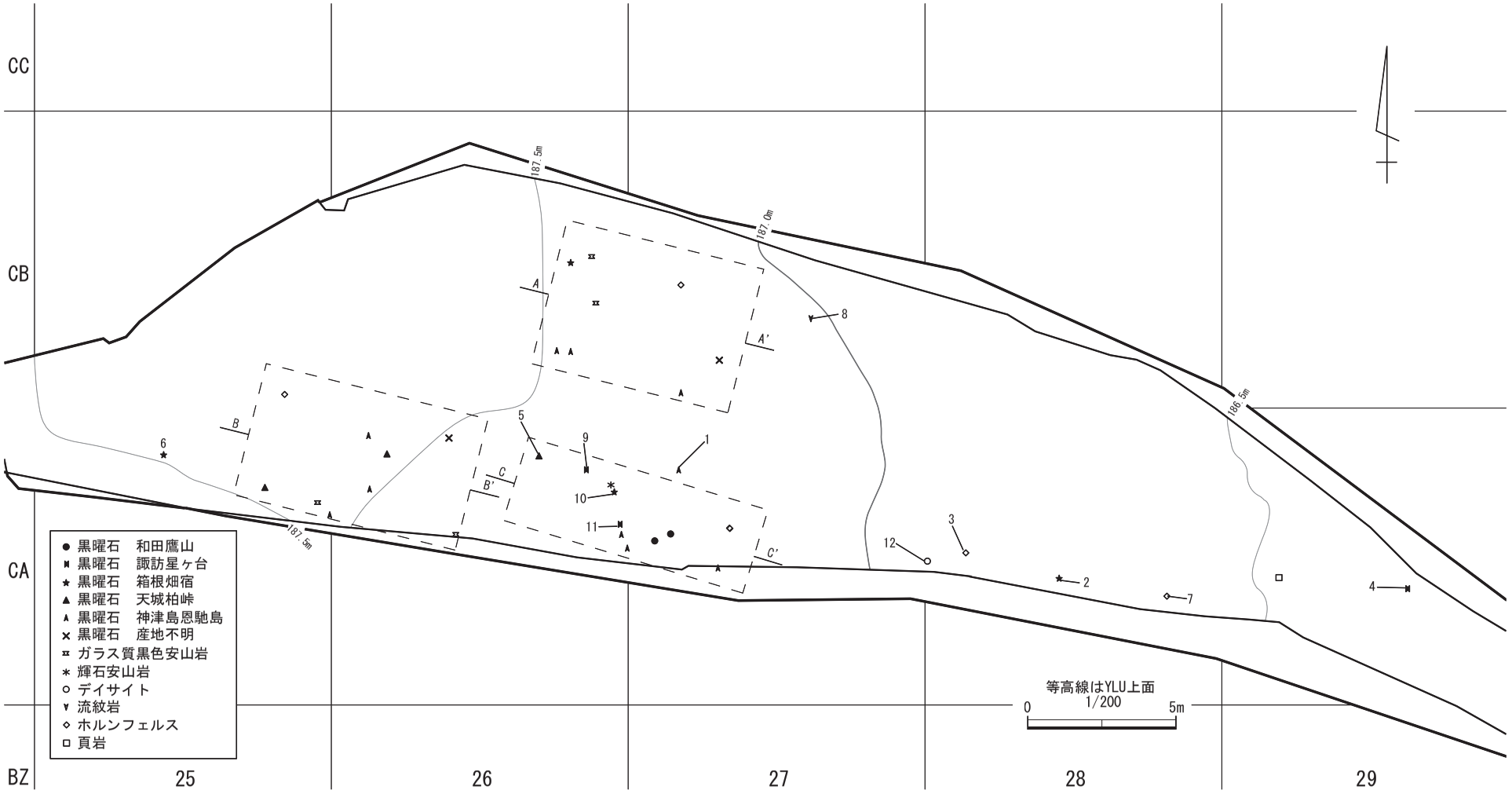
当該礫群はＣＡ28グリッドに位置している。礫13点で構成される。礫は主として休場層上層にて出土している。礫はいずれも赤化礫である。礫群は３号礫群から東へ約７ｍの位置にあり、調査区南側へ拡がる可能性を持つ。

５号礫群（第198・199図　第49・52表）

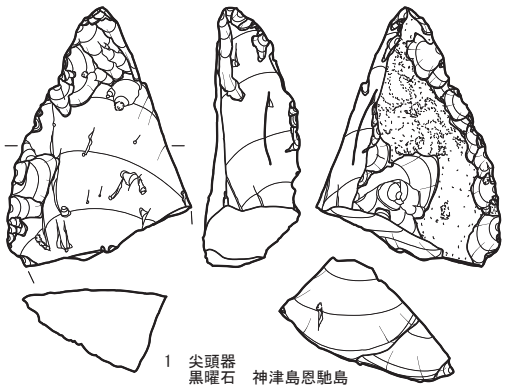
当該礫群はＣＡ29グリッドに位置している。礫４点で構成される。礫は主として休場層上層で出土している。礫はいずれも赤化礫である。この礫群は１～４号礫群から離れ、石錐が１点出土している。



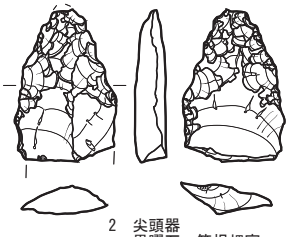
第200図　旧石器時代器種別分布図



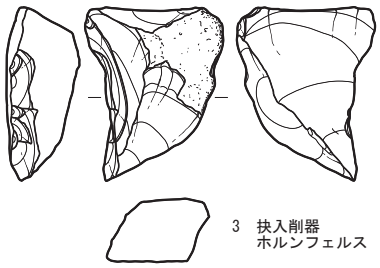
第201図　旧石器時代石材別分布図



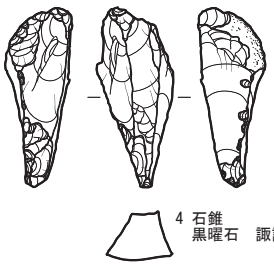
1　尖頭器
黒曜石　神津島恩馳島



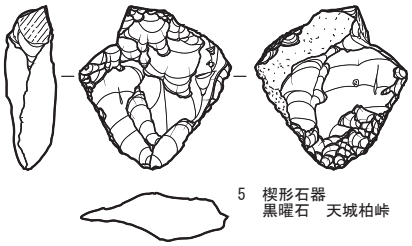
2　尖頭器
黒曜石　箱根畑宿



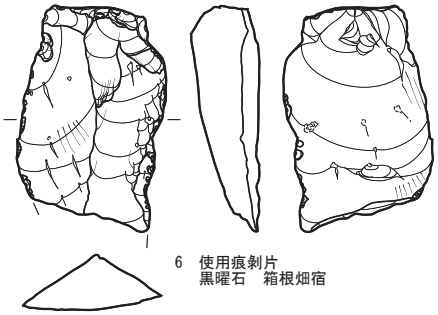
3　抉入削器
ホルンフェルス



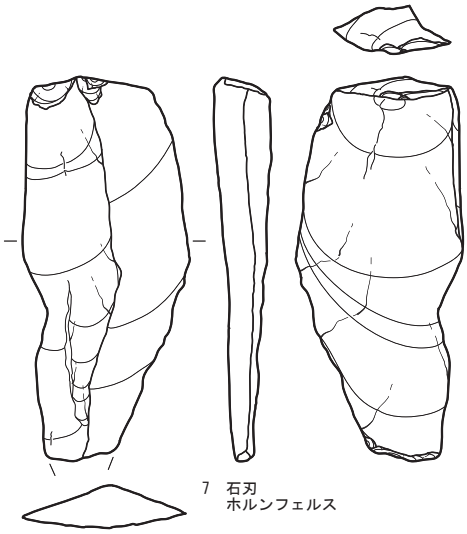
4 石錐
黒曜石　諏訪星ヶ台



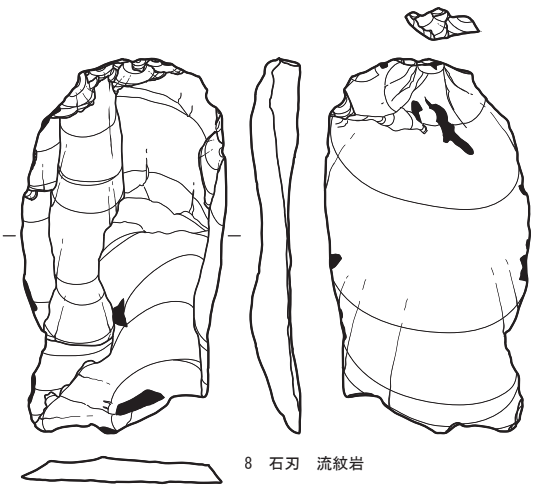
5　楔形石器
黒曜石　天城柏峠



6　使用痕剝片
黒曜石　箱根畑宿

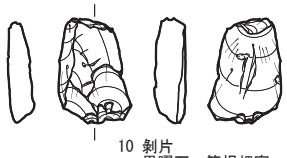


7　石刃
ホルンフェルス



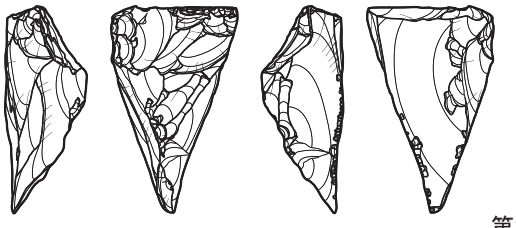
8　石刃　流紋岩

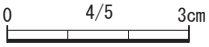
9 細石刃
黒曜石　諏訪星ヶ台

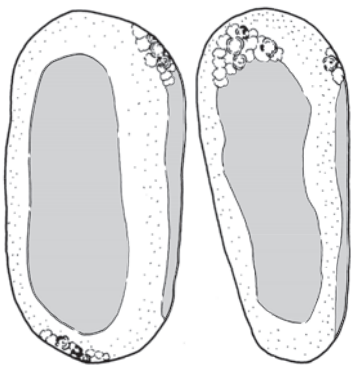


10 剝片
黒曜石　箱根畑宿

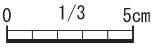
11 石核
黒曜石　諏訪星ヶ台







12 磨敲石
デイサイト



第202図　旧石器時代石器

石器ブロック（第200・201図）

石器はＣＡ・ＣＢ26・27グリッドの主に休場層上層にて出土する。その出土地点は２・３号礫群の範囲と重複する。出土石器は剥片が多いが、石刃・細石刃等も確認される。石器の石材は黒曜石が主体で、神津島恩馳島産がやや多い。３号礫群には諏訪星ヶ台産黒曜石の石核が１点出土している。また３号礫群東側にも剥片等の散布が確認され、石器ブロックとして設定が可能である。

（２）　遺物（第200～202図　第50・51表　写真図版75）

１～12は第Ⅰスコリア層から栗色土層にて出土した石器である。１・２は尖頭器か。石材は共に黒曜石で、前者は神津島恩馳島産、後者は箱根畑宿産である。１は下半部が折損した資料である。両面共に素材面、自然面が残置し、側縁のみ剥離調整による加工が施されている。２もまた下半部が折損している。両面共に素材面が残置し、先端部に細かい剥離を加えた部分調整の尖頭器である。３は抉入削器か。ホルンフェルスを石材とする。一部に自然面が残置し、片側側縁に抉りを入れている。４は石錐か。一部自然面が残置する。５は楔形石器か。天城柏峠産黒曜石を石材とする。６は使用痕剥片で、箱根畑宿産黒曜石を石材とする。縁辺に僅かであるが微細な剥離が見られる。７・８は石刃である。前者はホルンフェルス、後者は流紋岩を石材とする。両者とも打面部は残置する。９は細石刃である。諏訪星ヶ台産黒曜石を石材とする。11は石核か。諏訪星ヶ台産黒曜石を石材とする。側縁の一部に微細な剥離が観察される。12は磨敲石である。デイサイトを石材としている。棒状の礫を利用し、上下端部に敲打痕が見られる。

第49表　旧石器時代礫属性表

礫群番号	構成礫数	赤化					形態			石材						
		完形		非完形			亜角	亜円	円	玄武岩	多孔質玄武岩	輝石安山岩	多孔質安山岩	デイサイト	頁岩	細粒砂岩
		非赤化	赤化	非赤化	赤化１	赤化２										
１号礫群	6		3		2	1	6			2		4				
２号礫群	6		2	1	2	1	5		1	1		4			1	
３号礫群	32	1	14	2	12	3	23	7	2	4	1	22	4			1
４号礫群	13		2		7	4	12	1		1	1	9	1	1		
５号礫群	4		1		3		1	2	1	2		1	1			
遺構外	32		9	1	20	2	24	8		8		21	3			
計	93	1	31	4	46	11	71	18	4	18	2	61	9	1	1	1

第50表　旧石器時代石器組成表

			尖頭器	抉入削器	楔形石器	石核	石刃	細石刃	使用痕剥片	剥片	砕片	石錐	磨敲石	台石・石皿類	計
黒曜石	天城柏峠	AGKT			1					1	1				3
	箱根畑宿	HNHJ	2						1	1					4
	神津島恩馳島	KZOB	1					1		7	2				11
	諏訪星ヶ台	SWHD				1		1				1			3
	和田鷹山	WDTY								2					2
	産地不明										2				2
	黒曜石計		3		1	1		2	1	11	5	1			25
ガラス質黒色安山岩		GAn								4					4
輝石安山岩		An(Py)												1	1
デイサイト		Da											1		1
流紋岩		Rhy					1								1
ホルンフェルス		Hor		1			1			4					6
頁岩		Sh								1					1
計			3	1	1	1	2	2	1	20	5	1	1	1	39

第51表　旧石器時代石器一覧表

挿図番号	遺物番号	枝番	層位	器種	石材	ob分析番号	原産地名	接合番号	グリッド	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	X座標	Y座標	Z座標
1	3403	KU	尖頭器	黒曜石	264	神津島恩馳島		CA-27	(4.21)	2.97	1.57	13.12	−91532.081	36221.703	187.612
2	10672	KU	尖頭器	黒曜石	265	箱根畑宿		CA-28	(2.48)	1.62	0.51	1.90	−91535.730	36234.520	187.090
3	11903	YLU	抉入削器	ホルンフェルス				CA-28	2.84	2.25	1.21	7.48	−91534.877	36231.375	186.852
4	11708	YLU	石錐	黒曜石	143	諏訪星ヶ台		CA-29	2.69	1.20	1.03	2.94	−91536.084	36246.262	186.078
5	11954	YLU	楔形石器	黒曜石	152	天城柏峠		CA-26	1.95	2.29	0.82	4.05	−91531.612	36216.997	187.288
6	11972	SC I	使用痕剥片	黒曜石	160	箱根畑宿		CA-25	(3.45)	2.22	1.03	7.47	−91531.571	36204.351	187.160
7	9562	KU	石刃	ホルンフェルス				CA-28	(6.30)	2.70	0.97	14.04	−91536.336	36238.150	187.262
8	11933	YLM	石刃	流紋岩				CB-27	6.17	3.30	0.78	15.87	−91526.990	36226.155	186.812
9	9661	KU	細石刃	黒曜石	248	諏訪星ヶ台		CA-26	(1.82)	0.81	0.23	0.40	−91532.078	36218.592	187.570
10	11681	YLU	剝片	黒曜石	139	箱根畑宿		CA-26	1.73	1.07	0.49	0.84	−91532.821	36219.533	187.249
11	11953	YLU	石核	黒曜石	151	諏訪星ヶ台		CA-26	2.21	3.45	1.35	6.44	−91533.915	36219.730	187.160
12	11904	YLU	磨敲石	デイサイト				CA-28	13.80	6.77	6.80	853.8	−91535.156	36230.081	186.833
	10084	KU	細石刃	黒曜石	249	神津島恩馳島		CB-27	(1.19)	0.8	0.17	0.15	−91529.140	36222.148	187.460
	10465	YLU	剝片	頁岩				CA-29	7.20	1.92	0.75	9.50	−91535.711	36241.925	186.201
	11235	ZN	尖頭器	黒曜石	54	箱根畑宿		CB-26	3.25	1.18	0.68	2.11	−91525.100	36218.065	187.538
	11683	YLU	砕片	黒曜石	140	産地不明		CA-26	0.52	0.35	0.03	0.01	−91531.010	36213.963	187.554
	11685	YLU	剝片	黒曜石	141	天城柏峠		CA-25	2.34	1.41	0.50	1.56	−91532.674	36207.762	187.565
	11720	YLU	台石・石皿類	輝石安山岩				CA-26	224	193	68	4300	−91532.591	36219.419	187.228
	11806	YLU	砕片	黒曜石	145	神津島恩馳島		CA-27	0.62	0.56	0.10	0.05	−91535.385	36223.025	187.156
	11918	YLU	剝片	黒曜石	146	和田鷹山		CA-27	1.30	0.70	0.15	0.12	−91534.240	36221.430	187.160
	11919	YLU	剝片	黒曜石	147	和田鷹山		CA-27	2.24	1.41	0.23	0.61	−91534.473	36220.895	187.153
	11931	YLU	剝片	ホルンフェルス				CB-27	55.30	67.30	25.30	112.89	−91525.856	36221.777	187.141
	11932	YLU	砕片	黒曜石	148	産地不明		CB-27	0.37	0.64	0.07	0.02	−91528.390	36223.072	187.158
	11935	YLM	剝片	黒曜石	149	神津島恩馳島		CB-27	1.17	0.96	0.24	0.28	−91529.485	36221.779	187.014
	11950	YLU	剝片	ガラス質黒色安山岩				CA-26	7.76	4.92	1.22	43.11	−91534.255	36214.193	187.284
	11952	YLU	剝片	黒曜石	150	神津島恩馳島		CA-26	1.61	1.49	0.37	0.73	−91534.257	36219.772	187.164
	11955	YLM	剝片	黒曜石	153	神津島恩馳島		CA-26	1.24	0.72	0.20	0.17	−91534.718	36219.972	187.043
	11956	YLM	剝片	黒曜石	154	神津島恩馳島		CA-26	1.91	1.65	0.64	1.12	−91532.730	36211.290	187.492
	11957	YLM	砕片	黒曜石	155	天城柏峠		CA-26	0.47	0.52	0.09	0.03	−91531.545	36211.875	187.582
	11958	YLM	剝片	黒曜石	156	神津島恩馳島		CA-26	2.46	1.17	0.55	1.09	−91530.927	36211.252	187.594
	11963	YLU	砕片	黒曜石	157	神津島恩馳島		CB-26	−	−	−	−	−91528.067	36217.595	187.410
	11964	YLU	剝片	黒曜石	158	神津島恩馳島		CB-26	0.54	1.31	0.35	0.16	−91528.097	36218.063	187.390
	11965	YLM	剝片	ガラス質黒色安山岩				CB-26	2.95	4.15	0.94	10.07	−91526.465	36218.911	187.172
	11966	YLM	剝片	ガラス質黒色安山岩				CB-26	3.52	1.68	0.54	3.79	−91524.898	36218.770	187.347
	11969	YLM	剝片	黒曜石	159	神津島恩馳島		CA-25	1.23	0.91	0.50	0.44	−91533.597	36209.946	187.479
	11970	YLM	剝片	ガラス質黒色安山岩				CA-25	1.45	0.66	0.15	0.17	−91533.184	36209.537	187.532
	11974	YLM	剝片	ホルンフェルス				CB-25	(4.69)	2.54	0.98	13.22	−91529.542	36208.428	187.626
	11917	YLM	剝片	ホルンフェルス			116	CA-27	−	−	−	−	−91534.056	36223.428	187.011
	11987	YLM	剝片	ホルンフェルス			116	CA-27	5.41	3.90	1.90	38.26	−91534.044	36223.415	186.989

第52表　旧石器時代礫一覧表

遺構名	遺物番号	枝番	層位	石材	礫形態	接合番号	グリッド	被熱	完形	長さ（cm）	幅（cm）	厚さ（cm）	重量（g）	X座標	Y座標	Z座標
1号礫群	11975		BBO	輝石安山岩	亜角		CB-25	○		7.2	5.8	4.8	−	−91528.185	36200.530	187.408
1号礫群	11976		BBO	玄武岩	亜角		CB-25	○		7.3	5.5	4.2	20	−91528.342	36200.573	187.429
1号礫群	11977		BBO	輝石安山岩	亜角		CB-25	○		7.7	7.0	2.5	80	−91528.219	36200.839	187.426
1号礫群	11980		BBO	玄武岩	亜角		CB-24	○	○	7.3	6.3	2.9	70	−91528.606	36199.806	187.420
1号礫群	11981		BBO	輝石安山岩	亜角		CB-24	○	○	9.2	7.0	2.0	160	−91528.448	36199.904	187.441
1号礫群	11982		BBO	輝石安山岩	亜角		CB-24	○	○	9.8	6.5	2.1	190	−91528.177	36199.920	187.440
2号礫群	11926		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-27	○	○	7.3	5.7	5.1	290	−91529.149	36221.563	187.156
2号礫群	11927		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-27			3.0	2.6	1.5	290	−91526.792	36221.913	187.162
2号礫群	11928		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-27	○		8.9	7.1	4.0	980	−91526.563	36221.712	187.207
2号礫群	11930		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-27	○		5.4	2.8	2.4	1970	−91527.349	36220.402	187.295
2号礫群	11934		YLM	頁岩	円		CB-27	○		0.9	0.9	0.6	540	−91529.578	36221.881	187.088
2号礫群	11937		YLM	玄武岩	亜角		CB-27	○	○	10.1	6.4	5.8	700	−91529.220	36221.576	187.084
3号礫群	3582		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○		15.1	9.4	8.0	460	−91532.376	36222.588	187.147
3号礫群	10213		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○		7.5	6.1	3.4	110	−91532.710	36223.109	187.025
3号礫群	11797		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	5.5	5.3	4.1	420	−91531.926	36220.150	187.119
3号礫群	11798		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		10.4	8.6	7.4	400	−91531.813	36219.855	187.169
3号礫群	11799		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		5.5	3.5	1.4	460	−91531.735	36219.517	187.192
3号礫群	11801		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	11.5	9.6	4.1	1320	−91535.138	36222.582	186.974
3号礫群	11802		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○		10.9	8.6	2.1	360	−91534.804	36222.887	187.079
3号礫群	11803		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27			5.8	4.2	3.2	290	−91535.123	36222.803	186.987
3号礫群	11804		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	6.8	5.9	3.4	590	−91535.313	36222.733	187.076
3号礫群	11805		YLU	細粒砂岩	円		CA-27		○	2.4	1.9	1.3	150	−91535.493	36223.486	187.048
3号礫群	11807		YLU	輝石安山岩	円		CA-27	○	○	13.1	7.7	5.8	80	−91535.194	36222.659	187.023
3号礫群	11912		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	7.6	6.2	4.0	190	−91533.610	36222.762	187.043
3号礫群	11913		YLM	輝石安山岩	亜円		CA-27	○		7.5	6.5	2.8	60	−91533.795	36221.886	187.096
3号礫群	11914		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	6.5	5.0	4.5	390	−91534.059	36220.546	187.059
3号礫群	11915		YLM	多孔質安山岩	亜円		CA-27	○	○	10.5	7.3	5.6	332	−91533.818	36220.315	187.118
3号礫群	11916		YLM	輝石安山岩	亜円		CA-27			8.4	6.0	2.3	331	−91533.419	36220.278	187.108
3号礫群	11920		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○		11.1	7.5	4.5	−	−91534.840	36221.079	187.141
3号礫群	11921		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○		11.6	10.6	2.0	70	−91534.696	36221.101	187.110
3号礫群	11923		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	9.6	6.1	3.9	80	−91534.153	36223.352	187.126
3号礫群	11938		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○	○	13.2	7.4	3.8	−	−91534.780	36219.614	187.118
3号礫群	11939		YLU	玄武岩	亜角		CA-26	○	○	10.2	5.2	3.2	20	−91532.457	36219.516	187.215
3号礫群	11940		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		5.5	3.3	1.3	80	−91531.542	36219.387	187.237
3号礫群	11941		YLU	玄武岩	亜角		CA-26	○		8.6	8.5	6.3	70	−91530.487	36218.249	187.265
3号礫群	11942		YLU	玄武岩	亜角		CA-26	○		8.9	5.6	4.6	160	−91531.203	36217.596	187.341
3号礫群	11943		YLU	多孔質安山岩	亜円		CA-26	○		10.0	4.3	4.7	190	−91533.493	36218.082	187.253
3号礫群	11944		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○	○	5.8	4.8	3.6	290	−91533.555	36217.899	187.267
3号礫群	11945		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		13.2	10.2	4.0	290	−91533.513	36217.732	187.217
3号礫群	11946		YLU	多孔質安山岩	亜円		CA-26	○	○	5.1	4.1	2.7	980	−91533.501	36218.067	187.263
3号礫群	11947		YLU	多孔質安山岩	亜円		CA-26	○		9.4	6.5	2.7	1970	−91534.565	36216.197	187.241
3号礫群	11960		YLM	多孔質玄武岩	亜円		CA-26	○	○	7.0	6.3	4.2	540	−91534.763	36218.474	187.183
3号礫群	11961		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		8.7	6.1	4.4	700	−91533.951	36217.722	187.222
3号礫群	11962		YLM	玄武岩	亜角		CA-26	○	○	6.7	5.5	4.9	460	−91533.113	36216.238	187.194
4号礫群	11892		YLU	玄武岩	亜角		CA-28	○	○	13.5	8.4	4.9	110	−91533.875	36234.062	186.477
4号礫群	11893		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		7.1	5.1	3.3	420	−91534.686	36233.415	186.748
4号礫群	11894		YLU	多孔質安山岩	亜角		CA-28	○		12.3	10.1	6.3	400	−91534.587	36233.185	186.772
4号礫群	11895		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		6.6	3.5	1.8	460	−91535.117	36233.245	186.511
4号礫群	11896		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		11.3	9.8	8.3	1320	−91535.136	36232.505	186.745
4号礫群	11897		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		9.5	6.5	4.3	360	−91535.134	36232.404	186.726
4号礫群	11898		YLU	デイサイト	亜角		CA-28	○		7.0	5.5	4.3	290	−91535.131	36231.809	186.791
4号礫群	11899		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		5.3	3.2	3.0	590	−91534.998	36231.651	186.816
4号礫群	11900		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		9.6	7.1	3.3	150	−91535.026	36231.445	186.858
4号礫群	11901		YLU	多孔質玄武岩	亜角		CA-28	○		9.5	7.6	2.6	80	−91534.913	36231.307	186.805
4号礫群	11902		YLU	輝石安山岩	亜円		CA-28	○		7.0	6.6	4.4	190	−91535.417	36231.437	186.716
4号礫群	11905		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-28	○	○	7.3	6.3	5.1	60	−91535.291	36233.090	186.580
4号礫群	11986		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		6.4	4.2	2.3	390	−91535.031	36231.350	186.778
5号礫群	11705		YLU	輝石安山岩	亜円		CA-29	○		7.0	6.6	5.1	331	−91535.766	36246.337	186.177
5号礫群	11706		YLU	多孔質安山岩	亜円		CA-29	○	○	7.8	6.4	4.9	150	−91536.297	36246.699	186.113
5号礫群	11707		YLU	玄武岩	亜角		CA-29	○		7.5	6.2	5.5	270	−91535.989	36246.578	186.033
5号礫群	11724		YLU	玄武岩	円		CA-29	○		5.7	5.0	2.8	120	−91536.284	36246.408	186.090
	10139		YLU	玄武岩	亜角		CB-26	○		13.5	7.7	4.1	330	−91529.583	36211.337	187.510
	10174		YLU	−	−		CA-28	−	−	−	−	−	−	−91531.183	36231.415	186.592
	10463		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-29	○		9.9	6.9	5.3	370	−91535.392	36241.914	186.205
	10464		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-29	○		9.2	6.7	3.0	220	−91534.129	36240.934	186.259
	11578		YLU	−	−		CA-29	−	−	−	−	−	−	−91539.038	36246.947	186.211
	11684		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		6.2	4.3	0.8	20	−91533.707	36214.090	187.385
	11704		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-29			7.4	5.6	2.8	80	−91533.816	36243.616	186.318
	11710		YLU	輝石安山岩	亜円		CA-29	○		6.3	4.8	2.4	70	−91539.861	36247.856	186.189
	11713		YLU	玄武岩	亜角		BZ-30	○		9.8	5.0	4.8	160	−91540.581	36250.601	185.961
	11714		YLU	玄武岩	亜角		BZ-30	○		11.7	5.4	4.6	190	−91540.867	36250.473	185.980
	11716		YLU	玄武岩	亜角		CA-30	○	○	7.6	6.9	5.5	290	−91539.350	36251.164	185.766
	11728		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		12.4	6.6	5.0	290	−91534.572	36235.336	186.706
	11795		YLU	玄武岩	亜角		CB-27	○		17.4	16.3	3.4	980	−91528.391	36226.706	186.839
	11800		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-26	○		22.0	12.1	9.1	1970	−91528.862	36215.250	187.340
	11888		YLU	輝石安山岩	亜円		CA-28	○	○	9.8	8.8	5.4	540	−91531.761	36236.184	186.474
	11889		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○	○	10.8	8.7	8.4	700	−91531.725	36235.963	186.477
	11890		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		12.2	8.3	4.6	460	−91534.984	36237.351	186.648
	11891		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-28	○		9.2	6.0	2.9	110	−91535.180	36235.480	186.616
	11906		YLU	多孔質安山岩	亜円		CB-28	○	○	10.0	8.0	6.1	420	−91528.940	36234.740	186.586
	11908		YLU	輝石安山岩	亜円		CA-27	○	○	9.6	9.1	5.1	400	−91531.567	36226.733	186.992
	11909		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-27	○	○	9.4	7.8	5.8	460	−91532.909	36226.936	186.923
	11910		YLM	玄武岩	亜円		CA-27	○		18.9	12.4	7.6	1320	−91533.266	36226.637	186.885
	11911		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-27	○		8.8	6.1	5.6	360	−91534.502	36225.629	186.902
	11924		YLU	多孔質安山岩	亜角		CB-27	○	○	9.8	9.5	4.1	290	−91528.962	36226.898	186.931
	11925		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-27	○		13.8	11.1	5.4	590	−91528.551	36226.251	186.854
	11929		YLU	輝石安山岩	亜角		CB-27	○		7.0	6.7	4.3	150	−91525.112	36222.817	187.095
	11948		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○	○	6.1	4.7	3.1	80	−91532.434	36213.773	187.465
	11949		YLU	輝石安山岩	亜円		CA-26	○		10.5	6.9	4.8	190	−91533.549	36213.834	187.338
	11951		YLU	輝石安山岩	亜角		CA-26	○		7.3	5.5	2.1	60	−91533.108	36212.147	187.489
	11967		YLM	玄武岩	亜角		CB-26	○		9.5	8.8	5.9	390	−91525.149	36218.395	187.262
	11968		YLM	輝石安山岩	亜円		CB-26	○		11.2	11.0	4.4	331	−91525.596	36218.985	187.215
	11971		YLM	輝石安山岩	亜角		CA-25	○		8.4	3.8	3.6	−	−91532.839	36204.797	187.357
	11973		YLM	多孔質安山岩	亜円		CB-25	○	○	5.5	4.3	3.5	70	−91527.940	36209.583	187.705
	11998		BB I	玄武岩	亜角		CA-25	○		24.9	19.1	5.1	80	−91532.946	36202.354	186.746

「−」は計測不能或いは不明

第３節　縄文時代の遺構と遺物

１　概要

（１）　遺構

富沢内野山Ⅴ遺跡で確認された縄文時代の遺構は、集石４基、土坑１基、炉跡15基である。これらの遺構は主にＣＡ28グリッドに多く分布している。特に当該グリッド内に炉跡が集中、且つ重複するものが見受けられる。遺跡から南西の方向約330ｍの位置にある富沢内野山Ⅳ西遺跡５区でも炉跡群が確認されるが、時期差こそあれ、該期における生業の類似点を想起させる。

（２）　遺物

当該遺跡で確認された縄文時代の遺物は草創期～中期の範疇で捉えている。草創期については該期の石器のみ確認している。当該遺跡での特徴として、出土遺物は早期の押型文土器が中心で、楕円文を施した土器群が卓越している。谷を挟んだ富沢内野山Ⅲ北遺跡では早期に位置付けられる土器群は僅少で、また富沢内野山Ⅳ西遺跡では楕円文土器は見受けられず、代わりに山形文を施した土器が多い点とは対照的である。土器については池谷信之氏・小崎　晋氏に指導を受けた。

２　遺構と遺構内出土遺物

（１）　集石

当該遺跡では集石が４基確認された。そのうち３基がＣＡ28グリッド付近に分布が偏る。

１号集石（第203・204図　第53表　写真図版73）

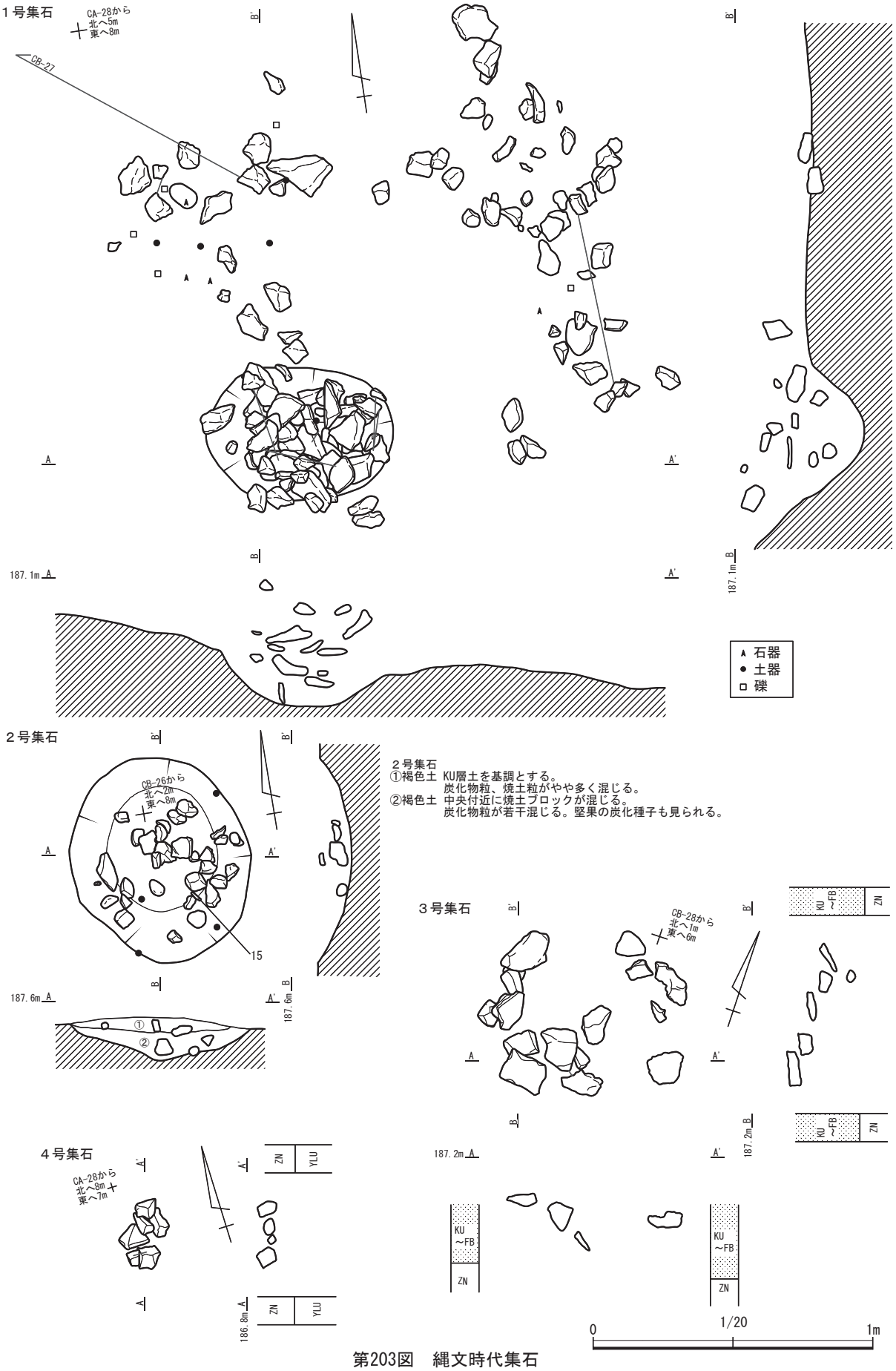
１号集石はＣＡ28グリッドの栗色～富士黒土層上面にて確認された。この集石は礫135点及び土坑１基で構成される。礫の分布範囲は不定形かつ環状で、2.10ｍ×1.95ｍを測る。礫分布範囲の南西隅に土坑が位置する。この土坑にも礫を伴う。土坑の平面は楕円形を呈し、計測値は長径0.69ｍ、短径0.48ｍ、深さ0.40ｍを測る。覆土は黄褐色～褐色土で褐色スコリア及び炭化物を含み、後者は径３～４㎜程度でやや多く含むと現地調査時に観察される。底部の形状は丸底に近い。径約15㎝程度の平坦な角礫が伴う。当該集石の西側には２号炉跡が近接する。

２号集石（第203・204・207図　第53・54表　写真図版73・75）

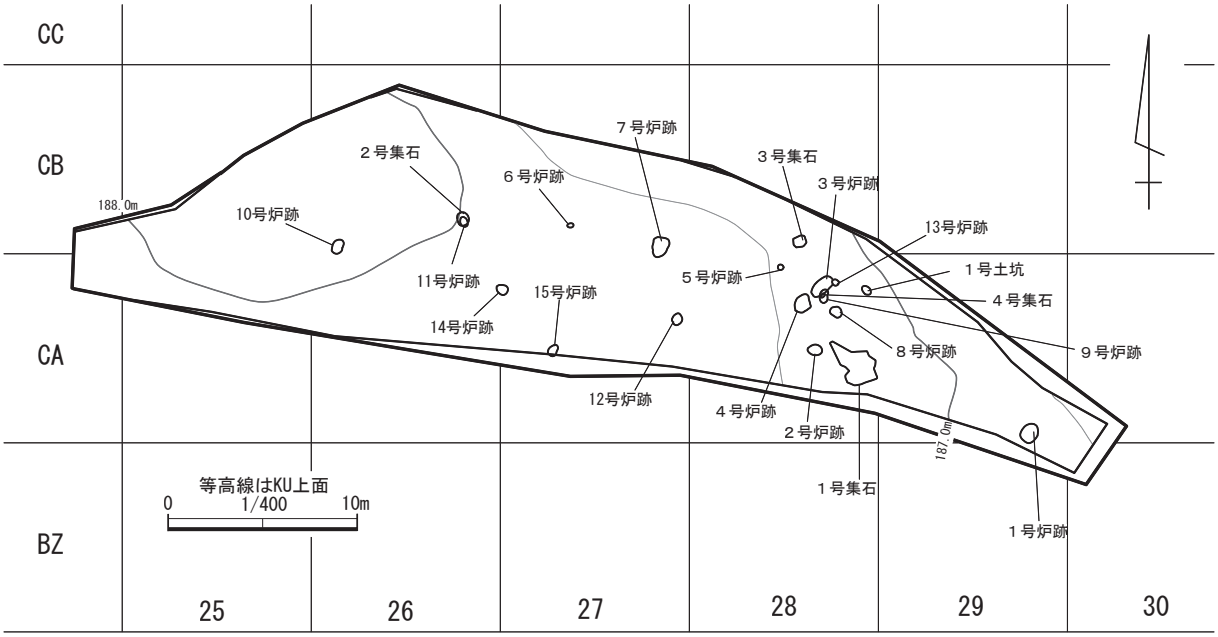
２号集石はＣＢ26グリッド南東隅付近の栗色～富士黒土層上面で確認された。この集石は礫29点で構成される。この遺構は土坑を伴う集石で、平面は楕円形を呈し、計測値は長径0.70ｍ、短径0.60ｍ、深さ0.16ｍを測る。上端から緩やかに底部に至る。覆土は全体的に炭化物が含まれ、覆土１層は栗色土層を基調とする。なおこの集石土坑の下位では11号炉跡が検出されており、同一の遺構の可能性も想起されたが、現地調査での所見では別個の遺構と判断がなされた。なお当該集石出土炭化物の放射性炭素年代測定の結果、7,890±30yrBPという数値が出されている。またこの集石から土器片（15）が出土している。15は口縁部のみの破片資料である。胎土に繊維を多く含む。内外面に条痕文か。口唇部は平坦に仕上げ、ヘラ状の工具で刻目を施している。所属時期は早期か。

３号集石（第203・204図　第53表）

３号集石はＣＢ28グリッド南縁の栗色～富士黒土層上面にて確認された。この集石は礫16点で構成さ



第203図　縄文時代集石



第204図　縄文時代遺構位置図

れる。当該集石の南側約５ｍの位置には１号集石が位置し、両集石間には炉跡が多く認められる。当該集石での礫の散布範囲は0.79ｍ×0.72ｍである。礫は20㎝程度の角礫が含まれる。

４号集石（第203・204図　第53表　写真図版73）

４号集石はＣＡ28グリッドの漸移層中で確認された。この集石は礫６点で構成される。礫は６点折り重なって確認され、散布範囲は0.25ｍ×0.16ｍを測る。なお当該集石の上位は９号炉跡が検出されており、同一遺構の可能性も想起されたが、現地調査での所見では別個の遺構とした判断がなされている。当該集石周辺は２～５・８・９号炉跡が位置し、何らかの関係を想起させる。

（２）　土坑（第204・206図　第53表）

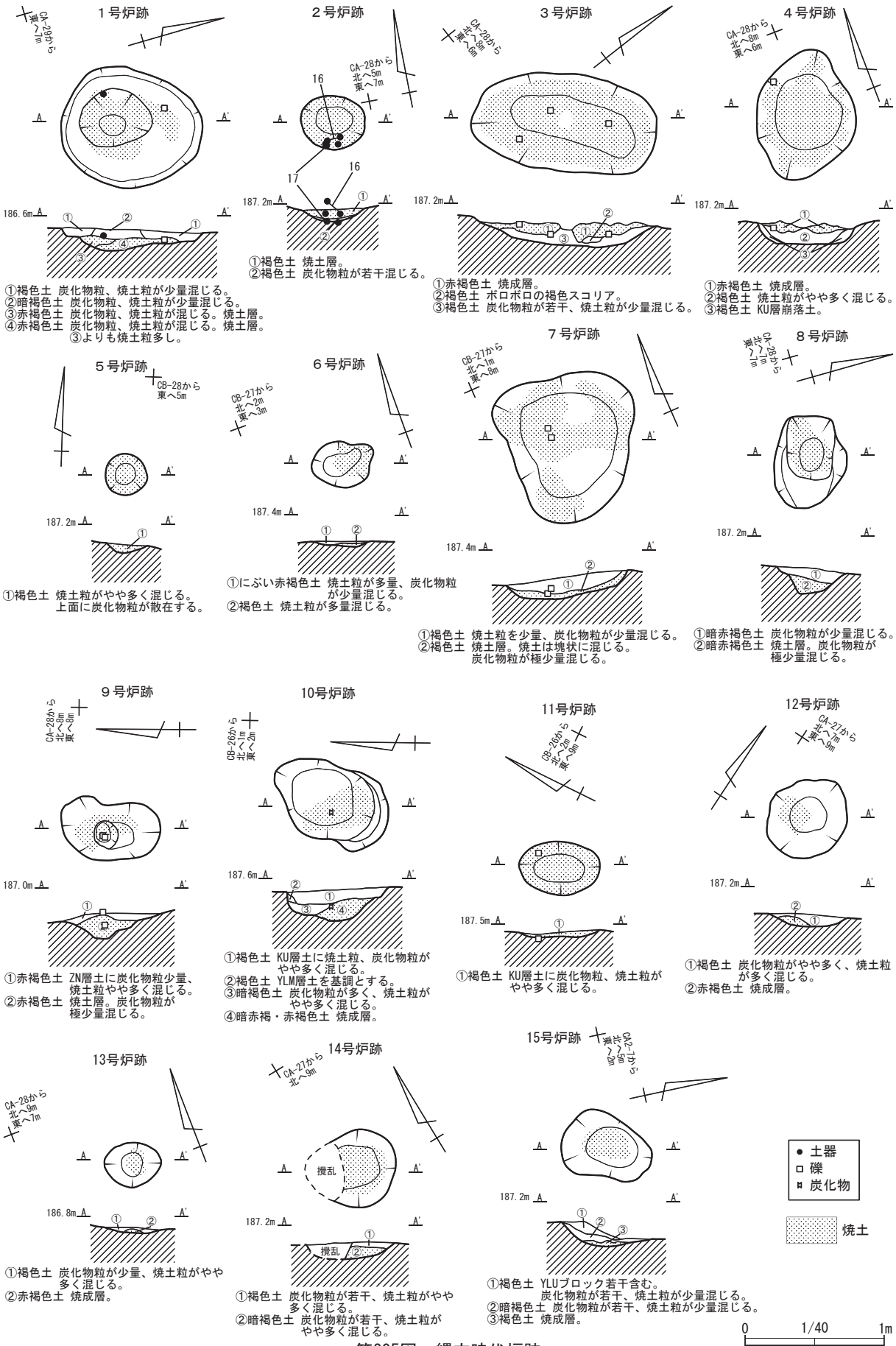
１号土坑はＣＡ28グリッドで、２～５・８・９号炉跡が位置する区域の東側に位置する。漸移層で確認された当該土坑の平面は楕円形を呈し、計測値は長径0.55ｍ、短径0.39ｍ、深さ0.16ｍを測る。底部は平坦を呈する。

（３）　炉跡（第204・205・207図　第53・54表　写真図版74・75）

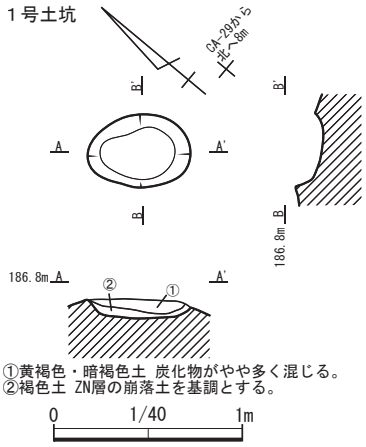
当該遺跡で確認された縄文時代の炉跡は15基を数え、13基確認された富沢内野山Ⅳ西遺跡５区と同様、濃密な分布を示す。炉跡はＣＡ26グリッドから東側にほぼ満遍なく分布するが、ＣＡ28グリッド内に数基の炉跡が集中する。大半が栗色～富士黒土層上面にて確認出来る。漸移層・休場層で確認した炉跡もある。この場合、覆土が栗色～富士黒土層に由来するものと考えられたため、縄文時代の炉跡として考えている。

平面が円～楕円形を呈するのが、１・２・５・11～13号炉跡である。１号炉跡はＣＡ29グリッドで確認された。現地調査では炉跡東側付近に硬化域が認められている。２号炉跡では土器片16・17が出土している。共に胴部のみの破片資料である。外面の施文は条痕文か。胎土に僅かに繊維が含まれる。焼成・胎土等の特徴から16・17は同一個体と考えられる。所属時期は早期か。

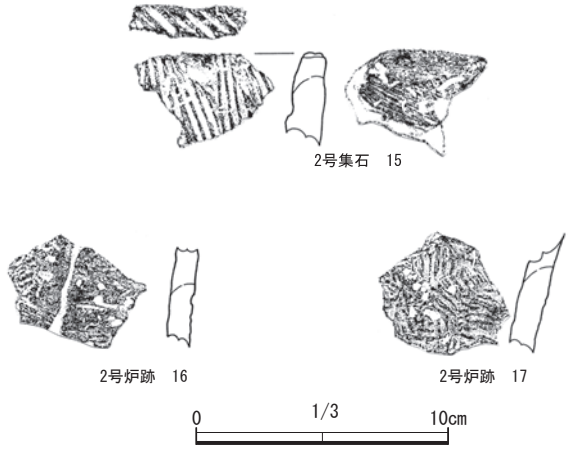
平面が長楕円形を呈しているのが３号炉跡である。長径1.35ｍ、短径0.72ｍを測る。長径と短径の比



第205図　縄文時代炉跡



第206図　縄文時代土坑



第207図　縄文時代遺構内出土遺物

第53表　縄文時代遺構計測表

報告書遺構名	調査遺構名	グリッド	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計	備考
１号集石	SY03	CA-28	KU	2.10	1.95	0.40	5	5	135		145	
２号集石	SY02	CB-26	KU	0.70	0.60	0.16	3	5	29	1	38	
３号集石	SY04	CB-28	KU	0.79	0.72	－			16		16	
４号集石	SY05	CA-28	ZN	0.25	0.16	－			6		6	
１号土坑	SF40	CA-28	ZN	0.55	0.39	0.16						
１号炉跡	FP01	CA-29	KU	1.00	0.84	0.16	1		1		2	
２号炉跡	FP02	CA-28	KU	0.46	0.38	0.08	5				5	
３号炉跡	FP03	CA-28	KU	1.35	0.72	0.24			2		2	
４号炉跡	FP04	CA-28	KU	0.95	0.73	0.16			1		1	
５号炉跡	FP05	CA-28	KU	0.30	0.30	0.08						
６号炉跡	FP07	CB-27	ZN	0.42	0.30	0.05						
７号炉跡	FP08	CB-27	KU	1.12	0.89	0.21	1		1		2	
８号炉跡	FP09	CA-28	KU	0.66	0.51	0.20						
９号炉跡	FP10	CA-28	KU	0.72	0.46	0.18			2		2	
10号炉跡	FP11	CB-26	YLM	0.86	0.58	0.24				1	1	
11号炉跡	FP12	CB-26	YLU	0.58	0.39	0.05	1				1	
12号炉跡	FP13	CA-27	YLU	0.64	0.55	0.09						
13号炉跡	FP14	CA-28	YLU	0.41	0.32	0.04						
14号炉跡	FP15	CA-27	YLM	0.55	0.38	0.12						
15号炉跡	FP16	CA-27	YLU	0.66	0.49	0.14						

第54表　縄文時代遺構内出土土器観察表

遺構名	挿図番号	写真図版番号	分類		色調(Hue)	文様調整等	繊維	胎土
			群	類				
２号集石	15	75	Ⅲ	4	5YR6/6	口唇部にヘラ状工具による刻目。内外面に条痕。ナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
２号炉跡	16	75	Ⅲ	5	10YR7/4	条痕。内外面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
２号炉跡	17	75	Ⅲ	5	10YR7/4	条痕。内外面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石

率は２：１に近く、当該遺跡で確認された炉跡の比率が1.5～１：１程度であるのと大きく異なる。この炉跡はＣＡ28グリッドの炉跡集中域の中心を占め、炉跡の長軸は北東で、等高線とは平行しない。長軸延長線上にあるのが４号炉跡である。

平面が不定形を呈するのが４・６～10・15号炉跡である。10号炉跡では炭化物が出土しており、放射性炭素年代測定を実施した結果、9,320±30yrBPという数値が出ている。

３　遺構外出土遺物

当該遺跡から出土した縄文時代のものと考えられる土器は880点を数え、石器は764点を数える。この点数は現地での取り上げた遺物の点数であり、特に土器については長泉事務所における接合作業を経た結果、点数は著しく変化している。出土した縄文土器の主体は早期代の資料である。

（１）　土器

第Ⅰ群：縄文時代早期（第208～210・214・215図　第55表　写真図版74・76～78）

縄文時代早期代の押型文及び撚糸文を施した土器群を第Ⅰ群とした。静岡県東部地域で特徴的な軽しょうで器面の色調に淡い紫色を含む早期代土器も含まれている。出土位置はＣＢ27グリッド杭を中心とした付近及びＣＡ28・29グリッド付近に濃い分布を持つ。

１類（撚糸文）

18～31を１類とした。18～20・22～25は口縁部のみの破片資料である。18は軽く外反させ、口唇部を丸く仕上げている。口唇部直下に横位の撚糸を押圧か。その直下に縦位の撚糸文を施す。胎土中に繊維が見られないのが特徴である。若宮型土器か。19・20は平坦に仕上げた口唇部をもつ。前者は撚糸文が方向を違えて施文し、後者は内外面に撚糸文を施している。18と異なり両者は繊維を胎土中に含み、やや軽い印象を受ける。22も19同様方向の異なる撚糸文が施されている。胎土中に繊維を含むが、軽しょうではない。23は平坦に仕上げられた口唇部で、指頭でつまむように押さえたため、外面口唇部直下に指頭痕が残る。外面には斜位の撚糸文が施されている。24は丸く仕上げられた口唇部を持ち、内外面に指頭痕が残る。器厚は1.1㎝とやや厚手である。23・24共に胎土中に繊維を含むが、23の方が多い。25は器厚を薄く仕上げた口縁部のみの破片資料である。方向の異なる撚糸文が施され、格子状となす。21・26～31は胴部のみの破片資料である。21の胎土はやや白い色調で、細かい気泡が見られ、軽しょうである。外面に縦位の撚糸文が施されている。21よりも細い撚糸文が施されているのが､26～31である。26～29は斜位の撚糸文を施す。30・31は方向の異なる撚糸文が施され、30は網目状に見える。いずれの資料にも繊維が胎土中に含まれる。

２類（押型文）

32～61を２類とした。楕円文や格子目文を施した資料を集成している。32～56・61は楕円文のみ施す土器群である。細久保式か。32～46は口縁部が残存する資料である。口唇部を丸く仕上げる資料が多く、口縁部は微かに外反、もしくは直線的に仕上げている。多くの資料の胎土中に繊維を含み、36・38・41は金雲母を含む。32・33・42・43は縦位密接に施文する。33は外反した口縁部で、穿孔が認められる。外面に楕円文を施した後に、口唇部をナデあげ平坦に仕上げている。口唇部のナデの後に内面に楕円文を施している。34～38・41は横位密接に、44は多方向に施文する。45は楕円文の施文方向を縦位と横位と交互に施している。46は口縁部から胴部中位まで残存する。胴部から口縁部まで直線的に立ち上げ、口唇部はやや平坦に仕上げている。外面には楕円文が横位に密接施文されている。口唇部直下に見える筋状の痕跡は、楕円文を施した工具の上端部の圧痕である。胎土には繊維がほとんど見られない。47～56は胴部のみの破片資料である。横位に楕円文が施され、繊維は含まれるが量は少ない。61は底部のみの破片資料である。乳頭状を呈する。

57・58は山形文が施された胴部のみの破片資料である。胎土中に繊維が少量含まれる。後者は綾杉状の山形文を施した後に楕円文を横位に施している。

59・60は格子目文を施した胴部下半部付近の破片資料である。59は胎土中に繊維はほとんど見られな

い。下端付近には格子目文を施した工具の上端部圧痕が見える。60は繊維を少量含み、細かい気泡が見られ軽い印象を受ける。

３類（押型文）

62～64を３類とした。楕円文を施している点では２類と共通するが、内面に所謂柵状文と呼称される直線的な押型文が施されている点から黄島式と推定され、２類から分離した。この３点の資料は同一個体と考えられる。胎土に繊維を含み、やや軽い印象を受ける。胴部から直線的に立ち上げていたものと考えられ、口唇部には僅かに平坦面を仕上げている。外面は口唇部直下より縦位の楕円文、内面は口唇部直下から柵状文を施している。

第Ⅱ群：縄文時代早期（第211・215図　第55表　写真図版76）

縄文時代早期代の沈線文系土器を集成し、第Ⅱ群に分類した。これらは田戸下層Ⅱ式と推定される。出土位置はほぼＣＡ28・29グリッド付近に限定される。第Ⅱ群とした65～68のうち65・66は口縁部のみの破片資料である。両者とも口唇部付近を軽く外反させ、強くナデあげて尖らせている。口唇部直下より半截竹管状の工具による連続刺突文、先端の細かい棒状工具による数条の沈線文を交互に施す。67は胴部のみの破片資料である。沈線で蛇行するモチーフを描き、その内部を短沈線文で充填する。共に先端が割れた細い棒状の工具によるものか。田戸下層Ⅱ式でいう沈線文間に刺突文を充填する手法に近似する。68は口縁部から胴部中位まで残存した資料である。直線的に立ち上げ、口唇部は丸く仕上げている。口唇部直下に先端の細かい棒状の工具で沈線文を２条、その下位には半截竹管状工具を用いて３条の幅の広い沈線文を横位に施している。またさらに下位に半截竹管状の工具で縦位に幅広の沈線文を施した後に、先端が割れた棒状工具で斜位に沈線文を施している。

第Ⅲ群：縄文時代早期後半（第212・213・216・217・223図　第55表　写真図版74・78～80）

縄文時代早期後半代の条痕文系の土器群を集成した。判明した型式により１～６類に分類した。

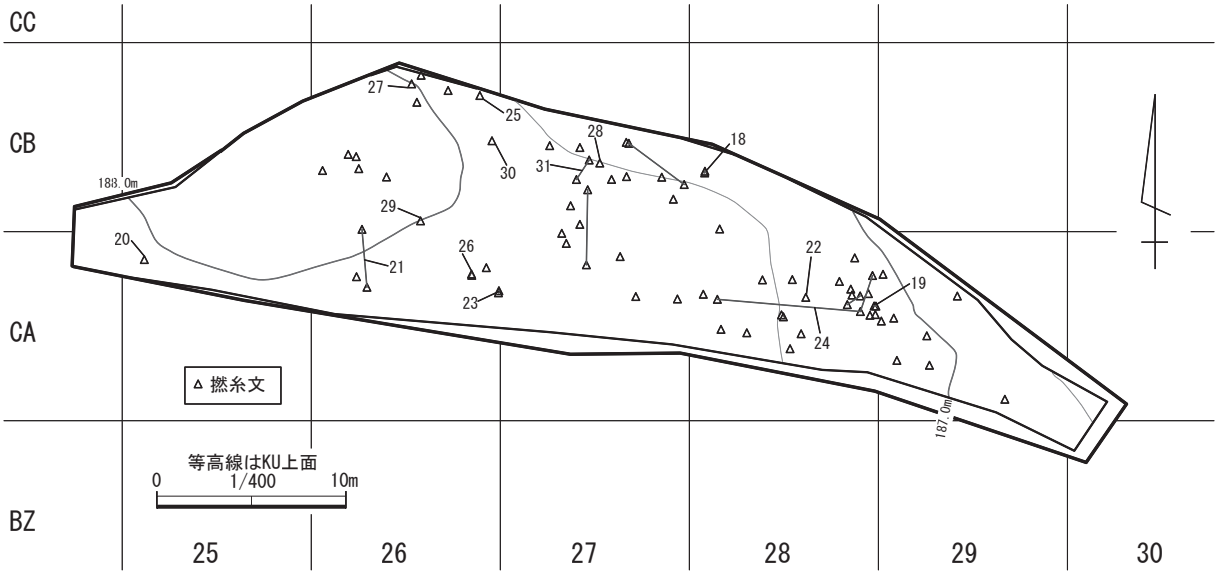
１類（子母口式）

69～71を１類とした。子母口式と考えられる資料である。出土位置はＣＡ27グリッド付近に多い。

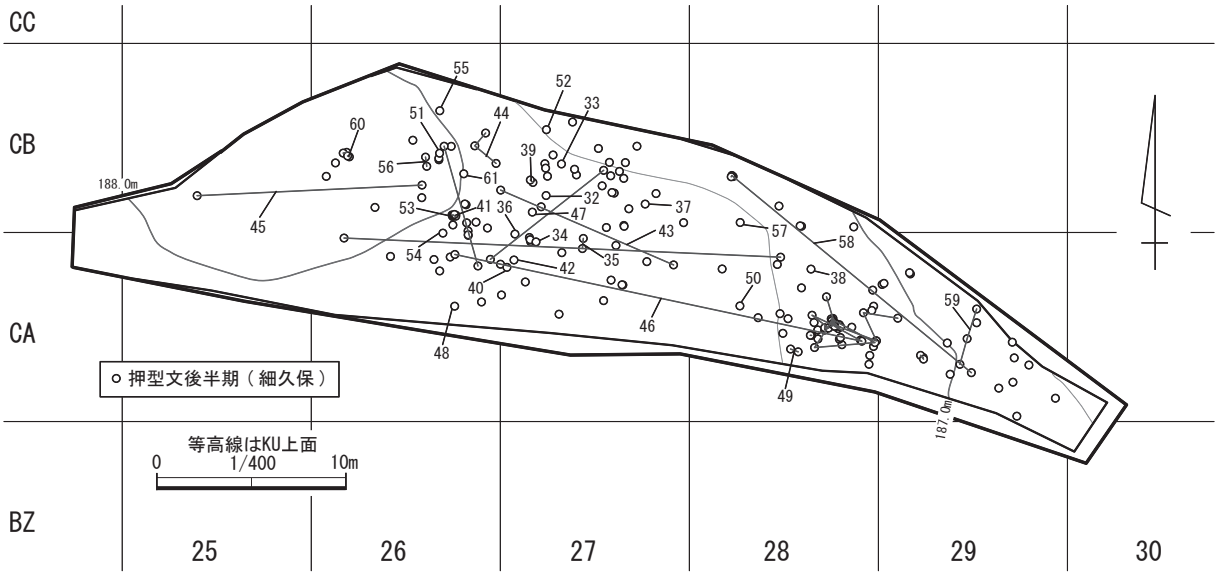
69は口縁部から胴部中位まで残存した資料である。胴部は微かに内湾させ、口縁部は軽く外反させる。口唇部付近は指頭でつまんで整形し、絡条体圧痕文を施している。口唇部直下に粘土紐を貼り付けて隆帯となし、微かに軸が見える絡条体圧痕文を施す。また口唇部から約８㎝の位置に半截竹管状の工具で平行沈線文を施す。胎土に繊維を含む。70・71は胴部のみの破片資料である。前者は69と同様に絡条体圧痕文を低平な隆帯上に施す。後者は横位に半截竹管状の工具で平行沈線文を施し、その上位に短少の粘土紐を貼り付けて棒状の浮文となし、絡条体圧痕文を施す。浮文の両脇には斜位の平行沈線文を施している。

２類（子母口式並行）

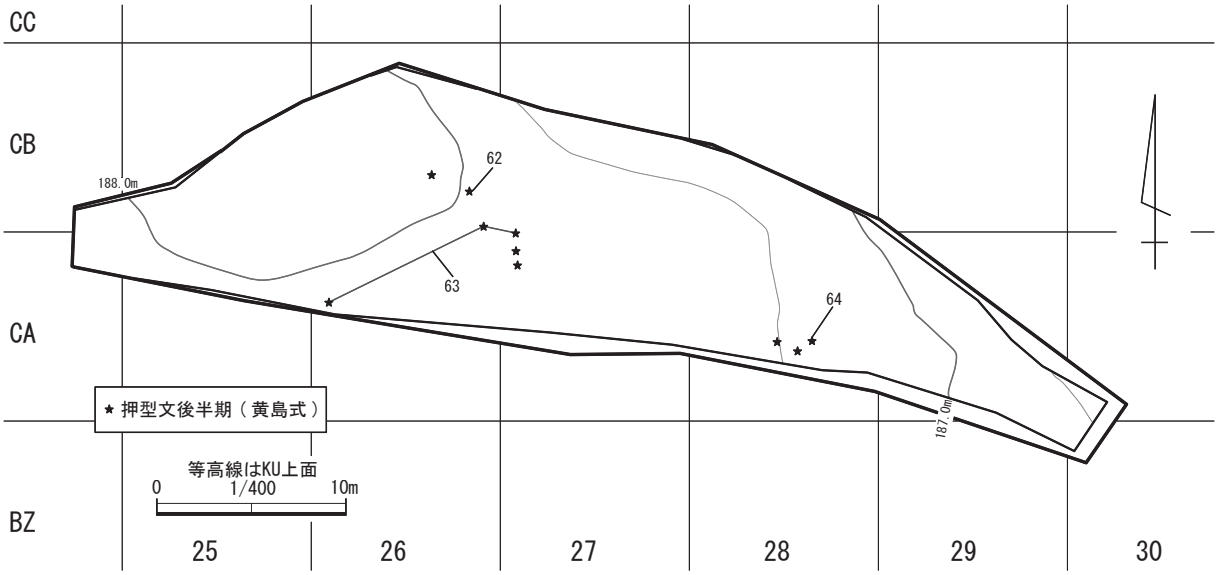
72・73は２類とした。両者は胎土や施文から同一個体と考えられ、口縁部から胴部上位まで残存した資料である。軽く外反させ、口唇部を丸く仕上げ、先端の鋭いヘラ状の工具で刻目を施す。内面は条痕が見られる。外面は条痕調整の後に短い沈線文が、口縁部から胴部にかけて等間隔に施される。半截竹管状の工具を使用か。



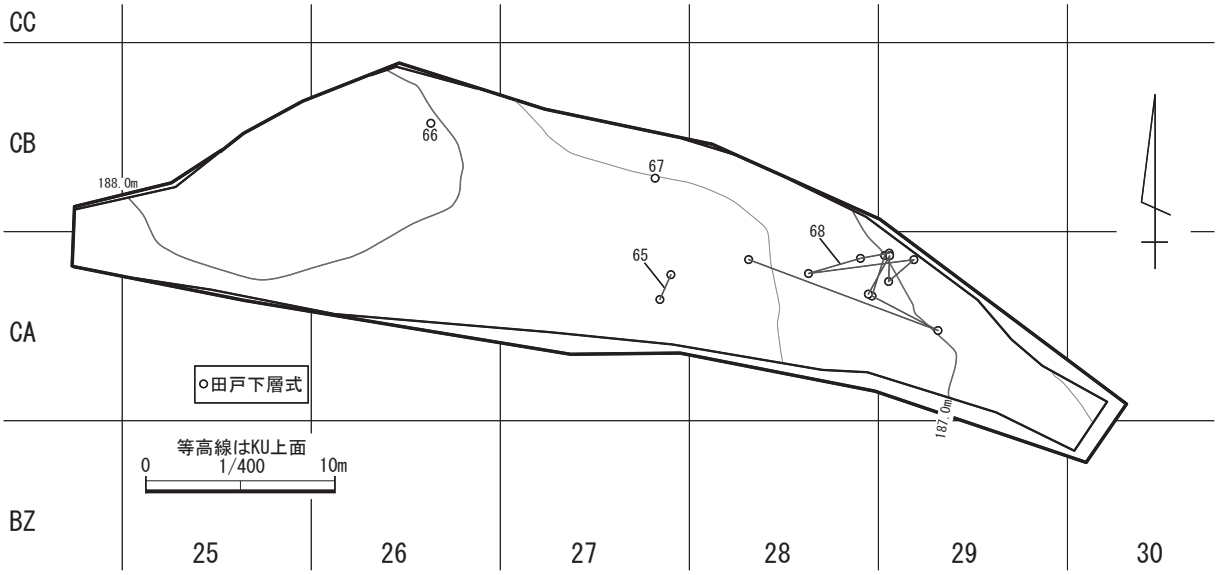
第208図　縄文土器第Ⅰ群１類分布図



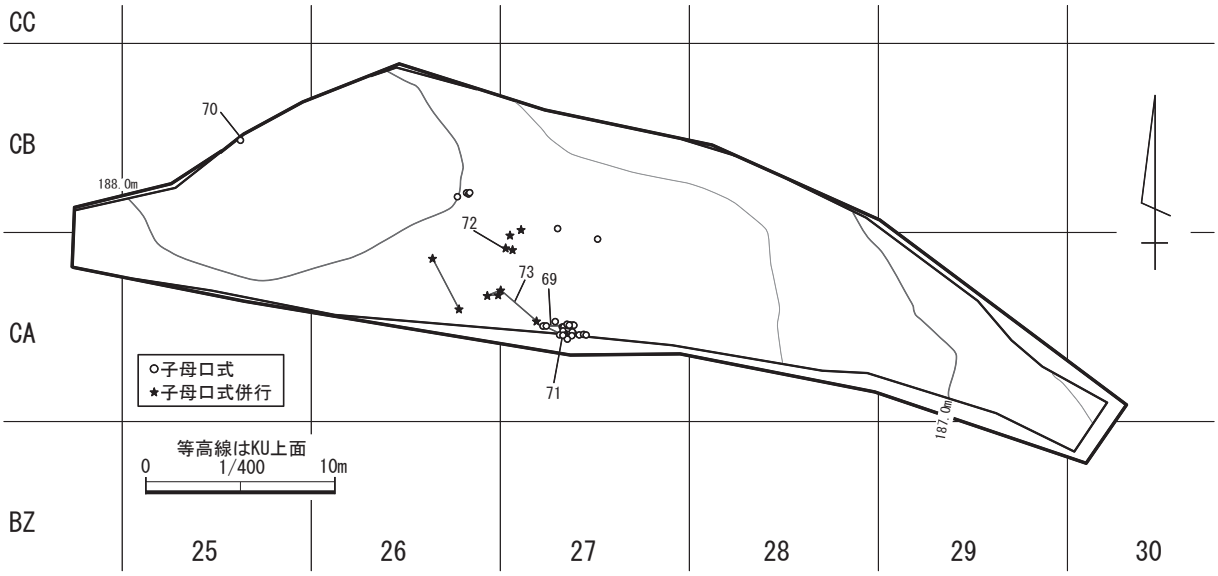
第209図　縄文土器第Ⅰ群２類分布図



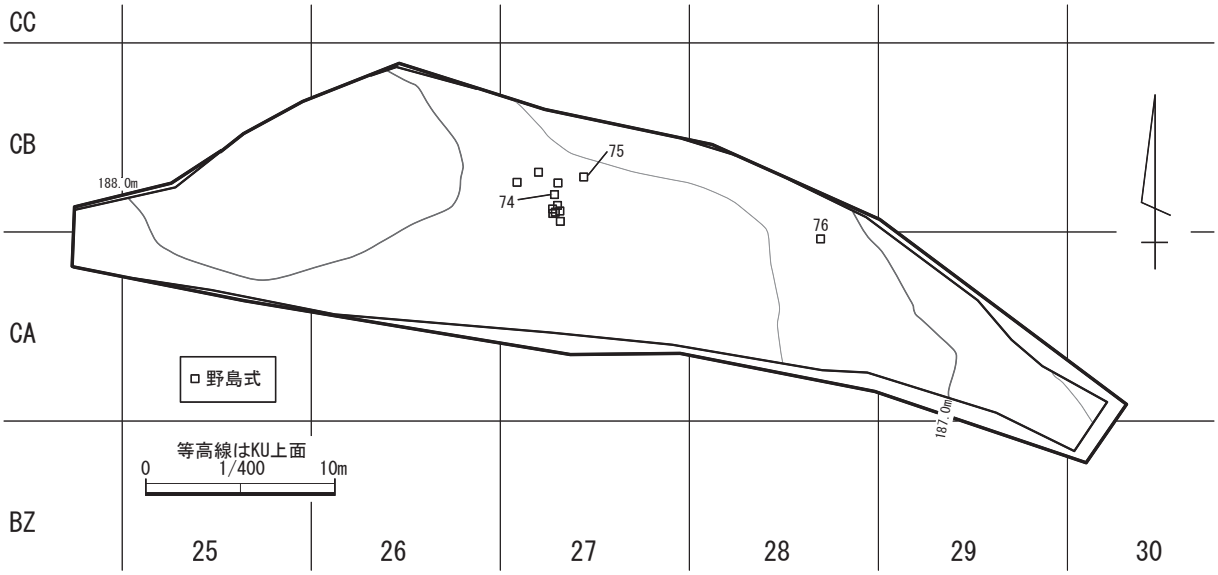
第210図　縄文土器第Ⅰ群３類分布図



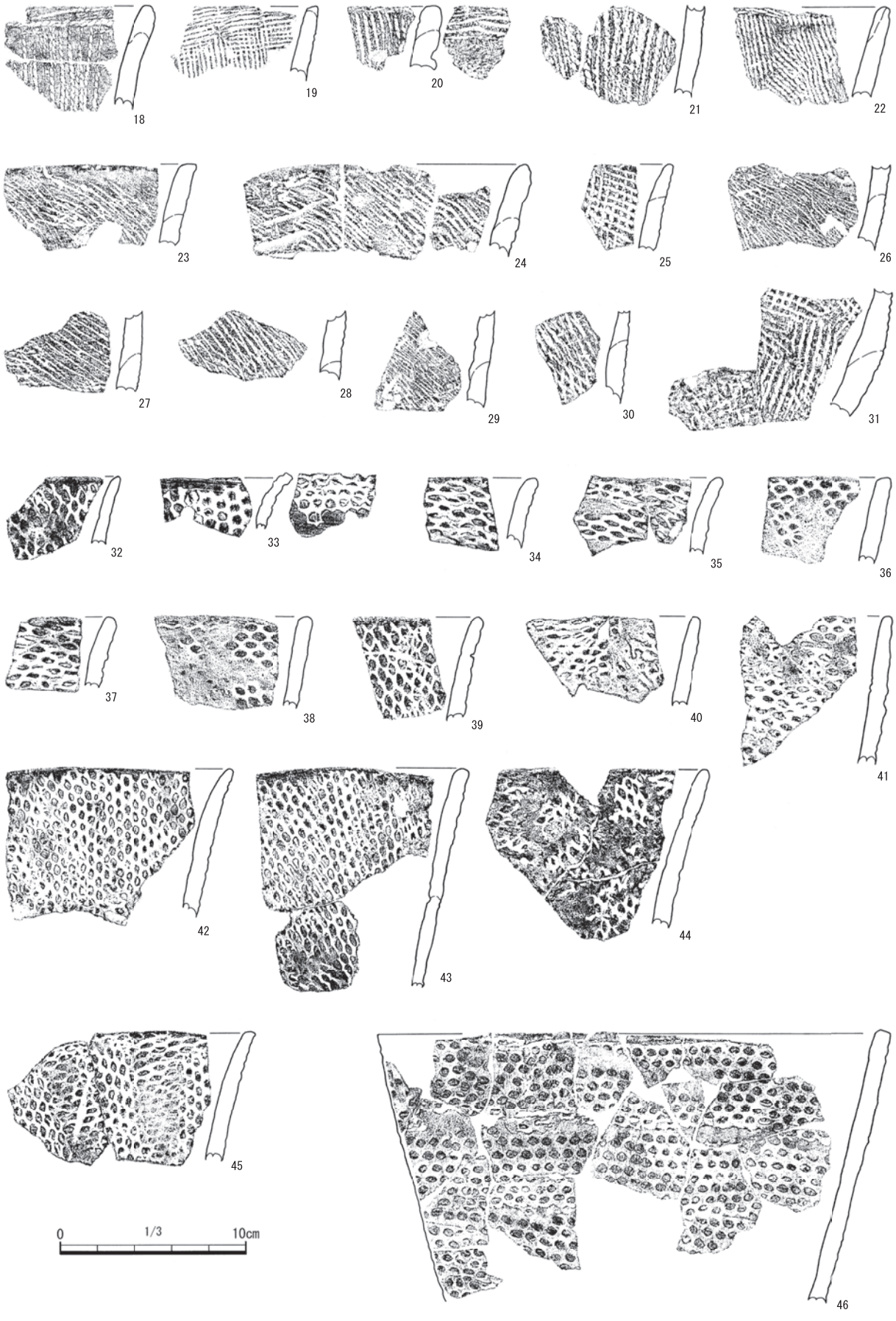
第211図　縄文土器第Ⅱ群分布図



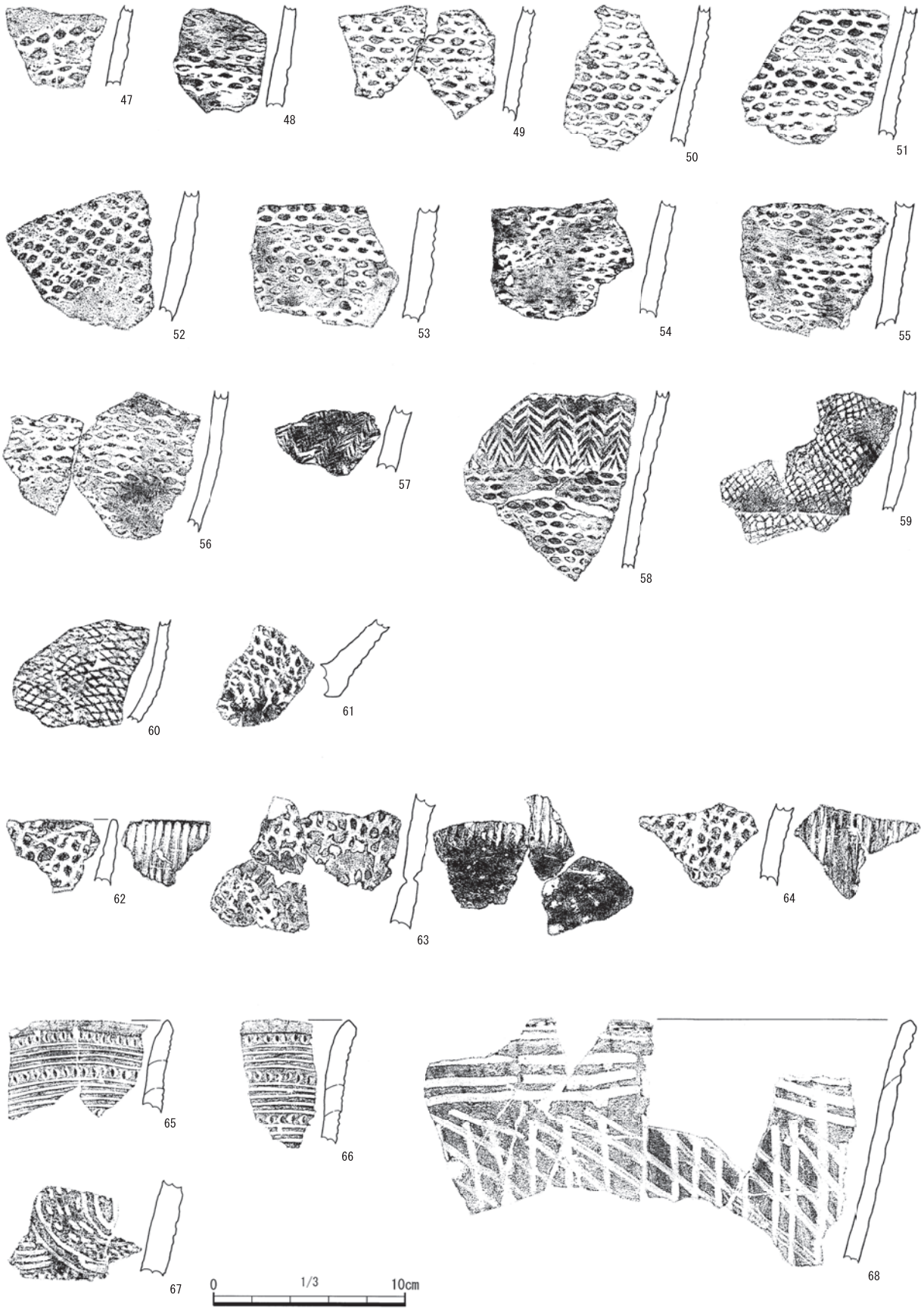
第212図　縄文土器第Ⅲ群１・２類分布図



第213図　縄文土器第Ⅲ群３類分布図



第214図　縄文土器第Ⅰ群１・２類



第215図　縄文土器第Ⅰ群２・３類・第Ⅱ群

第216図　縄文土器第Ⅲ群１～４類

３類（野島式）

74～76は３類とした。いずれの胎土にも繊維が含まれる。出土位置はＣＢ27グリッドに偏る。74は口縁部のみの破片資料である。口唇部は丸く仕上げて、刻目文を施す。外面は縦位の沈線文を２本施し、両脇は斜位の沈線文を施す。75・76は胴部のみの破片資料である。前者は沈線文の間隙に斜位の沈線文を充填している。後者は条痕か。

４類（その他の条痕文土器）

77～83は４類とした。型式が判然としない条痕文土器を集成している。77～80は口縁部が残存した資料である。77は口唇部付近の破片資料である。丸く仕上げられた口唇部及び器面内外面に条痕文が施されている。78・79は口縁部のみの破片資料である。前者は軽く外反させた口縁部で、内外面に条痕文が施されている。後者は内面から口唇部、外面にかけて粘土紐を貼り付けた後、口唇部に沿って１本、そして口唇部から約3.5㎝の位置に1本の横位の沈線文を施す。口唇部及び、貼付文左側の口唇部直下に施された沈線文の間隙に波状の沈線文を施す。右側は口唇部直下と沈線文の間隙に刺突文を施している。２本の横位の沈線文で区画された部分には複合鋸歯文状の沈線文を充填している。また２本目の沈線文の下位には波状の沈線文を施している。80は口縁部から胴部中位まで残存した資料である。胴部から口縁部までほぼ直線的に立ち上げている。口唇部は平坦に仕上げられ、不明瞭であるが縄文らしき痕跡が残る。内外面に条痕が見られる。81～83は胴部のみの破片資料である。条痕が残る。

５類（東海系の条痕文土器）

84は５類とした。東海系の条痕文土器か。胎土に繊維を含み､焼成も堅緻な方か。穿孔が認められる。

６類（その他）

85は６類とした。底部のみの破片資料である。尖底で破片上端部際に微かに沈線文らしき痕跡が残る。

第Ⅳ群：縄文時代早期代（第218・223図　第55表　写真図版79）

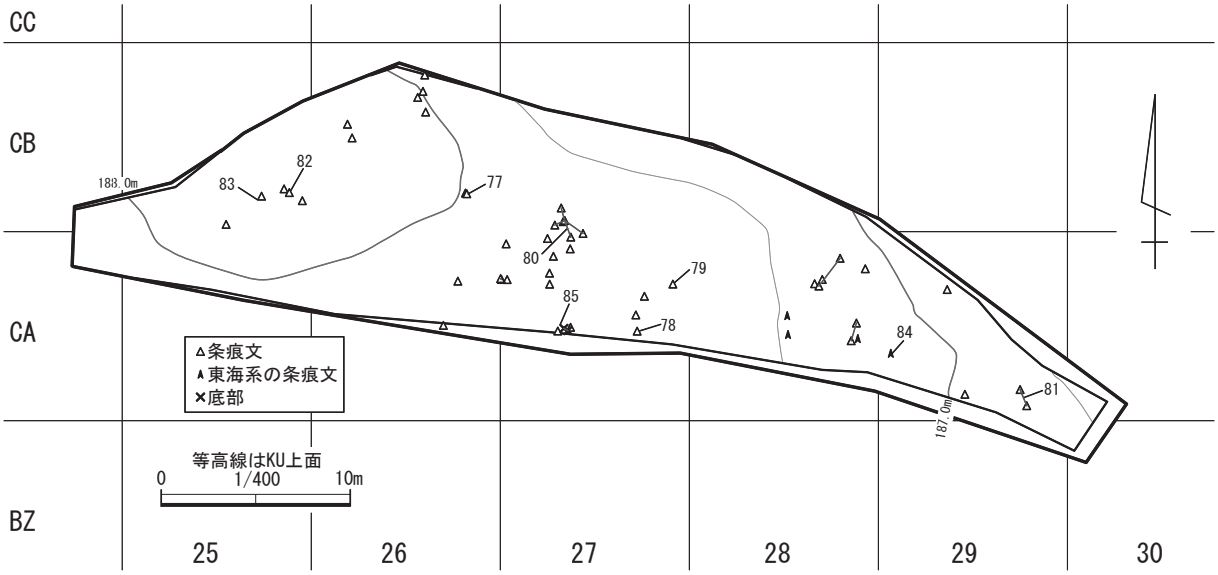
縄文時代早期代の型式名が判然としない縄文・撚糸文系の土器群を集成した。細片資料が多い。86は胴部のみの破片資料で、胎土に繊維を含む。

第Ⅴ群：縄文時代前期後半（第219・223図　第55表　写真図版79）

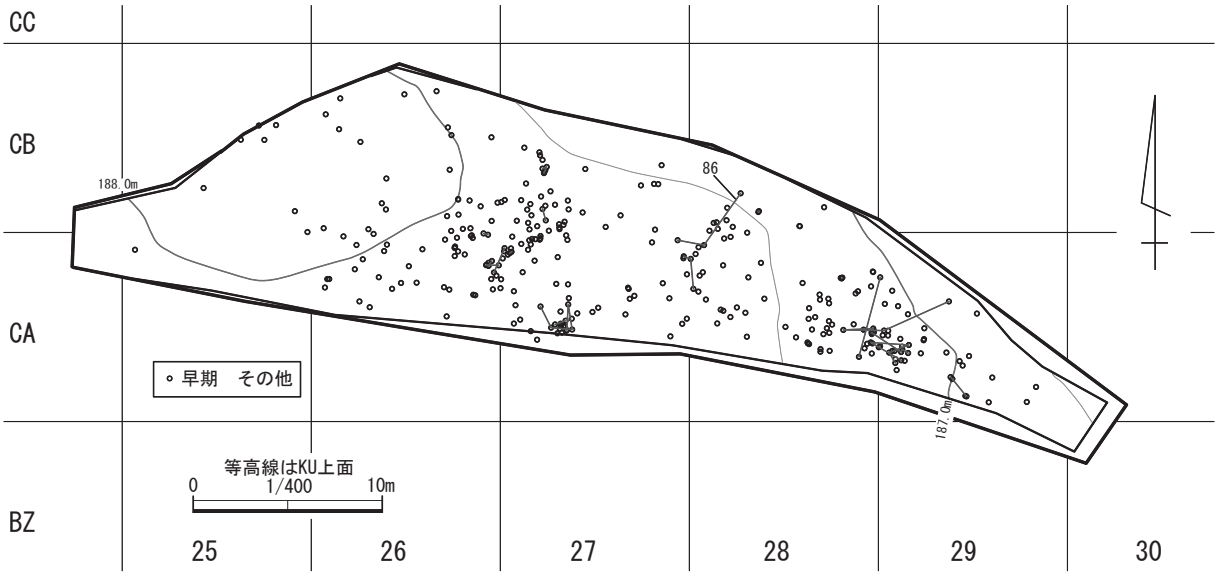
縄文時代前期後半の土器群を第Ⅴ群とした。諸磯ｂ式と考えられる。出土位置はＣＡ27・28グリッド付近に多い。87は胴部のみの破片資料である。縄文を施した後に半截竹管状の工具で平行沈線文を施す。88は口縁部から胴部中位まで残存した資料である。微かに膨らむ胴部から外反させ、口縁部は内側に折り曲げ、受口状となす。口唇部は丸く仕上げた後、面取りされている。口縁部には半截竹管状の工具で平行沈線文を施す。胴部は縄文を施した後に、平行沈線文を横位に施す。89は胴部下位から底部まで残存した資料である。底部は平坦で器厚を薄く仕上げ、胴部は直線的に立ち上げている。外面は縄文を施した後に、平行沈線文を施す。88と同一個体か。

第Ⅵ群：縄文時代前期代（第220・223図　第55表　写真図版79）

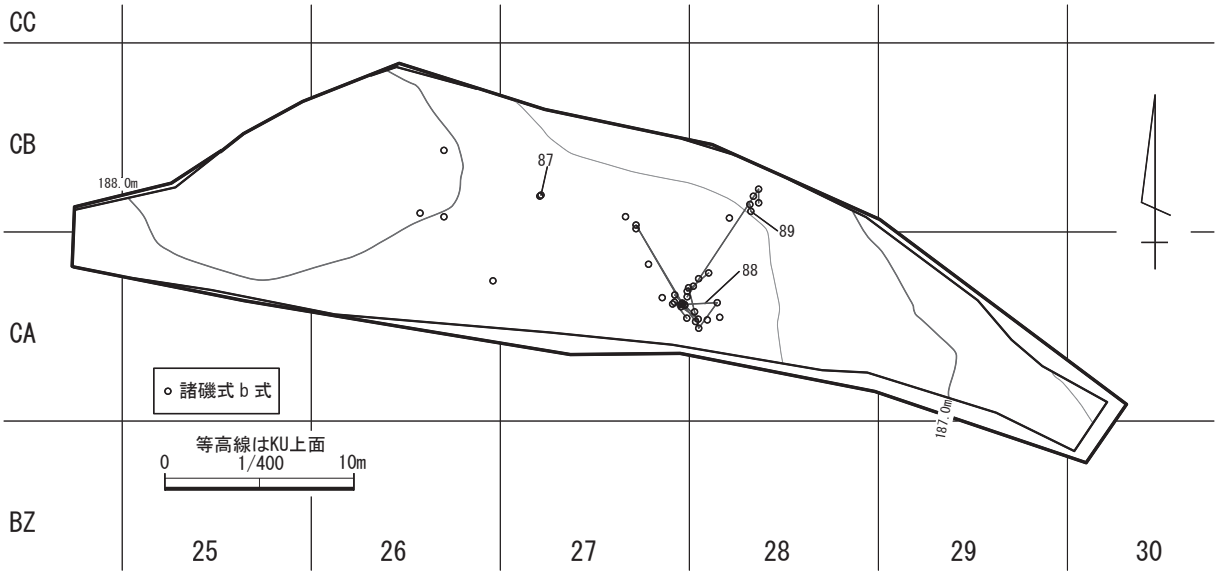
縄文時代前期代で型式名が判然としない土器群を集成した。細片資料が多い。90は胴部のみの破片資料である。縄文が施されている。器厚は比較的薄手で胎土に金雲母を含む。



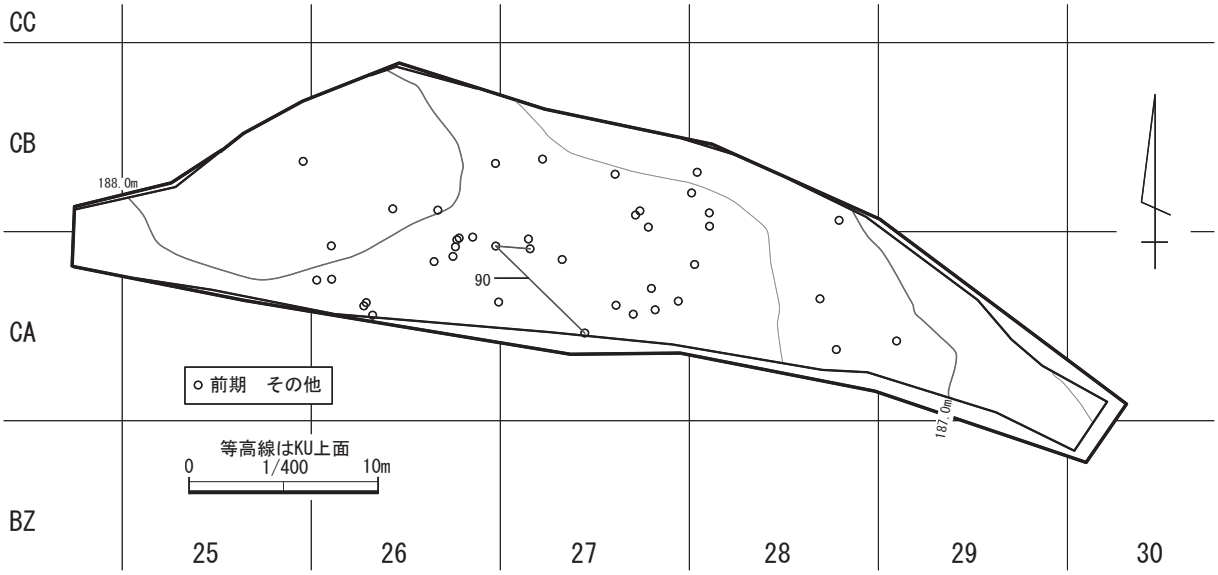
第217図　縄文土器第Ⅲ群４～６類分布図



第218図　縄文土器第Ⅳ群分布図

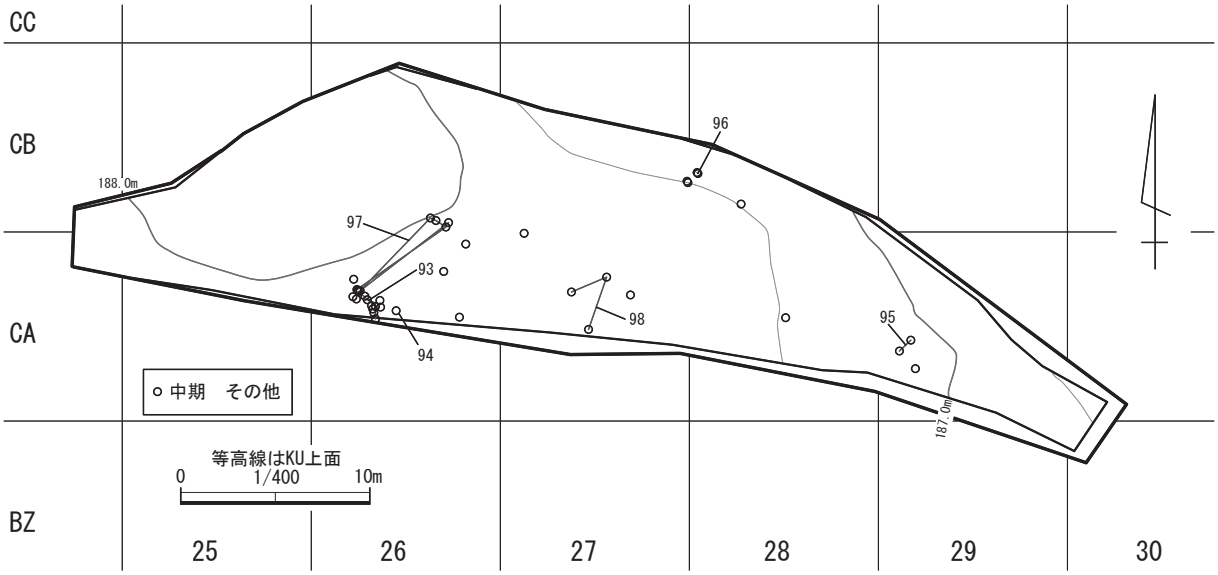


第219図　縄文土器第Ⅴ群分布図

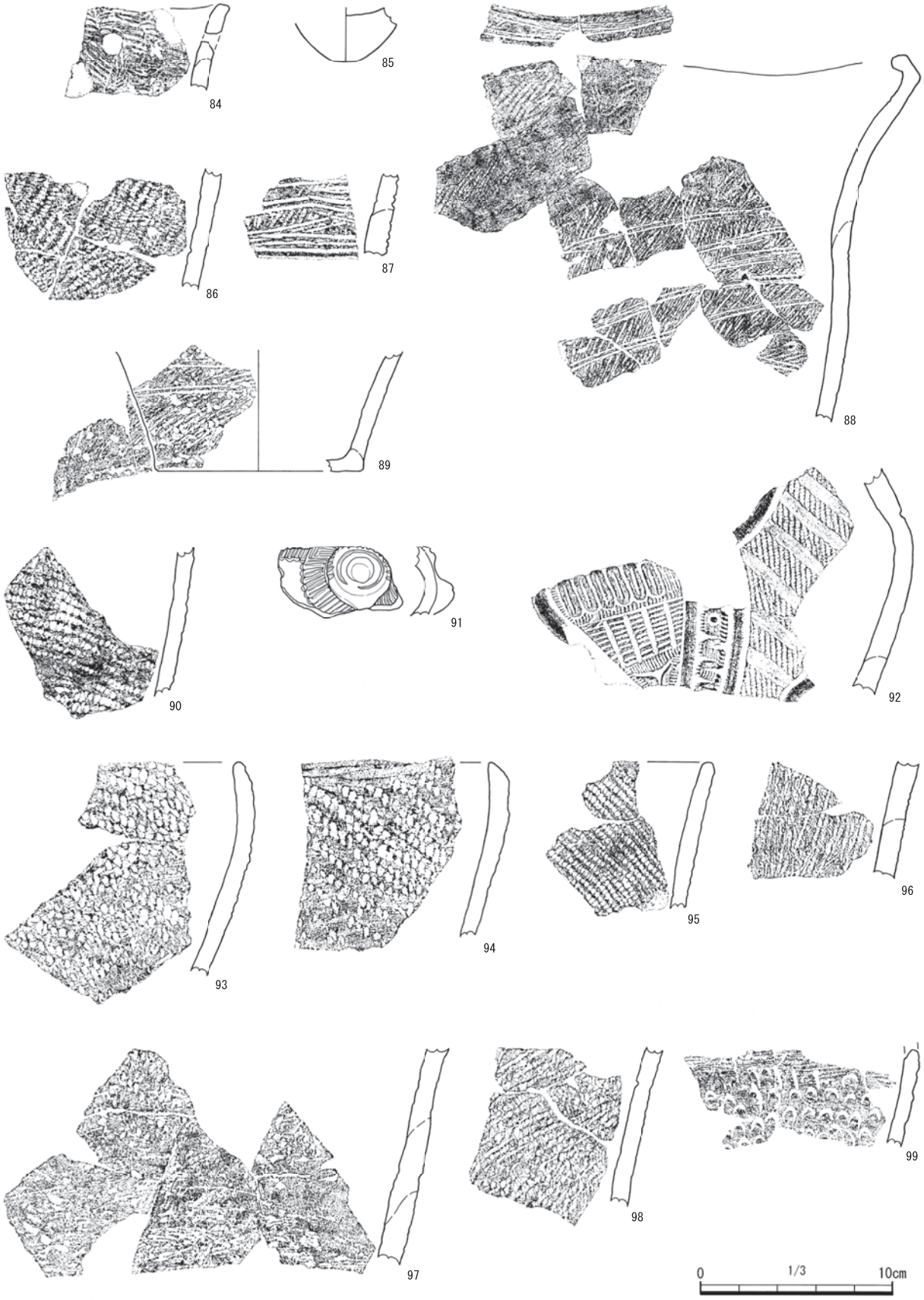


第220図　縄文土器第Ⅵ群分布図

第221図　縄文土器第Ⅶ群分布図



第222図　縄文土器第Ⅷ群分布図



第223図　縄文土器第Ⅲ群５・６類～第Ⅸ群

第Ⅶ群：縄文時代中期中葉（第221・223図　第55表　写真図版80）

縄文時代中期中葉と思しき資料を集成した。91・92は藤内式か。91は胴部のみの破片資料である。円形のモチーフがほぼ中央部に認められ、沈線文等が施されている。92は破片中央部に縦位に刻目を施して蛇行状に仕上げた隆帯及び両脇の平行沈線文により左右の区画に分けられる。右側の区画は地文を縄文とし、その上に斜位に指頭で磨消沈線を等間隔に施す。左の区画には三叉文やキャタピラ文等が充填されている。

第Ⅷ群：縄文時代中期代（第222・223図　第55表　写真図版80）

縄文時代中期代で型式名の判然としない縄文を施した土器群を集成した。このうち93～95は口縁部が残存する資料である。93は内湾気味に立ち上げた資料で、口唇部は丸く仕上げる。94も内湾気味に立ち上げている。口唇部付近の器厚がやや肥厚気味で尖らせている。最終調整の段階で、工具等で削り取りしたものか。93・94は胎土が類似する。95は直線的に立ち上げた口縁部である。96～98は胴部のみの破片資料である。

第Ⅸ群：時期・型式不明（第223図　第55表　写真図版80）

時期・型式名が判然としない縄文土器を第Ⅸ群とした。99は胴部のみの破片資料である。外面は地文を撚糸とし、先端を尖らせるように加工した半截竹管状の工具で馬蹄状の刺突文を施す。最後に棒状工具で縦位の短い沈線文を馬蹄状刺突文より上位の位置で、等間隔で施す。

第55表　縄文時代遺構外出土土器観察表①

挿図番号	写真図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	色調(Hue)	文様調整等	繊維	胎土
18	76	Ⅰ	1	CB-28	7.5YR6/4	口縁部。撚糸文。内面にナデ。	無	白色粒子、黒色粒子、赤色粒子、石英
19	76	Ⅰ	1	CA-28	7.5YR6/4	口縁部。異方向の撚糸文。内面にナデ。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、石英、岩片
20	76	Ⅰ	1	CA-25	5YR4/3	口縁部。内外面に撚糸文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
21	76	Ⅰ	1	CB-26	7.5YR6/6	撚糸文。軽しょうな胎土。	無	白色粒子、黒色粒子
22	76	Ⅰ	1	CA-28	7.5YR5/4	口縁部。異方向の撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石
23	76	Ⅰ	1	CA-26	7.5YR6/6	口縁部。撚糸文。指頭痕。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
24	76	Ⅰ	1	CA-28	7.5YR6/4	口縁部。撚糸文。内外面に指頭痕、ナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
25	76	Ⅰ	1	CB-26	7.5YR5/6	口縁部。格子状の撚糸文。内面に擦痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英
26	76	Ⅰ	1	CA-26	7.5YR7/6	撚糸文。内外面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
27	76	Ⅰ	1	CB-26	7.5YR5/6	撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
28	76	Ⅰ	1	CB-27	5YR6/6	撚糸文。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
29	76	Ⅰ	1	CB-26	7.5YR7/6	撚糸文。穿孔。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
30	76	Ⅰ	1	CB-26	7.5YR6/6	網目状の撚糸文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
31	76	Ⅰ	1	CB-27	7.5YR6/6	異方向の撚糸文。指頭痕。内外面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
32	77	Ⅰ	2	CB-27	10YR6/4	口縁部。楕円文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
33	77	Ⅰ	2	CB-27	10YR6/4	口縁部。内外面に楕円文。穿孔。ナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
34	77	Ⅰ	2	CA-27	10YR3/1	口縁部。楕円文。	有	白色粒子、黒色粒子
35	77	Ⅰ	2	CA-27	2.5YR3/1	口縁部。楕円文。	有	白色粒子
36	77	Ⅰ	2	CA-27	5YR3/1	口縁部。楕円文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母、輝石
37	77	Ⅰ	2	CB-27	7.5YR5/6	口縁部。楕円文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
38	77	Ⅰ	2	CA-28	10YR5/4	口縁部。楕円文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石
39	77	Ⅰ	2	CB-27	10YR5/3	口縁部。楕円文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
40	77	Ⅰ	2	CA-27	7.5YR4/4	口縁部。楕円文。	無	白色粒子、黒色粒子
41	77	Ⅰ	2	CB-26	7.5YR3/2	口縁部。楕円文。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
42	77	Ⅰ	2	CA-27	7.5YR6/6	口縁部。楕円文。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、白色岩片
43	77	Ⅰ	2	CA-27	7.5YR5/4	口縁部。楕円文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英
44	77	Ⅰ	2	CB-26	7.5YR6/6	口縁部。楕円文。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
45	77	Ⅰ	2	CB-25	5YR4/4	口縁部。異方向の楕円文。	有	白色粒子、黒色粒子
46	78	Ⅰ	2	CA-29	5YR4/6	楕円文。横位密接。同工具上端部による圧痕。ナデ。	無	白色粒子多、黒色粒子多、石英、雲母、輝石、白色岩片
47	77	Ⅰ	2	CB-27	5YR5/4	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、石英、雲母、白色岩片
48	77	Ⅰ	2	CA-26	10YR5/4	楕円文。横位密接。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
49	77	Ⅰ	2	CA-28	10YR5/4	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
50	77	Ⅰ	2	CA-28	7.5YR4/3	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
51	77	Ⅰ	2	CB-26	7.5YR5/4	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
52	77	Ⅰ	2	CB-27	5YR5/6	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石
53	77	Ⅰ	2	CB-26	7.5YR5/4	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母

第55表　縄文時代遺構外出土土器観察表②

挿図番号	写真図版番号	分類 群	分類 類	グリッド	色調(Hue)	文様調整等	繊維	胎土
54	77	Ⅰ	2	CA-26	5YR5/6	楕円文。横位密接。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、白色岩片
55	77	Ⅰ	2	CB-26	5YR4/4	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
56	77	Ⅰ	2	CB-26	7.5YR4/6	楕円文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、雲母
57	78	Ⅰ	2	CB-28	10YR6/6	山形文。横位密接。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
58	78	Ⅰ	2	CA-29	7.5YR4/6	山形文。楕円文。横位密接。内面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子
59	78	Ⅰ	2	CA-29	5YR4/6	格子目文。同工具上端部による圧痕。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母
60	78	Ⅰ	2	CB-26	7.5YR6/6	格子目文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子
61	77	Ⅰ	2	CB-26	10YR6/6	尖底。楕円文。横位密接。	有	白色粒子、石英、雲母
62	76	Ⅰ	3	CB-26	10YR5/3	口縁部。楕円文。横位密接。内面に柵状文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子、白色岩片
63	76	Ⅰ	3	CA-26	10YR5/4	楕円文。内面に柵状文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、白色岩片
64	76	Ⅰ	3	CA-28	10YR4/2	楕円文。内面に柵状文。軽しょうな胎土。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、白色岩片
65	76	Ⅱ		CA-27	7.5YR5/1	口縁部。棒状工具による沈線。連続刺突。内外面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
66	76	Ⅱ		CB-26	7.5YR6/6	口縁部。棒状工具による沈線。連続刺突。内外面にナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
67	76	Ⅱ		CB-27	5YR5/6	棒状工具による沈線。刺突。内面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
68	76	Ⅱ		CA-29	7.5YR4/6	棒状工具・半截竹管状工具による異方向の沈線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
69	78	Ⅲ	1	CA-27	7.5YR4/6	波状口縁。口唇部に絡条体圧痕文。隆帯貼り付け後、絡条体圧痕文。半截竹管状工具による平行沈線。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
70	78	Ⅲ	1	CB-25	7.5YR5/4	隆帯貼り付け。絡条体圧痕文。内面に擦痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
71	78	Ⅲ	1	CA-27	7.5YR5/4	棒状浮文。絡条体圧痕文。半截竹管状工具による平行沈線。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
72	79	Ⅲ	2	CA-27	5YR5/6	口唇部に刻目。半截竹管状工具による沈線。内外面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
73	79	Ⅲ	2	CA-27	5YR5/6	口唇部に刻目。半截竹管状工具による沈線。内外面に条痕。	有	白色粒子多、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片多
74	78	Ⅲ	3	CB-27	7.5YR6/6	口唇部に刻目。異方向の沈線。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
75	78	Ⅲ	3	CB-27	7.5YR6/6	異方向の沈線。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
76	78	Ⅲ	3	CA-28	5YR5/6	内外面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、輝石、白色岩片
77	79	Ⅲ	4	CB-26	5YR6/6	口唇部、内外面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
78	79	Ⅲ	4	CA-27	7.5YR5/4	内外面に条痕。指頭痕。ナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
79	79	Ⅲ	4	CA-27	7.5YR6/6	隆帯貼り付け。複合鋸歯文。波状文。沈線。刺突。内面に擦痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
80	80	Ⅲ	4	CA-27	7.5YR6/6	口唇部に縄文。内外面に条痕。	有	白色粒子、石英多、輝石多、白色岩片
81	79	Ⅲ	4	CA-29	5YR5/6	条痕。内面に指頭痕。ナデ。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
82	79	Ⅲ	4	CB-25	5YR5/4	内外面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
83	79	Ⅲ	4	CB-25	5YR6/4	内外面に条痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
84	79	Ⅲ	5	CA-29	10YR7/3	波状口縁。条痕。内面に指頭痕。擦痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石
85	79	Ⅲ	6	CA-27	7.5YR6/6	尖底。沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
86	79	Ⅳ		CA-27	5YR5/6	縄文。	有	白色粒子、黒色粒子
87	79	Ⅴ		CB-27	5YR4/8	半截竹管状工具による平行沈線。縄文。内面に擦痕。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
88	79	Ⅴ		CA-28	5YR4/4	波状口縁。半截竹管状工具による平行沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
89	79	Ⅴ		CB-28	5YR4/4	底部。平行沈線。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、輝石、白色岩片
90	79	Ⅵ		CA-27	7.5YR6/6	縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、雲母多、岩片
91	80	Ⅶ		CA-29	7.5YR3/3	隆帯貼り付け。円形モチーフに窪み。沈線。	無	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、輝石
92	80	Ⅶ		CA-29	5YR4/6	隆帯貼り付け。刻目。平行沈線。縄文。磨消し沈線。三叉文。キャタピラ文。内面に磨き。	無	白色粒子多、黒色粒子、白色岩片
93	80	Ⅷ		CA-26	5YR3/2	口縁部。縄文。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、白色岩片多
94	80	Ⅷ		CA-26	5YR4/3	口縁部。縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、白色岩片
95	80	Ⅷ		CA-29	5YR4/1	口縁部。縄文。	有	白色粒子多、黒色粒子、石英、雲母、白色岩片
96	80	Ⅷ		CB-28	5YR5/4	縄文。	有	白色粒子、黒色粒子、石英、輝石、白色岩片
97	80	Ⅷ		CA-26	5YR4/6	縄文。	有	白色粒子多、黒色粒子多、石英、輝石、白色岩片多
98	80	Ⅷ		CA-27	7.5YR5/4	縄文。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、白色岩片
99	80	Ⅸ		CB-26	5YR4/6	疑似口縁。半截竹管状工具による刺突。撚糸文。棒状工具による沈線。	無	白色粒子、黒色粒子、石英、雲母、白色岩片

（２） 石器・石製品

尖頭器類（第224・225図　第57表　写真図版75）

当該遺跡において、縄文時代草創期に位置づけられる石器は、13・14の尖頭器のみである。両者ともガラス質黒色安山岩を石材とする。13は先端部と基部の一部が欠損している。両面加工の尖頭器である。ＣＡ27グリッドで出土している。14は先端部を折損している。裏面には素材面を残す。ＣＢ26グリッドで出土している。

石鏃・石鏃未製品（第226・229図　第56・58表　写真図版81）

100～128は石鏃及び石鏃の未製品か。全て無茎鏃と考えられる。ＣＡ・ＣＢ26グリッドにかけて比較的多く出土し、殆どの資料が黒曜石を石材とする。

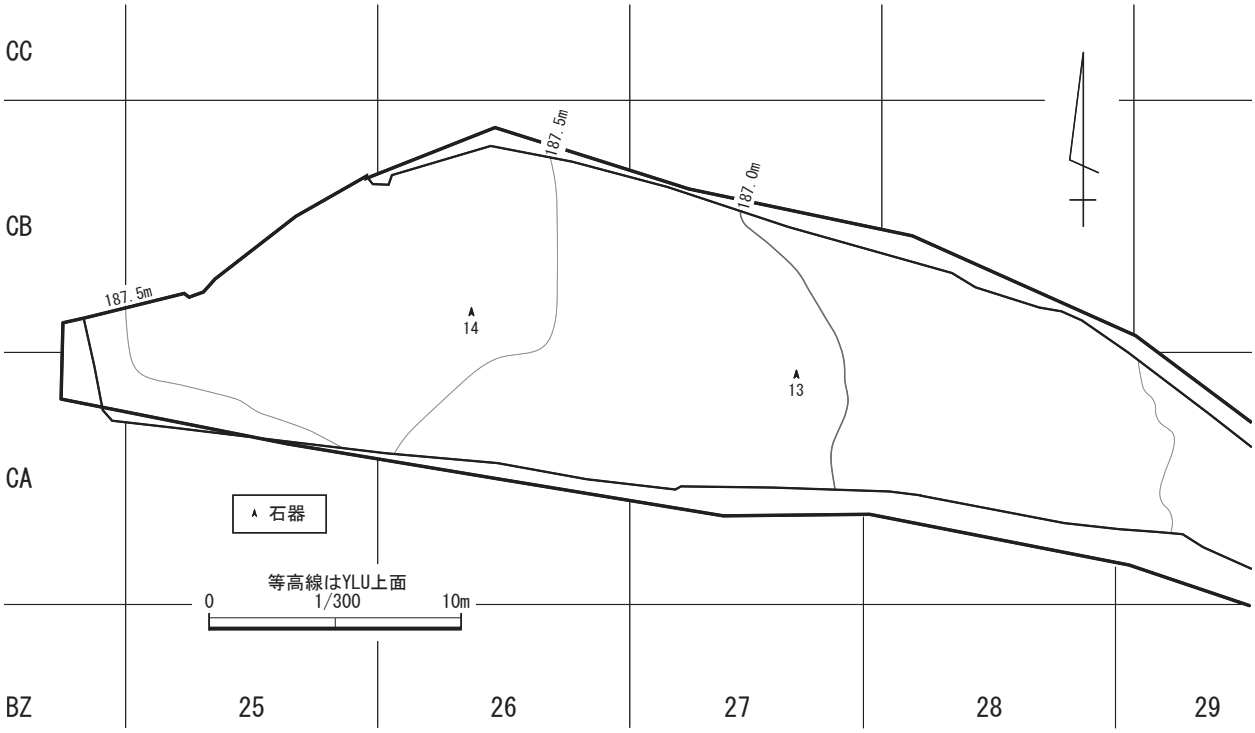
100・101は抉りが「Ｖ」字状に入るタイプである。前者はチャート、後者は天城柏峠産黒曜石を石材とする。両者とも平面が三角形に近い。102～112は抉りが弧状を呈するタイプである。石材は神津島恩馳島産黒曜石が多い。平面が二等辺三角形を呈する102～107、正三角形を呈する108～110、鏃身部両側縁を直線的に仕上げていない111・112等がある。108は側縁を鋸歯状に仕上げている。113～118は浅い抉りを入れているタイプである。119～123は平基若しくは円基か。しかし側縁部が一部未調整である点や器厚もやや厚い点から未製品の可能性がある。126～128は未製品と考えられる資料である。側縁部に調整を入れ始めているが、何らかの原因で放棄したものと考えられる。

スクレイパー類（第227・230・231図　第56・58表　写真図版81・82）

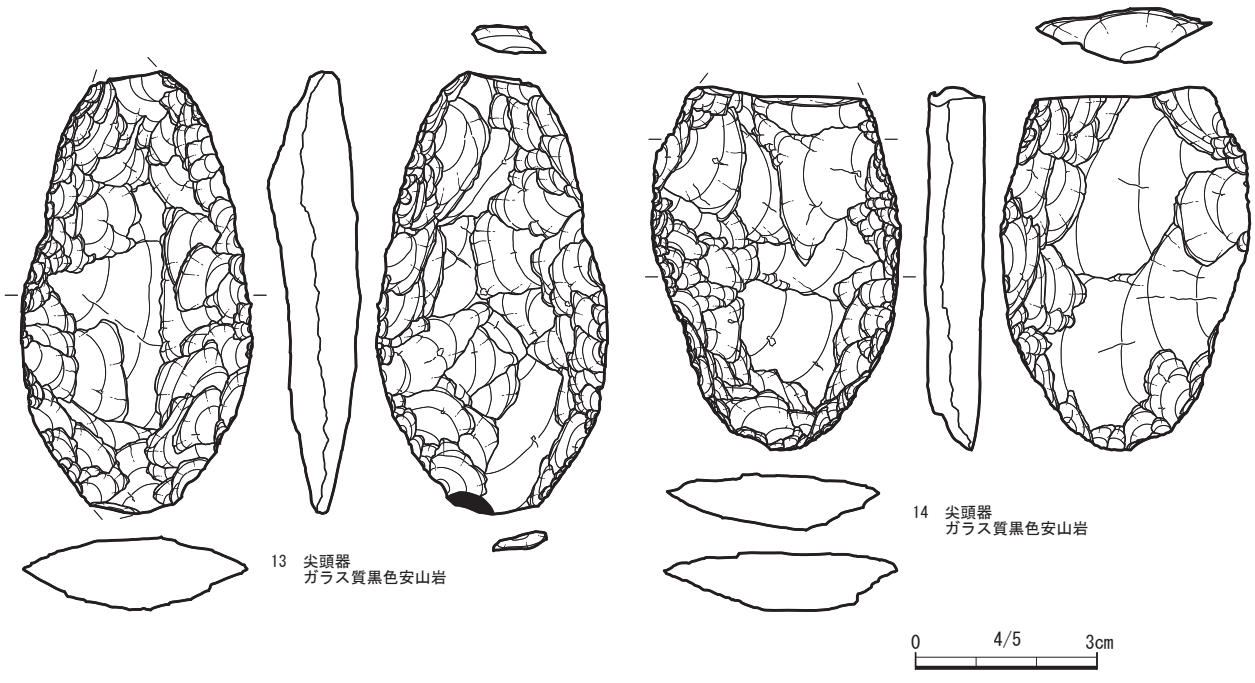
129～136はスクレイパー類に分類した。129・130は掻器か。前者は天城柏峠産黒曜石、後者はガラス質黒色安山岩を石材とする。縁辺部に刃部が仕上げられている。131～136は削器である。131は細粒安

第56表　縄文時代遺構外出土石器組成表

			石鏃	石鏃未製品	掻器	削器	抉入削器	楔形石器	石核	打製石斧	二次加工剥片	使用痕剥片	剥片	砕片	礫器	磨敲石	磨石	敲石	台石・石皿類	石錘	石棒	計
黒曜石	天城柏峠	AGKT	10		1			8			2		10	2								33
	箱根畑宿	HNHJ	5	1					1				4									11
	神津島恩馳島	KZOB	15	3		1		2	8		3	1	34	7								74
	諏訪星ヶ台	SWHD	4			1		1	6				6	1								19
	蓼科冷山	TSTY											1									1
	和田小深沢	WDKB							1				1									2
	和田鷹山	WDTY	1									1		1								3
	産地不明		1								10	17	291	74								393
	黒曜石計		36	4	1	2		11	16		15	19	347	85								536
玄武岩		Ba													2	5	5	5	2			19
多孔質玄武岩		VBa															1	1	2			4
ガラス質黒色安山岩		GAn	2		1	1			1		2	1	7									15
細粒安山岩		FAn				1			1	1	1		3		1		1					9
輝石安山岩		An(Py)											4		5	47	46	6	17			125
多孔質安山岩		VAn															5		3		1	9
デイサイト		Da														4	3	2				9
流紋岩		Rhy									1											1
閃緑岩		Di														1						1
石英閃緑岩		QD														1						1
赤玉石（碧玉）		RJa											1									1
ホルンフェルス		Hor		1		3			4		1		7									16
細粒凝灰岩		FT					1						1									2
頁岩		Sh											2									2
珪質頁岩		SSh											1									1
細粒砂岩		FSS								1										1		2
粗粒砂岩		CSS								1												1
チャート		Ch	1			1																2
計			39	5	2	8	1	11	22	3	20	20	373	85	8	58	61	14	24	1	1	756



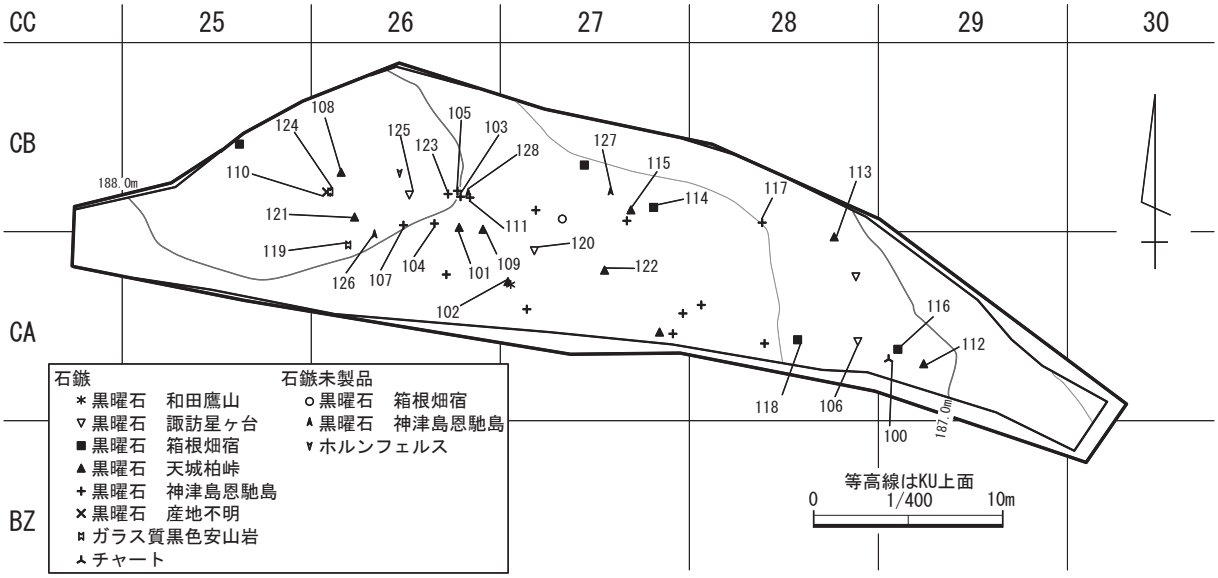
第224図　縄文時代草創期石器出土状況



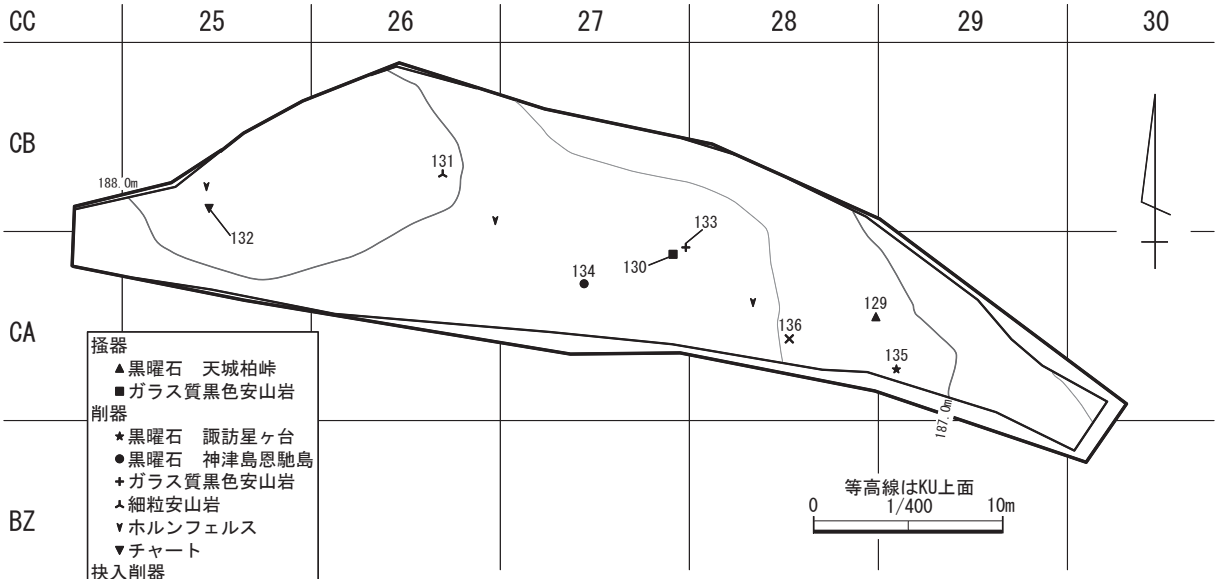
第225図　縄文時代草創期石器

第57表　縄文時代草創期石器組成表

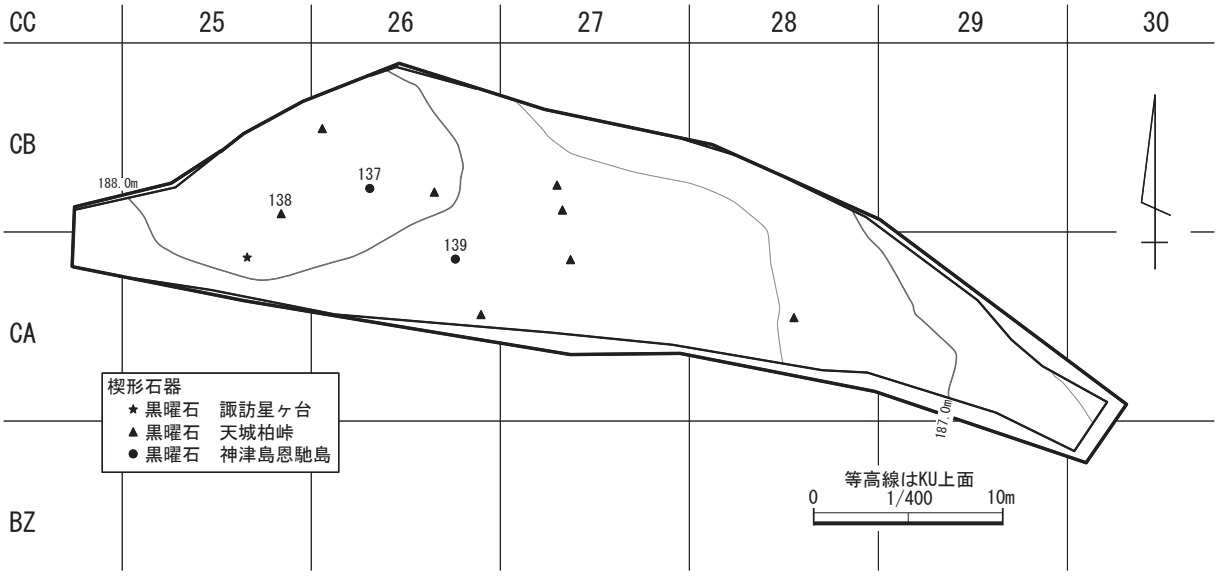
		尖頭器	計
ガラス質黒色安山岩	GAn	2	2
計		2	2



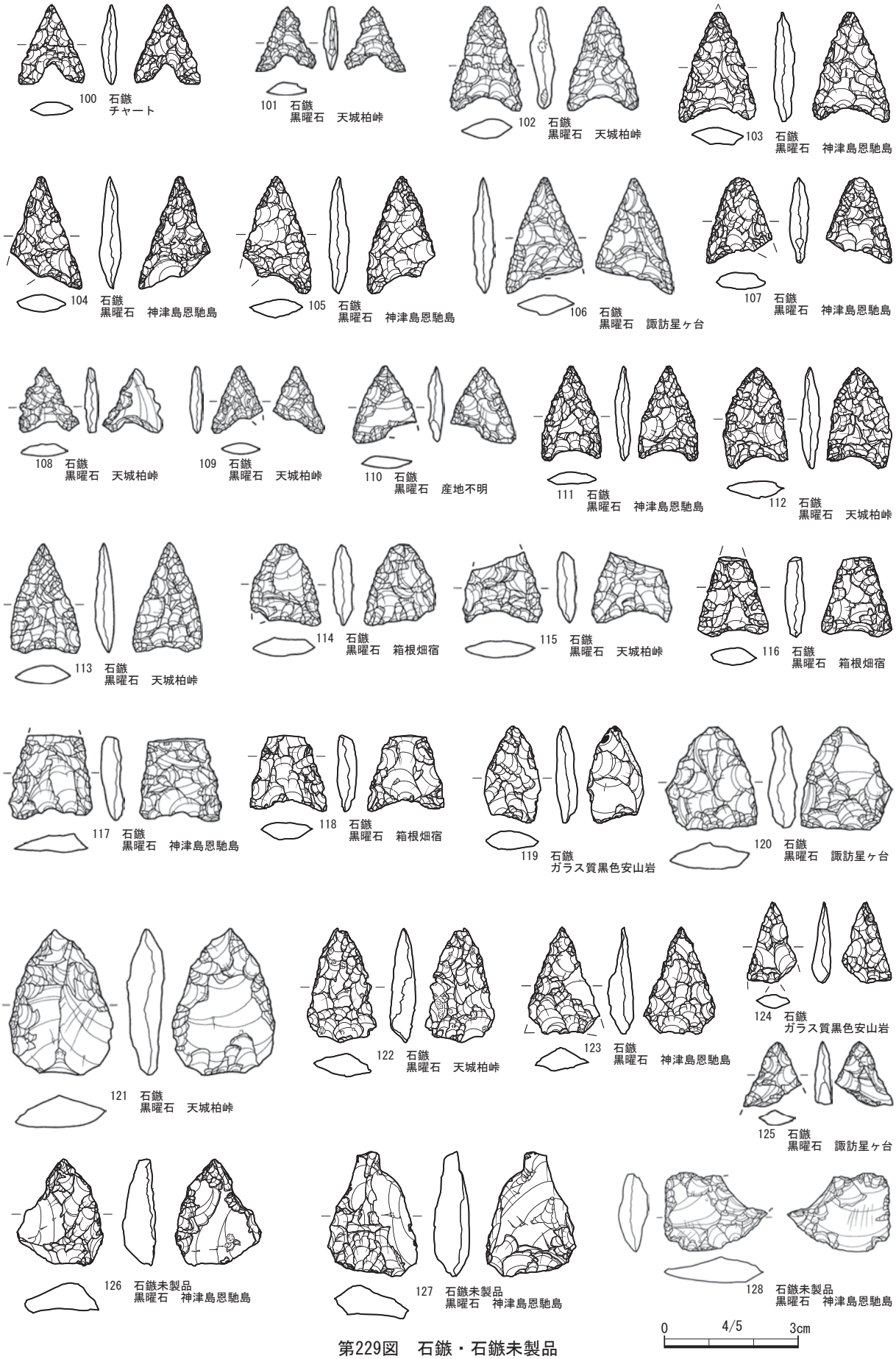
第226図　石鏃・石鏃未製品分布図



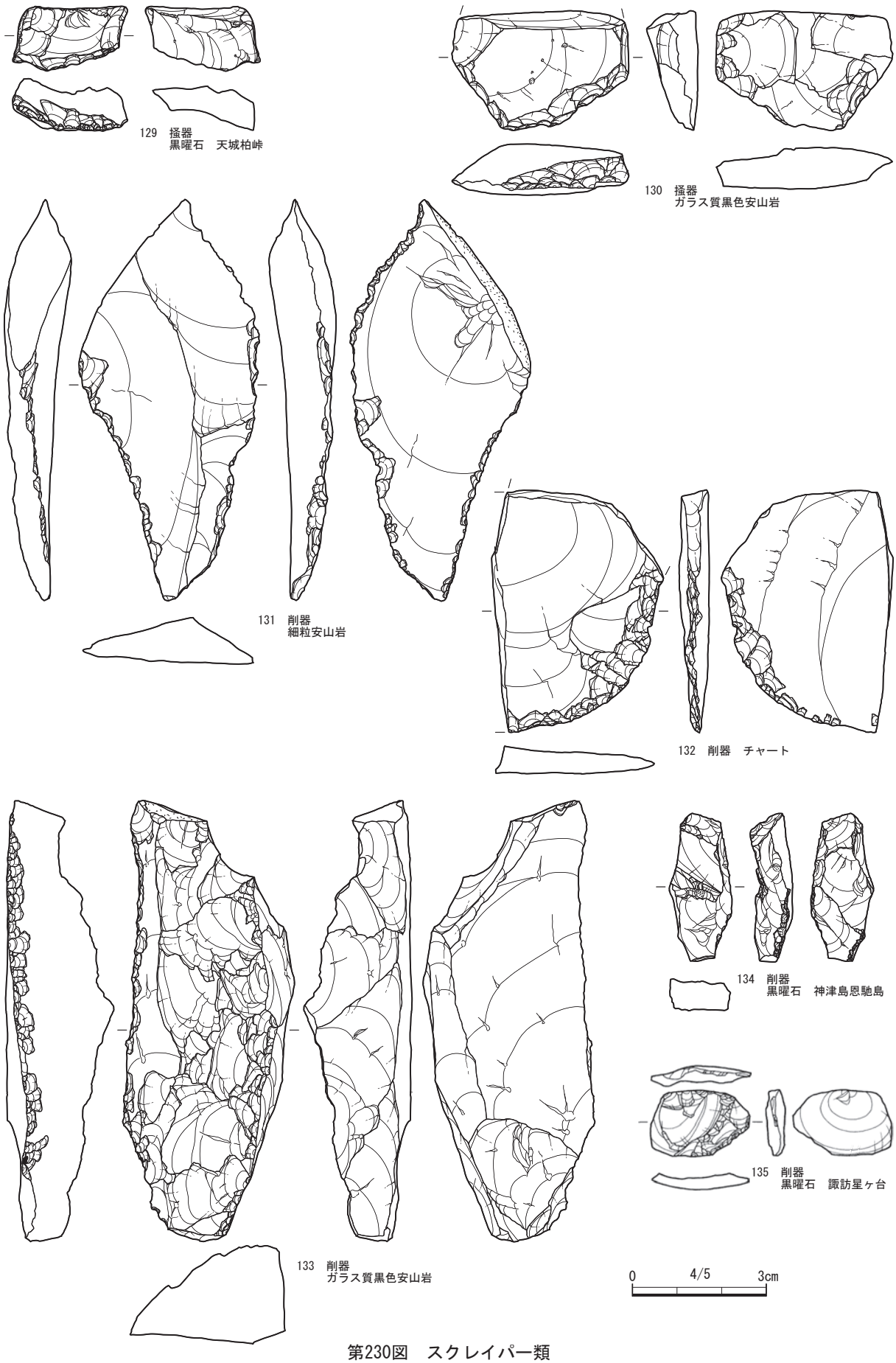
第227図　スクレイパー類分布図



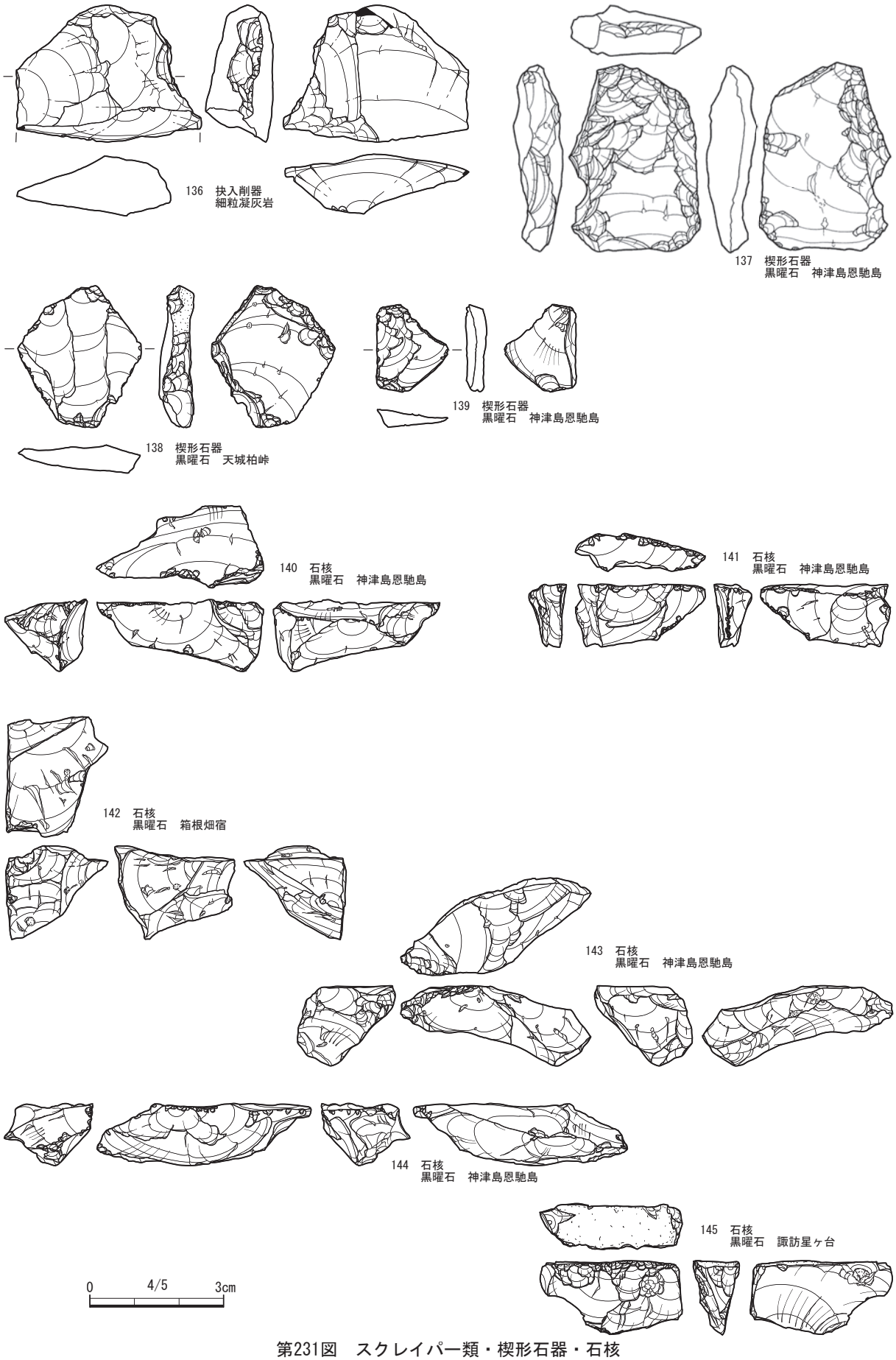
第228図　楔形石器分布図



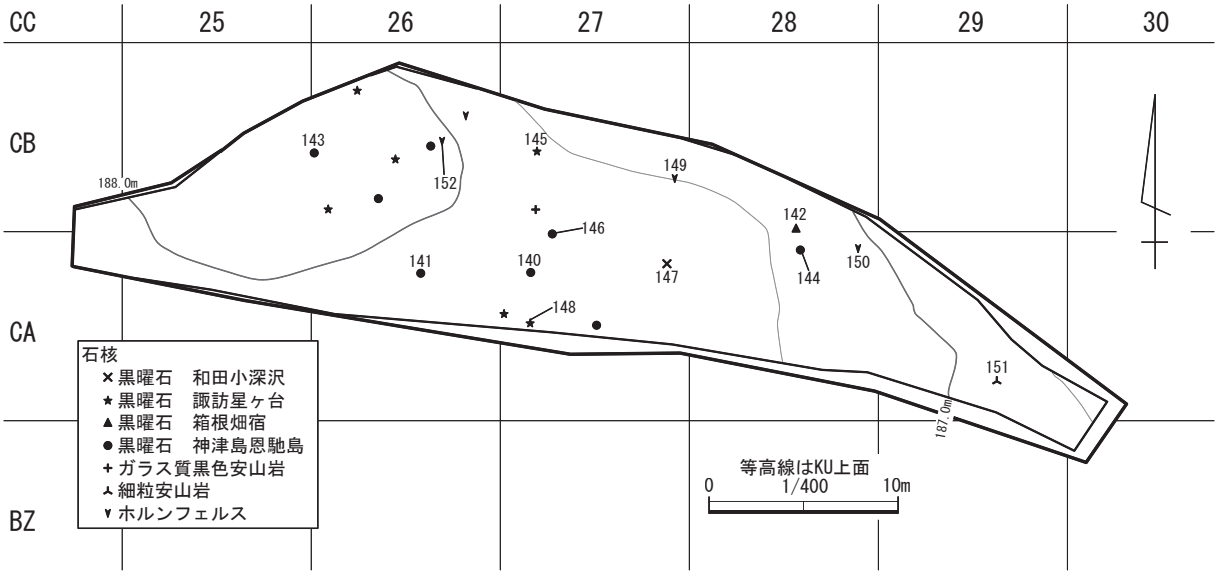
第229図　石鏃・石鏃未製品



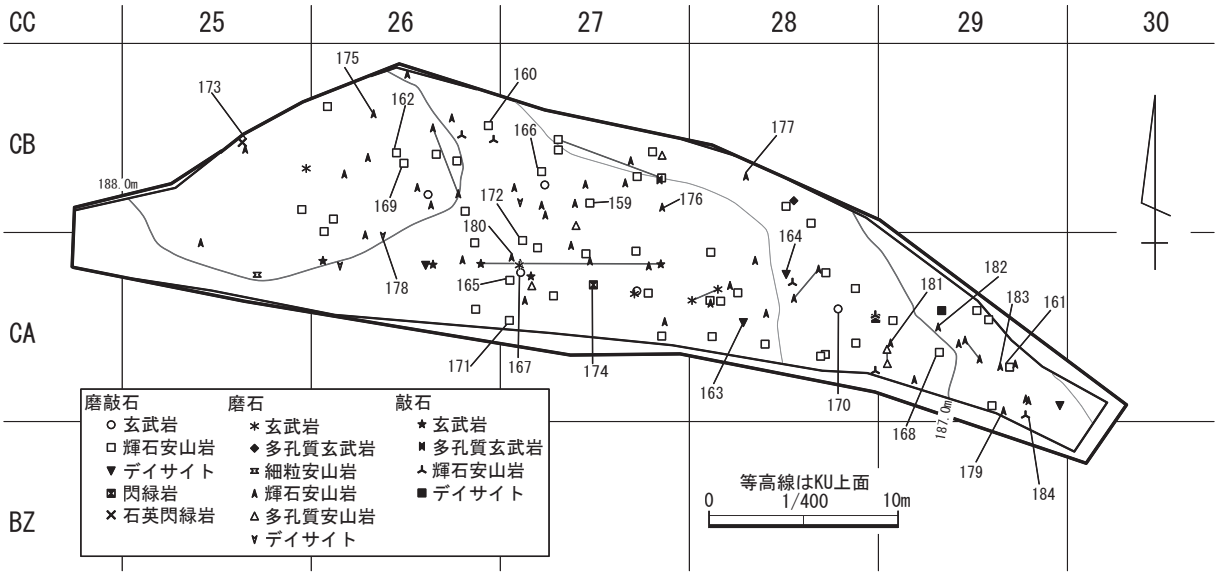
第230図　スクレイパー類



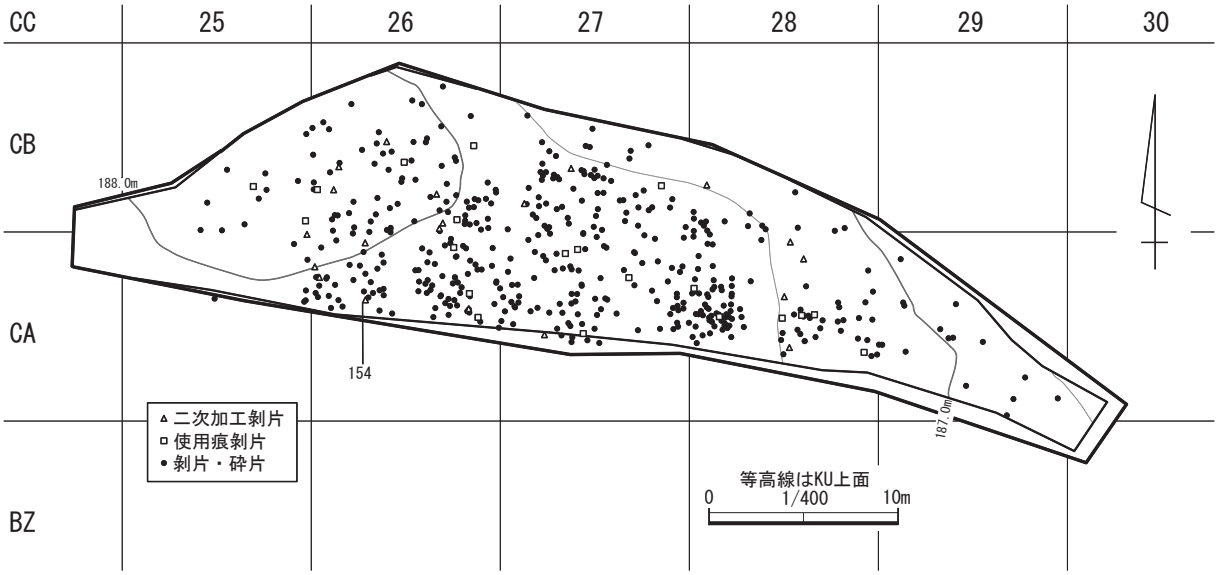
第231図　スクレイパー類・楔形石器・石核



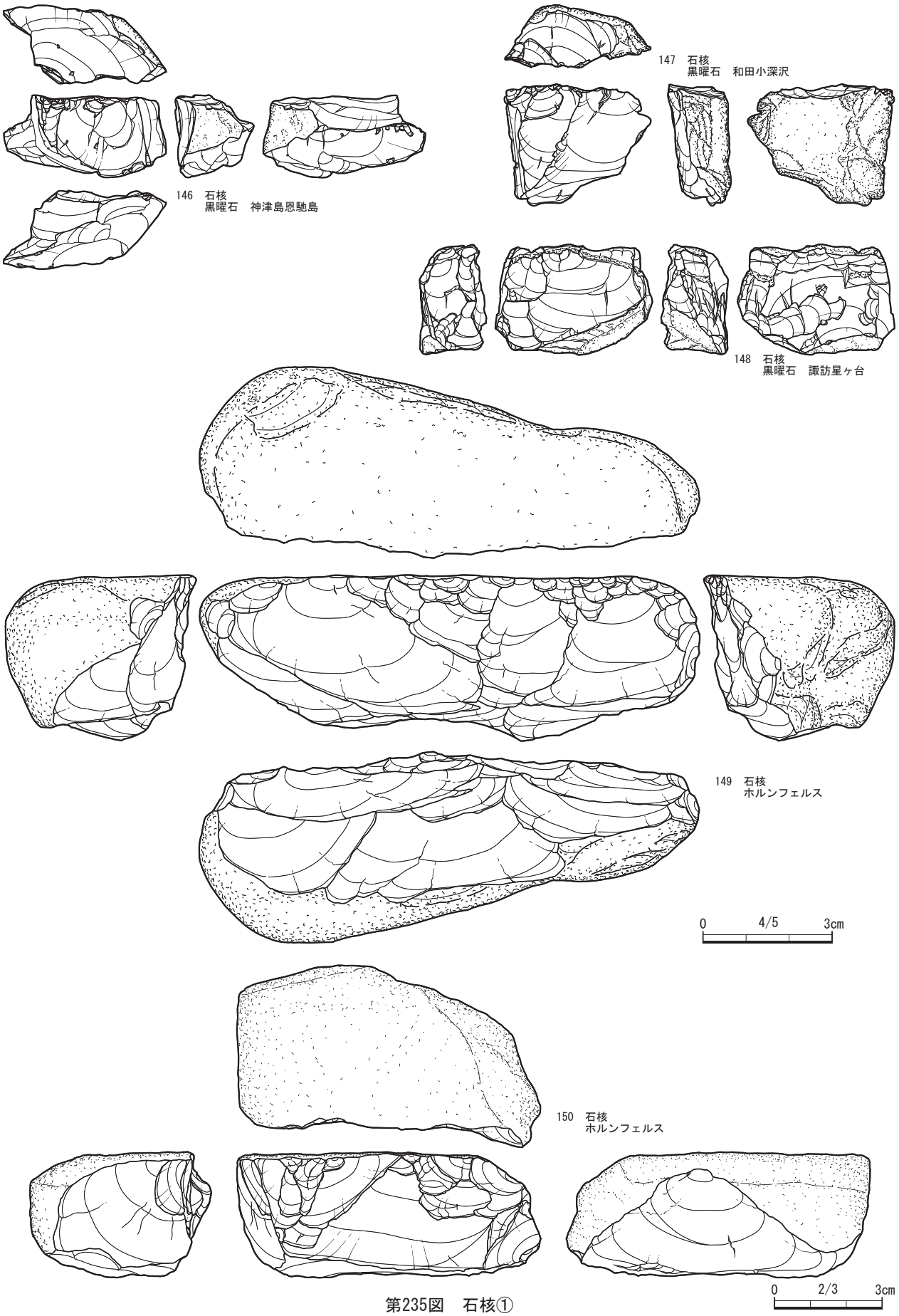
第232図　石核分布図



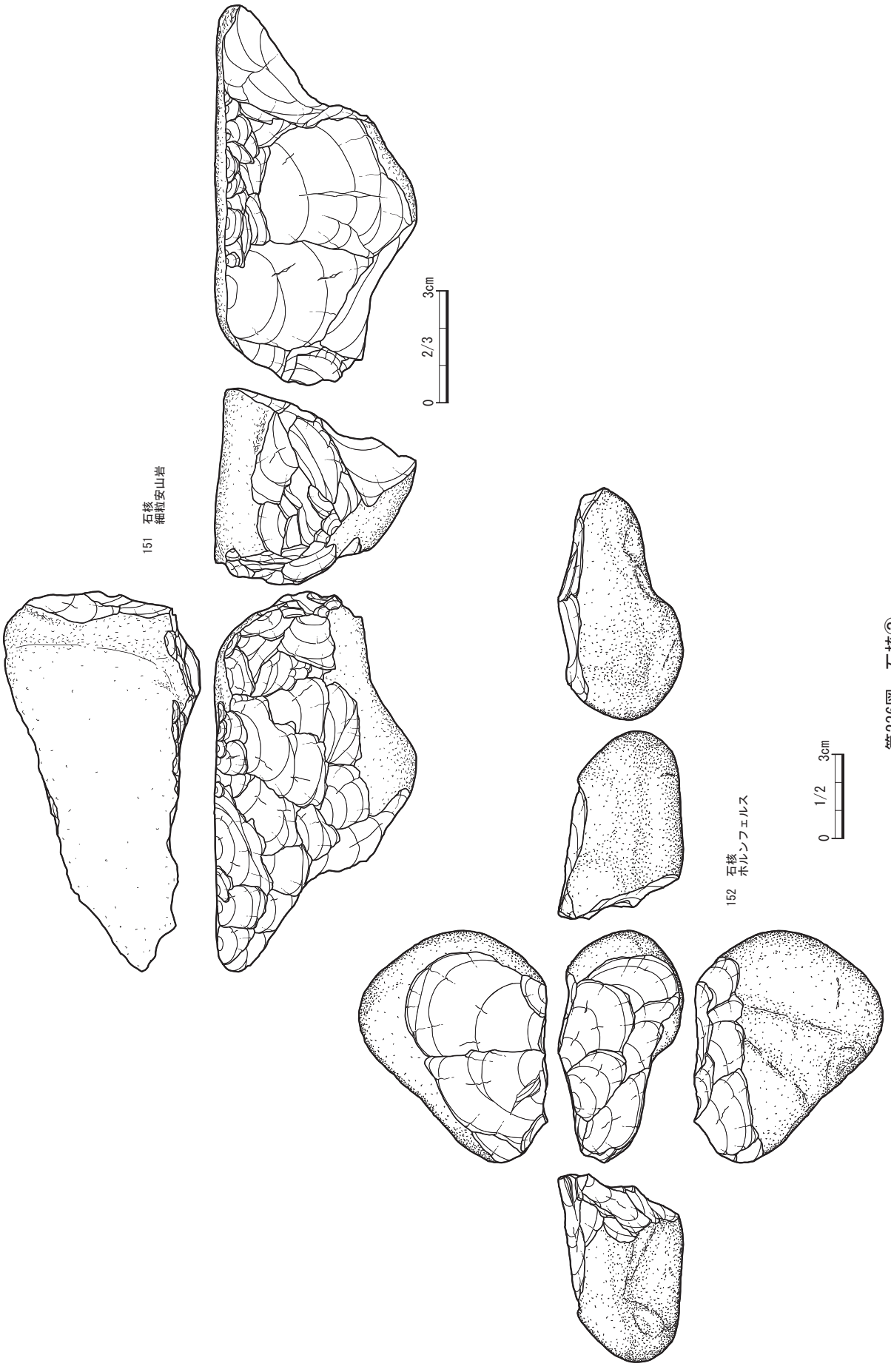
第233図　磨敲石類分布図



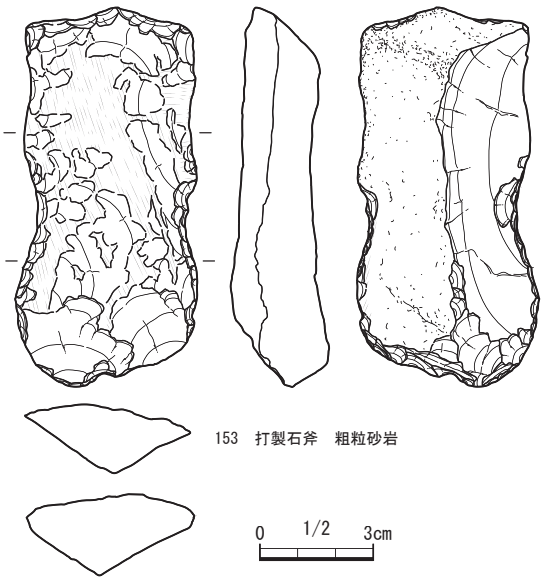
第234図　剥片類分布図

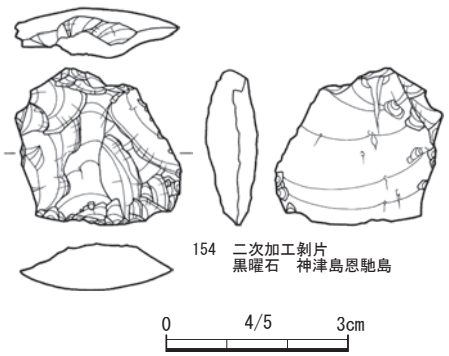

146　石核
黒曜石　神津島恩馳島
147　石核
黒曜石　和田小深沢
148　石核
黒曜石　諏訪星ヶ台
149　石核
ホルンフェルス
0　4/5　3cm
150　石核
ホルンフェルス
0　2/3　3cm

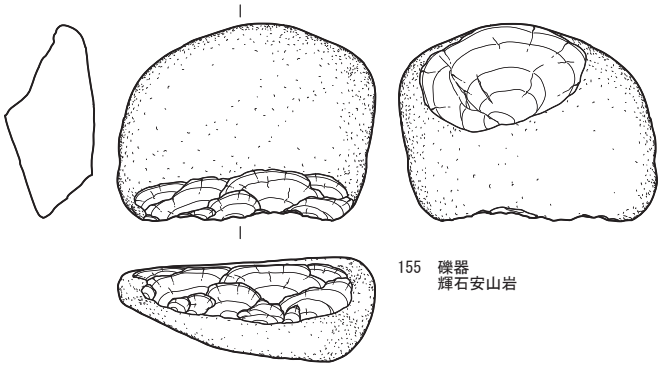
第235図　石核①

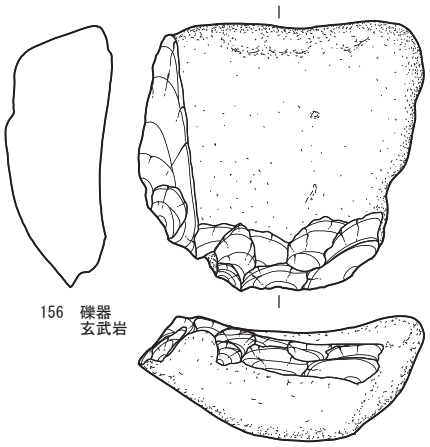


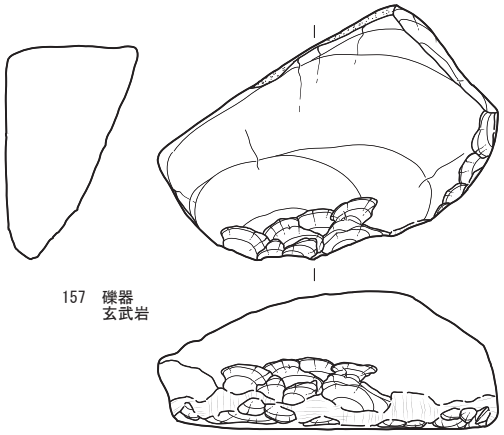
第236図　石核②

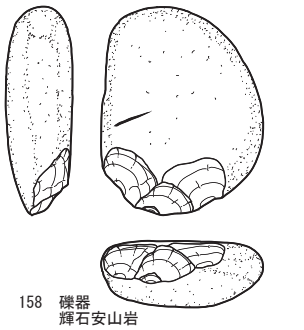




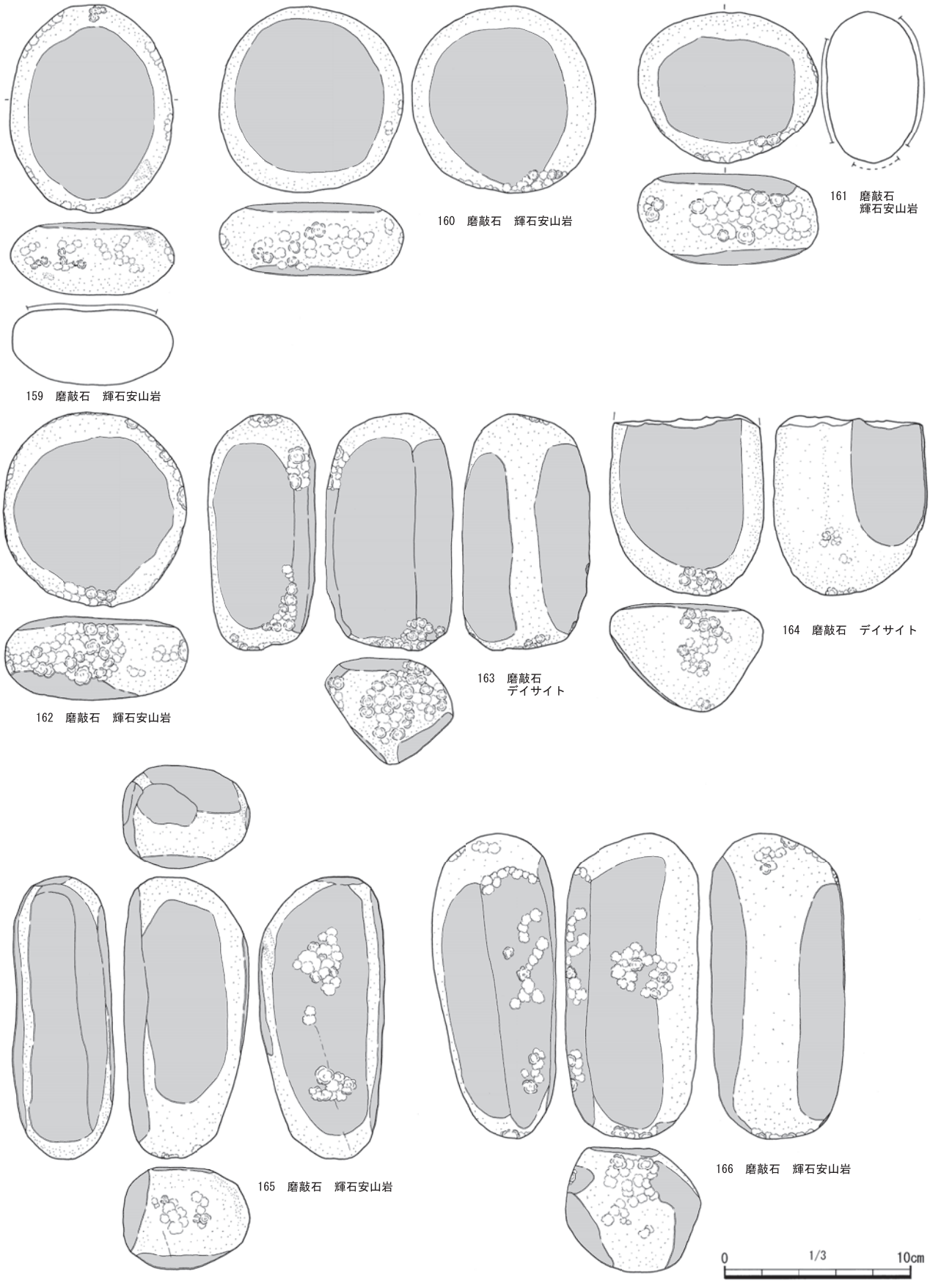




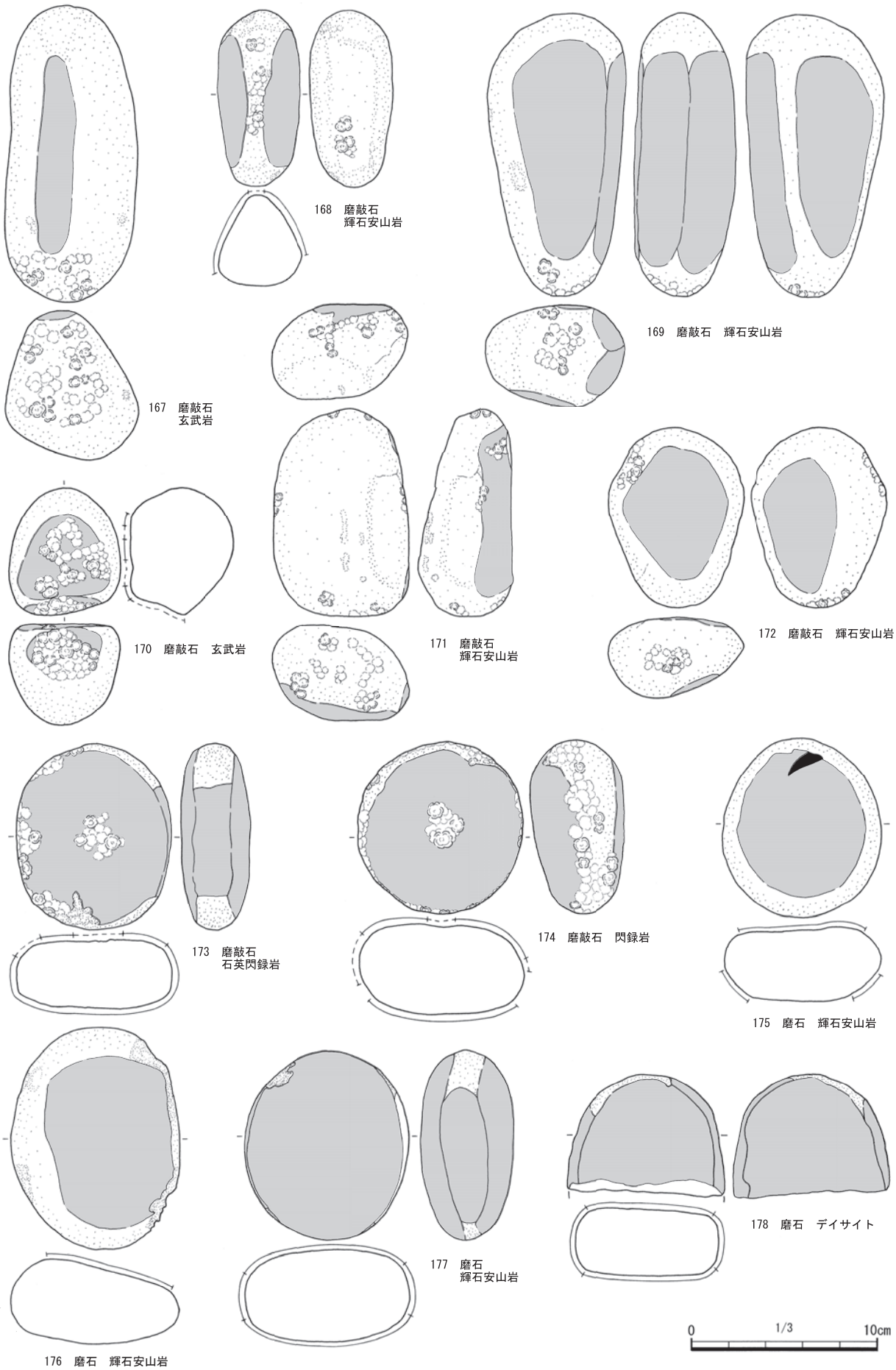




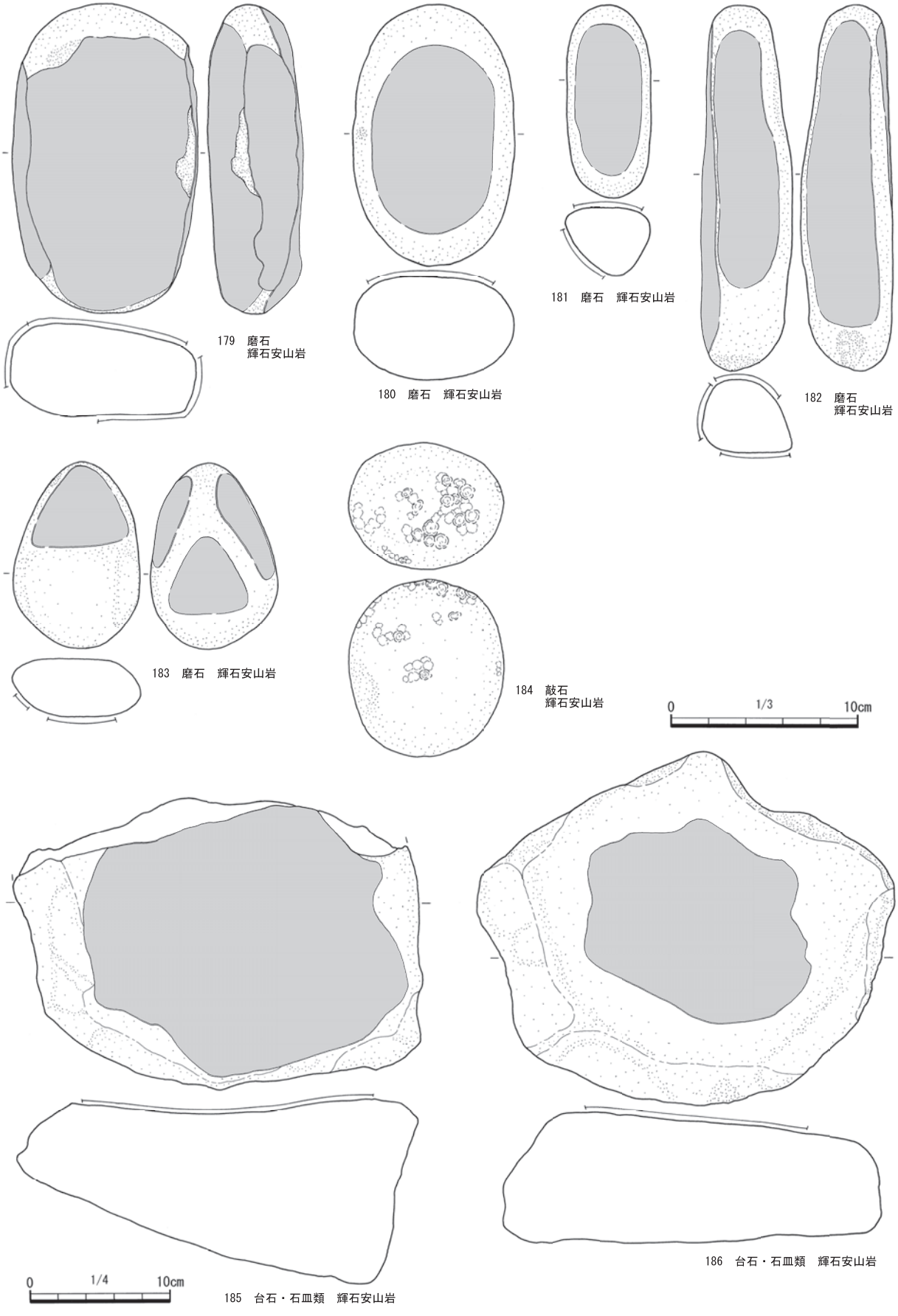
第237図　打製石斧・剥片・礫器


159　磨敲石　輝石安山岩
160　磨敲石　輝石安山岩
161　磨敲石
輝石安山岩
162　磨敲石　輝石安山岩
163　磨敲石
デイサイト
164　磨敲石　デイサイト
165　磨敲石　輝石安山岩
166　磨敲石　輝石安山岩
0
1/3
10cm

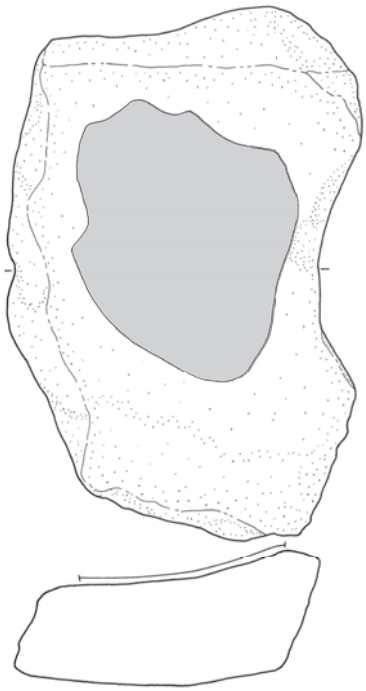
第238図　磨敲石類①


168　磨敲石
輝石安山岩
169　磨敲石　輝石安山岩
167　磨敲石
玄武岩
170　磨敲石　玄武岩
171　磨敲石
輝石安山岩
172　磨敲石　輝石安山岩
173　磨敲石
石英閃緑岩
174　磨敲石　閃緑岩
175　磨石　輝石安山岩
176　磨石　輝石安山岩
177　磨石
輝石安山岩
178　磨石　デイサイト
0
1/3
10cm

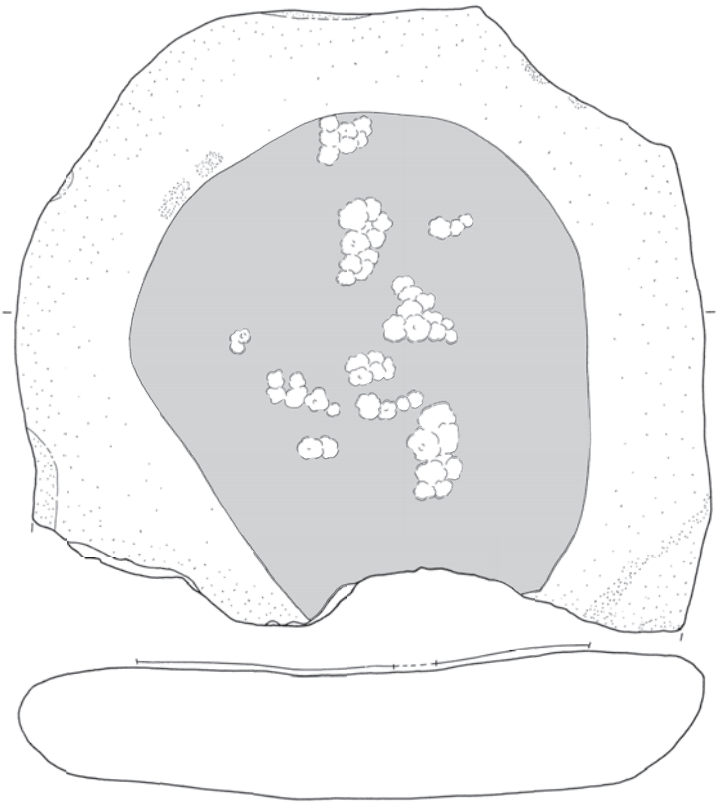
第239図　磨敲石類②



第240図　磨敲石類・台石・石皿類

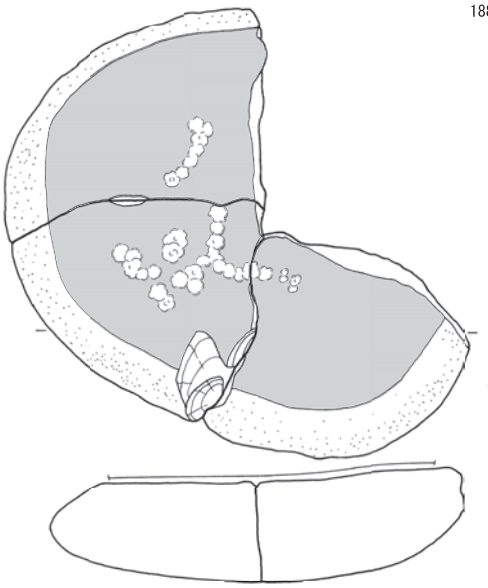


187　台石・石皿類　輝石安山岩

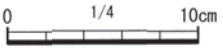


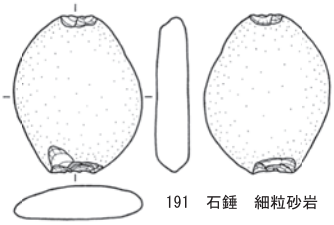
188　台石・石皿類　多孔質玄武岩

189　台石・石皿類　輝石安山岩

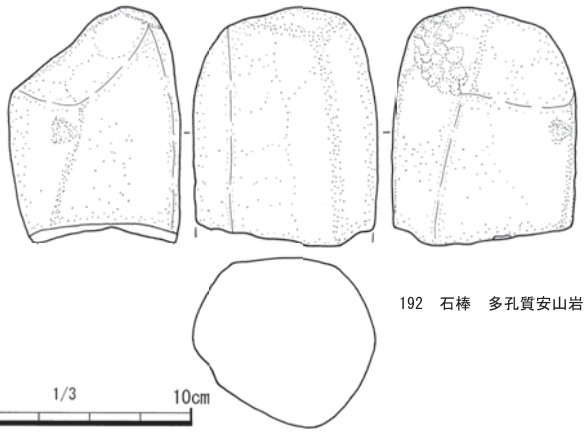


190　台石・石皿類　輝石安山岩

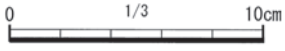




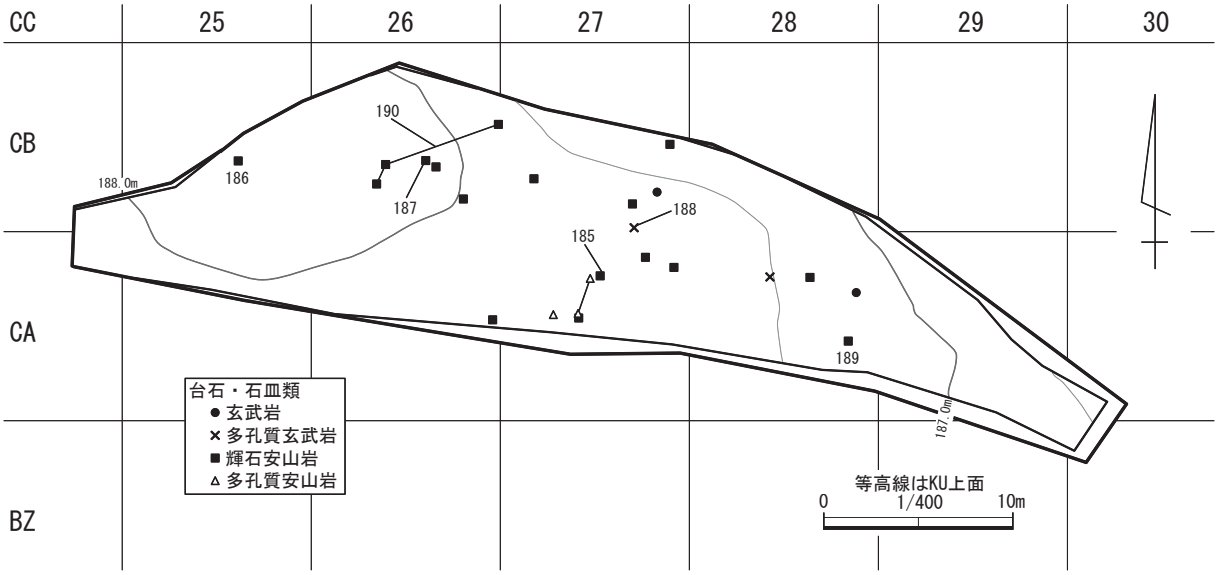
191　石錘　細粒砂岩



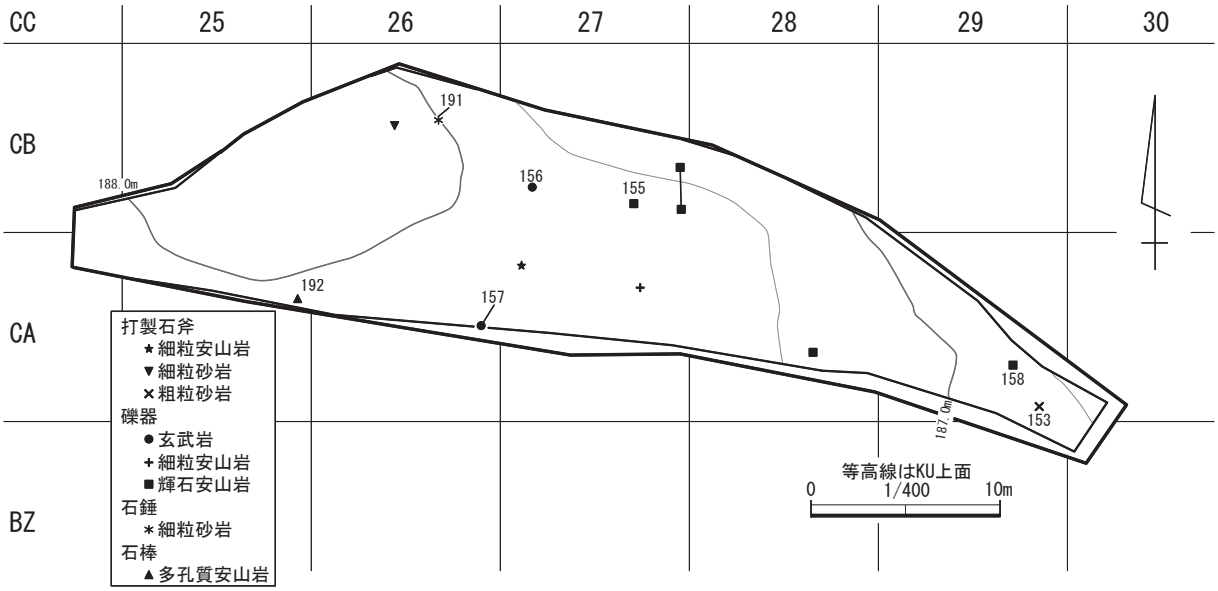
192　石棒　多孔質安山岩



第241図　台石・石皿類・石錘・石棒



第242図　台石・石皿類分布図



第243図　打製石斧・礫器・石錘・石棒分布図

山岩を石材とし、横長剥片を素材とする。縁辺に表裏面から細かな剥離を入れて、刃部に仕上げている。裏面には打瘤が残置する。132はチャートを石材とし、横長剥片を素材とする。側縁部に両面から細かな剥離を入れて刃部に仕上げている。133はガラス質黒色安山岩を石材とし、側縁を刃部に仕上げている。134・135は小型で、側縁の一部を刃部に仕上げている。136は抉入削器か。

楔形石器（第228・231図　第56・58表　写真図版82）

137～139は楔形石器である。全て黒曜石を石材とし、当該遺跡で最も多いのが天城柏峠産である。138は下端部に潰れが、また上端部に自然面が観察できる。

石核（第231・232・235・236図　第56・58表　写真図版82）

140～152は石核である。出土位置はＣＡ・ＣＢ26・27グリッドに多く見られ、石材は神津島恩馳島産及び諏訪星ヶ台産黒曜石が多い。149～152は黒曜石以外のホルンフェルスと細粒安山岩を石材とし、自然礫の形状を残す。149・150は平坦面を打面とし、横長剥片の剥離を行っている。

第58表　縄文時代遺構外出土石器計測表①

挿図番号	写真図版番号	遺物番号	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合番号
100	81	3714	KU	CA-29	石鏃	チャート		1.8	1.4	0.3	0.6	
101	81	11206	ZN	CB-26	石鏃	黒曜石	天城柏峠	1.4	1.3	1.3	0.3	
102	81	11278	ZN	CA-27	石鏃	黒曜石	天城柏峠	2.3	1.6	0.5	1.1	
103	81	8761	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	(2.2)	1.7	0.5	1.3	
104	81	8766	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	2.2	(1.3)	0.5	1.1	
105	81	9918	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	2.2	(1.5)	0.4	1.3	
106	81	12020	ZN	CA-28	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	2.3	(1.6)	0.4	1.2	
107	81	5527	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	1.6	(1.4)	0.4	0.8	
108	81	5510	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	天城柏峠	1.5	1.3	0.2	0.3	
109	81	11201	ZN	CB-26	石鏃	黒曜石	天城柏峠	1.5	(1.0)	0.2	0.3	
110	81	10821	ZN	CB-26	石鏃	黒曜石	産地不明	1.6	(1.3)	0.3	0.5	
111	81	10207	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	1.9	1.3	0.3	0.7	
112	81	6539	KU	CA-29	石鏃	黒曜石	天城柏峠	2.0	1.4	0.4	1.0	
113	81	3957	KU	CA-28	石鏃	黒曜石	天城柏峠	2.4	1.5	0.4	1.1	
114	81	4625	KU	CB-27	石鏃	黒曜石	箱根畑宿	1.8	(1.5)	0.4	1.1	
115	81	4631	KU	CB-27	石鏃	黒曜石	天城柏峠	(1.6)	1.7	0.4	1.0	
116	81	6541	KU	CA-29	石鏃	黒曜石	箱根畑宿	(1.7)	1.6	0.4	1.0	
117	81	4102	KU	CB-28	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	(1.8)	1.8	0.4	1.3	
118	81	10668	KU	CA-28	石鏃	黒曜石	箱根畑宿	1.5	1.7	0.4	1.0	
119	81	8030	KU	CA-26	石鏃	ガラス質黒色安山岩		2.0	1.2	0.5	1.2	
120	81	3432	KU	CA-27	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	2.3	2.0	0.6	2.2	
121	81	9908	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	天城柏峠	3.3	2.3	0.7	4.8	
122	81	4348	KU	CA-27	石鏃	黒曜石	天城柏峠	2.5	1.5	0.5	1.7	
123	81	8763	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	神津島恩馳島	(2.4)	(1.6)	0.6	1.4	
124	81	8789	KU	CB-26	石鏃	ガラス質黒色安山岩		(1.8)	(1.0)	0.4	0.6	
125	81	5526	KU	CB-26	石鏃	黒曜石	諏訪星ヶ台	(1.4)	(1.3)	0.3	0.4	
126	81	10817	ZN	CA-26	石鏃未製品	黒曜石	神津島恩馳島	1.7	2.0	0.7	2.5	
127	81	4637	KU	CB-27	石鏃未製品	黒曜石	神津島恩馳島	2.7	2.0	0.8	3.1	
128	81	8762	KU	CB-26	石鏃未製品	黒曜石	神津島恩馳島	2.3	(3.0)	0.9	4.7	
129	81	11648	ZN	CA-28	掻器	黒曜石	天城柏峠	1.6	2.6	0.8	3.0	
130	81	9347	KU	CA-27	掻器	ガラス質黒色安山岩		(2.7)	3.8	1.1	13.7	
131	81	9917	KU	CB-26	削器	細粒安山岩		9.0	4.0	1.3	32.3	
132	81	6261	KU	CB-25	削器	チャート		(5.4)	(3.8)	0.7	16.9	
133	81	7160	KU	CA-27	削器	ガラス質黒色安山岩		9.6	3.6	2.3	82.7	
134	81	4355	KU	CA-27	削器	黒曜石	神津島恩馳島	3.3	1.4	0.8	4.0	
135	81	9135	KU	CA-29	削器	黒曜石	諏訪星ヶ台	1.5	2.2	0.4	1.1	
136	82	3913	KU	CA-28	抉入削器	細粒凝灰岩		(3.0)	4.1	1.5	16.5	
137	82	5519	KU	CB-26	楔形石器	黒曜石	神津島恩馳島	4.2	2.9	1.1	12.2	
138	82	8961	KU	CB-25	楔形石器	黒曜石	天城柏峠	3.2	2.7	0.7	5.1	
139	82	11459	ZN	CA-26	楔形石器	黒曜石	神津島恩馳島	1.9	1.5	0.4	1.2	
140	82	3580	ZN	CA-27	石核	黒曜石	神津島恩馳島	3.6	1.7	1.4	6.2	
141	82	11467	ZN	CA-26	石核	黒曜石	神津島恩馳島	1.4	2.8	0.8	2.5	
142	82	6640	KU	CB-28	石核	黒曜石	箱根畑宿	1.8	2.2	2.6	8.8	
143	82	9910	KU	CB-26	石核	黒曜石	神津島恩馳島	1.3	3.9	2.0	8.2	
144	82	3955	KU	CA-28	石核	黒曜石	神津島恩馳島	1.3	4.0	1.8	9.0	
145	82	4644	KU	CB-27	石核	黒曜石	諏訪星ヶ台	1.6	3.1	1.0	4.3	
146	82	3399	KU	CA-27	石核	黒曜石	神津島恩馳島	1.9	3.7	1.8	10.4	
147	82	4161	KU	CA-27	石核	黒曜石	和田小深沢	2.8	3.3	1.3	11.2	
148	82	11292	ZN	CA-27	石核	黒曜石	諏訪星ヶ台	2.6	3.5	1.4	14.8	
149	82	7194	KU	CB-27	石核	ホルンフェルス		3.8	11.4	3.6	232.1	
150	82	3851	KU	CA-28	石核	ホルンフェルス		4.3	9.0	3.4	194.3	
151	82	6315	KU	CA-29	石核	細粒安山岩		5.3	9.8	4.3	263.8	
152	82	8772	KU	CB-26	石核	ホルンフェルス		7.2	8.4	3.9	252.8	
153	83	3701	KU	CA-29	打製石斧	粗粒砂岩		9.6	4.7	2.2	127.7	
154	83	11536	ZN	CA-26	二次加工剝片	黒曜石	神津島恩馳島	2.6	2.7	0.8	4.6	
155	83	10552	ZN	CB-27	礫器	輝石安山岩		10.9	9.0	4.1	410.0	
156	83	7573	KU	CB-27	礫器	玄武岩		11.8	10.7	4.8	700.0	
157	83	11447	ZN	CA-26	礫器	玄武岩		13.6	9.5	5.5	740.0	
158	83	6525	KU	CA-29	礫器	輝石安山岩		8.2	6.9	2.6	200.0	
159		10178	KU	CB-27	磨敲石	輝石安山岩		11.2	8.8	4.1	611.2	
160		5534	KU	CB-26	磨敲石	輝石安山岩		10.0	9.9	4.1	627.6	
161		6526	KU	CA-29	磨敲石	輝石安山岩		8.2	9.7	4.9	593.4	
162		8794	KU	CB-26	磨敲石	輝石安山岩		10.5	9.9	4.5	740.5	
163		10440	KU	CA-28	磨敲石	デイサイト		12.8	7.0	5.8	762.0	
164		10681	KU	CA-28	磨敲石	デイサイト		(9.5)	8.1	6.0	688.5	
165		11277	ZN	CA-27	磨敲石	輝石安山岩		15.1	6.7	5.5	696.8	
166		6890	KU	CB-27	磨敲石	輝石安山岩		16.5	7.2	6.7	1133.5	
167		10967	ZN	CA-27	磨敲石	玄武岩		15.7	6.8	7.8	1165.9	
168		6538	KU	CA-29	磨敲石	輝石安山岩		9.5	4.4	5.1	293.8	
169		8778	KU	CB-26	磨敲石	輝石安山岩		15.1	7.3	5.4	956.2	
170		10288	KU	CA-28	磨敲石	玄武岩		6.7	6.0	5.5	340.1	
171		11270	ZN	CA-27	磨敲石	輝石安山岩		11.2	7.3	5.0	606.8	
172		3478	KU	CA-27	磨敲石	輝石安山岩		9.7	7.2	4.4	402.3	
173		6265	KU	CB-25	磨敲石	石英閃緑岩		10.0	8.4	3.7	516.4	
174		4257	KU	CA-27	磨敲石	閃緑岩		9.3	8.9	5.0	615.3	

打製石斧（第237・243図　第56・58表　写真図版83）

153は打製石斧で、粗粒砂岩を石材とする。基端部及び片側主面に自然面が残置する。またもう片側主面の剥離面が摩耗している。両側縁部中位の刃部よりの位置に敲打を加え、柄との緊縛部を設けているが、刃部に近すぎるので石斧製作当初はもっと長い石斧で、使用による折損に伴い刃部を再生させているのかもしれない。

二次加工剝片（第234・237図　第56・58表　写真図版83）

154は二次加工剝片と考えられる。神津島恩馳島産の黒曜石を石材とする。

礫器（第237・243図　第56・58表　写真図版83）

155～158は礫器である。輝石安山岩と玄武岩を石材とする。157の刃部は擦られたような痕跡が残る。

磨敲石類（第233・238～240図　第56・58表）

159～184は磨敲石類である。そのうち159～174は磨敲石である。扁平で平面が円形を呈し、磨り面が主面、敲打痕が周縁部に認められるタイプは159～162で、棒状のタイプは163～169である。敲打痕は基端部に主に見られるが、168は側縁に集中する。170は球状に近く、171・172は扁平で平面が楕円形である。173・174は主面中央部に敲打痕集中が見られる。175～183は磨石である。平面は円形・楕円形・棒状等のタイプがある。184は敲石である。

台石・石皿類（第240～242図　第56・58表）

185～190は台石・石皿類である。188は栗色土層中から出土している。多孔質玄武岩を石材とし、重量は15.48kgを測る。敲打痕・磨り面が認められる。

石錘（第241・243図　第56・58表　写真図版83）

191は石錘である。扁平で平面が楕円形を呈する細粒砂岩礫を利用する。両端部を打ち欠いている。

石棒（第241・243図　第56・58表）

192は石棒と考えられる。多孔質安山岩を石材とし、面取りがなされている。

第58表　縄文時代遺構外出土石器計測表②

挿図番号	写真図版番号	遺物番号	層位	グリッド	器種	石材	推定産地	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	接合番号
175		9968	KU	CB-26	磨石	輝石安山岩		9.7	8.5	4.0	435.6	
176		7207	KU	CB-27	磨石	輝石安山岩		11.9	9.1	4.6	686.2	
177		4104	KU	CB-28	磨石	輝石安山岩		12.2	8.8	5.0	668.4	
178		11540	ZN	CA-26	磨石	デイサイト		(6.7)	8.3	3.7	333.1	
179		3707	KU	CA-29	磨石	輝石安山岩		16.6	9.9	5.0	1127.6	
180		4332	KU	CA-27	磨石	輝石安山岩		14.0	8.5	5.8	920.9	
181		10159	KU	CA-29	磨石	輝石安山岩		10.3	4.5	3.7	255.4	
182		6537	KU	CA-29	磨石	輝石安山岩		19.4	4.8	4.1	632.7	
183		6527	KU	CA-29	磨石	輝石安山岩		9.0	6.8	3.3	306.3	
184		3706	KU	CA-29	敲石	輝石安山岩		9.5	8.3	6.8	709.1	
185		4392	KU	CA-27	台石・石皿類	輝石安山岩		(29.0)	20.6	14.6	11840.0	
186		10107	KU	CB-25	台石・石皿類	輝石安山岩		25.4	39.5	9.7	9560.0	
187		10099	KU	CB-26	台石・石皿類	輝石安山岩		28.5	17.9	8.5	5050.0	
188		10550	KU	CB-27	台石・石皿類	多孔質玄武岩		(32.4)	36.5	86.0	15480.0	
189		12019	ZN	CA-28	台石・石皿類	輝石安山岩		31.9	20.8	8.3	7960.0	
190		5378	KU	CB-26	台石・石皿類	輝石安山岩		(20.5)	(22.6)	5.2	3183.0	109
190		8781	KU	CB-26	台石・石皿類	輝石安山岩		－	－	－	－	109
190		8782	KU	CB-26	台石・石皿類	輝石安山岩		－	－	－	－	109
191	83	5492	KU	CB-26	石錘	細粒砂岩		6.2	4.9	1.4	65.7	
192		10002	KU	CA-25	石棒	多孔質安山岩		(9.4)	7.2	6.7	660.9	

第４節　弥生時代以降の遺構と遺物

１　概要

富沢内野山Ⅴ遺跡及び周辺の確認調査では、弥生時代以降と思しき遺構が確認されている。遺構の種類は集石、土坑、小穴、炉跡である。遺構はＣＡ・ＣＢ25グリッドに集中する。

２　遺構

（１）　集石（第244・245図　第59表　写真図版73）

当該遺跡において弥生時代以降の集石と推定されたのは５号集石である。ＣＡ28グリッドに位置し、新期スコリア層中で確認された。礫は31点で構成され、分布範囲は1.43ｍ×0.80ｍである。時期は不明である。

（２）　土坑（第244・246図　第59表　写真図版73）

当該遺跡において弥生時代の土坑と考えられたのは２号土坑である。ＣＡ25グリッド北辺に位置し、周囲に小穴や炉跡が位置する。土坑の平面は歪な円形を呈し、長軸は1.67ｍ、短軸は1.61ｍ、深さは0.31ｍを測り、平坦な底面をもつ。なお土坑内出土の炭化物について、放射性炭素年代測定を実施した結果、2,140±20yrBPという数値が得られた。詳細は附編を参照されたい。

（３）　小穴（第244・246図　第59・60表　写真図版73）

小穴はＣＡ25グリッドに位置する２号土坑を取り巻くように、６基確認された。平面は円形、楕円形等様々で、３号小穴で長径0.68ｍ、短径0.49ｍを測り、小穴群中最大であるが、深さはどの小穴でも0.1～0.2ｍ程度で浅い。覆土は何も炭化物粒と焼土粒を多く含む赤褐色土が主体である。２号小穴からは小礫と共に土器193が出土している。土器の時期から弥生時代末と考えたい。

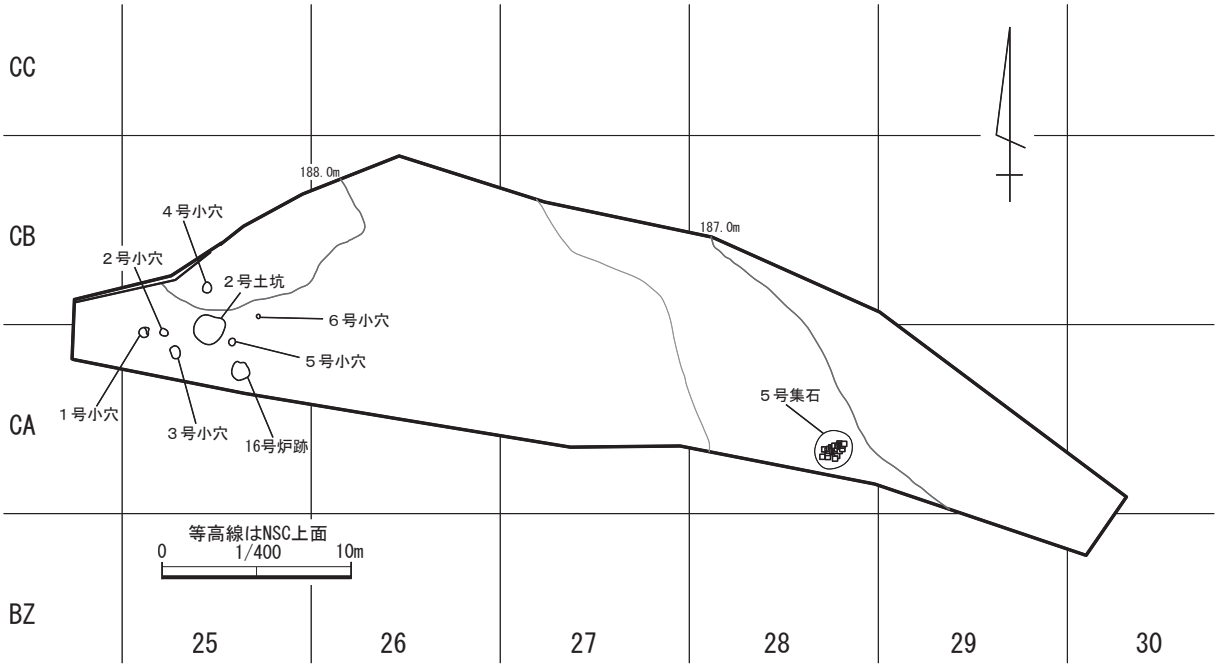
（４）　炉跡（第244・246図　第59表　写真図版73）

土坑や小穴が集中するＣＡ25グリッド内に16号炉跡が確認されている。新期スコリア層で確認されている。平面は歪な円形を呈し、長径0.99ｍ、短径0.93ｍ、深さ0.33ｍを測る。覆土１層から被熱した土器片が出土している。土器の時期から弥生時代と考えたい。

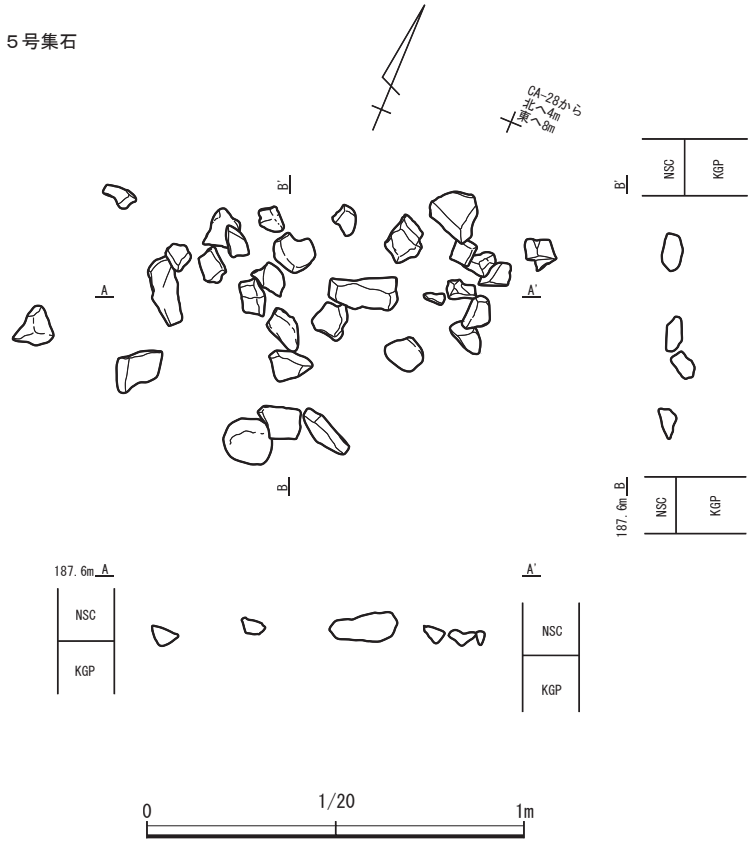
３　遺物

（１）　土器（第246・247図　第60・61表）

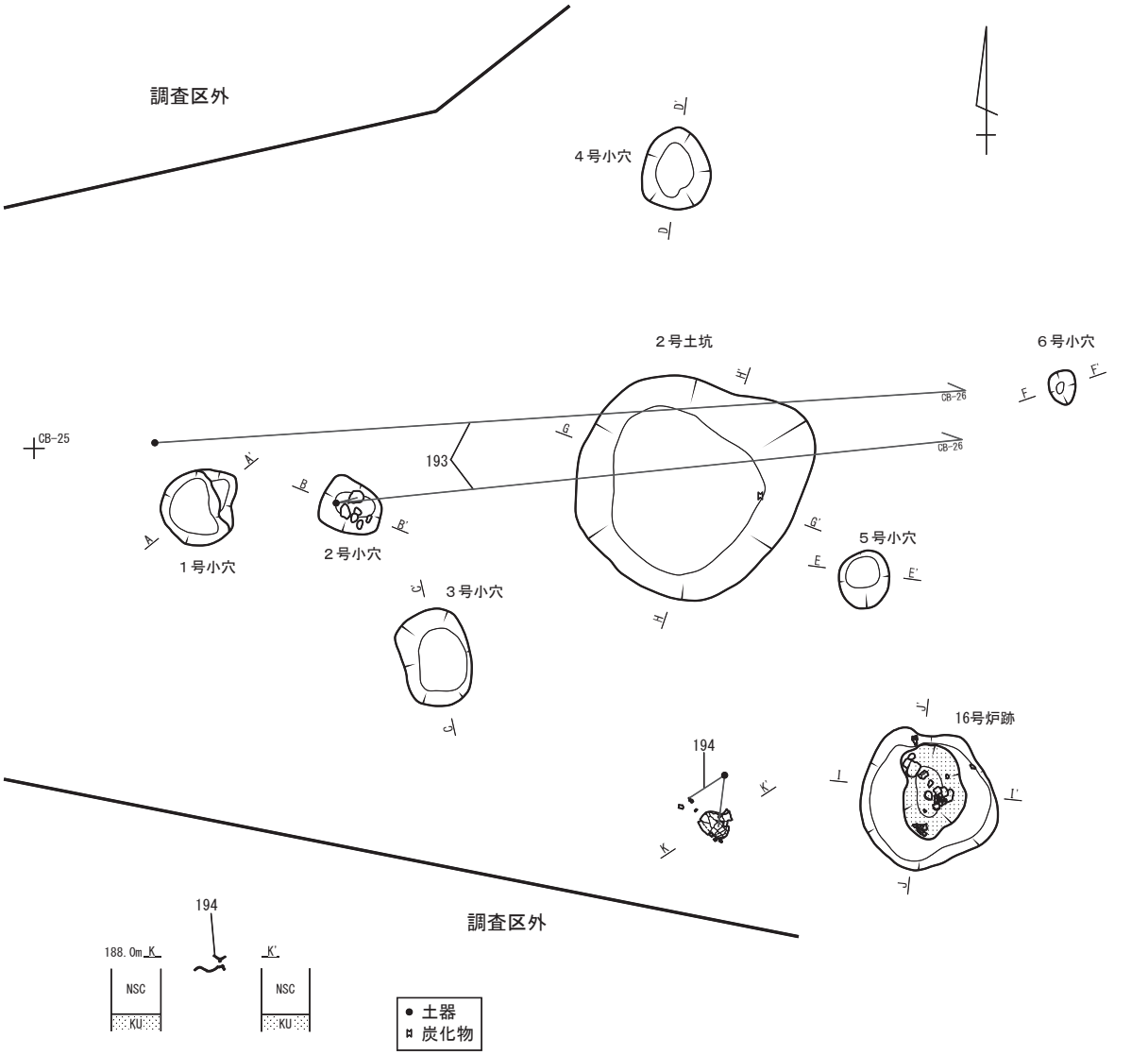
193は壺の底部である。底部外面に木葉痕が認められる。弥生時代末か。194は台付甕である。口縁部から台部まで残存している。胴部下位の作りが歪んでいる。胴部中位から上位はハケ調整が施されている。口唇部には刻目が施されている。出土位置は炉跡から西へ約１ｍの位置で、新期スコリア層面上で出土している。弥生時代末か。

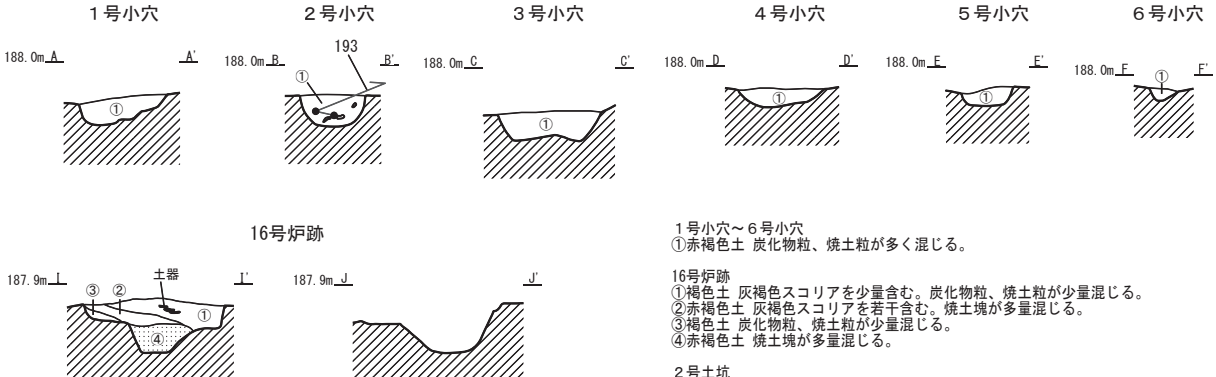


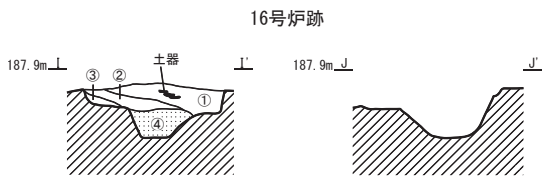
第244図　弥生時代以降の遺構位置図



第245図　弥生時代以降の集石



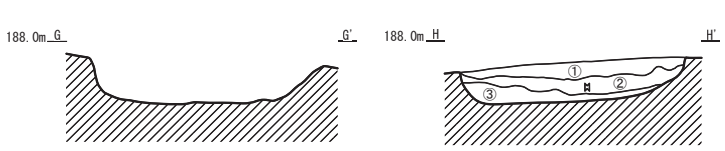




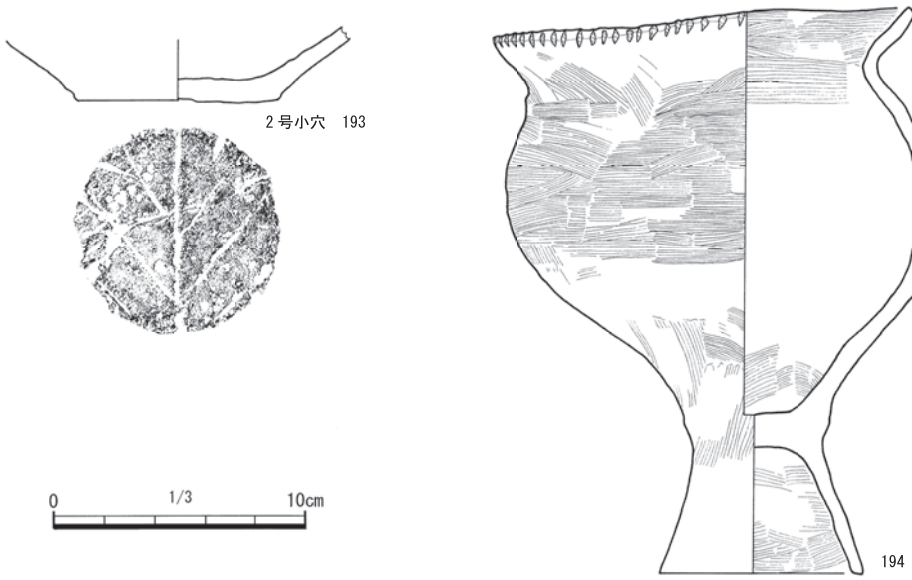
１号小穴～６号小穴
①赤褐色土 炭化物粒、焼土粒が多く混じる。

16号炉跡
①褐色土 灰褐色スコリアを少量含む。炭化物粒、焼土粒が少量混じる。
②赤褐色土 灰褐色スコリアを若干含む。焼土塊が多量混じる。
③褐色土 炭化物粒、焼土粒が少量混じる。
④赤褐色土 焼土塊が多量混じる。

２号土坑
①褐色土 白色パミスを少量含む。炭化物粒が少量混じる。
②褐色土
③褐色土 炭化物粒が少量混じる。



第246図　弥生時代後期～古墳時代前期遺構群



第247図　弥生時代以降土器

第59表　弥生時代以降の遺構計測表

報告書遺構名	調査遺構名	グリッド	層位	長径(m)	短径(m)	深さ(m)	土器	石器	礫	炭化物	計	備考
５号集石	SY01	CA-28	ZN	1.43	0.80	-			31		31	
２号土坑	SF38	CA-25	NSC	1.67	1.61	0.31				1	1	
１号小穴	SP20	CA-25	NSC	0.58	0.53	0.21						
２号小穴	SP21	CA-25	NSC	0.44	0.37	0.20	5		5		10	
３号小穴	SP22	CA-25	NSC	0.68	0.49	0.19						
４号小穴	SP23	CB-25	NSC	0.57	0.48	0.12						
５号小穴	SP24	CA-25	NSC	0.42	0.36	0.13						
６号小穴	SP25	CB-25	NSC	0.24	0.19	0.09						
16号炉跡	FP06	CA-25	NSC	0.99	0.93	0.33	11		3		14	

第60表　弥生時代以降遺構内出土土器観察表

遺構名	挿図番号	遺物番号	層位	グリッド	種別	器種	残存部位	器面調整		測量値	備考
								外面	内面		
２号小穴	193	接合244	NSC	CA-25	弥生土器	壺	底部	ミガキ		底径　80mm	木葉痕

第61表　弥生時代以降遺構外出土土器観察表

挿図番号	遺物番号	層位	グリッド	種別	器種	残存部位	器面調整		測量値	備考
							外面	内面		
194	接合249	NSC	CB-27	弥生土器	甕	口縁～底部	ハケメ　ナデ　刻み	ハケメ　ナデ	口径　166mm　器高　223mm　底径　(81mm)	台付き

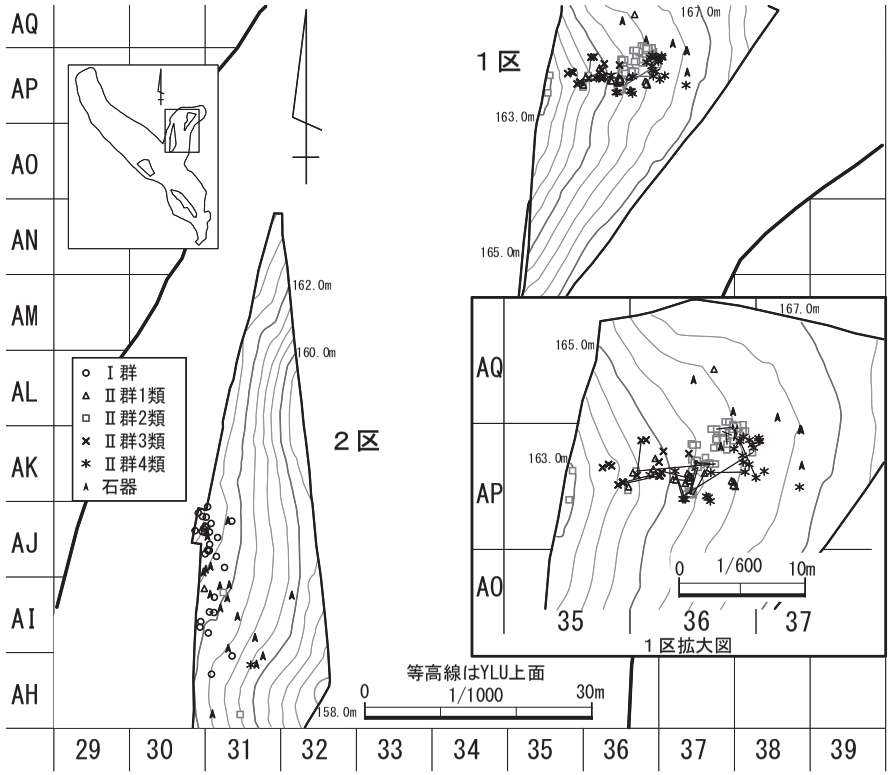
第６章　総括

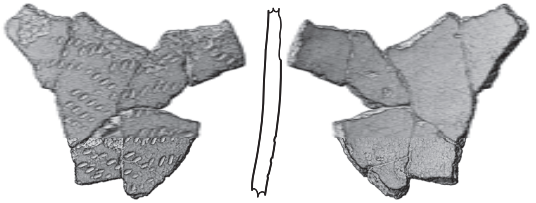
前章まで富沢内野山Ⅰ西遺跡を含む４遺跡の遺構及び遺物に係る報告を行った。頁数に限りがあることから、本章では縄文時代草創期土器を概観して、総括とする。

草創期の遺物は４遺跡共に散見され、中でも該期の遺構・遺物は富沢内野山Ⅰ西遺跡で多く見出されている。縄文土器第Ⅰ群とした隆帯文土器は２区に限定される。第Ⅰ群は２区５号集石82、遺構外105～112のうち①105・106、②107、③108・109、④82・110～112が別個の個体と考えられ、文様は隆帯文のみで構成される。個体①は立ち上がりがわずかに内傾し、部位が口縁部付近なのか、胴部中位付近か判断に躊躇する。個体②は口唇部付近の隆帯文より下位は無文である。個体③は２条の隆帯文を横位に巡らし、隆帯文の直下・直上には別の文様を配置した痕跡は無い。個体④は107と同様、外面口唇部直下に隆帯文を巡らす。また111・112の横位隆帯文が同一と捉えられ、口唇部から間隔をあけて巡らされたものと推定される。そして、これら２条の横位隆帯文による区画内に、82・110・111に見る斜位の隆帯文が配置された可能性を想起する。上記の個体①～④には豆粒文、ハの字爪形文や横位短隆帯文は見られず、また縄文時代草創期における隆起線文系土器群でいう密接化された隆起線文とは文様構成上の親縁性は少ない。個体①～④は沼津市葛原沢第Ⅳ遺跡で見出された葛原沢Ⅰ式の特徴の一つである「器厚は厚く、繊維を多量に含有」していないものの、個体①～③は幅６㎜程度を測る隆帯を文様の主体と成す葛原沢Ⅰ式に類似し、また個体④は葛原沢Ⅰ式Ｂ類でいう垂下する隆帯文と、隆帯に稜線が認められる点が類似する。

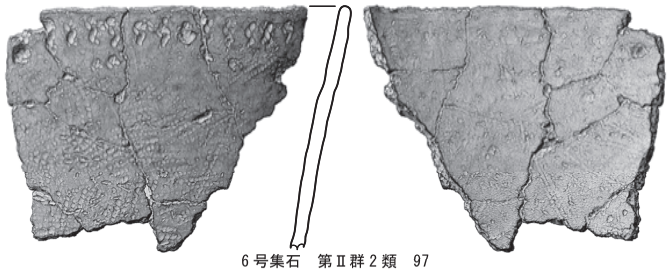
縄文土器第Ⅱ群は１～５類に分類している。押圧縄文土器と考えた第Ⅱ群１類は１区１号集石79、１区６号集石85～93、遺構外113～123である。胎土と施文、器厚及び出土位置から114、118、123以外は同一個体の可能性がある。横位と斜位に施された絡条体圧痕文を特徴とし、91で理解できるように胴部は直線的に立ち上げ、絡条体による施文は広範囲である。多縄文系土器でも古期に位置付けられる押圧縄文土器段階において、まず想起されるのが葛原沢Ⅱ式である。葛原沢Ⅱ式は池谷氏により「施文は横位密接を基調とするが、部分的に斜位施文を介在させて器面が分帯されるものがある」という特徴が示されている。しかし当該遺跡第Ⅱ群１類は横位・斜位を基調とし、間隔をあけた絡条体の施文である。また胎土も件の葛原沢Ⅱ式のように「薄手の胎土に金色の雲母を多量に含む」ものではない。一方、葛原沢Ⅱ式新段階に比定される沼津市清水柳北遺跡第14号集石遺構出土土器群には、第Ⅱ群１類に類似する間隔をあけた絡条体による施文が認められる。澁谷氏により「まばらな絡条体圧痕」とされた当該施文について、伊豆市(旧大仁町)仲道Ａ遺跡でも出土例が認められると指摘されている。施文の状態から当該第Ⅱ群１類は清水柳北遺跡から仲道Ａ遺跡にかけての段階かと推定する。

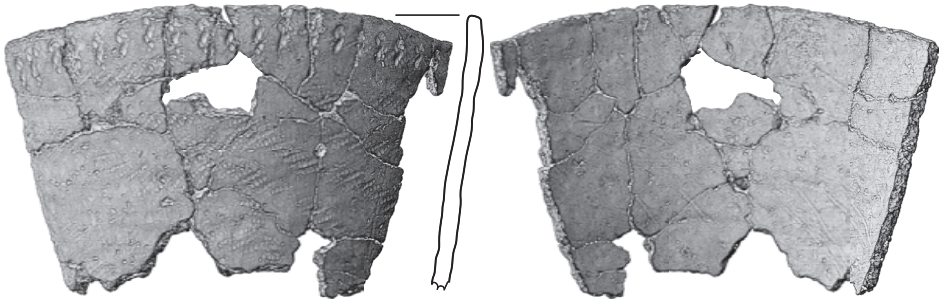
回転縄文土器と考えた第Ⅱ群２類は１区６号集石94・97・98、遺構外124～138である。胎土と施文、器厚及び出土位置から①94・125～138、②97・98が別個の個体と考えられる。個体①は口縁部を微かに内傾させ、外面に絡条体圧痕文を横位・斜位に格子状に施す。136はおそらく口唇部直下から胴部下半部にかけての接合資料と考えられ、やや内湾気味の胴部である。口縁部付近の絡条体圧痕文が文様帯となり、下位には縄文が施されている。また134で示されるように平坦な底部を持つ。また個体②の口唇部直下押圧文は自縄自巻か。その下位には縄文が施文されている。多縄文系土器でも新期に位置付けられる回転縄文土器段階において、想起される類例では仲道Ａ遺跡の土器群である。個体①は仲道Ａ遺跡Ⅱ群２類ｂ種に、個体②は仲道Ａ遺跡Ⅱ群１類ｂ種に類似する。これらは口縁部付近に押圧文を主体とする文様帯を設える点で共通する。

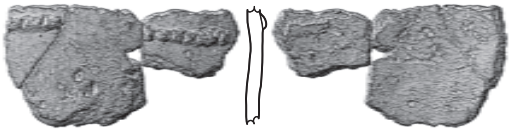


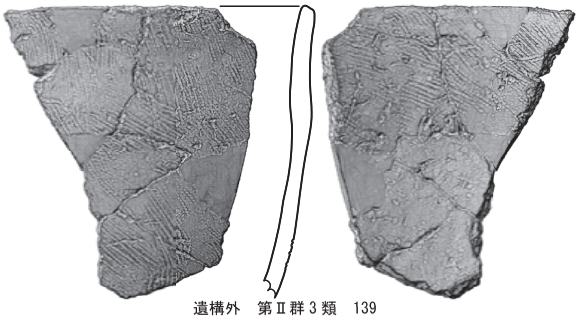

6号集石　第Ⅱ群1類　92

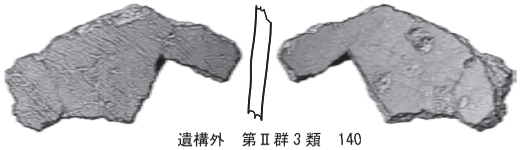
遺構外　第Ⅱ群1類　121


6号集石　第Ⅱ群2類　97

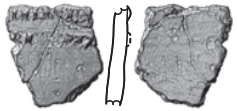

6号集石　第Ⅱ群2類　98

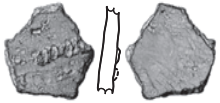

遺構外　第Ⅰ群　105

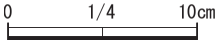

遺構外　第Ⅱ群3類　139


遺構外　第Ⅱ群3類　140

遺構外　第Ⅰ群　107


遺構外　第Ⅰ群　108


遺構外　第Ⅰ群　109



第248図　富沢内野山Ⅰ西遺跡における縄文時代草創期の土器

第Ⅱ群３類は表裏縄文土器である。１区１号集石80、遺構外139～141が該当する。４点とも同一個体か。口縁部は微かに外反させ、口唇部に縄文側面圧痕が施文される個体である。撚糸が施文の中心で口縁部外面付近の条の走行は縦位、内面は斜位～横位である。表裏縄文土器は葛原沢第Ⅳ遺跡、仲道Ａ遺跡の他に沼津市丸尾北遺跡とイタドリＡ遺跡での出土が知られ、第Ⅱ群３類は草創期末と理解される。

第Ⅱ群４類は無文土器である。６号集石95、遺構外142～151が該当する。142・143は口縁部資料で共に指頭により押圧したものと考えられるが別個体と思われる。また底部資料である95は胎土等から146・151と同一個体と考えられる。胴部外面には文様は見られず、内面に横位のナデが施されている。４類は少なくとも４個体と考えられるが、それぞれ特徴的な文様が見られない。

続いて^{14}Ｃ等の年代観について触れてみる。附編の土器付着炭化物の放射性炭素年代測定（ＡＭＳ）により、縄文時代草創期の土器に関する数値が得られた。第Ⅰ群107と108の^{14}Ｃ年代及び暦年較正年代（１σ）は、前者が12,230±40yrBP、12,206calBC～12,053calBC、後者が12,350yrBP±40、12,572calBP～12,180calBPと報告され、後者の暦年較正年代は２つの範囲で示されている。また第Ⅱ群１類91が10,480±40yrBP、10,581calBC～10,450calBCで、暦年較正年代は２つの範囲で示されている。第Ⅱ群２類98が10,430±30yrBP、10,472calBC～10,208calBCで、暦年較正年代は４つの範囲で示され、さらに第Ⅱ群４類147は11,290±30yrBP、11,290calBC～11,186calBCという数値が示された。この数値では第Ⅰ群は第Ⅱ群に時期的に先行することになる。ただし第Ⅱ群４類147について、第Ⅱ群１～２類よりも古い年代観が提示され、本来的に第Ⅰ群に該当する可能性を残した。近隣地での成果として長泉町八分平Ｅ遺跡出土の隆起線文土器が11,920±50yrBP、11,901calBC～11,771calBCの範囲を示された。当該第Ⅰ群は八分平Ｅ遺跡の隆起線文土器より時期的にやや先行する可能性を想起させる。

第248図に第Ⅰ・Ⅱ群の出土分布を示したが、これにより該期の生活区域の２区から１区への移動が想像される。加えて草創期の２区は第Ⅰ群にほぼ限定される点から、尖頭器類の所属は第Ⅰ群に伴うものと理解できる。一方の１区の草創期は、第Ⅱ群４類147の^{14}Ｃ等の年代観を仮に評価対象とするならば、やや時間幅を見込むことになる。これら富沢内野山Ⅰ西遺跡１・２区共に草創期以降も生活区域として機能し、漸移層から富士黒土層中に早期以降の遺物が混在している。結果、石器について尖頭器類以外の草創期石器の抽出が困難である。特に６号集石での上ノ坊式96が見出された点から、人為的もしくは植物性撹拌の影響を草創期包含層に与えていると想像される。富沢内野山Ⅲ北～Ⅴ遺跡で尖頭器が計７点出土している点から、生活区域たる富沢内野山Ⅰ西遺跡１・２区付近を核として、狩猟エリアが環状に拡がる様を想像するに足る。既に葛原沢第Ⅳ遺跡における葛原沢Ⅰ式期第１号配石址から尖頭器、石鏃、削器、磨石等が出土し、特に磨石が該期の植物質食糧への依存の可能性を示すものとして評価されているように、富沢内野山Ⅰ西遺跡においても、今後狩猟以外の生業の有様に詳細に検討が加えられるものと考える。

主要参考文献

漆畑　稔　他　1986『仲道Ａ遺跡』大仁町教育委員会
関野哲夫　1989『清水柳北遺跡発掘調査報告書その１』沼津市教育委員会
池谷信之　他　2001『葛原沢第Ⅳ遺跡（ａ・ｂ区）発掘調査報告書１』沼津市教育委員会
池谷信之　2006「東海東部の草創期編年」『東海地方縄文時代草創期の諸問題』東海縄文研究会
澁谷昌彦　2008「静岡県を中心とする東海地方の多縄文系土器群について」『縄文草創期後半の諸様相』縄文セミナーの会
佐藤雅一　2008「隆起線文系土器群」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
谷口康浩　2008「多縄文系土器」『総覧縄文土器』アム・プロモーション
富樫孝志　2012「八分平Ｅ遺跡出土縄文土器の再報告」『研究紀要』創刊号　静岡県埋蔵文化財センター

報 告 書 抄 録

ふ り が な	すそのしとみざわ・ももぞののいせきぐんⅡ
書 名	裾野市富沢・桃園の遺跡群Ⅱ
副 書 名	第二東名事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
シ リ ー ズ 名	静岡県埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第31集
編 著 者 名	勝又直人・西田真由子
編 集 機 関	静岡県埋蔵文化財センター
所 在 地	〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23番20号　　TEL　054-262-4261(代)
発 行 年 月 日	2013年３月25日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町	遺跡番号					
富沢内野山Ⅰ西遺跡 確認調査	静岡県裾野市富沢内野山518-１他	222208		35°17′29″	138°89′48″	20011225 ～ 20020327	954㎡	確認調査
富沢内野山Ⅰ西遺跡 本調査Ⅰ期	静岡県裾野市富沢内野山518-１他	222208		35°17′29″	138°89′48″	20020801 ～ 20030314	1,715㎡	記録保存調査 （盛土場建設）
富沢内野山Ⅰ西遺跡 確認調査	静岡県裾野市富沢内野山518-１他	222208		35°17′29″	138°89′48″	20030201 ～ 20030228	96㎡	確認調査
富沢内野山Ⅰ西遺跡 本調査Ⅱ期	静岡県裾野市富沢内野山518-１他	222208		35°17′29″	138°89′48″	20030403 ～ 20030731	4,056㎡	記録保存調査 （盛土場建設）
富沢内野山Ⅲ北遺跡 確認調査	静岡県裾野市富沢内野山地先・桃園地先	222208		35°17′50″	138°89′51″	20011225 ～ 20020327	76㎡	確認調査
富沢内野山Ⅲ北遺跡 本調査	静岡県裾野市富沢内野山地先・桃園地先	222208		35°17′50″	138°89′51″	20020401 ～ 20030120	1,810㎡	記録保存調査 （道路建設）
富沢内野山Ⅳ西遺跡 確認調査	静岡県裾野市富沢内野山地先・桃園地先	222208		35°17′62″	138°89′23″	20011225 ～ 20020327	177㎡	確認調査
富沢内野山Ⅳ西遺跡 確認調査	静岡県裾野市富沢内野山地先・桃園地先	222208		35°17′62″	138°89′23″	20020401 ～ 20020628	181㎡	確認調査
富沢内野山Ⅳ西遺跡 本調査	静岡県裾野市富沢内野山地先・桃園地先	222208		35°17′62″	138°89′23″	20020401 ～ 20030120	3,436㎡	記録保存調査 （道路建設）
富沢内野山Ⅴ遺跡 確認調査	静岡県裾野市 桃園地先	222208		35°17′74″	138°89′43″	20020401 ～ 20020628	22㎡	確認調査
富沢内野山Ⅴ遺跡 本調査	静岡県裾野市 桃園地先	222208		35°17′74″	138°89′43″	20020401 ～ 20030120	520㎡	記録保存調査 （道路建設）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
富沢内野山Ⅰ西遺跡	集落	旧石器時代	礫群・石器集中	ナイフ形石器・掻器・削器・楔形石器・石刃・細石刃・石核・尖頭器・磨石・敲石・台石	静岡県内でも稀有である縄文時代草創期の土器が出土。
	散布地	縄文時代	集石・土坑・炉跡	縄文土器(草創期・早期・前期・中期・後期)、尖頭器・石鏃・掻器・削器・石匙・楔形石器・石核・打製石斧・磨敲石・台石・石皿・礫器・異形部分磨製石器	
		弥生時代		弥生土器・有孔磨製石鏃	
		平安時代		土師器・灰柚陶器	
		中世～近世	土坑・溝跡	銅製品	
富沢内野山Ⅲ北遺跡	散布地	旧石器時代		尖頭器	縄文時代中期の集落遺跡。
	集落	縄文時代	住居跡・土坑・小穴	縄文土器(早期・中期・後期)、石鏃・掻器・削器・石匙・楔形石器・打製石斧・磨製石斧・磨敲石	
	散布地	中世～近世	土坑・溝跡		
富沢内野山Ⅳ西遺跡	散布地	旧石器時代	土坑	尖頭器・ナイフ形石器・石刃・細石刃・掻器	縄文時代早期の炉跡群を確認。
		縄文時代	集石・土坑・炉跡・溝跡	縄文土器(早期・前期・後期)・尖頭器・石鏃・掻器・削器・打製石斧・磨敲石	
		中世～近世	土坑・溝跡・道路状遺構		
富沢内野山Ⅴ遺跡	散布地	旧石器時代	礫群	尖頭器・削器・楔形石器・石刃・細石刃・磨敲石	旧石器時代から弥生時代までの遺構・遺物を確認。
		縄文時代	集石・土坑・炉跡	縄文土器(早期・前期・中期)・尖頭器・石鏃・掻器・削器・楔形石器・石核・礫器・磨敲石・台石・石皿	
		弥生時代	土坑・炉跡	弥生土器	
要約	第二東名建設事業に伴う、土盛場及び建設用道路設置箇所における４遺跡の発掘調査。いずれも旧石器時代から縄文時代の遺物・遺構が多く確認されている。 富沢内野山Ⅰ西遺跡では第Ⅳ黒色帯より上位にて、礫群等が確認される。また縄文時代草創期の土器が出土。静岡県内でも稀有の資料例となった。富沢内野山Ⅰ西遺跡及び富沢内野山Ⅲ北遺跡では愛鷹山東麓では数少ない縄文時代後期の土器群を確認している。				

静岡県埋蔵文化財センター調査報告　第31集

裾野市富沢・桃園の遺跡群Ⅱ

第二東名土３地点・ＣＲ36地点
第二東名建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
裾野市－10
（第１分冊）

平成25年3月25日発行

編集・発行　静岡県埋蔵文化財センター
〒422-8002　静岡県静岡市駿河区谷田23-20
TEL　054－262－4261㈹
FAX　054－262－4266
印　刷　所　文光堂印刷株式会社
〒410-0871　静岡県沼津市西間門68-1
TEL　055－926－2800